



鹿児島県

鹿児島県立埋蔵文化財センター 発掘調査報告書 (155)

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (155)

南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 XXX

(155)

桜
城

跡
第2分冊

かこい じょう あと
桜 城 跡

(いちき串木野市)
第2分冊

二〇一〇年三月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

2010年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

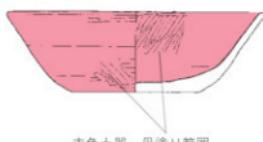
凡 例

- 1 基準方位は磁北であり、レベルは海拔絶対高である。
- 2 使用した土色は「新版標準土色帖 2004年版」(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)に基づく。ただし、陶磁器の胎土の色調や釉調については、「標準土色帖」を基準としながら、一般的な色調感も加味して表現した。

- 3 遺構・遺物実測図の縮尺は、挿図中に記した。
- 4 本書で用いる炉状遺構の表現については、次のとおりである。

■ 焼土 ■ 炭化物

- 5 本書で用いる土器の表現については、次のとおりである。

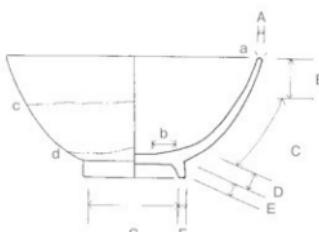


- 6 本書の土器部観察表における「胎土」の項目については、肉眼観察を行い、特に多く含まれる鉱物に「○」をつけた。その他については詳細を備考に記した。

- 7 本書で用いる近世以降の陶磁器についての基本的な名称、及び表現方法は以下のとおりである。

【名称】	A 口唇部
	B 口縁部
	C 体部
	D 腰部
	E 高台脇
	F 叠付
	G 高台内面

- 【表現】
- a 口唇部、疊付の釉剥ぎ位置
 - b 見込み蛇の目釉剥ぎ部
 - c 一次施釉ライン
 - d 二次施釉ライン



目 次

第VI章 低地部の調査

第1節 調査の概要

- | | |
|------------------|---|
| 1 低地部の範囲と概要..... | 1 |
| 2 層序..... | 4 |

第2節 R・S・P調査区の調査

- | | |
|---------------------|-----|
| 1 縄文時代～弥生時代の調査..... | 4 |
| 2 古代の調査..... | 26 |
| 3 中世の調査..... | 131 |
| 4 近世以降の調査..... | 166 |

第3節 Q調査区の調査

- | | |
|--------------|-----|
| 1 中世の調査..... | 205 |
|--------------|-----|

第4節 G調査区の調査

- | | |
|----------------|-----|
| 1 中世の調査..... | 213 |
| 2 近世以降の調査..... | 217 |

第VII章 まとめ..... 337

付論..... 355

挿 図 目 次

第 1 図	低地部位置図	1	第 73 図	土師器 27	甕	85
第 2 図	土層断面図 1	2	第 74 図	土師器 28	甕	86
第 3 図	土層断面図 2	3	第 75 図	土師器 29	甕	87
第 4 図	基本上層図	4	第 76 図	土師器 30	甕	88
第 5 図	石斧デボ及び出土遺物	5	第 77 図	土師器 31	甕	89
第 6 図	縄文土器 I・II類	6	第 78 図	土師器 32	甕	90
第 7 図	縄文土器 2 Ⅲ類	7	第 79 図	土師器 33	甕	91
第 8 図	縄文土器 3 Ⅳ・V類	8	第 80 図	土師器 34	鉢・焼塙壺他	92
第 9 図	縄文土器 4 VI・IX類	9	第 81 図	土師器 35	その他	93
第 10 図	縄文土器 5 X・XIII類	10	第 82 図	土師器 36	納鏡車	94
第 11 図	縄文土器 6 X・XIV類	11	第 83 図	土鏡	95	
第 12 図	縄文土器 7 X・XV類	12	第 84 図	須恵器 1	蓋	99
第 13 図	縄文土器 8 X・XVI類	13	第 85 図	須恵器 2	环	100
第 14 図	縄文土器 9 X・XV類及び出土状況	14	第 86 図	須恵器 3	楕	101
第 15 図	縄文土器 10 X・XV類	15	第 87 図	須恵器 4	壺	102
第 16 図	縄文土器 11 XI・XII・XIII類	16	第 88 図	須恵器 5	甕	103
第 17 図	縄文土器 12 XII・XIII類	17	第 89 図	須恵器 6	甕	104
第 18 図	縄文土器 13 X Ⅲ類	18	第 90 図	須恵器 7	甕	105
第 19 図	縄文土器 14 IX・X類	19	第 91 図	須恵器 8	甕	106
第 20 図	弥生・古墳時代の土器 1	20	第 92 図	須恵器 9	甕	107
第 21 図	弥生・古墳時代の土器 2	21	第 93 図	須恵器 10	甕	108
第 22 図	土器集中造構 1 号及び出土遺物	26	第 94 国	須恵器 11	甕	109
第 23 図	P-S-V調査Ⅱ面コンテ因縁配置図(古代～近世以前)	27・28	第 95 国	須恵器 12	甕	110
第 24 国	土器集中造構 2	29	第 96 国	須恵器 13	甕	111
第 25 国	土器集中造構 3	30	第 97 国	須恵器 14	甕	112
第 26 国	土器集中造構 2・3 出土遺物	31	第 98 国	須恵器 15	甕	113
第 27 国	土器集中造構 4	32	第 99 国	須恵器 16	甕	114
第 28 国	土器集中造構 4 出土遺物 1	33	第 100 国	須恵器 17	甕	115
第 29 国	土器集中造構 4 出土遺物 2	34	第 101 国	須恵器 18	横楕	116
第 30 国	土器集中造構 5	35	第 102 国	須恵器 19	硯・鉢跡	117
第 31 国	土器集中造構 5 出土遺物 1	36	第 103 国	木製品 1		121
第 32 国	土器集中造構 5 出土遺物 2	37	第 104 国	木製品 2		122
第 33 国	土器集中造構 6	38	第 105 国	木製品 3		123
第 34 国	土器集中造構 6 断面図及び出土遺物 1	39	第 106 国	木製品 4		124
第 35 国	土器集中造構 6 出土遺物 2	40	第 107 国	木製品 5		125
第 36 国	土器集中造構 7	41	第 108 国	木製品 6		126
第 37 国	土器集中造構 7 出土遺物	42	第 109 国	木製品 7		127
第 38 国	土器集中造構 8	43	第 110 国	木製品 8		128
第 39 国	土器集中造構 8 出土遺物	44	第 111 国	木製品 9		129
第 40 国	自然による護岸状況(S調査区)	47	第 112 国	木製品 10		130
第 41 国	杭列分布状況	48	第 113 国	中世墓配位図		
第 42 国	杭列 1・2	49	第 114 国	中世墓 1～3 及び出土遺物		131
第 43 国	杭 1	50	第 115 国	中世墓 4～6		132
第 44 国	杭 2	51	第 116 国	中世墓 7・8 及び出土遺物		133
第 45 国	杭 3	52	第 117 国	中世墓 9 及び出土遺物		134
第 46 国	古代・中世出土遺物及び木製品出土分布図	54	第 118 国	中世墓 10 及び出土遺物		135
第 47 国	土師器 1 蓋・皿	55	第 119 国	中世墓 11～13 及び出土遺物		136
第 48 国	土師器 2 环	56	第 120 国	溝 1～3 及び出土遺物		137
第 49 国	土師器 3 环	57	第 121 国	中世公食養塔		138
第 50 国	土師器 4 环	58	第 122 国	土師器 1 皿		139
第 51 国	土師器 5 环	59	第 123 国	土師器 2 环		140
第 52 国	土師器 6 环	60	第 124 国	白磁 1		141
第 53 国	土師器 7 袖	62	第 125 国	白磁 2		142
第 54 国	土師器 8 高台付环	63	第 126 国	青磁 1		143
第 55 国	土師器 9 口縁部	64	第 127 国	青磁 2		144
第 56 国	土師器 10 黒色土器 A 類 环・椀	65	第 128 国	青磁 3・白磁		145
第 57 国	土師器 11 黒色土器 A 類 椥	66	第 129 国	粉青沙器		146
第 58 国	土師器 12 黒色土器 A 類 口縁部	67	第 130 国	青花		147
第 59 国	土師器 13 黒色土器 A 類 底部	68	第 131 国	中世須恵器 棒万丈		148
第 60 国	土師器 14 黒色土器 A 類 その他	69	第 132 国	中世須恵器 カムイヤキ		149
第 61 国	土師器 15 黒色土器 B 類	70	第 133 国	東播系氣泡器・瓦質土器 1		150
第 62 国	赤色土器	71	第 134 国	瓦質土器 2		151
第 63 国	墨書き土器	73	第 135 国	瓦質土器出土状況及び瓦質土器 3		152
第 64 国	ヘラ書き土器	74	第 136 国	その他 1		153
第 65 国	ヘラ書き土器	75	第 137 国	その他 2		154
第 66 国	土師器 20 刻印土器	76	第 138 国	古鉢 1		155
第 67 国	土師器 21 刻書き土器	77	第 139 国	古鉢 2		156
第 68 国	土師器 22 刻書き土器	78	第 140 国	柱穴 1～13		157
第 69 国	土師器 23 刻書き土器	79	第 141 国	溝 1～3		158
第 70 国	土師器 24 甕	82	第 142 国	石臼廐土坑		159
第 71 国	土師器 25 甕	83	第 143 国	良福寺和尚墓検出状況		160
第 72 国	土師器 26 甕	84	第 144 国	施器 1		161

第145回	磁器 2	172	第216回	磁器21	色絵	262
第146回	陶器 1	173	第217回	磁器22	色絵	263
第147回	陶器 2	174	第218回	磁器23	水注類	264
第148回	陶器 3	175	第219回	磁器24	瓶類他	265
第149回	陶器 4	176	第220回	磁器25	その他	267
第150回	P・R・S調査区の石器 1	178	第221回	陶器 1	碗類	269
第151回	P・R・S調査区の石器 2	179	第222回	陶器 2	碗類	270
第152回	P・R・S調査区の石器 3	180	第223回	陶器 3	碗類	271
第153回	P・R・S調査区の石器 4	181	第224回	陶器 4	碗類	272
第154回	P・R・S調査区の石器 5	182	第225回	陶器 5	皿類	274
第155回	P・R・S調査区の石器 6	183	第226回	陶器 6	皿類	275
第156回	P・R・S調査区の石器 7	184	第227回	陶器 7	鉢類	276
第157回	P・R・S調査区の石器 8	185	第228回	陶器 8	瓶類	277
第158回	P・R・S調査区の石器 9	186	第229回	陶器 9	瓶類	278
第159回	P・R・S調査区の石器10	187	第230回	陶器10	土瓶	280
第160回	P・R・S調査区の石器11	188	第231回	陶器11	土瓶	281
第161回	P・R・S調査区の石器12	189	第232回	陶器12	土瓶	282
第162回	P・R・S調査区の石器13	190	第233回	陶器13	土瓶	283
第163回	P・R・S調査区の石器14	191	第234回	陶器14	土瓶	284
第164回	P・R・S調査区の石器15	192	第235回	陶器15	水注類 土瓶・急須他	285
第165回	P・R・S調査区の石器16	193	第236回	陶器16	急須	287
第166回	P・R・S調査区の石器17	194	第237回	陶器17	蓋・鍋類	288
第167回	P・R・S調査区の石器18	195	第238回	陶器18	鍋・釜類	289
第168回	P・R・S調査区の石器19	196	第239回	陶器19	片口	290
第169回	P・R・S調査区の石器20	197	第240回	陶器20	鉢	291
第170回	P・R・S調査区の石器21	198	第241回	陶器21	鉢	292
第171回	P・R・S調査区の石器22	199	第242回	陶器22	鉢	293
第172回	P・R・S調査区の石器23	200	第243回	陶器23	福鉢	295
第173回	勾状造構配置図	205	第244回	陶器24	福鉢	296
第174回	勾状造構 1・3	206	第245回	陶器25	福鉢	297
第175回	勾状造構 4・5	208	第246回	陶器26	福鉢	298
第176回	勾状造構 6・7	209	第247回	陶器27	福鉢	299
第177回	勾状造構 8~10	210	第248回	陶器28	蓋類	300
第178回	勾状造構11~13	211	第249回	陶器29	蓋類	301
第179回	青花 1	213	第250回	陶器30	兎頭	303
第180回	青花 2	214	第251回	陶器31	兎頭	304
第181回	青花 3 及び瓦質土器	215	第252回	陶器32	兎頭	305
第182回	石垣 1・2	218	第253回	陶器33	兎頭	306
第183回	石垣 2~4 及び石組み造構 1・2	219	第254回	陶器34	兎頭	307
第184回	G調査区造構配置図 1	221・222	第255回	陶器35	兎頭	308
第185回	G調査区造構配置図 2	223・224	第256回	陶器36	兎頭	309
第186回	石垣 5	226	第257回	陶器37	壺類	310
第187回	石垣 6	227	第258回	陶器38	壺類	311
第188回	石垣 6 断面拡大図及び石垣 7・8	228	第259回	陶器39	壺類	312
第189回	建物跡 1	229・230	第260回	陶器40	壺類	313
第190回	建物跡 2	232	第261回	陶器41	仏具	314
第191回	柱穴 1	233	第262回	陶器42	灯明具	315
第192回	柱穴 2 及び出土遺物	234	第263回	陶器43	植木鉢	317
第193回	柱穴 3	235	第264回	陶器44	植木鉢	318
第194回	櫛集中造構 1・2	237	第265回	陶器45	植木鉢	319
第195回	不明造構	238	第266回	陶器46	植木鉢	320
第196回	磁器 1 瓶類	240	第267回	陶器47	植木鉢	321
第197回	磁器 2 瓶類	241	第268回	陶器48	植木鉢	322
第198回	磁器 3 瓶類	242	第269回	陶器49	植木鉢	323
第199回	磁器 4 瓶類	243	第270回	瓦質土器 1	火鉢	324
第200回	磁器 5 瓶類	244	第271回	瓦質土器 2	七厘他	325
第201回	磁器 6 瓶類	245	第272回	土製品 1		326
第202回	磁器 7 瓶類	246	第273回	土製品 2		327
第203回	磁器 8 瓶類	247	第274回	土製品 3		328
第204回	磁器 9 瓶類	248	第275回	土製品 4		329
第205回	磁器 10 瓶類	249	第276回	その他 1		330
第206回	磁器 11 瓶類	250	第277回	その他 2		331
第207回	磁器 12 瓶類	251	第278回	その他 3		332
第208回	磁器 13 瓶類	252	第279回	その他 4		333
第209回	磁器 14 瓶類	253	第280回	輪の羽口		334
第210回	磁器 15 瓶類	254	第281回	土管・漆器品・石臼		335
第211回	磁器 16 盆・鉢類	256				
第212回	磁器 17 鉢類	257				
第213回	磁器 18 鉢類	258				
第214回	磁器 19 蓋類	259				
第215回	磁器 20 蓋類	260				

第VI章 低地部の調査

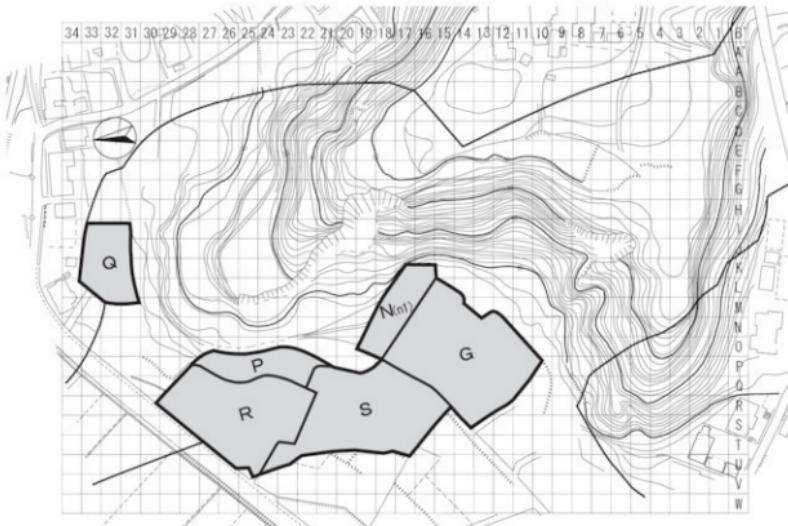
第1節 調査の概要

1 低地部の範囲と概要

本遺跡の低地部は、調査区の北側から西側にあたり、標高約10メートル前後の低地部分である。相当する調査区はG・R・S調査区とP・Q調査区の一部である。各調査区の構造検出状況や性格などから、R・S・P調査区、Q調査区、そしてG調査区の3つに分けて報告する。

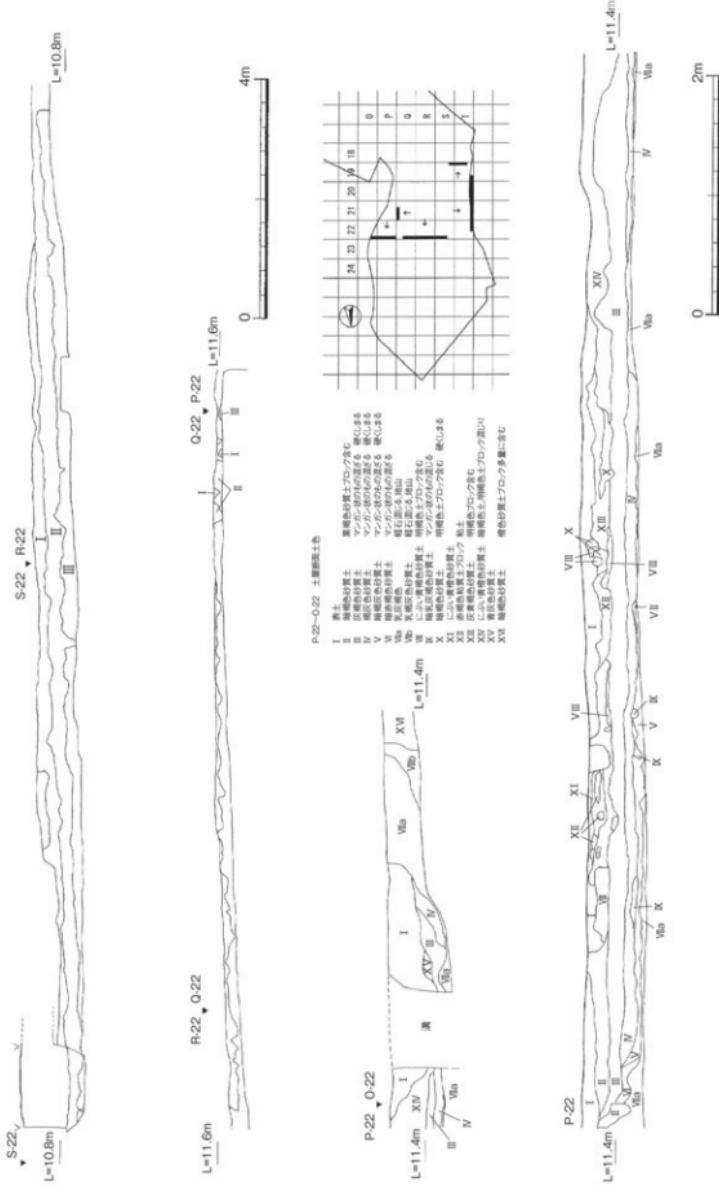
低地部の調査の概要としては、R調査区から縄文時代晚期の石斧が埋納された土坑や古代の土器が集中して出土した土坑が検出された。また、中世の墓壙も検出された。S調査区は低地部の中でも最も標高の低い場所で、杭列が多数検出された。P調査区では、近世の墓壙・廃棄された良福寺和尚の墓石、溝等が検出されたが、近世墓は山腹部の中で取り扱った。Q調査区からは、中世のものと思われる掘立柱建物跡・製鉄炉跡・炉状遺構等が検出されたが、周辺構造との関連から、炉状遺構以外の遺構は山腹部で取り扱った。G調査区では近世の地方郷土年寄の屋敷跡とそれに付帯する施設、石垣、池跡等が検出された。

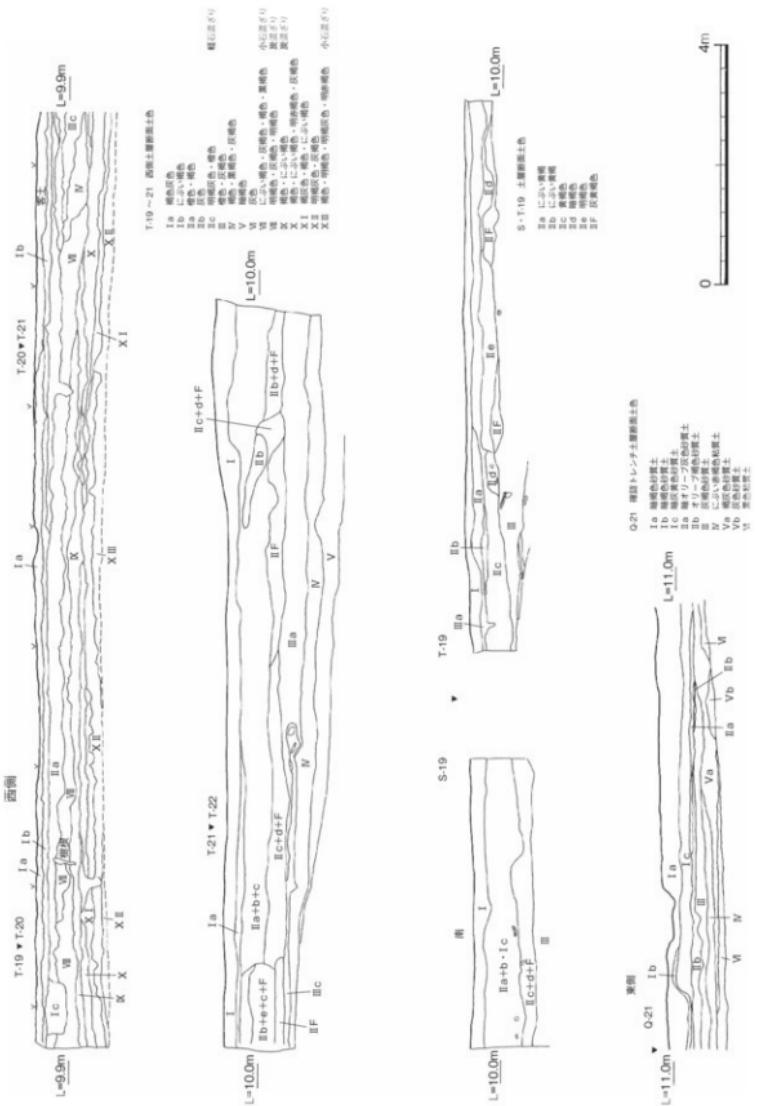
出土遺物としては、R・S調査区で古代から中世にかけての遺物が良好な状態で多量に出土した。R調査区では縄文時代早期の土器、縄文時代晚期の土器や石器等も出土している。またS調査区では、県内初の出土である古代の食膳具と思われる木製品や未製品が出土している。G調査区で薩摩焼をはじめとする近世陶磁器が大量に出土した。Q調査区では主に中世の遺物が出土した。



第1図 低地部位置図

第2図 土層断面図 1





第3図 土層断面図2

2 層序

低地部における各調査区の基本層序及び遺物包含層・年代等は次のとおりである。

なお、G調査区は近世から現代にかけての造成が見られ、またQ調査区でも後世の削平のため包含層ではなく、基本層序は見当たらなかった。

S調査区		R調査区	
I	淡褐色土	I a	淡褐色土
II	黄褐色土	I b	灰褐色粘質土
III	淡褐色土暗褐色混入	II	灰黑褐色土
IV	黒褐色粘質土	III a	暗黃橙色土
V	褐色粘質土	III b	黃橙色火山灰
		IV	淡黑褐色土
		V	淡茶褐色粘質土
		VI	黑茶褐色粘質土
VI	灰色砂礫層	VII	砂礫層
VII	灰色砂質土	VII	黄色砂質土

第4図 基本土層図

第2節 R・S・P調査区

ここではR・S調査区と隣接するP調査区の一部から検出された遺構・遺物について報告する。低地部内での位置関係は第1図を参照にされたい。

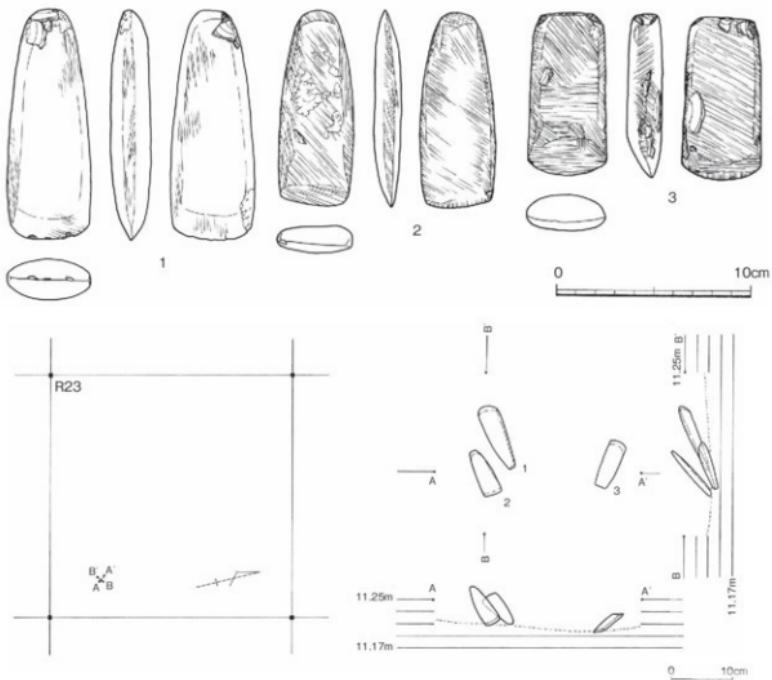
1 繩文時代の調査

(1) 遺構

低地部では、R23区II層において石斧理納遺構が検出された。遺構について記述する前に、まず個々の石斧について観察しよう。

1は頁岩製であり、整形剥離、敲打、研磨の手順を踏んで作られたことが、頭部の剥離痕や胴部の敲打痕、刃部や側面の研磨痕から分かる。通常の石斧と同じである。側面は面取りの研磨が施され、特に丁寧な加工が施されている。長さ11.8cm、最大幅4.3cm、重量164gであり、中型の範疇に入るものである。なお、表面の風化が激しく、胴部等の敲打痕は明瞭に観察できない。また、頭部の整形剥離痕は敲打、研磨によって切られており、研磨後の加工ではない。全体的に丁寧な作りの石斧であり、刃部の面と胴部の中心面は見事に一致しており、どこから見てもシンメトリカルなバランスのとれた斧身である。刃部には3個の細かな刃こぼれが観察できるものの、研ぎ直された形跡はない。

2は石英脈のはいる硬砂岩製である。1と同じく整形剥離、敲打、研磨の手順で作られている。ただ、1と異なり全面がよく研磨されている。特に胴部や側面の研磨は丁寧である。胴部では整形剥離による浅い凹みの中まで研磨されているし、側面では面取りの研磨が複数回繰り返されて曲面となるように仕上げてあり、特徴的である。さらに、この石斧のもう一つの特徴は頭部にも刃部が形成されていることである。長さ9.9cm、最大幅3.8cm、重量86gであり、これも中型の範疇に入るものである。なお、刃部には刃こぼれはないものの、その形状を見ると、研ぎ直しが施されたことが分かる。刃部が左上がりになっていること。裏面刃部右上に剥離痕があり、この剥離は、通常で



第5図 石斧デポ及び出土遺物

は、整形剥離ではあり得ない位置にあり、大きな刃こぼれによるものであろうことが推定できること、の2点から刃部の研ぎ直しが推定できる。

3は蛇紋岩製であり、製作の手順は1、2と同じであるが、表面右上に若干敲打痕が残り、蛇紋岩製石斧では珍しい例である。また、頭部の形成の仕方も特徴的である。それは、断ち切るような研磨で形成していることである。擦り切り技法による形成でないのは、研磨痕がこの面を斜めに走ることで分かる。あたかも、頭部を下にして握り、砥石に擦りつけたような擦痕である。長さ8.4cm、最大幅4.0cm、重さ123gであり、小型の範疇にはいる。

さて、以上の三点が図のような出土状況であった。1と2が互い違いに向き、3はやや離れている。このことは様々な解釈が可能であるが、私たちは、3点が一括埋納されていたものが、古代、中世の搅乱によって、3が移動したものであろうと見なしている。この埋納造構の時期であるが、その手がかりは2に求めたい。2のような石斧は、上野原遺跡第10地点の石斧埋納造構中に2点発見されており、双刃石斧と呼称されている。上野原遺跡例は縄文時代早期後葉の塞之神式、平柄式土器に伴うものであり、本遺跡例もそれに近いかと思うが、ここでは塞之神式、平柄式土器は出土していない。出土土器の中で、時期的に近いのは苦浜式、手向山式土器であり、この埋納造構の時期はこれらの土器形式の時期と見なすのが妥当であるように思う。ただ、頭部を擦りきるような蛇紋岩製石斧がこの時期にもあるかどうかは今後類例の検証が必要である。

縄文時代の土器

低地部からは縄文時代早期から晩期にかけての土器が出土している。これらの遺物を器形や文様、器面調整を基にして I類～X類に分類した。

I類（第6図）

1・2は、横方向の条痕と、ロッキング状の貝殻刺突文が施されている。

II類（第6図）

3・4は、山形押形文土器で、縦方向・横方向に施文されている。

III類（第7図）

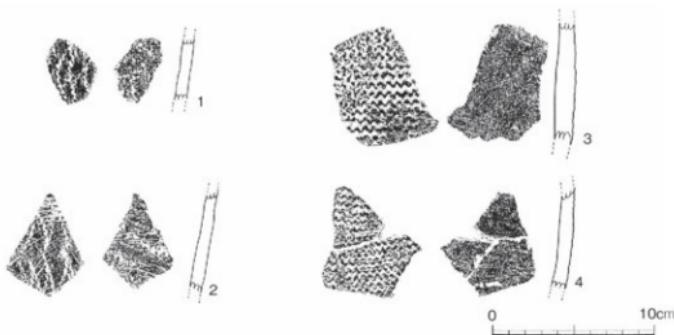
5～18は、やや間延びした山形押型文である。横位または縦位、斜め方向など様々なバリエーションが見られる。全体的に丁寧なつくりで、内面はナデ調整してある。5～8の口唇部にも山形押型文が施文してある。7は補修孔部分で欠損している。19～22は、菱形の押型文である。23は、撲糸文土器の口縁部である。撲った一本の糸を横方向に転がして施文してある。24～26は、同一個体であると思われる。8の字タイプの変形撲糸文土器である。大きく外反する口縁部から胴部で屈曲し、底部にかけてややすまっていく器形である。

IV類（第8図）

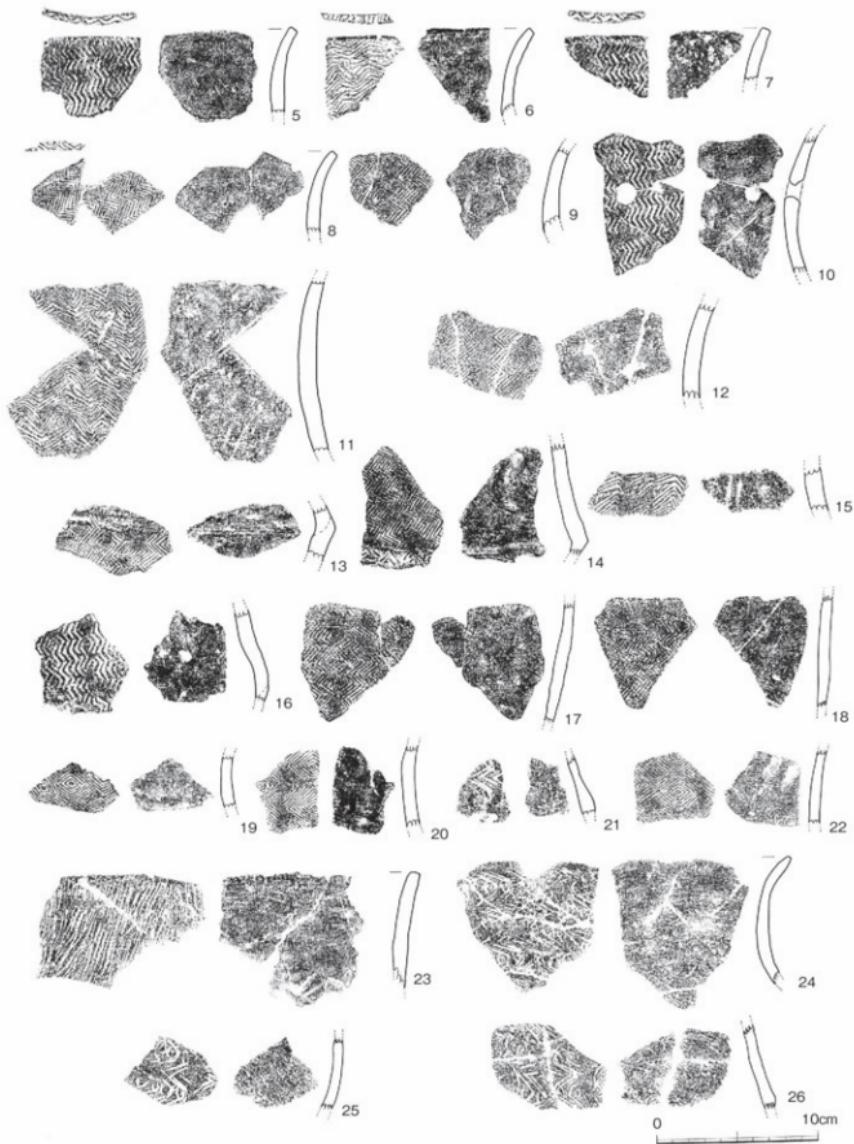
27～29は波状の口縁部をもち、胴部には波形の条痕が全面に施され、貝殻刺突による刻みを施した突帯が部分的に廻る。口唇端部にも刻みが施されているが、口唇部は平坦に仕上げられている。

V類（第8図）

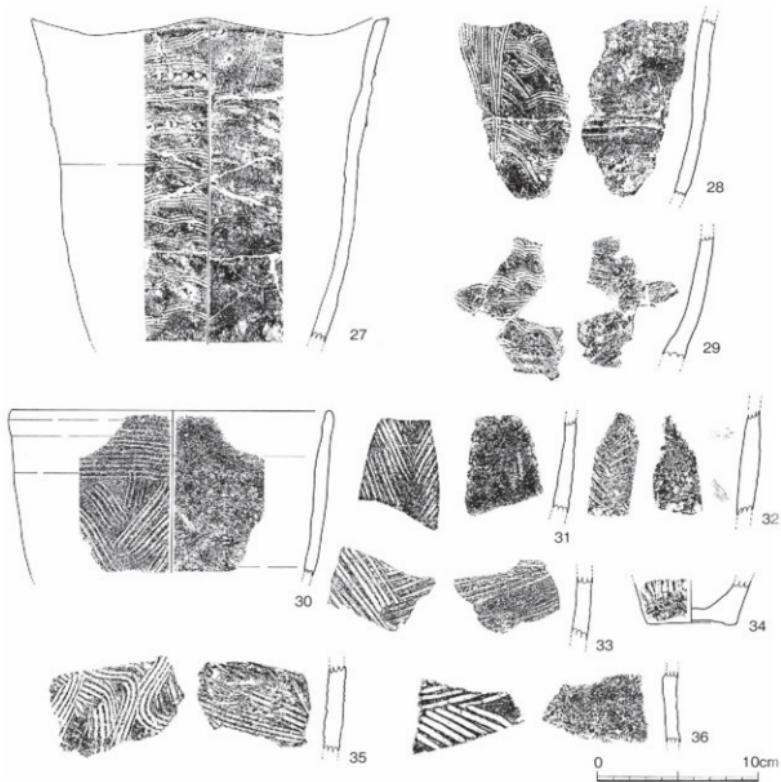
30の口唇部付近には縦の刻み目が施され、口縁部には横位の、胴部には綾杉状の条痕が施文してある。内面は部分的に口唇部付近まで煤が付着している。31～33は、胴部に綾杉状の条痕が施文されている。34の円形の底部は、やや上げ底気味である。外面には一部縦方向の条痕のような調整が見られるが、摩耗が激しくはつきりしない。35の外面には流水状に施文され、内面は貝殻条痕が見られる。36は31～33と比べて条痕が太い。



第6図 縄文土器 1 I・II類



第7図 縄文土器2 III類



第8図 繩文土器3 IV・V類

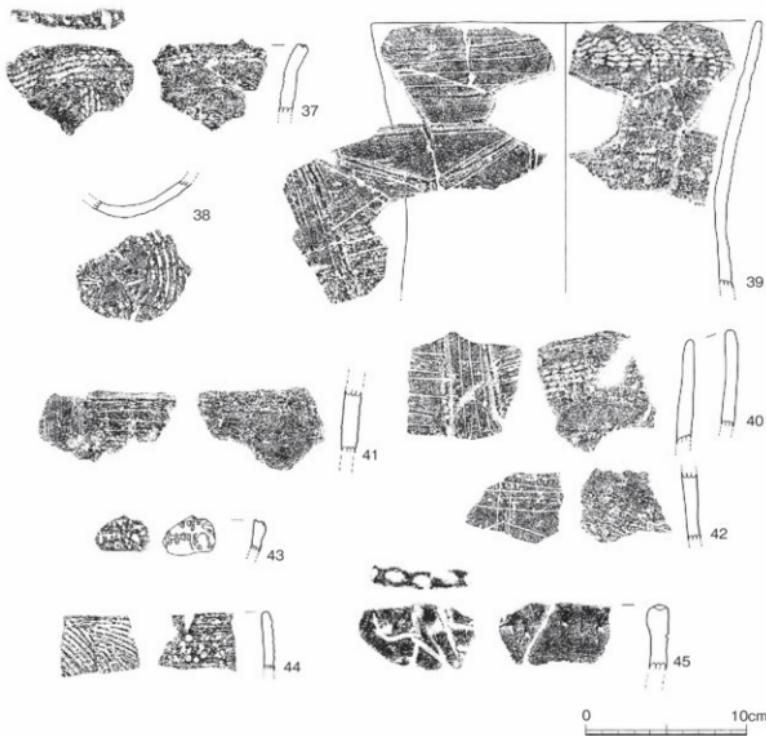
VI類（第9図）

VI類-1

37・38は同一個体であると思われる。37の口唇部には刺突文が見られ、外面の連点文に近い押引文は、縦→横の順番で施されている。38のやや丸みを帯びた尖り気味の底部には、横方向に口縁部と同じく連点文に近い押引文が施されている。

VI類-2

39~42は同一個体であると思われる。口縁部は直行もしくはやや外斜し、胴部中位でくびれる。口縁部の断面は丸みを帯びる。胴部外面には縦位・横位・斜位の微隆突帯を施し、それに沿うように数条の細い沈線を施している。口縁部内面には相交弧文が施される。



第9図 繩文土器4 VI~IX類

VII類（第9図）

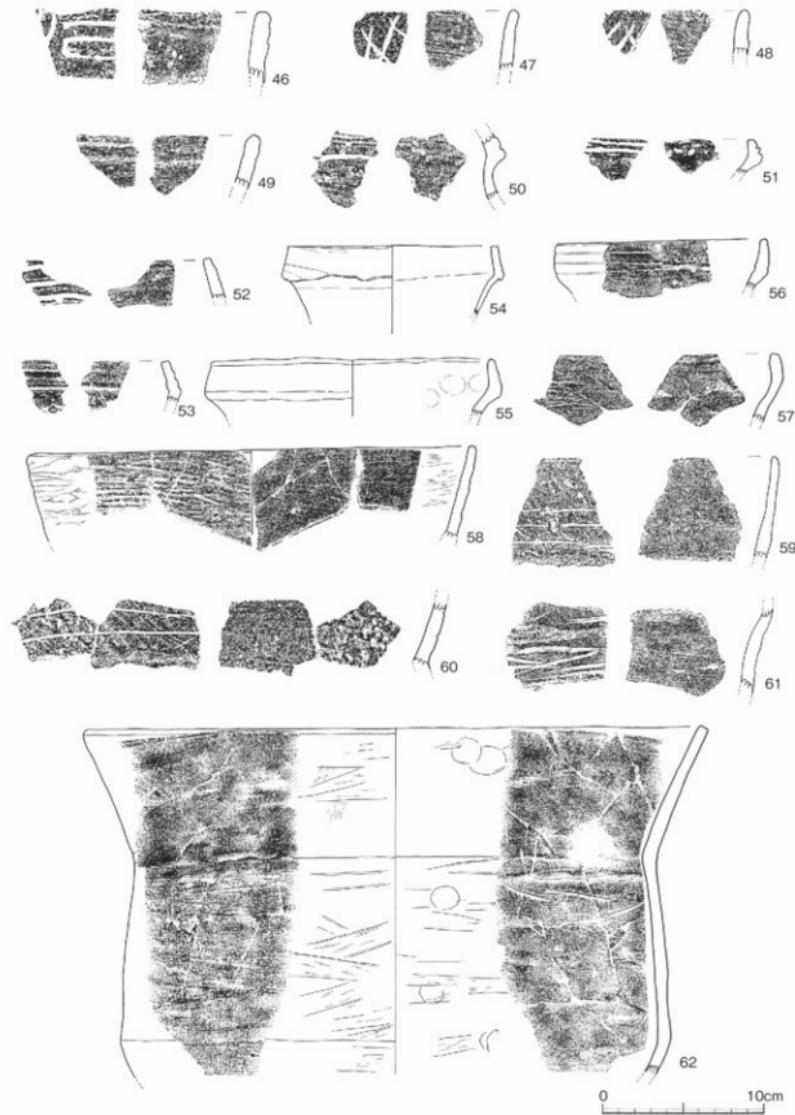
43は、深鉢の口縁部付近の一部である。微隆突帯を横・縦・斜位方向に廻らし、その周りに深い刺突が施されている。

VIII類（第9図）

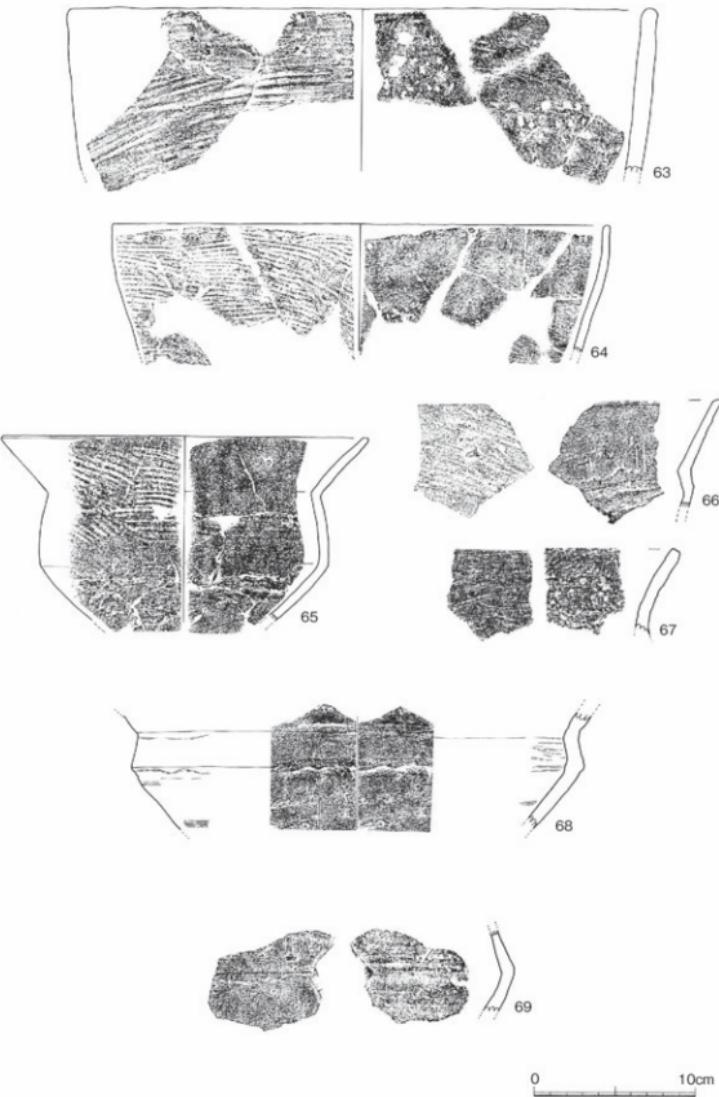
44は、条痕文土器である。外面には横位または斜位方向に条痕が施されている。内面は、横位の調整が見られるが、摩耗が激しくはっきりしない。口唇部断面は丸い。

IX類（第9図）

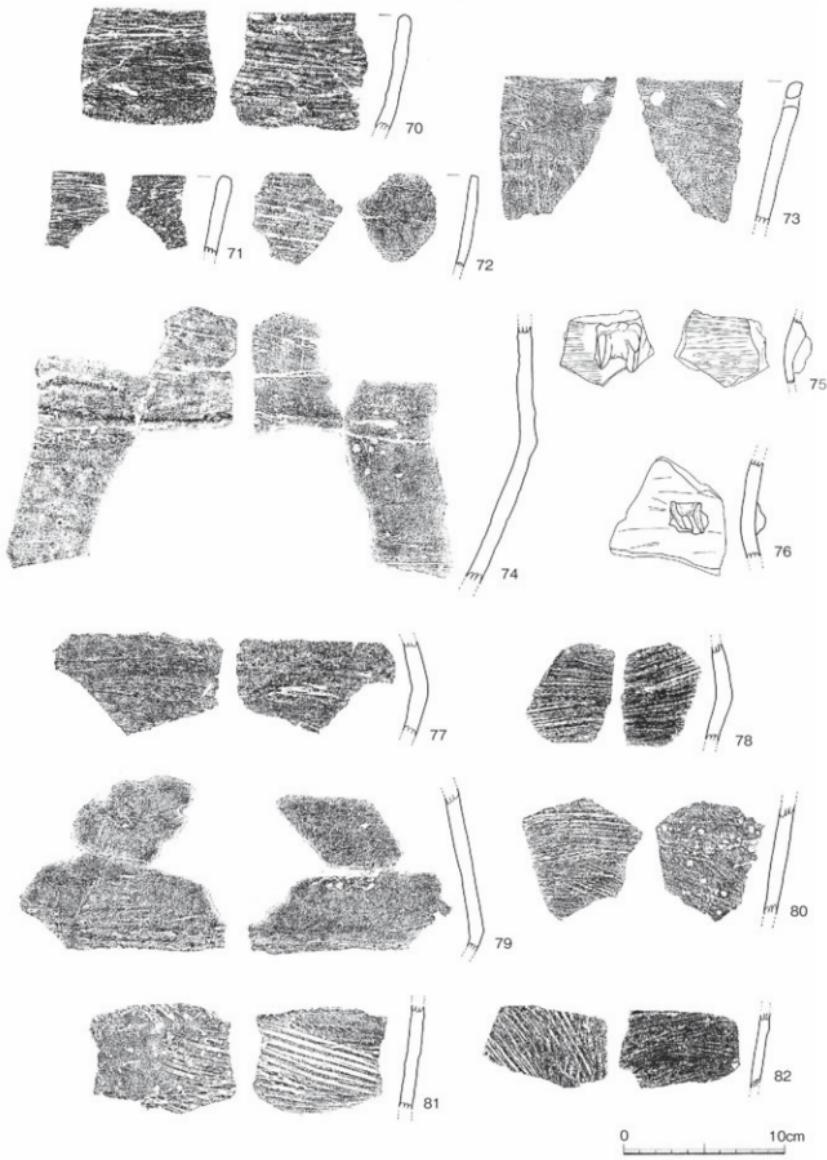
45は、深鉢形土器の口縁部突起部分である。太く浅い沈線で不規則な文様が施され、口唇部には深い刻みを施す。



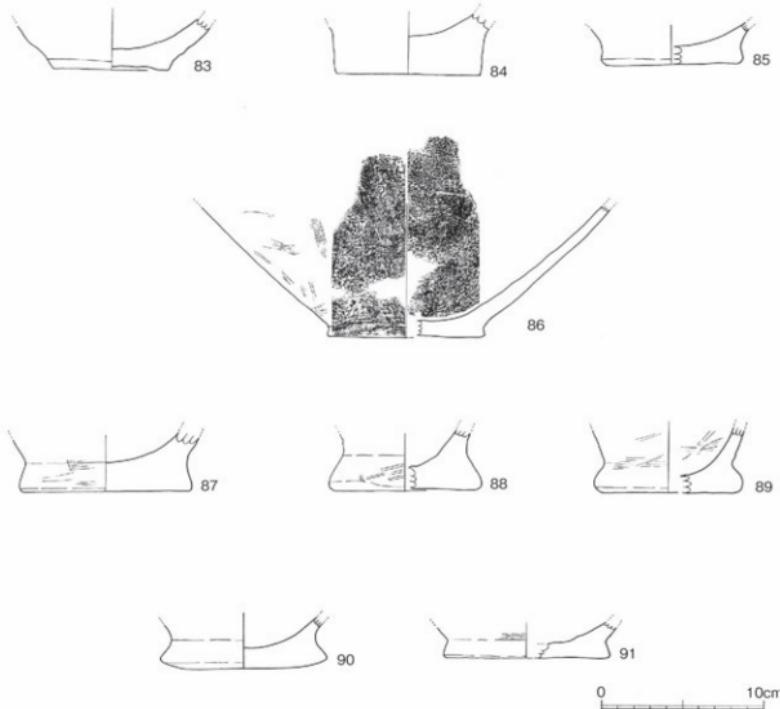
第10図 繩文土器 5 X～XIII類



第11図 繩文土器6 X III・X IV類



第12図 繩文土器 7 X IV類



第13図 繩文土器 8 X~IV類

X類（第10図）

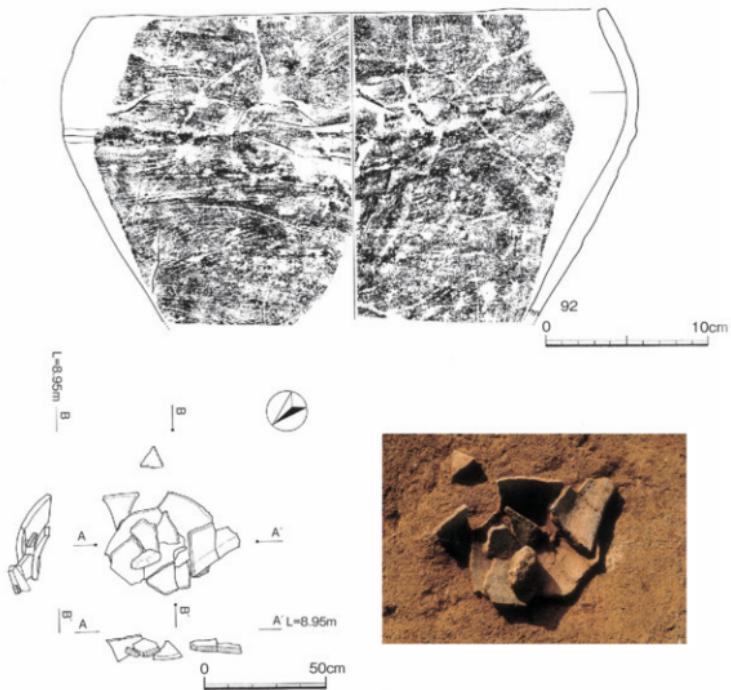
46は口縁突起部であると思われる。「コ」字形文と曲線文を施す。内外面は丁寧なナデ調整である。

X I類（第10図）

47・48は、深鉢の口縁部であると思われる。格子状に文様を施している。

X II類（第10図）

49~57は、後期後半に該当すると思われる深鉢形土器を一括した。50は口縁部を折り曲げてやや肥厚気味につくり、口縁部から胴部にかけてややすぼまる形状を呈している。口縁部には、太い沈線を施すもの、細い沈線を施すもの、沈線を意識したと思われるがほとんどケズリのようになっているもの、沈線を施さずナデているものがある。



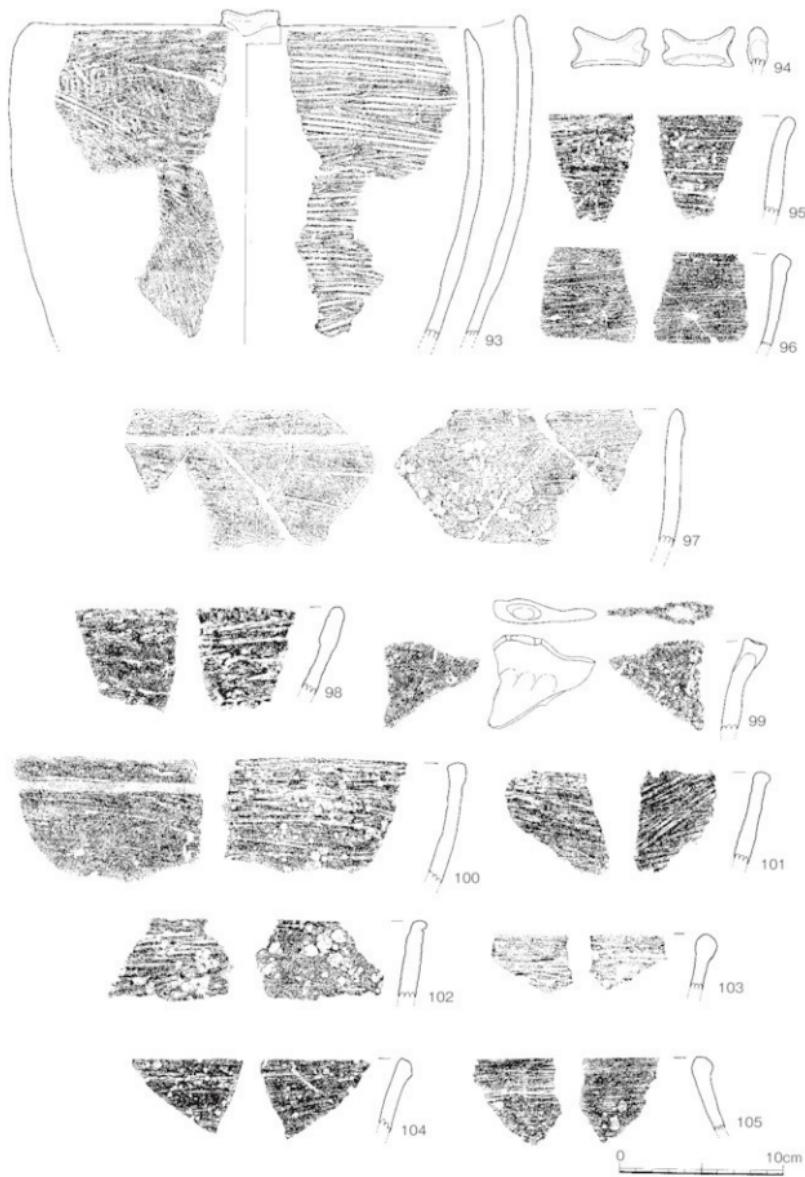
第14図 繩文土器9 X V類及び出土状況

X III類（第10・11図）

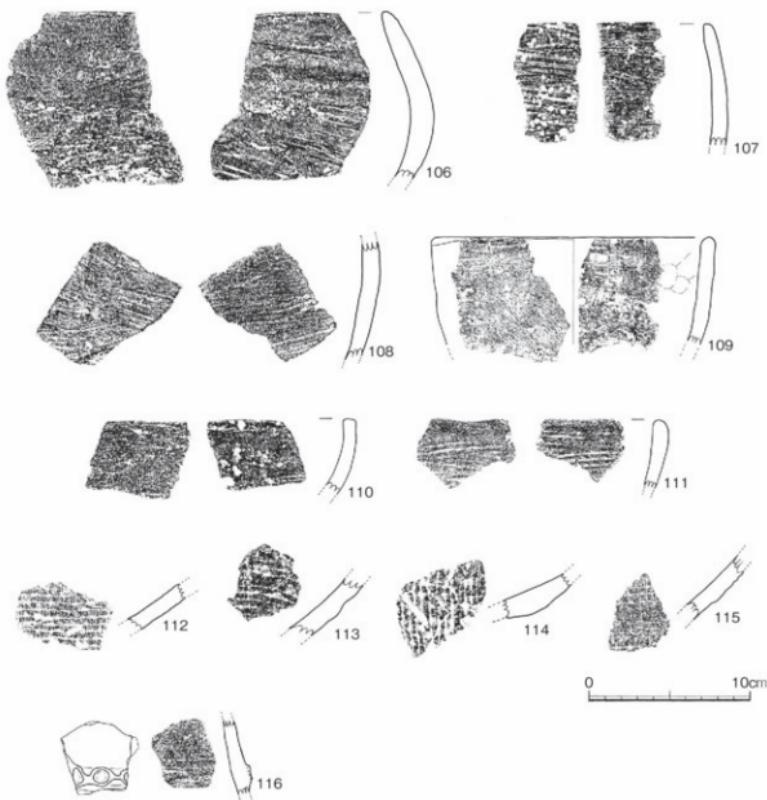
X III類は縄文時代晩期の粗製深鉢形土器を一括した。58～61の口縁部外面には、横位の貝殻条痕が見られる。内面および口唇部は、ケズリの後にナデで調整している。62は、口唇部は平坦につくられ、内外面ともケズリの後に丁寧にナデで調整している。口縁部に条痕などは見られない。「く」の字状に外反する長い口縁部をもち、胴部半ばで内側に屈曲する。63・64の口縁部には、条痕が施されている。

X IV類（第11～13図）

65は、小型の深鉢形土器である。口縁部は大きく外反し、胴部の屈曲も強い。口縁部から胴部の屈曲よりやや上部まで条痕が施され、それより下はナデによる調整である。内面は、丁寧なナデ調整である。外面の胴部屈曲から上には煤が付着している。66・67は、胴部の屈曲がやや強く、口縁



第15図 繩文土器10 X V類

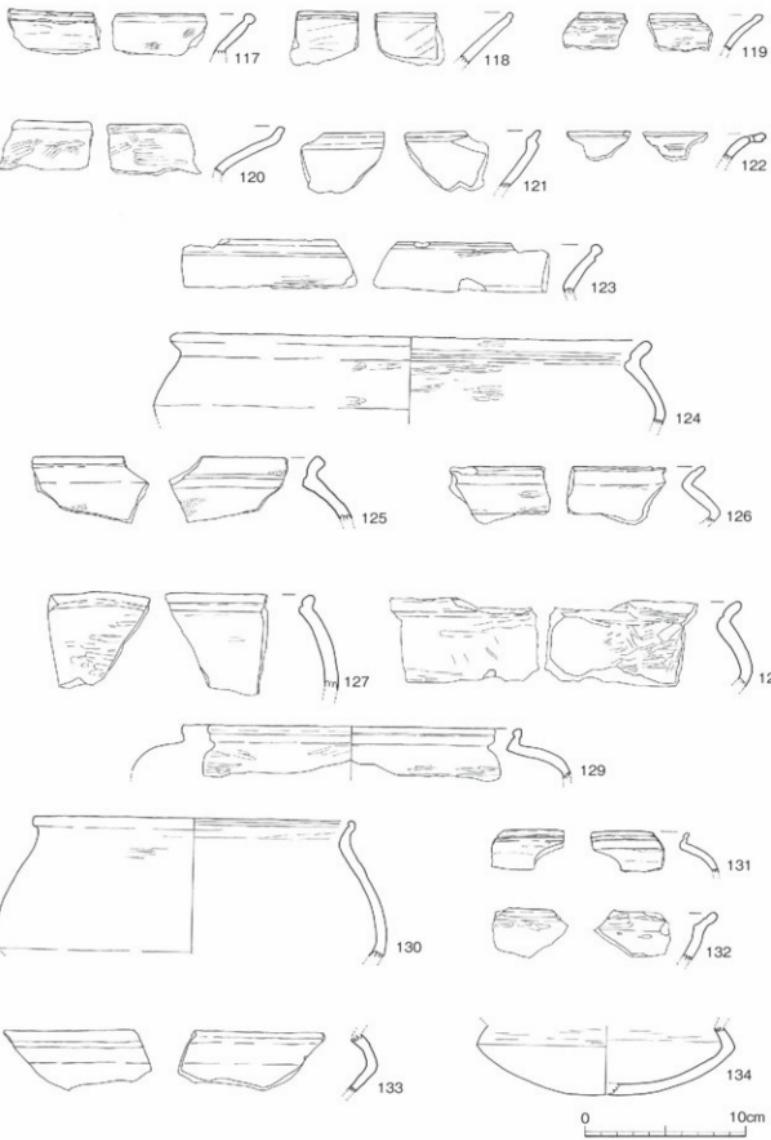


第16図 繩文土器11 X VI・X VII類

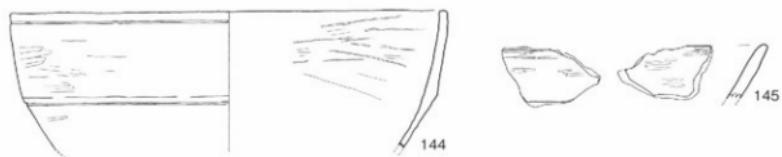
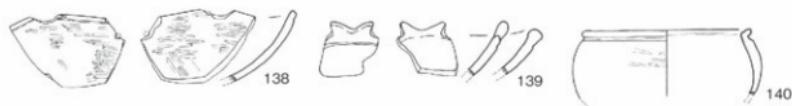
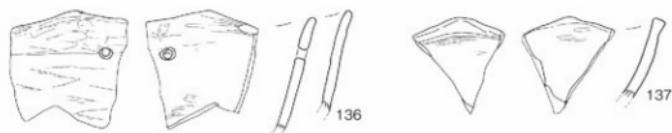
部も外反する器形であると思われる。68・69は、肩部がやや張る器形である。

70~82は深鉢の口縁部から胴部である。口縁部は、直立またはやや内湾気味に立ち上がり、胴部の屈曲は緩やかである。74の緩やかに屈曲する胴部には□□状になると思われる突帯が見られる。75・76は、胴部の屈曲部に突起をもつものである。

83~91は、縄文時代後期から晩期にかけての深鉢形土器の底部であると思われる。a類～c類に分類した。a類（83）は、胴下半部からやや内湾しながらすぼまる底部である。やや上げ底である。b類（84~86）は、胴下半部と底部の境がやや明瞭で、境部分と接地部分の直径の差が少ないもの



第17図 繩文土器12 X VII類

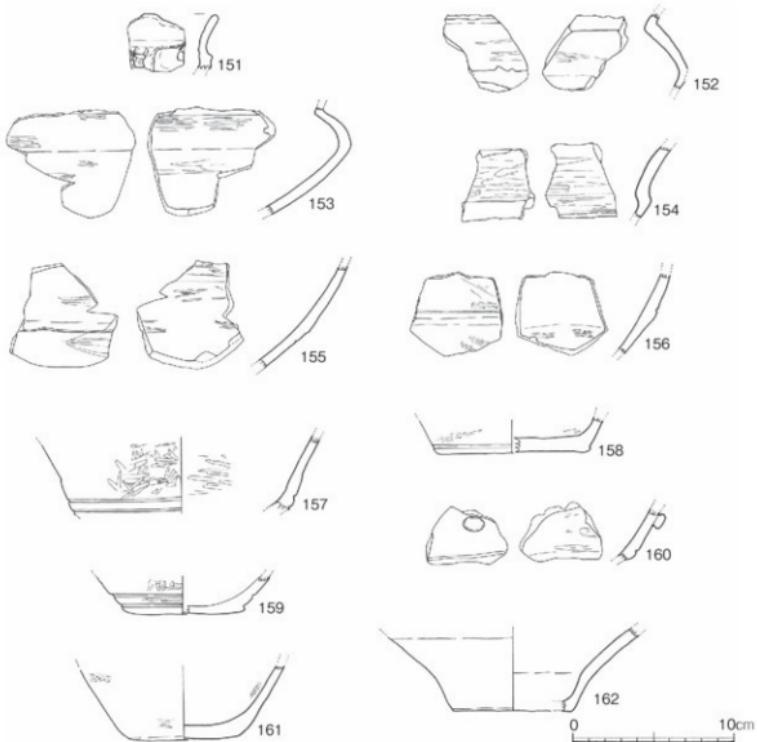


149



0 10cm

第18図 繩文土器13 X VII類



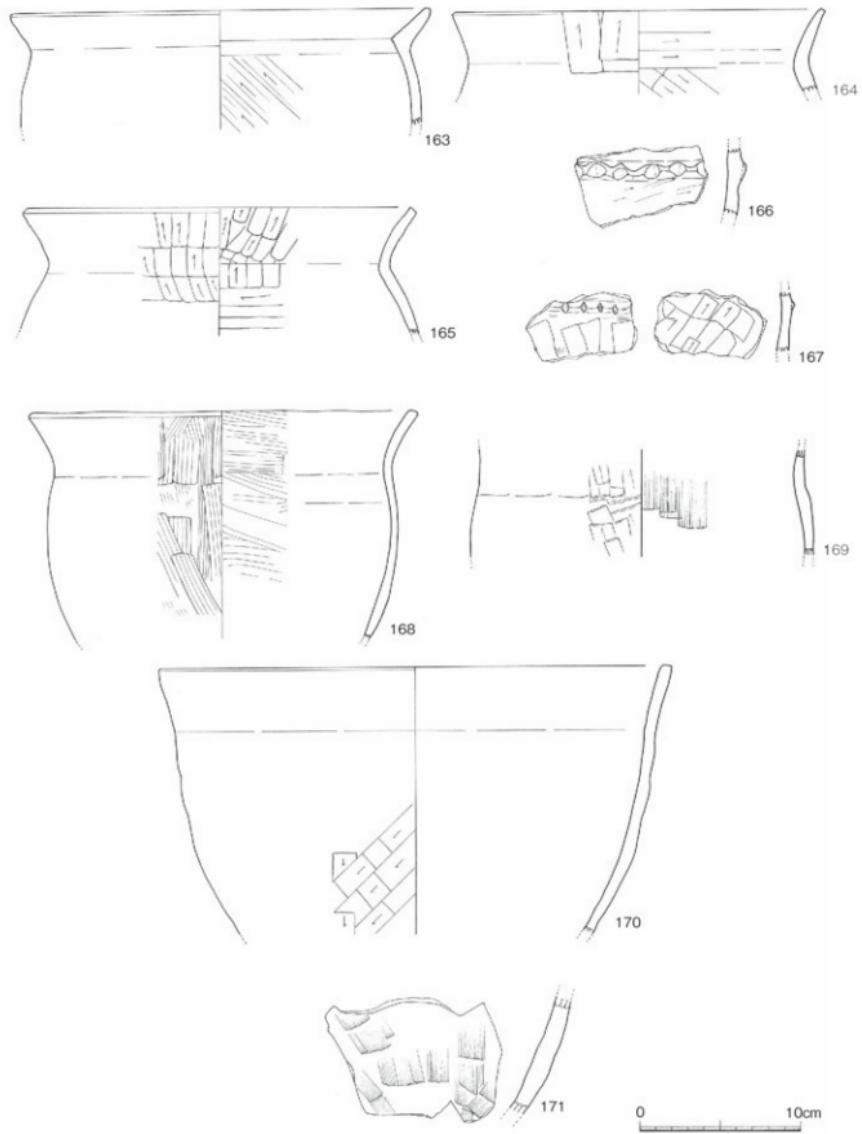
第19図 繩文土器14 XIX類

である。c類(87~91)は、胴部下半部との境がやや明瞭で、台形状に大きく張り出し厚みのある底部である。

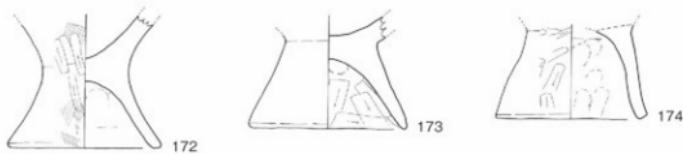
XV類 (第14・15図)

92は、胴部の屈曲部に突帯をもつ器形である。胴部から大きく内湾し、胴部から底部にかけてすぼまる。すべての破片は図のように同じ場所から出土したが、掘り込みは確認されなかった。

93・94は、口縁部にリボン状の突起をもつ深鉢形土器である。口縁はやや内湾する。95の口縁部は、一度内側にすぼまつたのちにやや外反する器形である。96~105の口縁部はやや肥厚する。口縁部上端を突帯のように肥厚させるもの、丸く肥厚させるもの、幅広く肥厚させるものがある。内外面の調整は条痕・ナデである。99の口縁部の一部は突起になっており、口唇部には深い凹みをつける。



第20図 弥生～古墳時代の土器 1



172

173

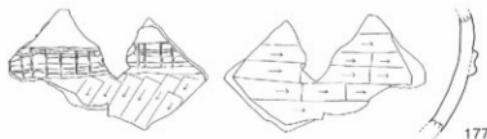
174



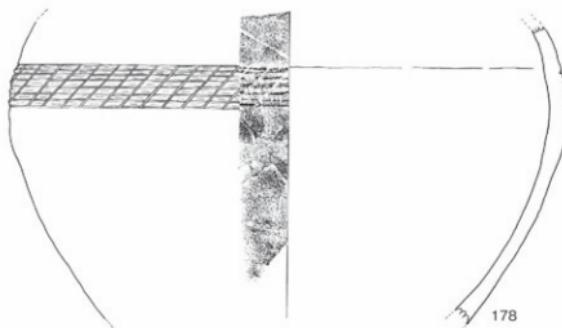
175



176



177



178

0 10cm

第21図 弥生～古墳時代の土器 2

XVI類（第16図）

106～111は、中華鍋形あるいは寸胴鍋形土器とよばれるものである。丸みのある胴部から内湾またはまっすぐに立ち上がる口縁部をもつ。内外面の調整は、丁寧なナデあるいはミガキであると思われるが、摩耗が激しくはっきりしない。112～115は、編み布の組織痕土器である。いずれも縦糸（4.5～5 mm）に細い横糸（1 cm幅に約10～12本）を編んだものである。112の一部には、1×1 mmの同じ太さの糸で編んだ格子状の編み布痕も見て取れる。

XVII類（第16図）

116は刻目突帯文土器である。幅1 cmほどの突帯に指で刻み目を施している。

XVIII類（第17・18図）

117～150は、精製浅鉢である。117～123は長めの口縁部が外反し、肩部が「く」の字状に屈曲するものである。124～134は頸部が短くなるもので、胴部の屈曲が強いものもある。133・134は、屈曲部の粘土の継ぎ目で破損しており、擬似口縁状を呈している。135～150は、口縁部が直行あるいは内湾するものである。口縁部にリボン状の突起がつくものや波状を呈したりするものもある。

XIX類（第19図）

151～162は、XV類の深鉢形土器と同時期に相当すると思われる精製浅鉢である。155～160は、底部や胴部に1～2条の沈線を施す小型の浅鉢である。159・161はやや丸みを帯びた平底をしている。160には、ボタン状の突起がついている。

弥生時代～古墳時代の土器（第20・21図）

椿城跡の低地部からは、点数は少ないものの弥生時代～古墳時代にかけての土器も出土している。多くは摩耗が激しかったが、それらの中でも、状態の良いものを図化した。

163～174は、壺形土器である。163は、「く」の字形に屈曲した口縁部の内面には、はっきりとした稜をもち、胴部はやや丸みを帯びる。外面には一部赤色顔料が付着している。165・168・170の口唇部の先端は平坦である。164は、口唇部の厚さは先端に向かって薄くなり、内面の稜は明確でない。口縁部外面をハケ目状の工具でカキアゲているが、胴部と境の段は、はっきりしない。165の口縁部の立ち上がりは緩やかである。稜はやや残る。166・167は刻目を入れた三角突帯をもつ。168の口縁部は長く緩やかに外反しながら立ち上がり、稜は曖昧である。外面と内面の口縁部はハケ目調整で、内面の胴部はケズリで仕上げてある。169は胴部から口縁部の屈曲は曖昧であるが、カキアゲによる段をもつ。170は、胴部からほぼ直線的に外反しながら立ち上がる形状である。内外面とも粗い作りで、ケズリ調整である。171の底部は、外面全面はハケ目調整してあり、内面はナデで仕上げている。172～174は、壺形土器の脚部である。172はやや裾広がりに外反する脚部である。173はやや内湾気味であり、174は直線的に聞くものである。175は、小型の壺形土器または鉢形土器の脚部である。脚部はやや裾広がりに外反する。脚台内面の天井部は丸くつくる。

176～178は、壺形土器である。176は、つよく外反する口縁部である。内外面ともケズリによる調整である。177は、M字状の貼り付け突帯に細い工具で縦線の刻みを入れている。178は、胴部に、先端の細い工具で7条の横線を廻らし突帯を作り出し、その上に左下がりのナナメの刻みを入れている。

縄文土器・弥生～古墳時代の土器観察表

種別番号	掲載番号	出土区	取上番号	層	器種	部位	分類	法量(cm)		調整			色調	備考	
								口径	底径	器高	外面	内面			
第6回	1	—	—	—	深鉢	胴部	I	—	—	—	ナデ	ナデ・ナデ	にふい黄褐色	にふい黄褐色	貝殻刺突
	2	R24	21190	Ⅲ	深鉢	胴部	I	—	—	—	ナデ	ナデ・ナデ	橙	橙	貝殼刺突
	3	3T	259	Ⅱ	円筒形	胴部	II	—	—	—	押型文	ナデ	橙	黄橙	山形押型文
	4	S22	20519	Ⅲ	深鉢	胴部	II	—	—	—	押型文	ナデ	明黄褐色	にふい黄褐色	山形押型文
	5	S22	20397	Ⅲ	深鉢	口縁部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい橙	橙	山形押型文
	6	S23	1062	Ⅲ	深鉢	口縁部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄褐色	にふい黄褐色	山形押型文
	7	S23	21117	Ⅲ	深鉢	口縁部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい橙	橙	山形押型文
	8	S23	21913 21914	Ⅲ	深鉢	口縁部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	反褐色	にふい赤褐色	山形押型文
	9	R23	21127	Ⅲ	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄褐色	浅黄	山形押型文
	10	S22	20563	Ⅲ	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい橙	にふい橙	山形押型文
	11	S22	21659 21658	Ⅲ	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	反褐色	浅黄	山形押型文
	12	R21	5649	Ⅲ	深鉢	口縁部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	山形押型文
	13	S23	21963	Ⅲ	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	橙	橙	山形押型文
	14	S23	20399	Ⅲ	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	橙	にふい橙	山形押型文
	15	S22	21657	Ⅲ	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄褐色	浅黄	山形押型文
	16	S22	20580	Ⅲ	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄褐色	にふい黄褐色	山形押型文
	17	T23	21962	Ⅲ	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい橙	にふい橙	山形押型文
	18	S22	21709	Ⅲ	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい橙	にふい橙	山形押型文
	19	S23	21899	Ⅲ	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい橙	にふい橙	菱形押型文
	20	S22	20419 20427	Ⅲ	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい橙	にふい橙	菱形押型文
	21	S22	21665	Ⅲ	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄褐色	にふい黄褐色	菱形押型文
	22	S22	21841	Ⅲ	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい橙	にふい橙	菱形押型文
	23	—	—	—	深鉢	口縁部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	系文
	24	S22	21664	Ⅲ	深鉢	口縁部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄褐色	にふい黄褐色	変形燃系文
	25	S22	21662	Ⅲ	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄褐色	灰黄褐色	変形燃系文
	26	S22	21690	Ⅲ	深鉢	胴部	III	—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐色	にふい黄褐色	変形燃系文
第7回	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	27	R23・24	1015, 21246, 21223, 21185, 20694, 21205, 2120, 7177, 2121, 2184, 2144, 21201, 11662, 11661, 2191	Ⅲ	深鉢	口縁部-胴部	N	22.4	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄褐色	にふい黄褐色	波形条痕文
	28	R24・25	21211, 21206, 21202, 21185, 21203, 21210, 21209, 19661, 21207, 2196, 21247	Ⅲ	深鉢	口縁部-胴部	N	22.4	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄褐色	にふい黄褐色	波形条痕文
	29	R23・24	21216, 21195, 11660	Ⅲ	深鉢	胴部	N	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい橙	にふい黄褐色	波形条痕文
	30	S	—	—	深鉢	胴部	V	20.4	—	—	柔痕	ケズリ	黄褐色	黒	貝殻条痕文
	31	S	—	—	深鉢	胴部	V	—	—	—	柔痕	ケズリ	橙	暗灰黄	錦杉状条痕文
	32	T22	21563, 21515	Ⅲ	深鉢	胴部	V	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄褐色	にふい黄褐色	錦杉状条痕文
	33	S23	20417	—	深鉢	胴部	V	—	—	—	柔痕	ケズリ+ナデ	にふい黄褐色	灰黄褐色	錦杉状条痕文
	34	T21	5740	—	深鉢	底部	V	—	5.6	—	ナデ	ナデ	橙	橙	条痕文
	35	R19	6471	V	深鉢	胴部	V	—	—	—	柔痕	貝殻柔痕	褐灰	褐	流水状条痕文 錦杉状拌縫文?
	36	—	20514	—	深鉢	胴部	V	—	—	—	柔痕	ナデ	にふい黄褐色	褐	—
第9回	37	S22	8680	—	深鉢	口縁部	VI	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄褐色	にふい黄褐色	—
	38	S22	20534	—	深鉢	底部	VI	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄褐色	灰黄褐色	—
	39	S22	2778, 4513, 4512, 4683 10039, 4488	Ⅲ	深鉢	口縁部-胴部	VI	24.4	—	—	ナデ	ケズリ+ナデ	にふい橙	黄褐色	—
	40	S23	5815	—	深鉢	口縁部	VI	—	—	—	ナデ	ナデ	黄褐色	黑褐色	—
	41	S22	4478	—	深鉢	胴部	VI	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄褐色	にふい黄褐色	—
	42	S23	5236	—	深鉢	胴部	VI	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄褐色	暗灰褐色	—
	43	—	—	—	深鉢	口縁部	VII	—	—	—	刺突文	ナデ	にふい橙	灰褐色	—
	44	S26	15528	—	深鉢	口縁部	VII	—	—	—	柔痕	ケズリ	黑褐色	黑褐色	柔痕文
	45	T26	19717	—	深鉢	口縁部	IX	—	—	—	ナデ	ナデ	明褐色	明褐色	—
	46	—	18257	—	深鉢	口縁部	X	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい赤褐色	にふい橙	—
第10回	47	S25	13033	—	深鉢	口縁部	X I	—	—	—	ナデ	ケズリ+ナデ	褐	暗褐	—
	48	S26	16035	—	深鉢	口縁部	X II	—	—	—	ナデ	ナデ	明赤褐色	赤	—
	49	R23	6521	—	深鉢	口縁部	X II	—	—	—	ナデ	ナデ	暗灰黄	暗灰黄	—
	50	R23	20334	—	深鉢	口縁部	X II	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄褐色	にふい黄褐色	—
	51	S22	16894	—	深鉢	口縁部	X II	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄褐色	にふい黄褐色	—
	52	S22	7999	—	深鉢	口縁部	X II	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄褐色	明黄褐色	—
	53	S23	5238	—	深鉢	口縁部	X II	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄褐色	灰黄褐色	—
	54	1T	720	—	深鉢	口縁部	X II	13.2	—	—	ナデ	ナデ	黄褐色	灰褐色	—
	55	S22	21649	—	深鉢	口縁部	X II	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい橙	にふい黄褐色	—
	56	R21	19971	—	深鉢	口縁部	X II	13.2	—	—	ナデ	ケズリ	明赤褐色	橙	—
	57	R23	7741	—	深鉢	口縁部	X II	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄褐色	にふい黄褐色	—

縄文土器・弥生～古墳時代の土器観察表

種別	掲載番号	出土区	取上番号	層	器種	部位	分類	法量(cm)			調整			色調	備考
								口径	底径	器高	外面	内面	外面		
第10回	58	S22	10355	三	深鉢	口縁部	X III	27.9	—	—	ナデ	ナデ	クスピナ	檻	檻
	59	T24	13009	三	深鉢	口縁部	X III	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄楓	にふい黄楓	
	60	T24	1271	三	深鉢	胴部	X III	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい赤楓	明楓	
	61	S23	4915	三	深鉢	胴部	X III	—	—	—	条痕	ナデ	暗灰	にふい楓	
			10,234, 10236, 9746, 1551, 9749, 9170, 277, 9746, 9748, 9747, 1551												
	62	R23		三	深鉢	口縫～脚	X III	39.0	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄楓	にふい黄楓	
	63	S23	4904, 4999, 4905, 4900	三	深鉢	口縫～脚	X III	—	—	—	ナデ	ナデ	暗灰黄	黄楓	
	64	R22	20994, 2093	三	深鉢	口縁部	X III	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄楓	にふい黄楓	
	65	S26	19452	三	深鉢	口縫～脚	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	黒楓	にふい黄楓	
	66	T23	21486	三	深鉢	口縁部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい楓	にふい楓	
第11回	67	R23	4960	三	深鉢	口縁部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	黒楓	オリーブ楓	外面に炭化物
	68	R23	3755	三	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	暗楓	黒楓	
	69	R23	6366	三	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	黒楓	暗灰黄	
	70	S22	7087	三	深鉢	口縁部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	黄楓	黄楓	
	71	S22	6256	三	深鉢	口縁部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	暗楓	にふい楓	
	72	S26	19294	三	深鉢	口縁部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい楓	にふい楓	
	73	Q23	1881	三	深鉢	口縁部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄楓	にふい楓	
	74	R22-23	7166, 3619, 5022, 5897	三	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい楓	黒楓	
	75	S24	9231	三	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	ケズリ	オリーブ楓	
第12回	76	S23	7458	三	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	暗楓	にふい黄楓	
	77	T22	21574	三	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	暗楓	にふい楓	
	78	R23	3769	三	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄楓	にふい黄楓	
	79	ST	1552, 1550	三	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	黄楓	黄楓	
	80	S26	19514	三	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい楓	にふい楓	
	81	S23	—	三	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	条痕	暗楓	
	82	R23	10216	三	深鉢	胴部	X IV	—	—	—	ナデ	ナデ	暗灰	にふい黄楓	
	83	S22	8082, 2822, 6611	三	深鉢	底部	X IV	—	6.8	—	ナデ	ナデ	明黄楓	黒	
	84	S23	5021	三	深鉢	底部	X IV	—	9.0	—	ナデ	ナデ	檻	檻	
	85	T25	14842	三	深鉢	底部	X IV	—	8.8	—	ナデ	ナデ	にふい黄	にふい黄楓	
第13回	86	S26 ¹	16715, 19471	II・III	深鉢	底部	X IV	—	9.8	—	ナデ	ナデ	ナデ	灰白	
	87	R23	9751, 6721	I・II	深鉢	底部	X IV	—	10.4	—	ナデ	ナデ	黄楓	にふい楓	
	88	Q22	—	一	深鉢	底部	X IV	—	9.4	—	ナデ	ナデ	にふい黄楓	暗楓	
	89	—	—	一	深鉢	底部	X IV	—	9.2	—	ナデ	ナデ	にふい楓	黒楓	
	90	R23	4930, 5205	三	深鉢	底部	X IV	—	10.2	—	ナデ	ナデ	にふい黄楓	にふい黄楓	
	91	—	—	一	深鉢	底部	X IV	—	9.9	—	ナデ	ナデ	ナデ	黒楓	
	92	T26	13, 11, 52, 4, 9, 5, 8, 2, 1-8	一	深鉢	口縫～脚	X V	31.8	—	—	ナデ	ケズリ	黒楓	檻	
第14回	93	R23-24	1929, 4996, 1930	三	深鉢	口縫～脚	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい楓	黒楓	
	94	T25	19765	三	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	モモリーフ反	モモリーフ反	
	95	S26	1666	三	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	灰黃楓	にふい黄楓	
	96	T26	19720	三	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	黒楓	黒楓	
	97	S22-R23	7113, 7112, 7109, 5647	三	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄楓	灰黃	
	98	T24	12299	一	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ケズリ	にふい黄楓	暗灰黄	
	99	—	—	一	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	明楓	檻	外面に指压痕
第15回	100	ST	1051	三	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい黄楓	にふい黄楓	
	101	R22	5603	三	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ヘラナデ	灰黃楓	暗灰黄	
	102	Q23	9245	三	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	灰黃楓	にふい黄楓	
	103	—	—	一	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	
	104	Q22	9354	三	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	オリーブ楓	暗灰黄	
	105	—	—	一	深鉢	口縁部	X V	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	
	106	S22	4697	三	深鉢	口縁部	X VI	—	—	—	ナデ	ナデ	ケズリナ	にふい黄楓	
	107	T22	20965	三	深鉢	口縁部	X VI	—	—	—	ケズリ	ケズリ	にふい楓	檻	
	108	S26	18264	三	深鉢	胴部	X VI	—	—	—	条痕	ナデ	オリーブ楓	黒楓	
第16回	109	R22	5977	三	深鉢	口縁部	X VI	—	—	—	ナデ	ナデ	黒楓	檻	
	110	S22	7086	三	深鉢	口縁部	X VI	—	—	—	ナデ	ナデ	明黄楓	黒楓	
	111	T25	19559	三	深鉢	口縁部	X VI	—	—	—	ナデ	ナデ	にふい楓	にふい黄楓	
	112	ST	1-2	一	素土	口縫～脚	X VI	—	—	—	ナデ	ナデ	編布痕	にふい黄楓	にふい黄楓
	113	—	—	一	素土	口縫～脚	X VI	—	—	—	ナデ	ナデ	編布痕	ナデ	
第17回	114	Q18	—	一	素土	口縫～脚	X VI	—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄楓	黒	
	115	S26	8327	三	素土	口縫～脚	X VI	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	黑	
	116	Q19	—	N	塵	口縫～脚	X VII	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	黑	
	117	S22	16897	浅鉢	口縫部	X VII	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	灰黄	黄楓	
第17回	118	T25	12869	浅鉢	口縫部	X VII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	檻		
	119	ST	1304	浅鉢	口縫部	X VII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	黒楓		

縄文土器・弥生～古墳時代の土器観察表

種類 番号	掲載 番号	出土区	取上番号	層	器種	部位	分類	法量(cm)		調整		色調		備考	
								口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面	
								—	—	—	ミガキ	ミガキ	暗灰黄	暗灰黄	
第17回	120	R23	4954	II	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	暗灰黄	暗灰黄	
	121	T26	18577	III	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	黒褐	
	122	R27	16307	III	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	黄灰	黒褐	
	123	R23	6446	III	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	
	124	T25・26	13675, 19563	II・III	浅鉢	口縁部	XVII	29.4	—	—	ミガキ	ミガキ	黒褐	オリーブ黒	
	125	R21	5439	III	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	褐灰	
	126	R22	6684	III	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	黒褐	灰黄褐	
	127	3T	1226	III	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	黒褐	黄灰	
	128	T25	13410	III	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	灰黄	黒	
	129	S23	3169	III	浅鉢	口縁部	XVII	21.0	—	—	ミガキ	ミガキ	黒褐	黒褐	
	130	T25	14581	III	浅鉢	口縁部	XVII	19.6	—	—	ミガキ	ミガキ	灰黄褐	黒褐	
	131	Q22	7526	III	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐	灰黄褐	
第18回	132	S23	3107	III	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	にぶい褐	にぶい褐	
	133	T25	7425	III	浅鉢	底部～剥部	XVII	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい褐	白	
	134	R22	20016	III	浅鉢	底部～剥部	XVII	—	—	—	ナデ	ナデ	明黄褐	明黄褐	内外面に赤色有り
	135	S22	5517	III	浅鉢	口縁部	XVII	31.6	—	—	ミガキ	ミガキ	褐	褐	
	136	S22	55, 282, 779	III	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	褐	黒褐	
	137	3T	387	III	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	黒褐	黄灰	
	138	R22	9424	III	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	褐灰	黒	
	139	T25	19542	III	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	暗灰黄	暗灰黄	
	140	R23	8990	III	浅鉢	口縁部	XVII	10.4	—	—	ミガキ	ミガキ	褐灰	黄灰	
	141	R24	21169	IV	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	灰黄褐	褐灰	指押さえ
	142	R25	7199	III	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ナデ	ナデ	灰黄褐	褐灰	
	143	3T	1065	III	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ナデ	ナデ	黒褐	黒褐	補修孔あり
	144	S22	55, 185, 166	III	浅鉢	口縫～剥部	XVII	27.0	—	—	ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	
	145	R23	9146	III	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	黒褐	黒褐	
	146	S22	7989	III	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	褐	黄灰	
	147	T25	12737	III	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	暗灰黄	黄灰	
	148	S25	18569	III	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	褐	褐	
	149	3T	1339	III	浅鉢	口縁部	XVII	18.0	—	—	ミガキ	ナデ	黄灰	黄灰	
	150	Q24	20224	III	浅鉢	口縁部	XVII	—	—	—	ミガキ	ミガキ	黒褐	黒褐	
第19回	151	Q21	2055	III	浅鉢	口縁部	XIX	9.2	—	—	ナデ	—	にぶい黄褐	にぶい黄褐	
	153	S22	8086, 8528	III	浅鉢	胴部	XIX	—	—	—	ミガキ	ミガキ	灰黄褐	褐灰	
	152	S23	3101	III	浅鉢	胴部	XIX	—	—	—	ミガキ	ミガキ	黄褐	にぶい黄褐	
	154	R22	20034	III	浅鉢	胴部	XIX	—	—	—	ミガキ	ミガキ	灰	灰	
	155	S22	55, 194, 495	III	浅鉢	胴部	XIX	—	—	—	ミガキ	ミガキ	褐灰	にぶい黄褐	
	156	U24	19152	III	浅鉢	胴部	XIX	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄	黄灰	
	157	P24	1904	III	浅鉢	底部～剥部	XIX	—	—	—	ミガキ	ミガキ	褐	にぶい黄褐	
	158	S22	7046	III	浅鉢	底部	XIX	—	9.4	—	ミガキ	ミガキ	黑褐	褐	
	159	S22	20742	III	浅鉢	底部	XIX	—	7.8	—	ミガキ	ミガキ	暗灰黄	暗灰黄	
	160	Q23	7406	III	浅鉢	胴部	XIX	—	—	—	ミガキ	ナデ	明黄褐	明黄褐	
	161	R23	33, 831, 961	III	浅鉢	底部	XIX	—	6.6	—	ミガキ	ミガキ?	にぶい黄褐	にぶい黄褐	
	162	T26	19042	III	浅鉢	底部～剥部	XIX	—	7.6	—	ミガキ	ミガキ?	にぶい黄褐	にぶい黄褐	
	163	S23	5747	III	甕	底部～剥部	—	26.0	—	—	ナデ	ヘラナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	外間に赤色顔料
	164	S25	19850	III	甕	底部	—	—	22.7	—	ヘラナデ	ヘラナデ	明黄褐	明黄褐	
	165	R23	9019	III	甕	底部～剥部	—	—	21.0	—	ヘラナデ	ヘラナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	
	166	R22	6037	III	甕	胴部	—	—	—	—	ケズリ・ナデ	ケズリ・ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	
	167	S24	12481	III	甕	胴部	—	—	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	にぶい黄褐	浅黄褐	
第20回	168	R23	4991, 4965,	II・III	甕	口縫～剥部	—	23.4	—	—	ハケ目	ハケ目	浅黄褐	黄褐	
	169	R23	11412	III	甕	胴部	—	—	—	—	ケズリ	ハケ目	にぶい黄褐	にぶい黄	
	170	S25	12699, 12700,	II	甕	口縫～剥部	—	32.0	—	—	ケズリ	ナデ	ヘラナデ	灰褐	にぶい黄褐
	171	R23	4405, 4959	III	甕	胴部	—	—	—	—	ハケ目	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	
	172	—	一括	表土	甕	脚部	—	—	9.6	—	エヌチャケ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	
	173	T25	16744	III	甕	脚部	—	—	10.0	—	—	ケズリ・ナデ	根	にぶい褐	
	174	S25	8391	III	甕	脚部	—	—	9.5	—	工具	ナデ	指压痕	にぶい黄褐	にぶい黄褐
	175	S26-T26	15730	III	鉢	脚部	—	—	6.5	—	ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	
	176	T25	14065	III	甕	脚部	—	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	
第21回	177	S26	17690, 15454	III	甕	胴部	—	—	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	
	178	S26-T26	16002, 15870, 18236, 15273, 15862, 17099, 15865, 15458, 15611, 15045, 15276	II・III	壺	胴部	—	—	—	—	ナデ	ナデ	黄褐	浅黄褐	

2 古代の調査

(1) 遺構

古代の遺構については、R調査区から土器集中遺構が8基検出された。掘り込みを伴い、土坑内に多数の土師器や須恵器が集中して出土したものと、掘り込みを伴わずに平面的に遺物が散在するものが見られた。また、R・S調査区からは、多数の杭列が検出されたが、時期等詳細不明なものがほとんどであった。

土器集中遺構（第22～39図）

R調査区

土器集中遺構1（第22図）

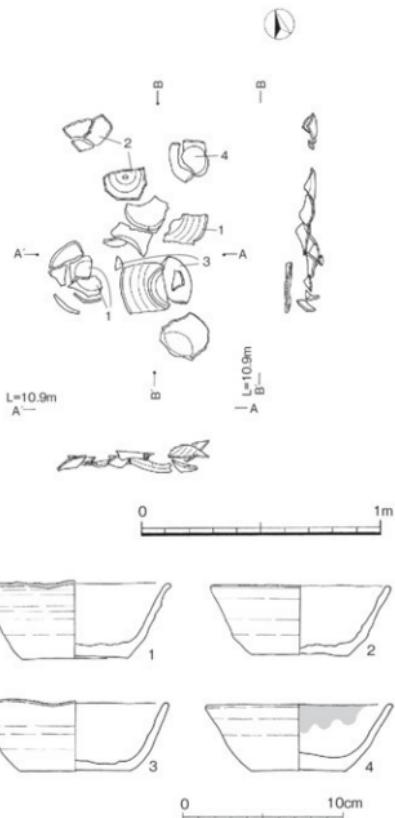
S-22区、II層で検出された。掘り込みは確認されなかった。遺物は20点出土し、4点を図化した。

1～4は土師器の坏である。4点とも外表面下位に回転ヘラケズリが施され、そのため体部は丸みを帯びて立ち上がるようみえる。口縁部はやや外反するもの、直線的に伸びるものがある。

土器集中遺構2（第23・26図）

R-22区、II層で検出された。掘り込みは確認されなかった。遺物は土師器の坏を中心に34点出土し、そのうち11点を図化することができた。

1～8は土師器の坏である。1は体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。内外面とも丁寧なナデ調整が施される。2は体部と底部の境に回転ヘラケズリが施されるため、体部は丸く立ち上がる。口縁部は直線的に伸びる。3・4は体部が直線的に立ち上がり、口縁部が外反する。体部外表面と内面は丁寧なナデ調整が施される。5は坏の口縁部である。体部は丸みをもって立ち上がる。外表面下位に回転ヘラケズリが認められる。6～8は坏の底部である。3点とも外表面下位に回転ヘラケズリが施される。9は坏と思われるが、体部の器壁がやや厚く、他器種の可能性も考えられる。10は赤色土器B類の胴部である。内外面ともミガキ調整されるが、摩耗のため明瞭でない。11は小形の鉢である。外面は回転ヘラケズリのあと、ナデ調整が施される。

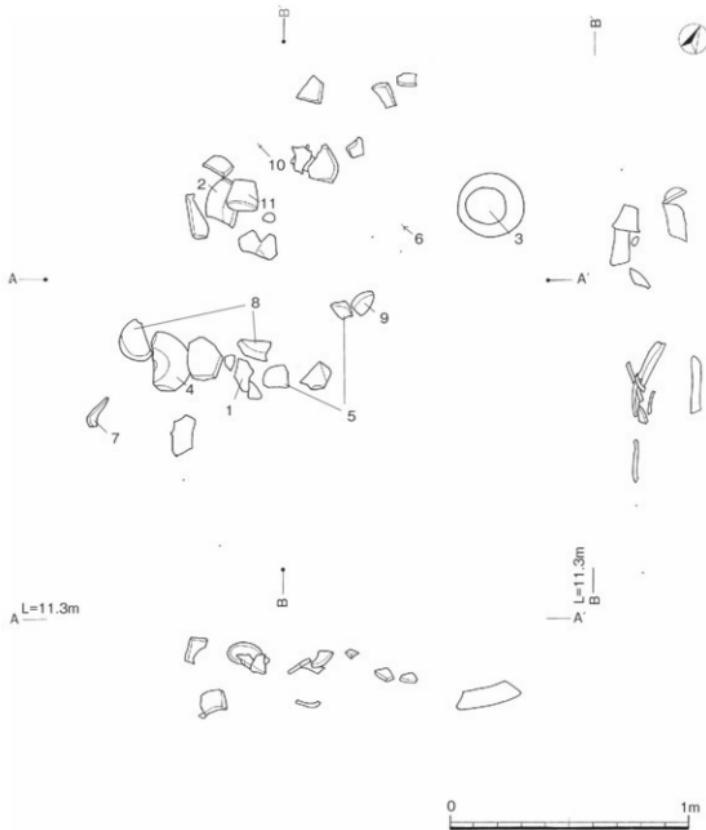


第22図 土器集中遺構1号及び出土遺物

土器集中遺構3（第25・26図）

Q-21区、II層で検出された。一部は烟境で削平を受けており、全体の形状等は不明であるが、深さ約10cmの掘り込みが確認され、30点の土師器が出土したが、小片が多く、図化できたのは5点であった。

1・2は、口径約9cm、器高2cm弱の小皿である。底部の切り離しは雑で、器形もやや歪である。3は体部から口縁部が直線的にのびる。体部外面と内面は丁寧なナデが施される。4は椀の口縁部である。「逆ハ」の字状の器形を呈し、大振りである。内面には明瞭ではないが煤の付着が観察された。

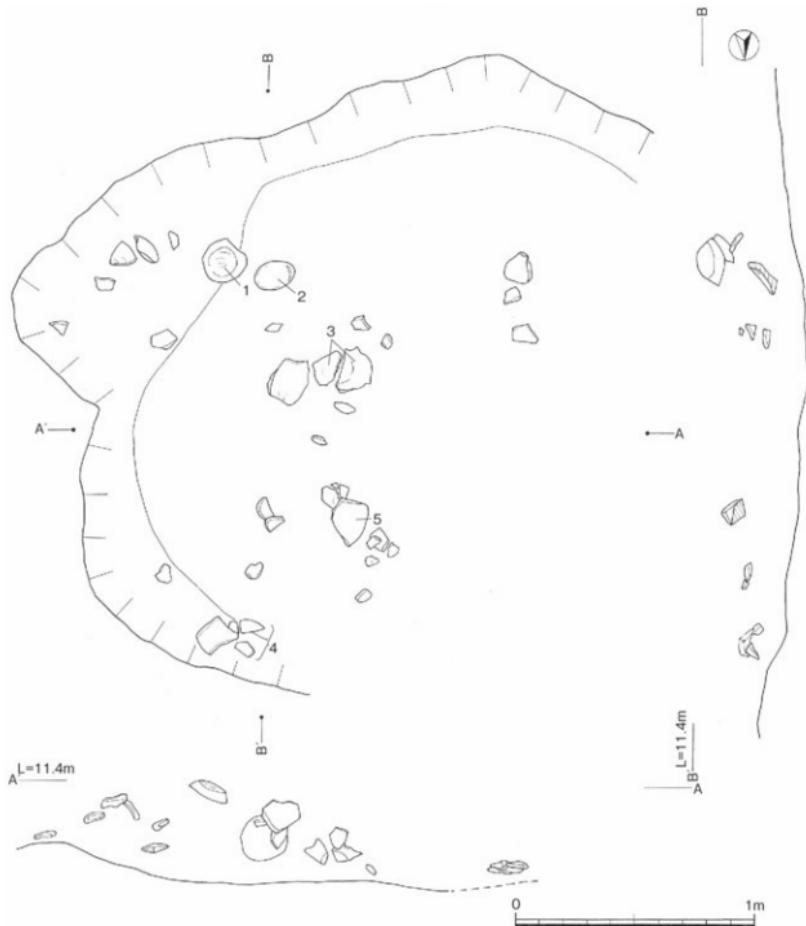


第24図 土器集中遺構2

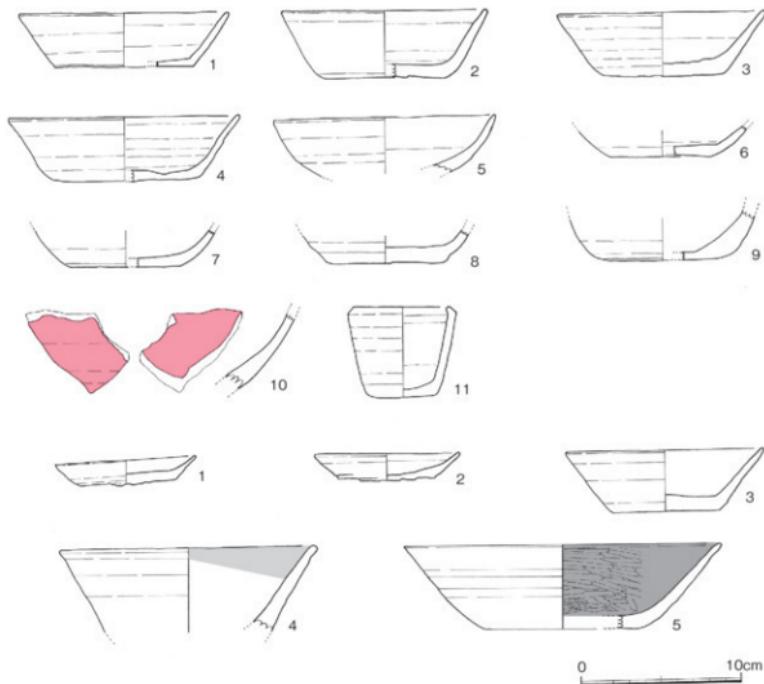
れる。5は黒色土器A類の壺である。内面は横方向のミガキが、体部内面下位には回転ヘラケズリが施される。

土器集中遺構4（第27～29図）

R-21・22区、II層で検出された。掘り込みは確認されなかったが、129点という多量の土師器や須恵器が3m×2mの範囲に平面的に出土した。そのうち29点を図化した。



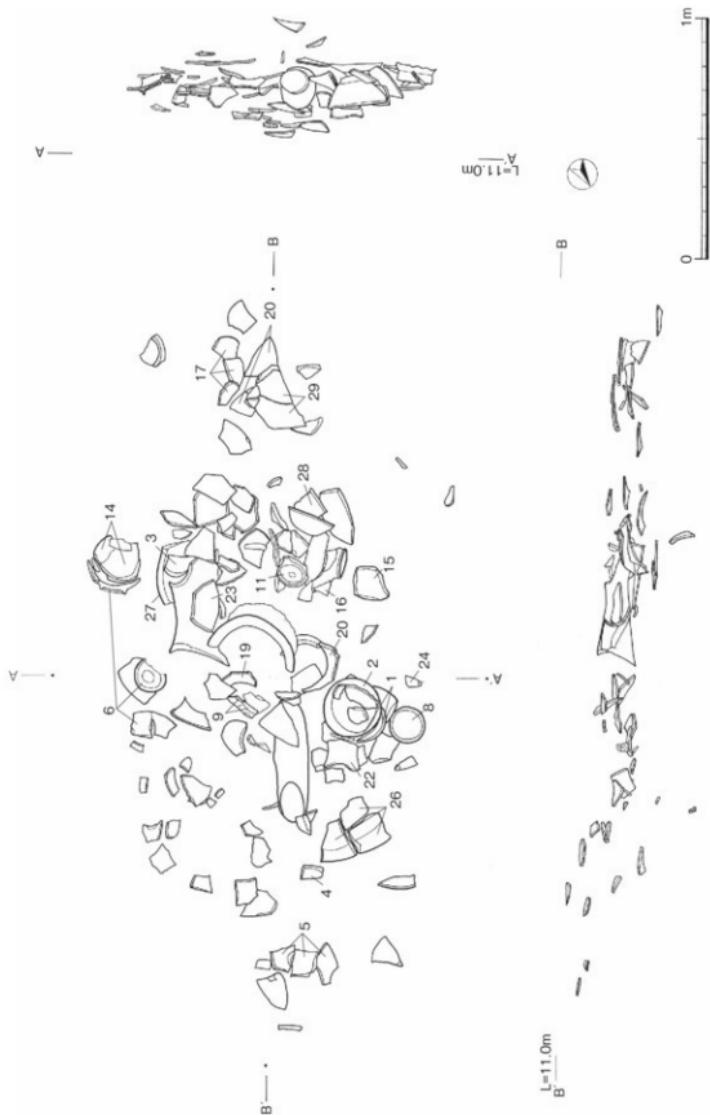
第25図 土器集中遺構3

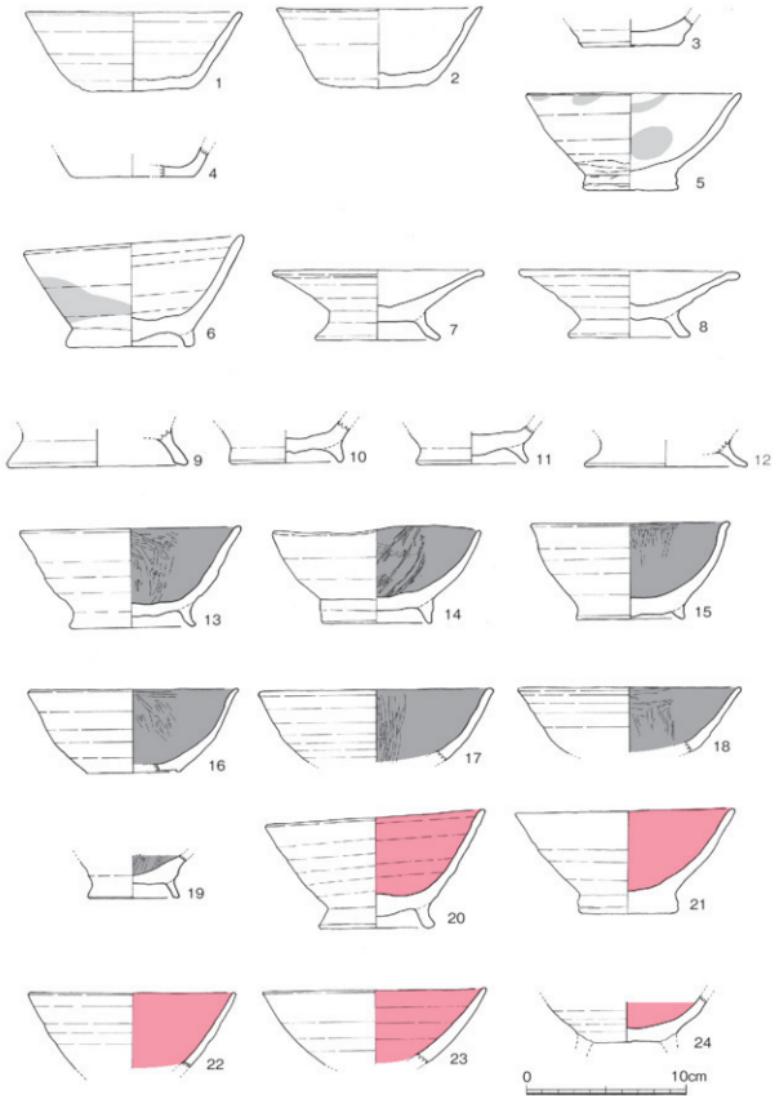


第26図 土器集中遺構2・3 出土遺物

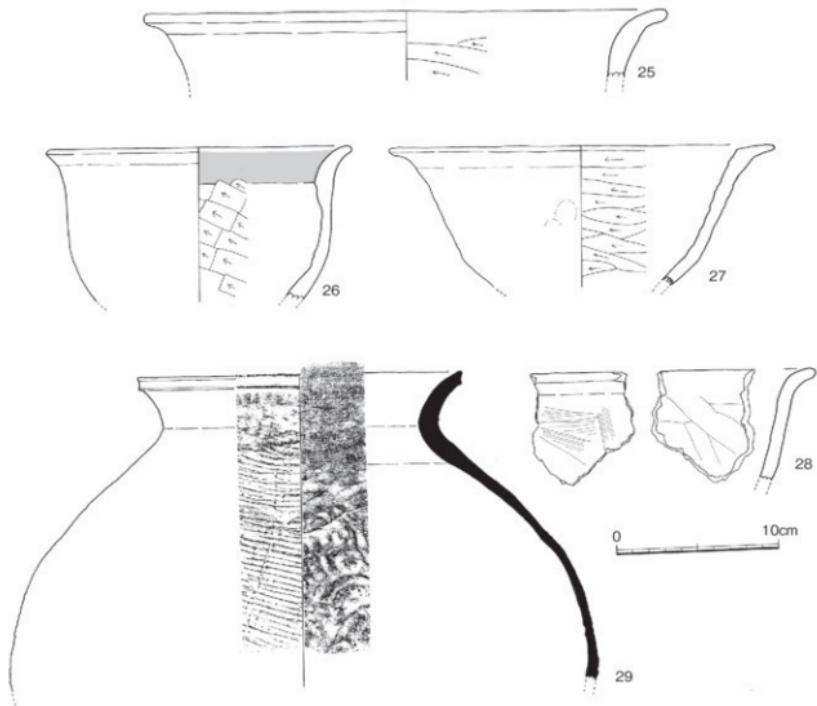
1~28は土師器である。1~4は壺で、体部から口縁部は直線的に伸び、体部と底部の境は回転ヘラケズリが施される。5は高台が充実高台をなす椀である。体部はやや丸みをもって立ち上がり、口縁部は直線的に伸びる。内外面ともナデ調整であるが、一部に不定型なナデが見られる。6は椀である。高台は低く、口径に対して高台径が大きい。また、高台内面は兜巾状に盛り上がる。口縁内面に輪状に煤が付着する。7・8は高台付壺である。内外面とも丁寧なナデが施されるが、体部と高台の接合部の成形がやや雑である。9~12は椀の底部である。13~19は黒色土器A類の椀である。15は高台が短く、底部中央が接地するほどである。16は高台部分が外れ、その後を調整して使用している。17・18は口縁部である。また、16~18は内面中央から口縁部に向けて、細かい放射状のミガキが施され、体部は曲線的に立ち上がる。19は底部である。20~24は赤色土器A類である。内面はミガキが施されるが、摩耗のため不明瞭で、赤色顔料も明瞭でない部分が見られる。20は碗で、体部から口縁部にかけて「逆ハ」の字状に開く。21は「薩摩タイプ」と称される底部が円盤状

第27図 土器集中遺構4





第28図 土器集中遺構4 出土遺物 1



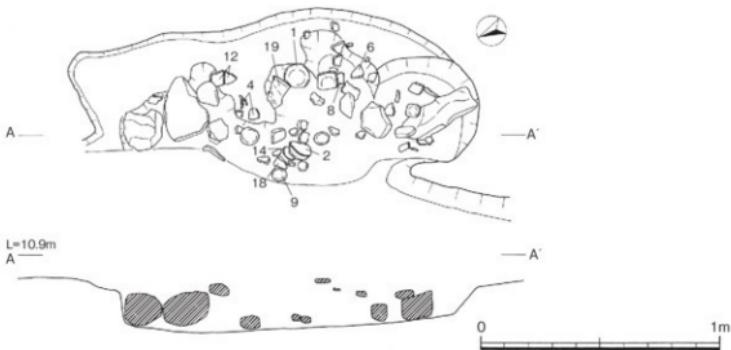
第29図 土器集中遺構4 出土遺物2

を呈する坏である。22・23は口縁部である。24は底部で、高台部分が外れている。25～28は壺である。26は小形のもので、口縁部内面はヘラケズリのため明瞭な稜が残る。27は浅い鍋形を呈するものである。内面は横方向のヘラケズリが施される。29は須恵器の壺である。淡黄色のもので、外面には横位の平行タタキが施され、内面は同心円タタキが施される。

土器集中遺構5（第30～32図）

R-21区、II層上面で検出された。一部削平を受けており、全体の平面プラン等は不明である。遺物は土師器を中心に126点出土した。そのうち23点を国化した。

1～14・16～23は土師器で、15は須恵器である。1は坏である。体部は曲線的に立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。2～10は椀である。2～4は体部から口縁部にかけての器形が逆「ハ」の字状になるものである。6・7は口縁部である。8～10は底部である。11～14は黒色土器A類の椀である。11～13は口縁部である。体部が曲線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。14は底部である。高台は外れており、その部分を整えて使用している。15は須恵器の壺の底部である。16～23は土師器の壺で、胴部が張らないタイプのものである。19は外面に下から上方向のハケ目が



第30図 土器集中遺構5

観察される。22・23は小形のタイプである。

土器集中遺構6（第33～35図）

R-23区、Ⅲ層（アカホヤ上面）で検出された。掘り込みの埋土はⅡ層であることから、実際の掘り込み面はⅡ層であると思われる。掘り込みはⅣ層まで掘られている。遺物は土師器を中心に89点出土している。そのうち20点を図化した。すべて土師器である。

1は小皿である。底部の切り離しは雑で、平坦になっていない。口唇部の一部に煤が付着していることから灯明皿として使用されたものと思われる。2～11は壺である。2・3は体部が直線的に立ち上がり、口縁部で外反するものである。4～6は口縁部である。5は赤色顔料が内外面の一部に塗布された痕跡が残る。7～11は底部である。8は底部の切り離しが雑であるが、その他は切り離し後ナデ調整が施され、丁寧なつくりとなっている。12は黒色土器A類の高台付の壺である。13～20は甕である。18は器壁が厚手で、口縁部が短い。19は、外面に凹凸の強いヘラ状工具を使用したと思われる痕跡がシャープなハケ目として残る。20は小形のものである。

土器集中遺構7（第36・37図）

R-23区、Ⅱ層で検出された。ひょうたん型の不定型な平面プランで、深さ約10～30cmの掘り込みが確認された。遺物は36点出土し、8点を図化した。すべて土師器である。

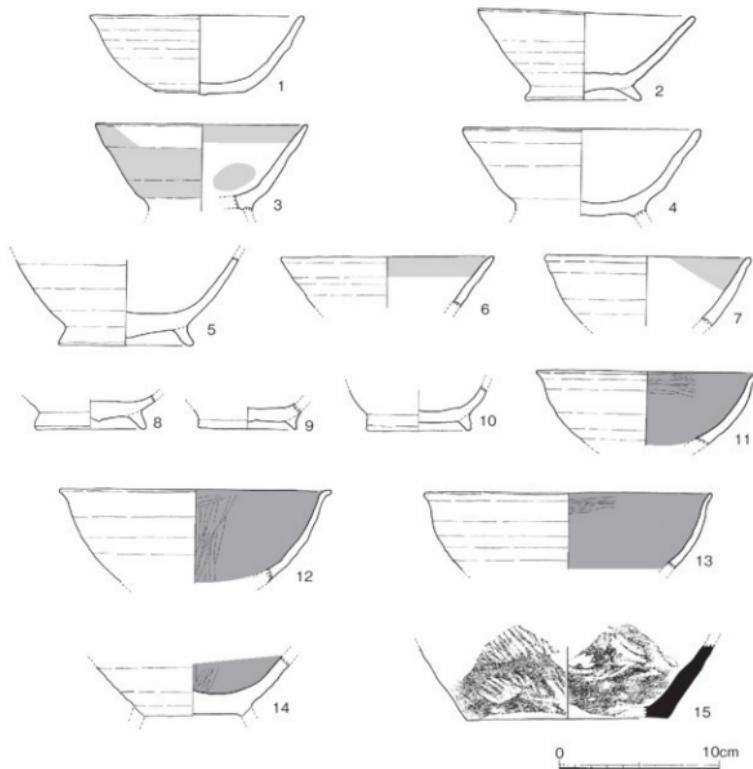
1～5は壺である。体部から口縁部が直線的にのびるものである。1の外面には煤が付着しており、灯明皿として使用された可能性が考えられる。5は底部である。6～8は甕である。6は胴部がやや膨らむものである。7は小形のものである。

土器集中遺構8（第38・39図）

R-23区、Ⅲ層で検出された。掘り込みが確認されていたが、埋土はⅡ層で出土する遺物は古代

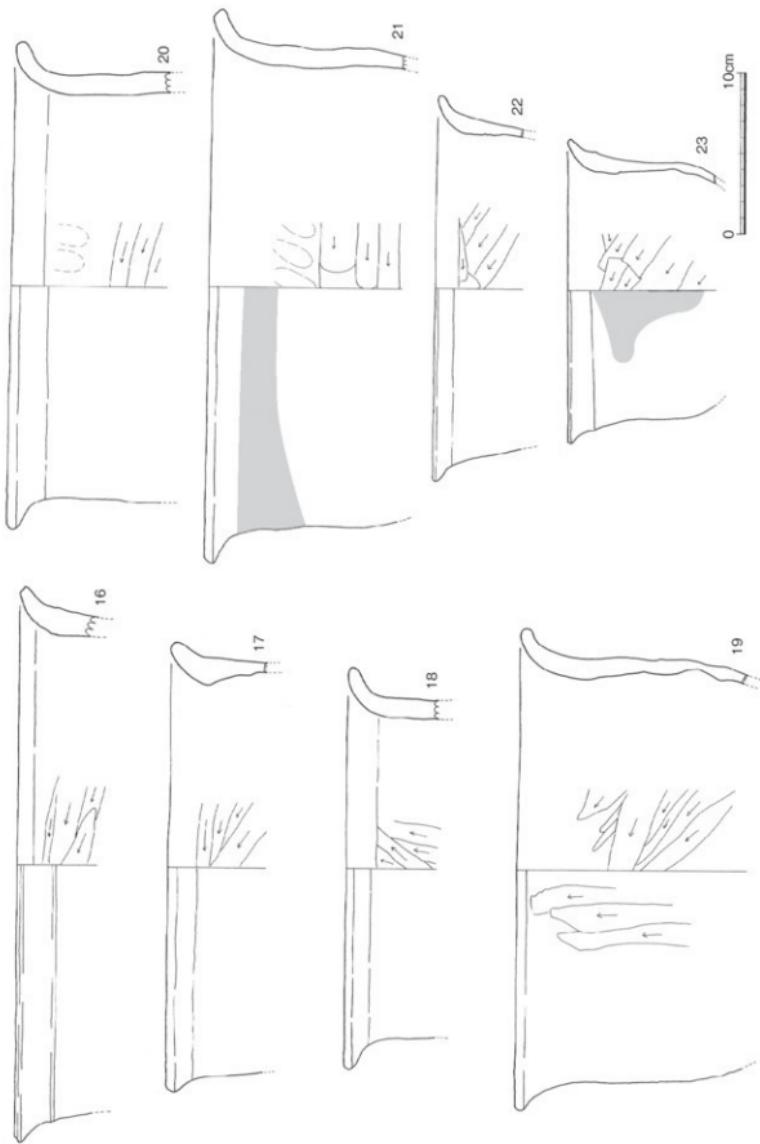
の土師器及び須恵器であることから、実際はⅡ層から掘り込んでいたものと思われる。掘り込みの一部には、赤く焼けた焼土と思われる箇所があったが、床着の古代の遺物は出土しなかった。焼土域の周辺はⅣ層（アカホヤ火山灰）が見られることから、土器集中遺構と焼土域が同一時期のものであるとは断定できず、焼土域の一部にかぶるように、土器集中遺構が形成された可能性が考えられる。遺物は土師器・須恵器が34点出土した。そのうち7点を図化した。

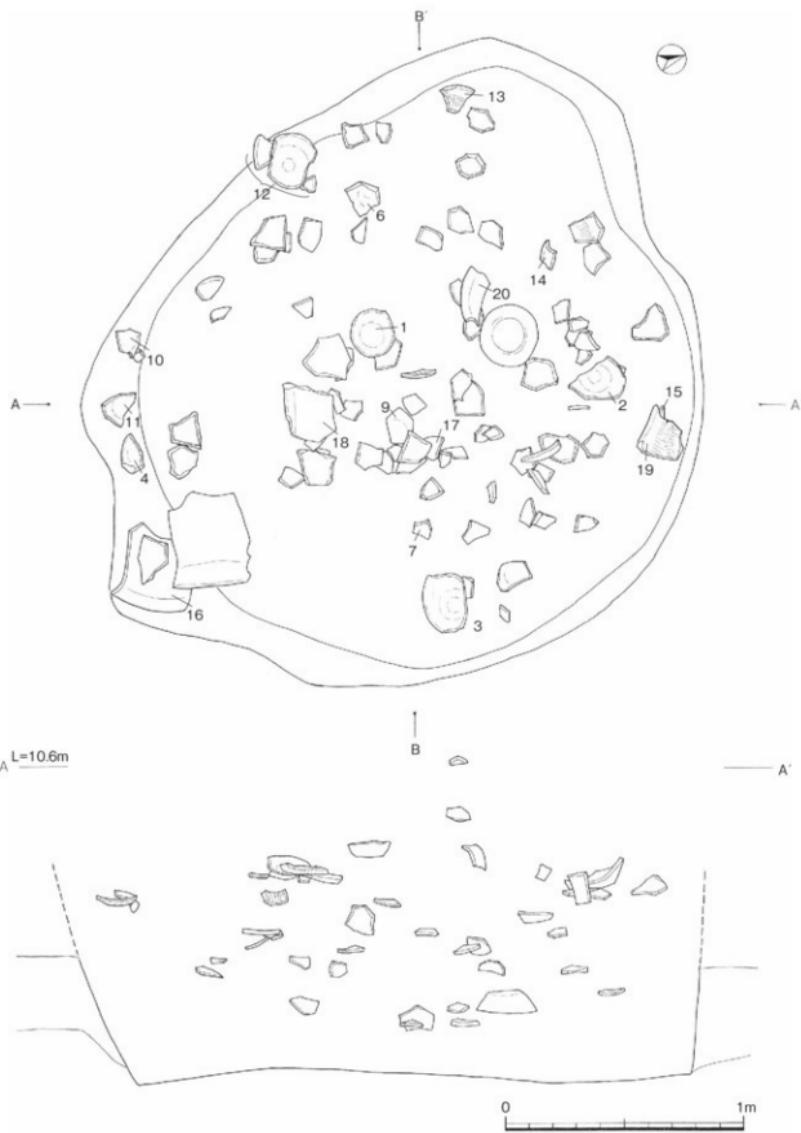
1・2・4は須恵器である。1は蓋である。2は壺である。内面には火捺が観察される。3は土師器で、赤色土器A類の碗である。高台径が大きく、体部から口縁部にかけての器形が、直線的に延びるものである。4は口縁部で、体部はやや丸みを帯びる。5・6は土師器の甕である。6は体部がやや膨らむものである。7は須恵器の甕の胴部である。他にも同一個体と思われる破片が多数出土している。



第31図 土器集中遺構5 出土遺物 1

第32图 土器集中遺構5 出土遺物2

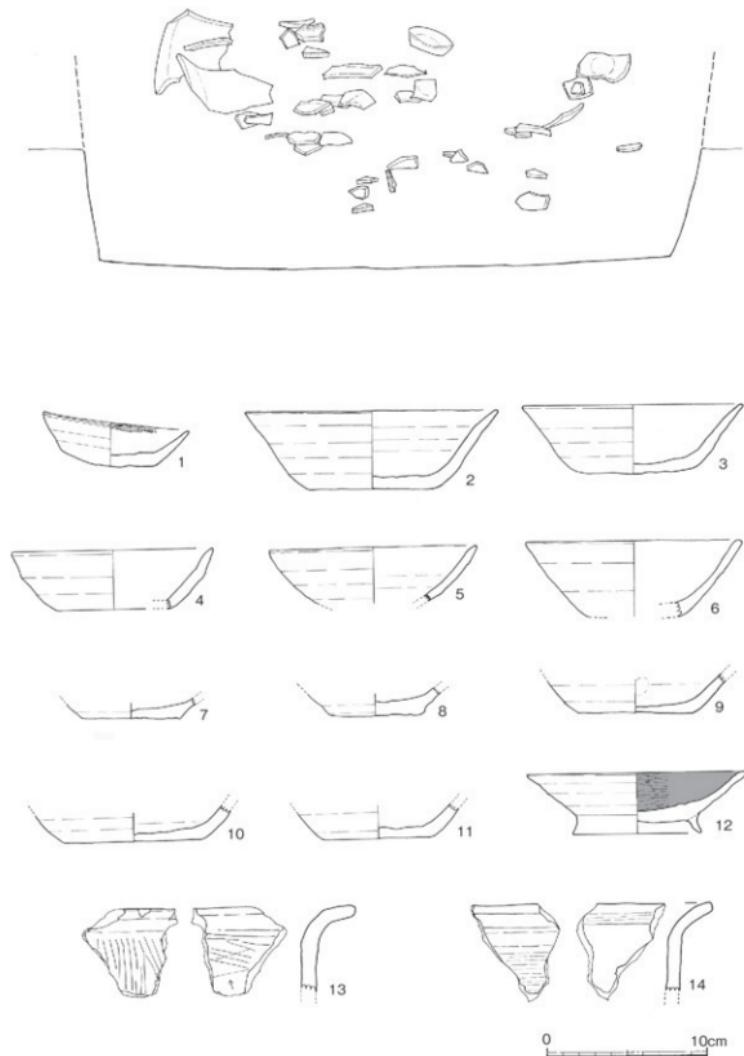




第33図 土器集中遺構 6

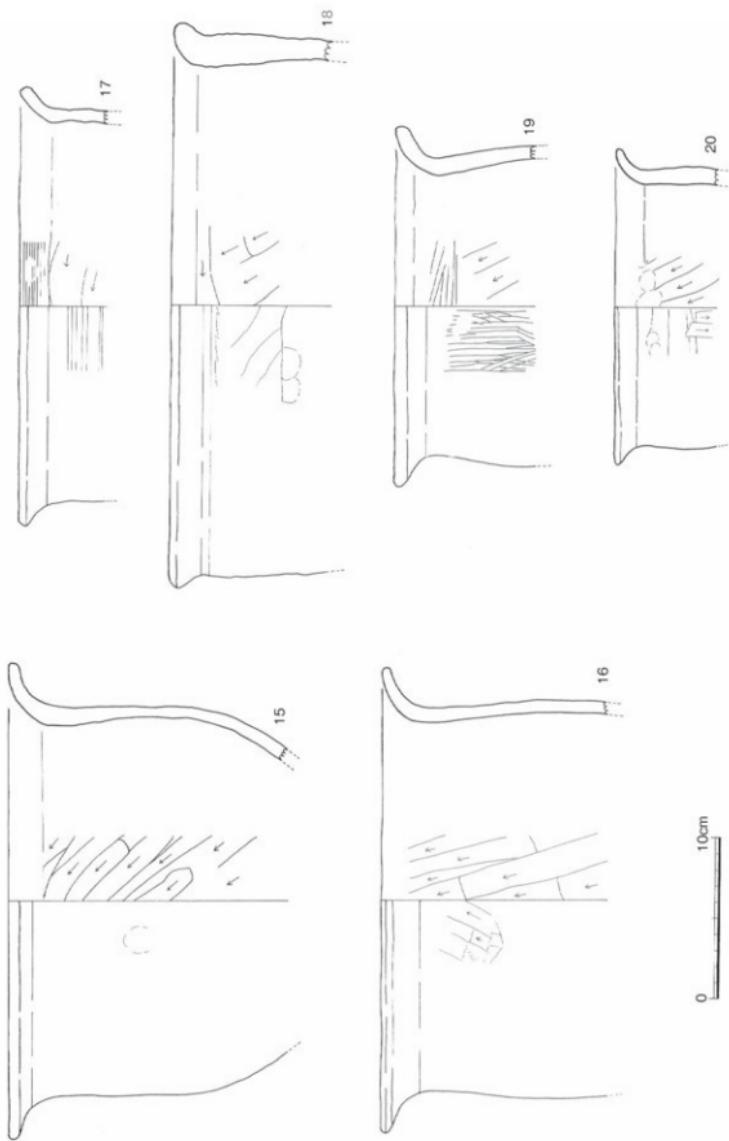
B L=10.6m

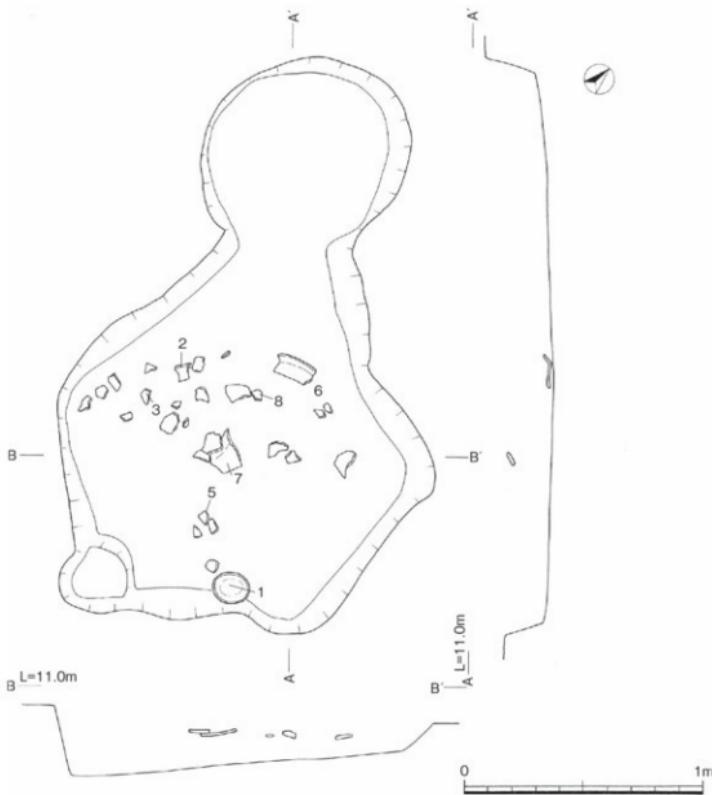
B'



第34図 土器集中遺構6断面図及び出土遺物1

第35图 土器集中遗构 6 出土遗物 2

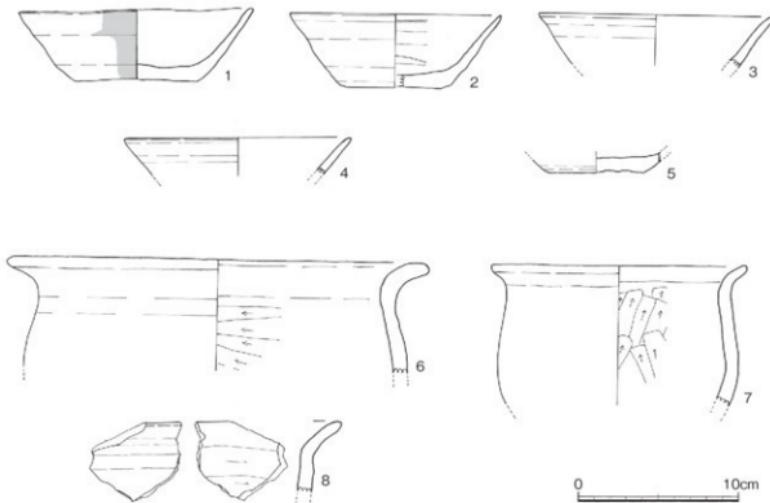




第36図 土器集中遺構7

土器集中遺構観察表1

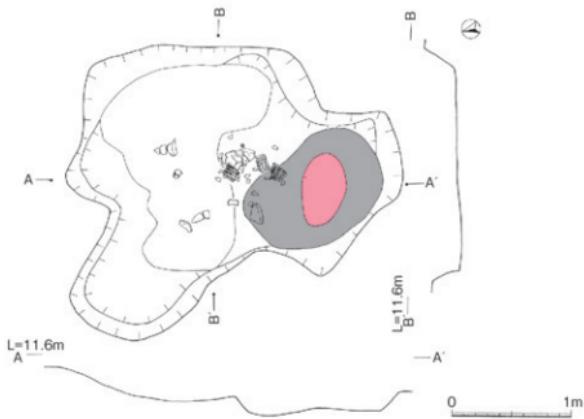
発見場所 名前	出土区	取上番号	遺構名	種別	器種	部位	色調	法量 (cm)	胎土	焼	調整	備考
								口径 [底径] 厚さ	石英 磁石 鉄門石 その他	角	外面 内面	
22	1	S-22 3	土集 1	土器器	环	口縁~底部	に少し黄褐色	14.0 6.6 4.8		ナデ	角丸	ナデ
22	2	S-22 16, 18, 7, 17	土集 1	土器器	环	口縁~底部 (内)	に少し黄褐色	11.4 6.0 4.3		ナデ	角丸	ナデ
22	3	S-22 21, 8	土集 1	土器器	环	口縁~底部	黄褐色	11.8 7.0 4.3		ナデ	角丸	ナデ
22	4	S-22 4, 19	土集 1	土器器	环	口縁~底部	明褐色	11.6 6.0 4.1		ナデ	角丸	ナデ
26	1	R-22 17	土集 2	土器器	环	口縁~底部	黄褐色	13.0 8.6 3.3		ナデ	ナデ	アーチ刃付ナデ 赤色の石粒含む 9世紀代
26	2	R-22 32	土集 2	土器器	环	口縁~底部	褐色	12.5 7.8 3.4		ナデ	ナデ	アーチ刃付ナデ 赤色の石粒含む 9世紀代
26	3	R-22 30	土集 2	土器器	完形	に少し黄褐色	13.2 7.8 4.0			ナデ	ナデ	アーチ刃付ナデ 赤色の石粒含む 小石粒含む



第37図 土器集中遺構7 出土遺物

土器集中遺構観察表2

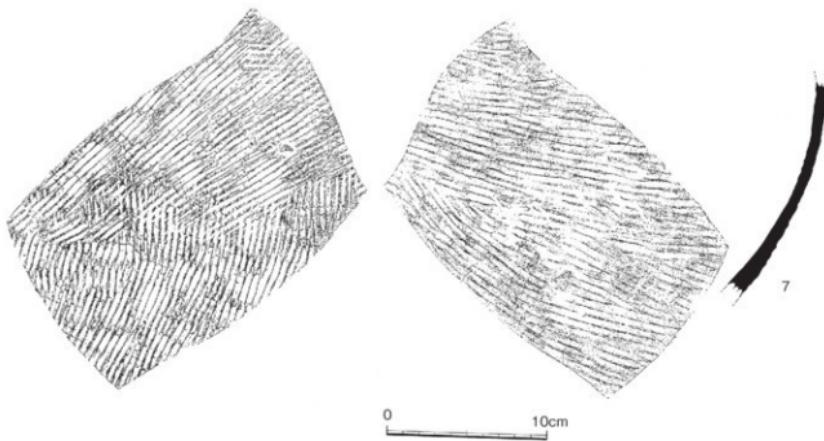
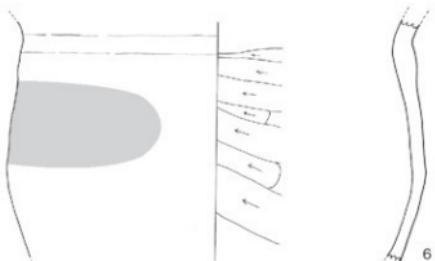
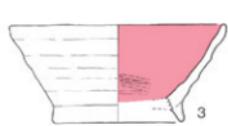
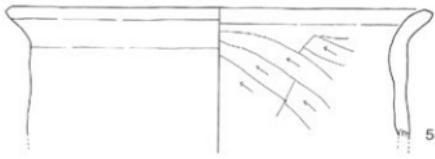
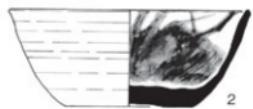
項目 番号	出土地区	取上番号	遺構名	種別	基種	部位	色調	法量 (cm)			胎土	焼成	調整	備考
								口径	底径	高さ				
4	R-22	31	土集2	土師器	坪	口縁～底部	(内) 黄褐色 に少い黄褐色	14.3	7.5	4.0	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 小石粒含む
5	R-22	20	土集2	土師器	坪	口縁～底部	淡褐色	13.7	—	—	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 赤色含む
6	R-22	4	土集2	土師器	坪	底部	黄褐色	—	6.2	—	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り
7	R-22	29	土集2	土師器	坪	底部	褐色	—	6.6	—	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り
8	R-22	15, 27	土集2	土師器	坪	底盤	(外) 棕褐色 (内) 淡黄褐色	—	7.0	—	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り
9	R-22	9	土集2	土師器	坪?	底盤	褐色	—	6.6	—	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り
10	R-22	1	土集2	漆器上部	板	側面	褐色	—	—	—	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り
11	R-22	11	土集2	土師器	鉢	完形	(外) 棕褐色 (内) 淡黄褐色	7.6	3.8	5.7	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り 小石粒含む
1	R-22	19	土集3	土師器	皿	完形	淡褐色	8.9	6.0	1.5	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り 10世紀中葉
2	R-22	18	土集3	土師器	皿	完形	淡褐色	9.2	6.1	1.7	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り
3	R-22	13	土集3	土師器	坪	口縁～底部	淡褐色	12.4	6.6	3.8	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り
4	R-22	1	土集3	土師器	坪	口縁～底部	(外) に少い黄褐色 (内) 棕褐色	7.5	—	—	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り
5	R-22	10, 22, 23	土集3	漆器上部A類	坪	口縁～底部	(外) 淡褐色 (内) 黑色	19.8	9.8	5.2	角	ナデ	ミガキ	ヘラ切り後ナデ
1	R-21	8, 9, 10, -22, 101, 102	土集4	土師器	坪	口縁～底部	(外) に少い黄褐色 (内) 淡黄褐色	13.4	5.9	4.8	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 赤色の石粒含む
2	R-21	11	土集4	土師器	坪	完形	(外) に少い褐色 (内) 淡褐色	12.6	4.0	4.9	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 赤色の石粒含む
3	R-21	88	土集4	土師器	坪	底部	に少い黄褐色	—	5.8	—	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り 小石粒含む
4	R-21	23	土集4	土師器	坪	底部	褐色	—	7.4	—	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り 赤色の石粒含む
5	R-21	19, 24, -22, 25, 26	土集4	土師器	坪	完形	(外) 芦白色 (内) 淡黄褐色	13.3	5.9	6.0	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り 売実系
6	R-21	95, 47, -22, 105, 44	土集4	土師器	板	完形	に少い黄褐色	13.6	8.0	6.8	角	ナデ	ナデ	小石粒含む
7	R-21	103	土集4	土師器	舌台付坪	口縁～底部	淡褐色	13.0	7.6	4.3	角	ナデ	ナデ	小石粒含む
8	R-21	129, 6	土集4	土師器	舌台付坪	口縁～底部	淡黄褐色	13.6	7.6	4.0	角	ナデ	ナデ	小石粒含む
9	R-21	51	土集4	土師器	板	底部	に少い黄褐色	—	11.0	—	角	ナデ	ナデ	小石粒含む
10	R-21	79	土集4	土師器	板	底部	(外) に少い黄褐色 (内) 淡黄褐色	—	7.0	—	角	ナデ	ナデ	小石粒含む



土器集中部 拡大図



第38図 土器集中遺構 8



第39図 土器集中遺構8 出土遺物

土器集中遺構觀察表3

遺構番号	出土区	取上番号	遺構名	種別	器形	部位	色調	法量(cm)			胎土		焼成	調整		備考		
								口径	底径	器高	石面	長石	角質石	その他	外周	内面		
11	R-21 -22	60	土葉4	土師器	板	底部	浅黄褐色	-	6.6	-	-	-	-	-	真	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む
12	R-21 -22	126	土葉4	土師器	板	底部	(外) 浅黄褐色 (内) 反白色	-	9.8	-	-	-	-	-	真	ナデ	ナデ	
13	R-21 -22	93	土葉4	黑色土器A類	板	口縁-底部	深褐色	13.8	7.6	6.1	-	-	-	-	真	ナデ	ミガキ	小石粒含む 赤色の石粒含む
14	R-21 -22	98, 94	土葉4	黑色土器A類	板	口縁-底部	(外) 深褐色 (内) 黑褐色	13.0	6.8	5.7	-	-	-	-	真	ナデ	ミガキ	
15	R-21 -22	57, 14	土葉4	黑色土器A類	板	口縁-底部	(外) にい 黄褐色 (内) 黑褐色	12.2	6.6	5.9	-	-	-	-	真	ナデ	ミガキ	
16	R-21 -22	108, 109, 58	土葉4	黑色土器A類	板	口縁-底部	(外) 浅黄褐色 (内) 黑褐色	12.8	6.0	5.2	-	-	-	-	真	ナデ	ミガキ	
17	R-21 -22	73, 74, 75	土葉4	黑色土器A類	板	口縁-側部	(外) にい 黄褐色	14.4	-	-	-	-	-	-	真	ナデ	ミガキ	
18	R-21 -22	80	土葉4	黑色土器A類	板	口縁-側部	(外) にい 黄褐色 (内) 黑褐色	14.0	-	-	-	-	-	-	真	ナデ	ミガキ	
19	R-21 -22	49	土葉4	黑色土器A類	板	底部	(外) にい 黄褐色 (内) 黑褐色	-	5.6	-	-	-	-	-	真	ナデ	ミガキ	赤色の石粒含む
20	R-21 -22	72, 76, 54	土葉4	赤色土器A類	板	口縁-底部	浅黄褐色 (内) 橙色	13.8	7.2	7.3	-	-	-	-	真	ナデ	ナデ	
21	R-21 -22	114, 115, 124, 67	土葉4	赤色土器A類	板	ほぼ完形	(外) 底白色 (内) 浅褐色	13.8	5.4	6.5	-	-	-	-	真	ナデ	ナデ	ヘラ切り小石粒含む
22	R-21 -22	15	土葉4	赤色土器A類	板	口縁-側部	(外) 浅黄褐色 (内) 橙色	12.8	-	-	-	-	-	-	真	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む
23	R-21 -22	91	土葉4	赤色土器A類	板	口縁-側部	(外) にい 黄褐色 (内) 橙色	13.8	-	-	-	-	-	-	真	ナデ	ナデ	
24	R-21 -22	7	土葉4	赤色土器A類	板	底部	橙色	-	5.0	-	-	-	-	-	真	ナデ	ナデ	高台欠損
25	R-21 -22	66	土葉4	土師器	便	口縁部	(外) にい 黄褐色 (内) にい 橙色	32.0	-	-	○	-	-	-	真	ナデ	ハラケリ	小石粒含む 赤色の石粒含む
26	R-21 -22	2, 3, 44, 5	土葉4	土師器	便	口縁-側部	明黄色	19.0	-	-	-	-	-	-	真	ナデ	ハラケリ	
27	R-21 -22	113	土葉4	土師器	便	口縁-側部	橙色	24.0	-	-	-	-	-	-	真	ナデ	ハラケリ	
28	R-21 -22	65	土葉4	土師器	便	口縁部	(外) 橙色 (内) にい 黄褐色	-	-	-	○	-	-	-	真	ナデ	ハラケリ	小石粒含む
29	R-21 -22	46, 48, 55, 67, 69, 70, 71, 73, 83, 86, 87, 90, 91, 110, 115	土葉4	須惠器	便	口縁-側部	淡黄色	20.0	-	-	○	-	-	-	真	各付3枚	既脱脂	小石粒含む
30	R-21 -22	65	土葉5	土師器	坪	口縁-底部	にい 黄褐色	13.0	5.0	4.9	-	-	-	-	真	ナデ	ナデ	ヘラ切り小石粒含む 赤色の石粒含む
31	R-21 -22	22	土葉5	土師器	坪	口縁-底部	浅黄褐色	13.4	7.2	5.7	-	-	-	-	真	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む
32	R-21 -22	13, 70,	土葉5	土師器	坪	口縁-底部	(外) 布褐	13.4	6.4	5.4	-	-	-	-	真	ナデ	ナデ	小石粒含む
33	R-21 -22	5, 6	土葉5	土師器	坪	口縁-底部	橙色	15.0	-	-	-	-	-	-	真	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む
34	R-21 -22	63	土葉5	土師器	坪	口縁-底部	(外) 浅黄褐色 (内) 明黄色	-	4.2	-	-	-	-	-	真	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む
35	R-21 -22	47	土葉5	土師器	坪	口縁-側部	にい 黄褐色	13.2	-	-	-	-	-	-	真	ナデ	ナデ	
36	R-21 -22	24, 32	土葉5	土師器	坪	口縁-側部	にい 黄褐色	12.4	-	-	-	-	-	-	真	ナデ	ナデ	
37	R-21 -22	48	土葉5	土師器	坪	底部	浅黄褐色	-	6.6	-	-	-	-	-	真	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む
38	R-21 -22	17	土葉5	土師器	坪	底盤	(外) にい 橙色 (内) にい 黄褐色	-	6.2	-	-	-	-	-	真	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む
39	R-21 -22	30	土葉5	土師器	坪	底部	一色	-	6.3	-	-	-	-	-	真	ナデ	ナデ	小石粒含む
40	R-21 -22	46	土葉5	黑色土器A類	坪	口縁-側部	(外) にい 黄褐色 (内) にい 黄褐色	14.0	-	-	-	-	-	-	真	ナデ	ミガキ	小石粒含む
41	R-21 -22	3, 69	土葉5	黑色土器A類	坪	口縁-側部	(外) にい 黄褐色 (内) にい 黄褐色	17.0	-	-	-	-	-	-	真	ナデ	ミガキ	
42	R-21 -22	137	土葉5	黑色土器A類	坪	口縁部	(外) にい 黄褐色 (内) 一色	18.0	-	-	-	-	-	-	真	ナデ	ミガキ	
43	R-21 -22	20	土葉5	黑色土器A類	坪	底部	(外) 浅黄褐色 (内) 黑褐色	-	-	-	-	-	-	-	真	ナデ	ミガキ	
44	R-21 -22	18, 25, 52, 59, T-20	土葉5	須惠器	便	底部	灰色	-	12.6	-	-	-	-	-	真	平行ラミ	ナデ タグキ	10世紀後半
45	R-21 -22	102, 98	土葉5	土師器	便	口縁部	(外) 明褐色 (内) 明褐色	34.4	-	-	○	-	-	-	真	ナデ	ナデ タグキ	
46	R-21 -22	45	土葉5	土師器	便	口縁部	(外) 明褐色 (内) にい 黄褐色	26.8	-	-	○	-	-	-	真	ナデ	タグキ 根付	赤色の石粒含む小石粒含む
47	R-21 -22	51, 64, 55, 56	土葉5	土師器	便	口縁部	(外) 明褐色 (内) 橙色	25.0	-	-	○	-	-	-	真	ナデ	ナデ タグキ	
48	R-21 -22	68	土葉5	土師器	便	口縁-側部	橙色	26.6	-	-	○	-	-	-	真	ナデ	ナデ タグキ	小石粒含む
49	R-21 -22	58, 59, 60	土葉5	土師器	便	口縁部	(外) 明褐色 (内) にい 黄褐色	29.8	-	-	○	-	-	-	真	ナデ	ナデ タグキ	
50	R-21 -22	10	土葉5	土師器	便	口縁部	(外) にい 黄褐色	34.0	-	-	-	-	-	-	真	ナデ	タグキ 根付	小石粒含む
51	R-21 -22	114, 183	土葉5	土師器	便	口縁部	(外) にい 黄褐色 (内) 反黃褐色	23.8	-	-	○	-	-	-	真	ナデ	ナデ タグキ	小石粒含む
52	R-21 -22	117, 118, 120, 125	土葉5	土師器	便	口縁-側部	(外) にい 黄褐色 (内) 一色	19.0	-	-	○	-	-	-	真	ナデ	ナデ タグキ	小石粒含む

土器集中遭横観察表4

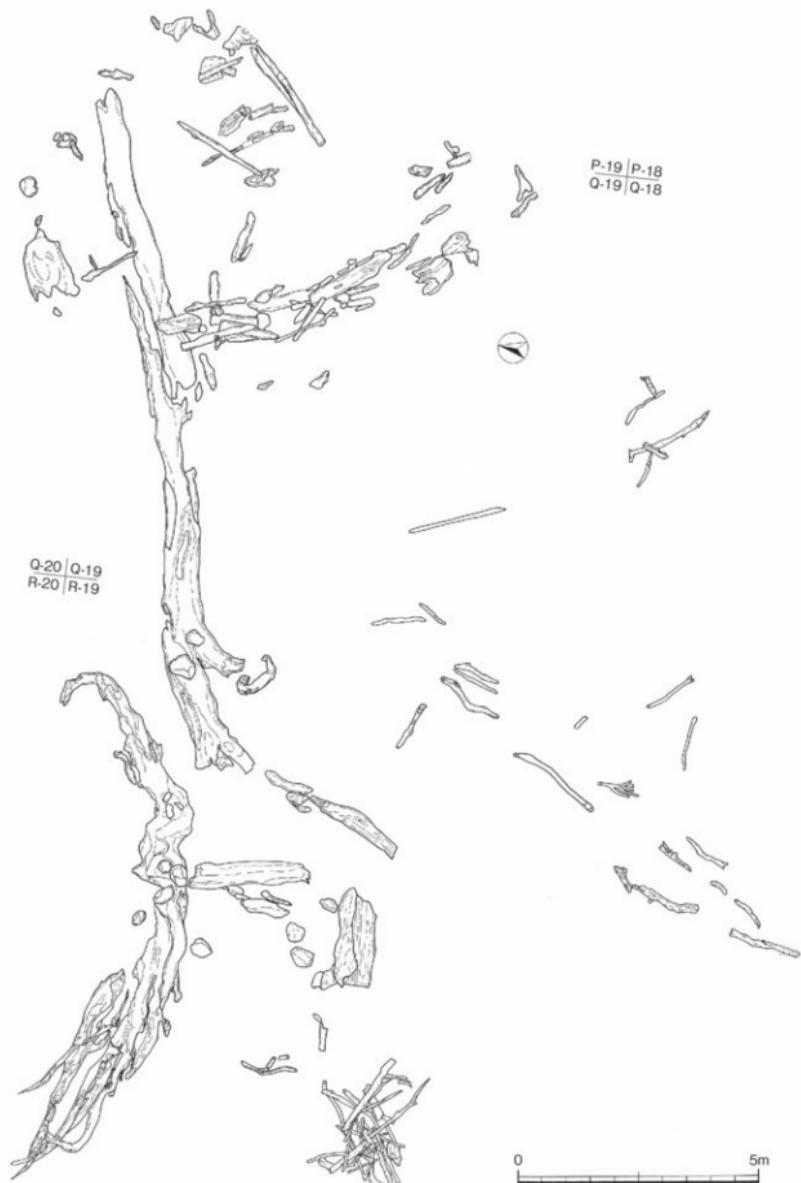
項目 番号	出土地区	取上番号	道耕名	種別	基盤	部位	色調	法量(cm)			粘土	地成	調整		備考		
								口径	横幅	高さ	石英	長石	角閃石	その他	外面	内面	
1	R-22	32	土集6	土師器	皿	ほぼ円形	褐色	9.4	1.3	2.7		角	ナデ	ナデ	ヘラ切り	灯明模小石粒含む	
2	R-23	8	土集6	土師器	皿	口縁一部部	褐色	15.6	7.6	4.9		角	ナデ	ナデ	ヘラ切り	小石粒含む	
3	R-23	1	土集6	土師器	皿	口縁一部部	褐色	13.8	6.8	4.3		角	ナデ	ナデ	ヘラ切り		
4	R-22	39	土集6	土師器	皿	口縁一部部	浅赤褐色	12.2	6.9	3.7		角	ナデ	ナデ	ヘラ切り		
5	R-23	47	土集6	土師器	皿	口縁一部部	(外) 褐色 (内) に少し褐色	12.8	—	—		角	ナデ	ナデ			
6	R-22	33	土集6	土師器	皿	口縁一部部	に少し黄褐色	13.2	—	—		角	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む		
7	R-23	65	土集6	土師器	皿	底部	に少し黄褐色	—	6.0	—		角	ナデ	ナデ	ヘラ切り	赤色の石粒含む	
8	—	83	土集6	土師器	皿	底部	(外) 反白色 (内) 明赤褐色	—	5.6	—		角	ナデ	ナデ	ヘラ切り		
9	R-23	51	土集6	土師器	皿	底部	(外) に少し赤褐色 (内) 明赤褐色	—	7.0	—		角	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ		
10	R-22	41	土集6	土師器	皿	側部一部部	(外) に少し褐色 (内) 明赤褐色	—	8.6	—		角	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	小石粒含む	
11	R-22	40	土集6	土師器	皿	側部一部部	明赤褐色	—	6.2	—		角	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	小石粒含む	
12	R-22	34	土集6	栗色土器A類	高台付坪	口縁一部部	(外) に少し黄褐色 (内) 黑褐色	13.0	8.0	3.8		角	ナデ	ミガキ	9~10世紀代		
13	R-22	36	土集6	土師器	甕	口縁部	(外) に少し褐色 (内) に少し褐色	19.8	—	—	○	角	ナデ	ナデ	ハケ目		
14	R-23	26	土集6	土師器	甕	口縁部	(外) に少し褐色 (内) に褐色	28.6	—	—	○	角	ナデ	ナデ	ハケ目	小石粒含む	
15	R-23	19	土集6	土師器	甕	口縁一部部	褐色	29.4	—	—		角	ナデ	ナデ	ヘラ切り	小石粒含む	
16	R-23	18	土集6	土師器	甕	口縁一部部	(外) 棕色 (内) 明赤褐色	28.0	—	—	○	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り	小石粒含む	
17	R-23	50	土集6	土師器	甕	口縁部	反白色	27.4	—	—		角	ナデ	ナデ	ハラテナデ		
18	R-22	30	土集6	土師器	甕	口縁部	褐色	34.4	—	—	○	角	ナデ	ナデ	ハケ目	小石粒含む	
19	R-23	6	土集6	土師器	甕	口縁部	褐色	22.4	—	—	○	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り	小石粒含む	
20	R-23	24	土集6	土師器	甕	口縁部	褐色	19.4	—	—		角	ナデ	ナデ	ヘラ切り		
1	R-23	1	土集7	土師器	片	ほぼ円形	褐色	14.6	7.6	4.5		角	ナデ	ナデ	ヘラ切り	小石粒含む	
2	R-23	13	土集7	土師器	片	口縁一部部	に少し黄褐色	13.2	6.0	4.6		角	ナデ	ナデ	ヘラ切り	赤色の石粒含む	
3	R-23	6, 11	土集7	土師器	片	口縁部	明赤褐色	14.8	—	—		角	ナデ	ナデ			
4	R-23	1	土集7	土師器	片	口縁部	(外) 棕色 (内) 反白色	14.0	—	—		角	ナデ	ナデ			
5	R-23	5	土集7	土師器	片	底部	(外) 明赤褐色 (内) 棕色	—	6.0	—		角	ナデ	ナデ	ヘラ切り	小石粒含む	
6	R-23	24	土集7	土師器	甕	口縁部	(外) に少し褐色 (内) に少し黄褐色	25.6	—	—	○	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り	赤色の石粒含む	
7	R-23	34	土集7	土師器	甕	口縁一部部	(外) 褐色 (内) に少し黄色	15.8	—	—	○	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り	小石粒含む	
8	R-23	23	土集7	土師器	甕	口縁部	褐色	—	—	—	○	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り	赤色の石粒含む	
39	1	R-23	24	土集8	須恵器	甕	口縁部	灰色	16.0	—	—		角				
項目 番号	出土地区	取上番号	層位	種別	基盤	部位	色調	法量(cm)			粘土	地成	調整		備考		
								口径	横幅	高さ			石英	長石		角閃石	その他
39	1	R-23	24	土集8	須恵器	甕	口縁部	灰色	—	—							
2	R-23	3, 45	土集8	須恵器	杯	口縁一部部	(外) 暗褐色 (内) 明赤褐色	14.8	8.2	6.0		角	ナデ	ナデ	ヘラ切り		
3	R-23	10	土集8	須恵器	高台付坪	口縁一部部	明赤褐色	13.6	8.0	6.1		角	ナデ	ナデ	内面に火痕 小石粒含む		
4	R-23	34	土集8	須恵器	杯	口縁一部部	黃褐色	13.0	—	—		角	ナデ	ナデ	小石粒含む		
5	R-23	34	土集8	須恵器	甕	口縁部	褐色	26.0	—	—	○	角	ナデ	ナデ	ヘラ切り	小石粒含む	
6	R-23	32, 18	土集8	須恵器	甕	口縁部	(外) に少し黄褐色 (内) 反白色	—	—	—	○	角	ナデ	ナデ	ヘラカタリ	赤色の石粒含む	
7	R-23	106	土集8	須恵器	甕	口縁部	(外) 反白色 (内) 黄褐色	—	—	—		角	ナデ	ナデ	ヘラカタリ	小石粒含む	

自然木による護岸状況（第40図 S調査区）

S調査区、P~R-18~20区で検出された。S調査区は北東に向かって開く谷の一部に該当し、その谷頭は良福寺井戸あたりからその先の郷土屋形の方へ延びていると見られる。検出された複数の自然木は、この低湿地の東~北東部に横に倒して置かれたもので、護岸の役割を果たしたものと考えられる。

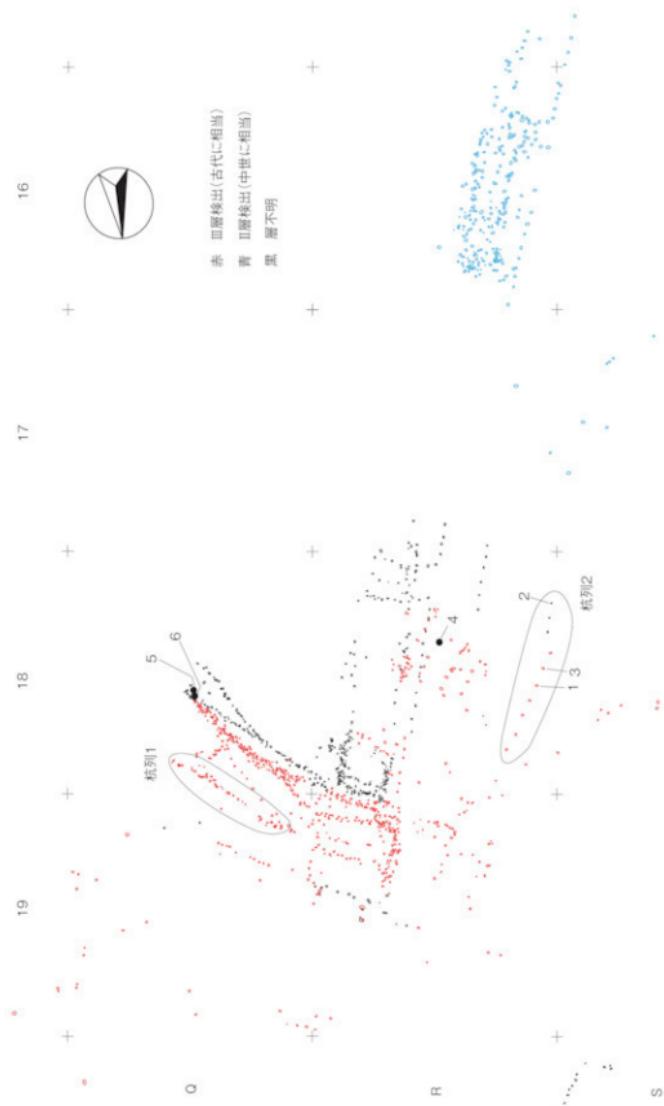
杭列（第41~45図 S調査区）

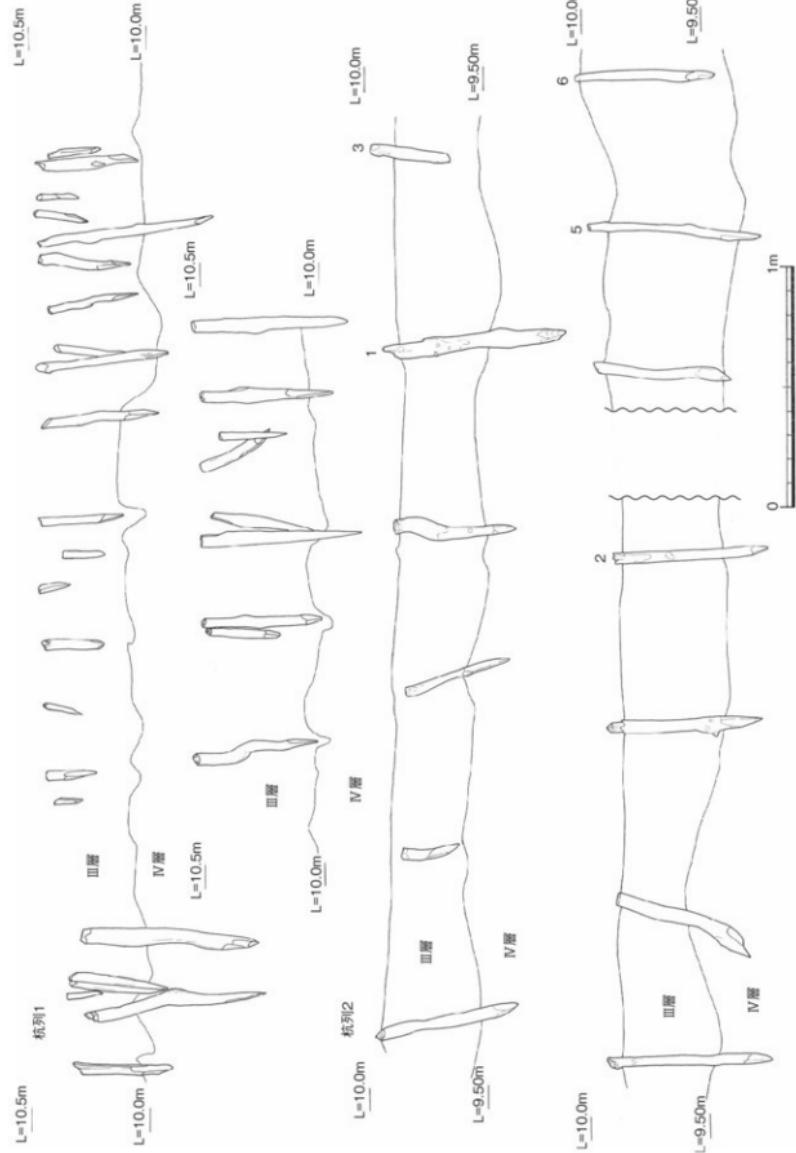
S調査区のR-15~19区、Q-18~19付近からは、杭列が多数検出された。主にⅡ層（中世）及びⅢ層で検出されているが、層位がはっきりしないものもある。第41図の杭列分布状況では、中世に相当すると思われるⅡ層検出杭列を青色で、古代に相当すると思われるⅢ層検出杭列を赤色で掲載し、層位不明で時期判断がつかない杭列については黒色で掲載した。なお、ここでは古代に相当するⅢ層検出の杭列（第41図、赤色で掲載）について述べておく。



第40図 自然木による護岸状況 (S 調査区)

第41図 桁列分布状況 (S=1/200)



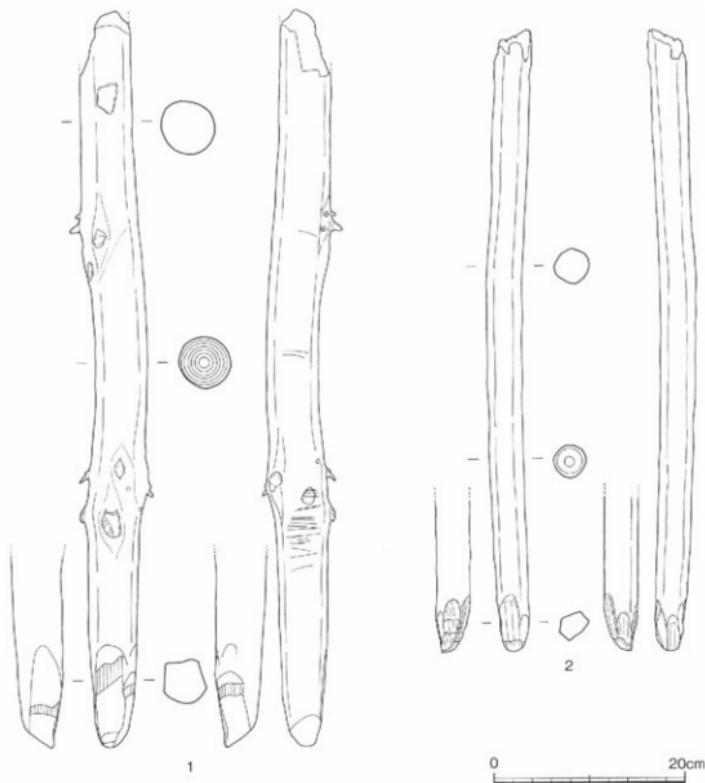


第42図 杭列1・2

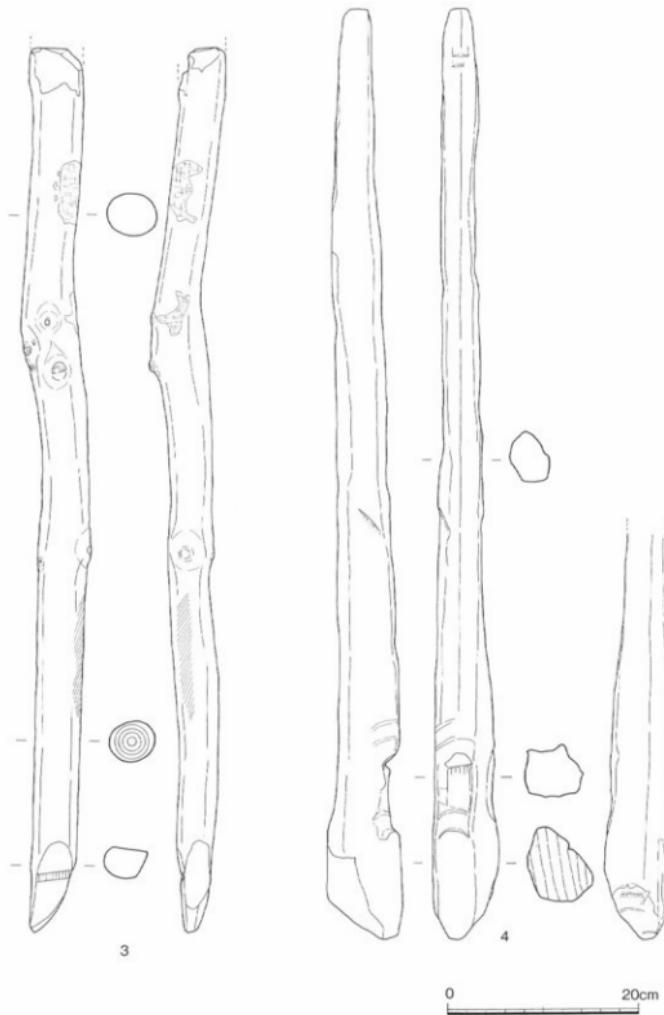
Ⅲ層検出の杭列は、Ⅱ層検出の杭列が主にR-16区に集中するのに対して、主にQ・R-18・19区に集中している。軸は南東-北西方向で、層位不明の杭列の中に見られる南東-北西方向を軸にした杭列は、古代に相当する可能性が考えられる。S調査区は、低地部のなかでも標高が最も低い低湿地で、中腹部にある良福寺井戸付近からの湧き水も流れ込むため、これらの杭列は土留め等の役割を果たしていたのではないかと思われる。本報告では、杭列全体の平面図と一部（杭列1・2）の杭列の断面図を掲載し、杭6本を図化した。

杭列1（第42図）

Q-18・19区、Ⅲ層で確認された。南東-北西方向にはほぼ直線的にのびる。杭の上部は欠損しているが、自然木の先端を加工して鋭く尖らせ杭としたものである。杭列2に対して杭間が密に打ち込まれている。



第43図 杭1



第44図 杭2

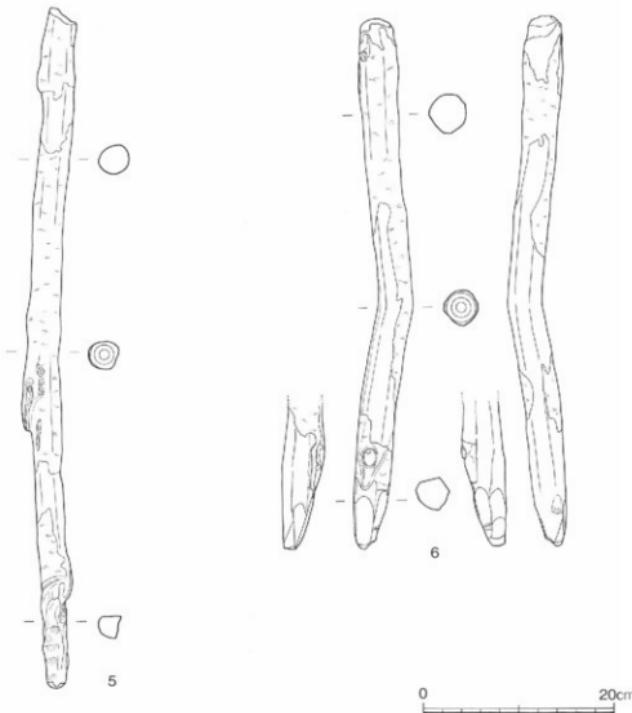
杭列2（第42～44図）

R-18・19区～S-18区、Ⅲ層で検出された。杭間はほぼ均一である。ほとんどの杭がⅣ層まで打ち込まれている。杭は建築材等の転用材ではなく、自然木の枝を落とし、先端を簡単に加工して杭としたものを利用している。杭は13本残存しており、そのうち3本（1～3）を図化した。

1～3は自然木を利用したもので、上部は腐敗して欠損しているものと思われる。先端部分は複数方向から斜めに削られており、そのほかの部分には加工痕は認められない。

他の杭（第44・45図）

4～6は杭列1・2以外の場所から出土した杭である。（第41図参照）3本とも自然木を利用したもので、5を除き先端部を複数回斜めに削って加工しているが、5については単面のみ斜めに切り落としている。



第45図 杭3

(2) 遺物

R・S調査区のⅡ層及びⅢa層より、古代（平安時代）に相当する大量の土師器・須恵器が出土した。また、S調査区からは木製品や未製品も出土している。

遺物出土分布状況（第46図参照）によると、土師器と須恵器についてはR・S-21・22区及びT-24・25区付近に集中域が見られる。木製品については、低湿地で残存状況が良好であったこともあり、S調査区P・Q・R・S-18・19区に集中域が見られる。

土師器（第47～82図）

蓋、皿、壺、椀、黒色土器A・B類、赤色土器A・B類、甕、鉢等が出土した。

蓋（第47図）

1～6は蓋である。壺蓋で、須恵器を模造してつくられたものである。1～4はつまみ部が欠損している。5・6はつまみ部である。上部は平坦気味につくられるが、中央でやや尖る。

皿（第47図）

7～21は皿である。平底で、底部の切り離しがヘラ切りであるもののうち、器高が2cm以内のものを「皿」とした。

7は体部が直線的に短く立ち上がり、口縁部も直線的に延びるものである。8は、体部と底部の境が面取りするようにナデられているものである。体部は直線的に立ち上がり、口縁部も短く直線的に延びる。体部外面の一部に煤が付着しており、灯明皿として使用されたと思われる。9は、体部が曲線的に立ち上がり、口縁部は短く直線的に延びるものである。底部の切り離しが雑である。10～16は、体部が直線的に立ち上がり、口縁部は短く先端で外反するものである。17～21は、体部が曲線的に立ち上がり、口縁部もわずかに内湾するものである。19は口縁部外面の一部に煤が付着しており、灯明皿として使用されたものと思われる。

壺（第48～52図）

22～108は壺である。平底で、底部の切り離しがヘラ切りであるもののうち、器高が2cm以上のものを「壺」とした。形態によりI～VII類に分類した。

I類 口径と底径の比率が小さく、箱形を呈するものである。体部の立ち上がり、口縁部の形状によりさらにa・bに分類した。

- a 体部が直線的に立ち上がり、口縁部も直線的に延びるもの。
- b 体部が曲線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反するもの。

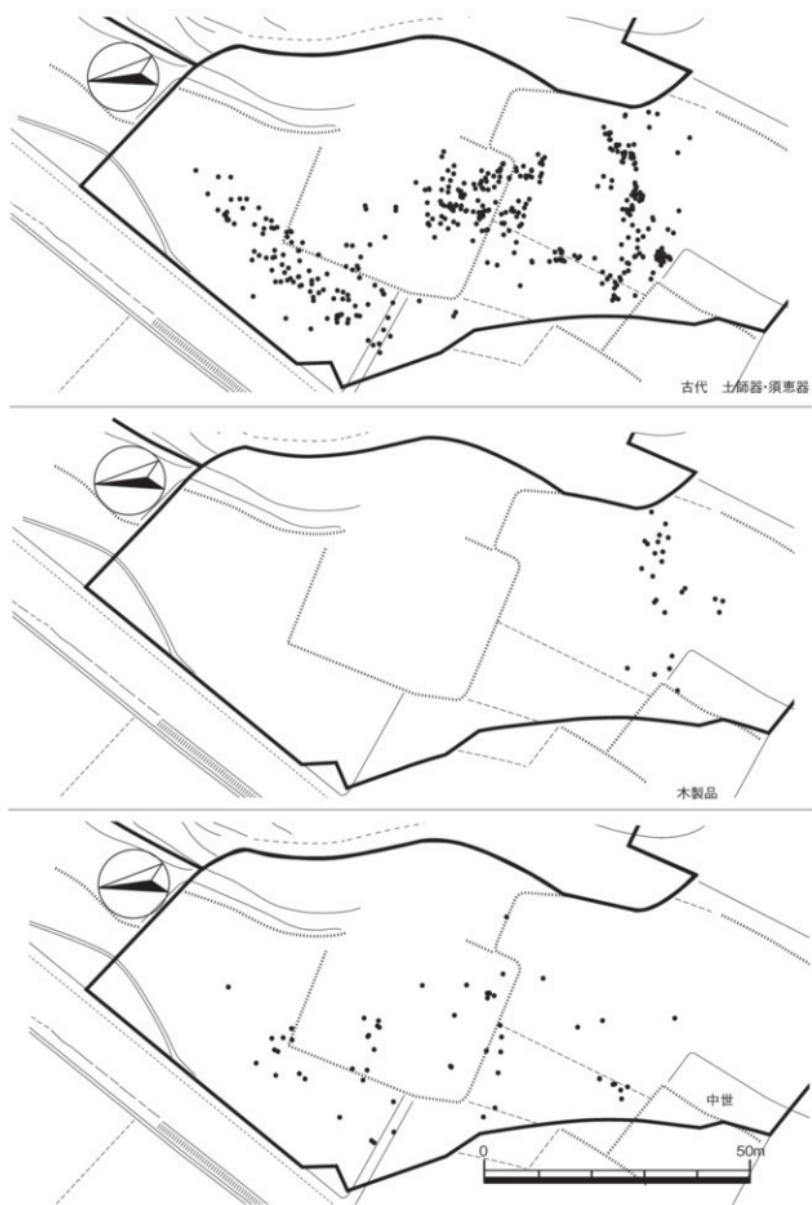
II類 体部から口縁部にかけて緩やかに逆「ハ」の字状に延びるものである。口縁部先端は直線的になるものとやや外反するものが見られる。

III類 やや小形のもので、体部が曲線的に立ち上がるものである。

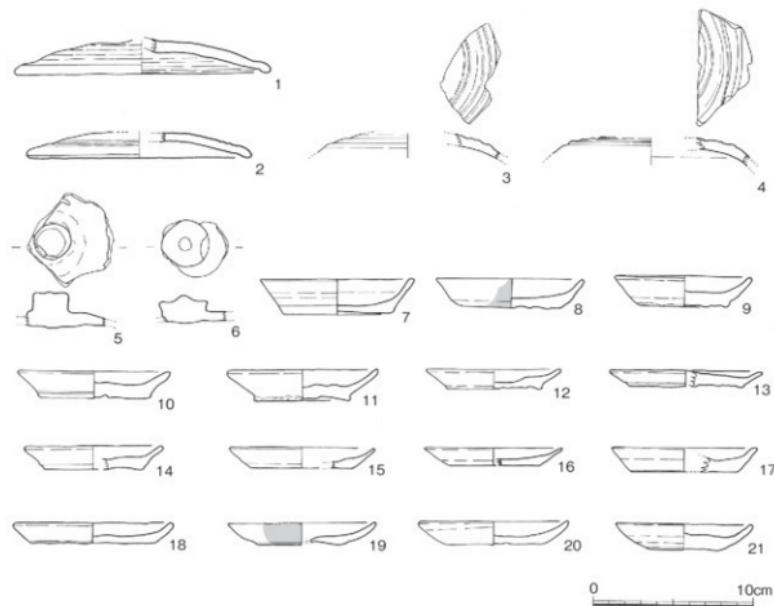
IV類 口径と底径の比率が大きく、体部は曲線的である。

V類 口径と器高の比率が小さく、体部は直線的である。

VI類 いわゆる「充実高台」と呼ばれる高台を有するもので、椀として取り扱う例も見られるが、輪状の高台を持たず平底であるため壺として分類した。



第46図 古代・中世出土遺物及び木製品出土分布図



第47図 土師器1 蓋・皿

VII類 器高が皿よりは大きいが、他の椀に比べて小さいものである。底部はやや厚みがあり、体部は曲線的である。

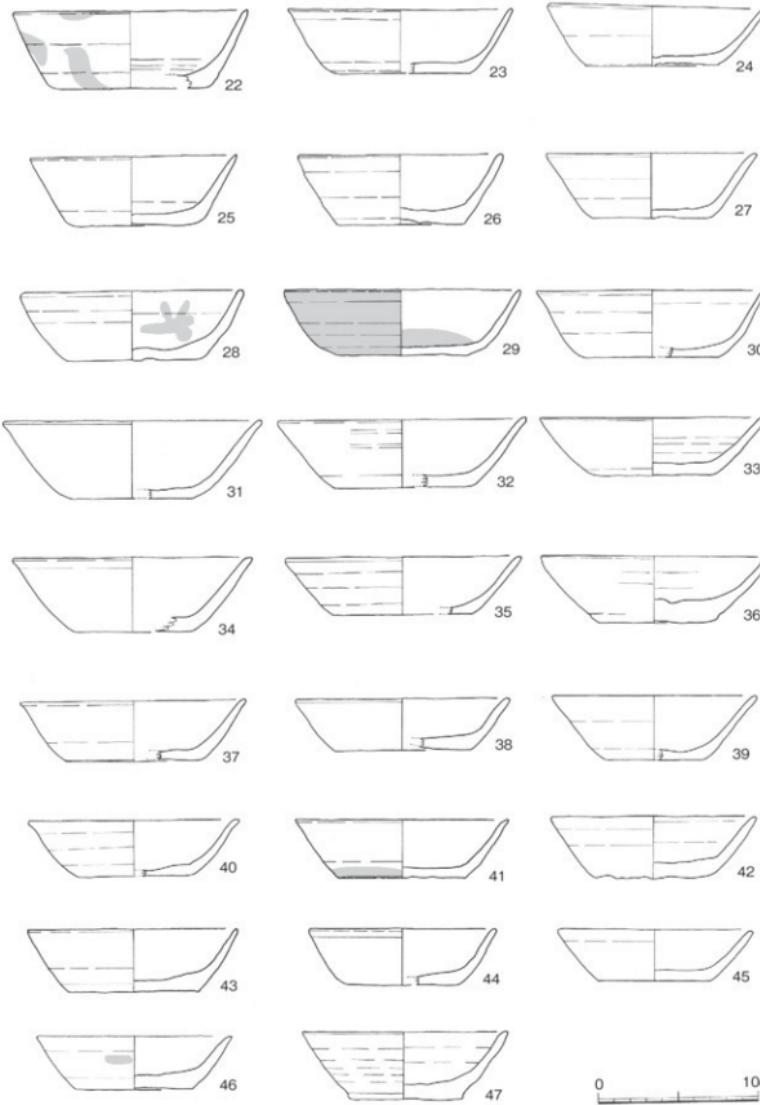
以下各類ごとに特記すべき資料についてのみ述べることとしたい。個々の資料の詳細については、観察表にまとめた。

22~47はI類である。22~27はIa類に相当する。22・23・25・27は内外面とも丁寧なナデ調整が施されるもので、体部と底部の境もナデのため丸みを帯びる。24・26も内外面ともに丁寧なナデ調整が施されるが、体部と底部の境には回転ヘラケズリが施される。28~47はIb類である。30・42・43は体部と底部の境に回転ヘラケズリが施される。47は底部がやや厚く、切り離しも雑なもので、体部には轆轤目が明瞭に観察される。

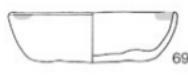
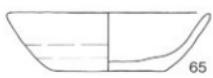
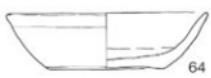
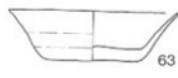
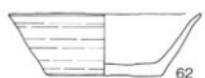
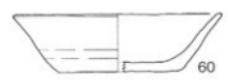
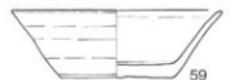
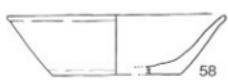
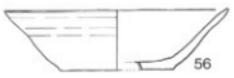
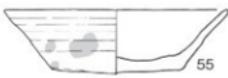
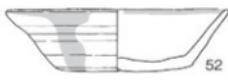
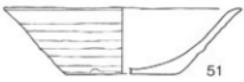
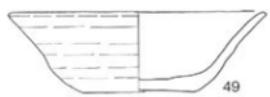
48~63はII類である。轆轤を使用して粘土を水引きした際の痕跡が、胴部外面に明瞭に観察される。器壁は薄く、特に口縁部はさらに薄く引き延ばされ外反する。

64~71はIII類である。68・70・71は底部と体部の境に回転ヘラケズリが施される。

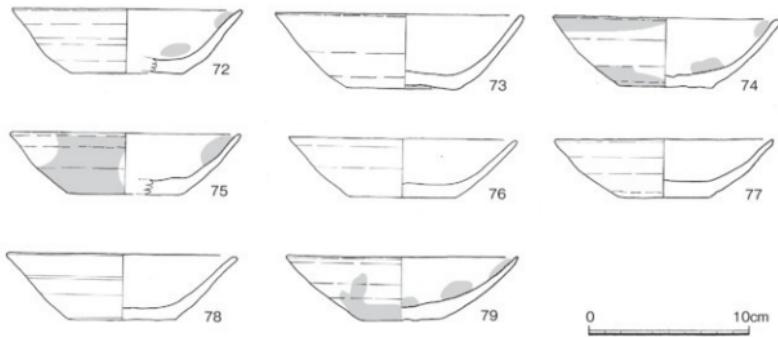
72~79はIV類である。72は体部と底部の境に回転ヘラケズリが施される。73は底部切り離し後、周辺にナデ調整を施す。74は内外ともに煤が付着するが、内底面に輪状に付着している。76・78は、底部切り離し後丁寧なナデ調整が施される。79は底部切り離し後、体部との境にナデを施したため、



第48図 土師器2 坯



第49図 土師器3 坯



第50図 土師器4 坏

底部と体部の境が明瞭でなく、底径も小さい。

80~91はV類である。口縁部は直線的に延びるものも見られるが、わずかに外反するものが多い。81・87・89は底部と体部の境に回転ヘラケズりが観察される。83は蓋として使用したのか、外面の一部と口縁部内面に煤が付着する。82・84は底部切り離し後、丁寧なナデが施される。

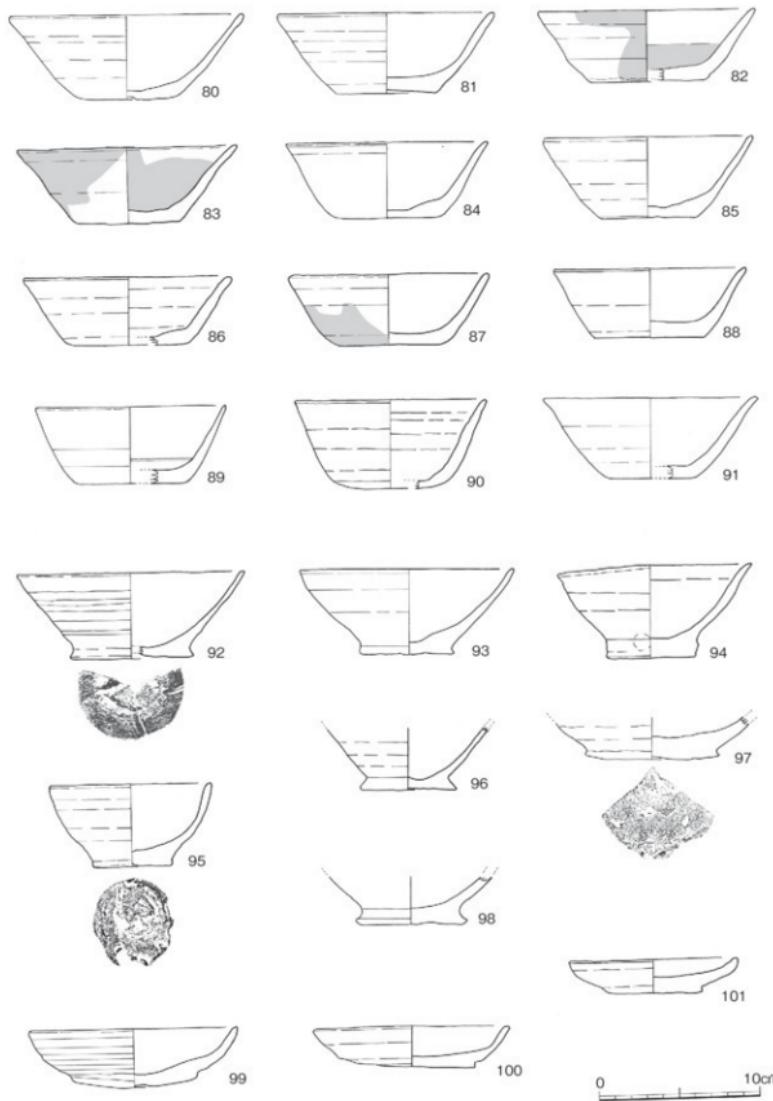
92~98はVI類である。体部は円盤で、非常に厚い。いわゆる「薩摩タイプ」と呼ばれるものである。92・93は大形のもので、体部は直線的に延びる。94・95は小形のもので体部は曲線的である。96~98は底部である。

99~101はVII類である。特に101は器高が、2.1cmで皿とほぼ同じであるが、口径が10.5cmで皿に比べて大きいため坏とした。3点ともつくりが粗雑で、器形が歪んでいる。底部はやや厚く、切り離し後の調整も施されない。

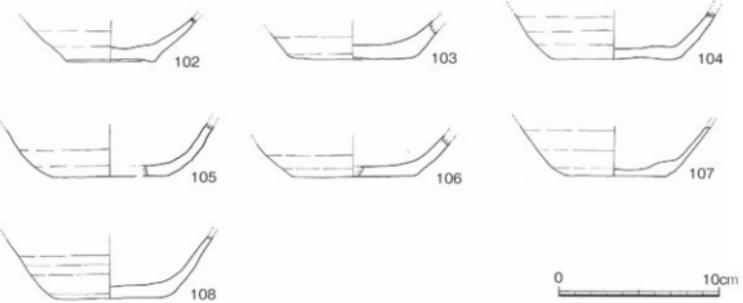
102~108は底部である。103は底部切り離し後丁寧なナデ調整が施され、108は底部に簡単なナデ調整が施される。他のものは調整は施されていない。

土師器観察表1

種別 番号	出土地	取上番号	層位	種別	基種	部位	色調	法量(cm)		胎土 石墨 石炭 骨灰 その他	焼 成	調整	備考
								(外) 内	(外) 内				
1 R-23	4962	III	土師器	黒	天井部 (内) に少し黄褐色	16.0	-	-	-	○	真	ナデ	ナデ
2 R-23	6725	III	土師器	黒	天井部 に少し黄褐色	14.0	-	-	-	真	ナデ	ナデ	
3 Q-19	-18	III	土師器	黒	天井部 に少し黄褐色	-	-	-	-	真	ナデ	ナデ	
4 Q-20	-18	III	土師器	黒	天井部 に少し黄褐色	12.2	-	-	-	真	ナデ	ナデ	
5 R-23	4343	III	土師器	黒	フタヌメ に少し黄褐色	-	2.1	-	-	真	ナデ	ナデ	
6 R-27	17844	III	土師器	黒	フタヌメ に少し黄褐色	-	2.4	-	-	真	ナデ	ナデ	
7 (Q-2, 43)	6418	N, V	土師器	白	口縁一部部 (外) に少し褐色	10.2	7.6	2.1	-	真	ナデ	ナデ	へラ切り
8 -	-	-	土師器	白	完形 (内) に少し褐色	9.2	6.0	1.8	-	真	ナデ	ナデ	へラ切り
9 -	-	-	土師器	白	完形 に少し褐色	8.6	5.6	1.9	-	真	ナデ	ナデ	へラ切り
10 Q-19	-18	III	土師器	白	口縁一部部 (外) に少し褐色	9.4	6.9	1.7	-	真	ナデ	ナデ	へラ切り
11 -	-	-	土師器	白	完形 に少し褐色	9.4	6.0	1.9	-	真	ナデ	ナデ	へラ切り
12 -	-	-	土師器	白	口縁一部部 に少し褐色	8.4	-	-	-	真	ナデ	ナデ	へラ切り
13 -	-	-	土師器	白	口縁一部部 に少し褐色	9.6	7.0	1.0	-	真	ナデ	ナデ	へラ切り
14 -	-	-	土師器	白	口縁一部部 に少し褐色	8.7	6.2	1.5	-	真	ナデ	ナデ	へラ切り
15 R-20	-18	V	土師器	白	口縁一部部 に少し褐色	9.0	6.4	1.3	-	真	ナデ	ナデ	へラ切り
16 Q-20	-18	N	土師器	白	口縁一部部 (内) に少し褐色	8.6	5.6	1.1	-	真	ナデ	ナデ	へラ切り
17 -	-	-	土師器	白	口縁一部部 に少し褐色	9.0	6.7	2.0	-	真	ナデ	ナデ	へラ切り
18 Q-19	-18	II	土師器	白	完形 に少し褐色	10.0	7.8	1.3	-	真	ナデ	ナデ	へラ切り
19 Q-20	-18	N	土師器	白	口縁一部部 に少し褐色	9.2	5.0	1.3	-	真	ナデ	ナデ	へラ切り後ナデ
20 -	-	-	土師器	白	口縁一部部 に少し褐色	9.4	6.0	1.4	-	真	ナデ	ナデ	へラ切り後ナデ
21 -	-	-	土師器	白	完形 に少し褐色	8.6	4.4	1.6	-	真	ナデ	ナデ	へラ切り



第51図 土師器5 坏



第52図 土師器6 壊

土師器観察表2

回収番号	出土区	取上番号	層位	種別	基椎	部位	色調	法量(cm)		胎土	焼成	調整	備考			
								口径	底径	高さ	長さ	天然石	その他	外面	内面	
22	—	—	—	土師器	坪	口縁一部部	(内) に少し黄褐色 (外) に少し黄褐色	14.8	9.1	4.8	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	
23	—	—	—	土師器	坪	口縁一部部	浅黄褐色	14.0	8.4	4.0	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	
24	R19-19	6504	V	土師器	坪	変形	外) 淡褐色 (内) 暗褐色	13.7	8.2	3.7	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	
50	QR19	—	—	土師器	坪	口縁一部部	(内) に少し黄褐色	12.5	8.2	4.2	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	
26	O19-20	6365	V	土師器	坪	変形	(内) に少し黄褐色 (外) 暗褐色	12.8	8.0	4.3	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	
27	Q19-18	—	—	土師器	坪	変形	(内) 及び白色	13.2	7.4	4.1	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	
28	Q-28	6613	V	土師器	坪	口縁一部部	に少し黄褐色	14.0	8.2	4.2	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	
29	—	—	—	土師器	坪	口縁一部部	に少し黄褐色	14.8	8.0	4.1	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	
30	—	—	—	土師器	坪	口縁一部部	に少し黄色	14.5	8.4	4.2	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
31	Q-10	—	—	土師器	坪	変形	に少し黄色	16.2	7.6	4.8	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	
32	O-19	6375	V	土師器	坪	口縁一部部	(内) に少し黄褐色	15.6	8.4	4.2	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	
33	RS-19	—	—	土師器	坪	口縁一部部	浅黄褐色	14.2	7.2	3.5	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	
34	—	—	—	土師器	坪	口縁一部部	(内) に少し黄褐色	15.0	7.0	4.6	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	
35	R22	4616	X	土師器	坪	口縁一部部	に少し黄褐色	14.8	8.6	3.6	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	
36	O-19	—	—	土師器	坪	口縁一部部	に少し黄褐色	14.2	7.2	4.2	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 小石粒含む	
37	R-23	6480	X	土師器	坪	変形	明黃褐色	14.0	8.4	3.7	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 小石粒含む	
38	T-26	18581	III	土師器	坪	口縁一部部	橙色	13.4	8.8	3.2	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 番の石粒含む	
39	11T	S-201265, 896	II	土師器	坪	口縁一部部	に少し黄褐色	12.8	6.2	4.0	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 番の石粒含む	
40	R19-19	QR19	—	土師器	坪	変形	に少し黄褐色	13.2	7.1	3.5	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	
41	O19-20	—	—	土師器	坪	変形	(外) に少し黄褐色 (内) に少し黄褐色	13.3	8.0	3.6	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 小石粒含む 番の石粒含む	
42	S-19	4263	II	土師器	坪	変形	に少し黄褐色	12.8	7.0	4.9	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 番の石粒含む	
43	U-25	19165	II	土師器	坪	変形	黄褐色	13.1	8.2	3.9	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 番の石粒含む	
44	RS-19	—	—	土師器	坪	口縁一部部	に少し黄褐色	11.8	6.6	3.5	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 小石粒含む 番の石粒含む	
45	O-19	—	—	土師器	坪	変形	(内) に少し黄褐色	12.2	7.0	3.2	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	
46	O19-20	—	—	土師器	坪	変形	浅黄褐色	12.2	7.2	3.3	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 番の石粒含む	
47	R-19	6500	V	土師器	坪	ほぼ変形	浅黄褐色	12.6	6.4	4.2	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 番の石粒含む	
48	R-19	—	—	土師器	坪	口縁一部部	に少し黄褐色	17.2	4.8	4.9	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 約世紀代	
49	R-19	6575, 6570	V	土師器	坪	変形	淡黃色	16.0	7.0	5.0	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
50	QR19-19	—	—	土師器	坪	口縁一部部	(内) に少し黄褐色	15.0	7.8	4.0	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 番の石粒含む	
51	R-22	8978, 9369E	II	土師器	坪	口縁一部部	橙色	14.8	7.0	4.1	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
52	S-22	6638, 6640, 6641	II	土師器	坪	変形	に少し黄褐色	14.0	5.0	3.8	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り 内面に縫合部 保付箋	
53	O19-20	—	—	土師器	坪	口縁一部部	浅黄褐色	14.8	7.2	4.1	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り 番の石粒含む	
54	RS-19	O19-20	—	土師器	坪	変形	浅黄褐色	14.0	7.5	4.5	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 番の石粒含む	
55	S-21	5509	II	土師器	坪	口縁一部部	(内) に少し黄褐色	14.0	8.0	3.9	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 小石粒含む	
56	O19-20	—	—	土師器	坪	変形	(内) に少し黄褐色	14.0	7.0	3.7	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
57	QR19-19	—	—	土師器	坪	変形	灰白色	13.6	7.0	4.3	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
58	R-22	6599	II	土師器	坪	変形	淡黄褐色	13.6	8.0	3.9	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り 番の石粒含む	
59	O19-20	—	—	土師器	坪	変形	(内) に少し黄褐色	13.2	6.8	4.1	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	
60	S-26	19215, 19613	II	土師器	坪	口縁一部部	浅黄褐色	13.0	7.4	3.6	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 番の石粒含む	
61	QR18-18	—	—	土師器	坪	変形	(内) 橙色 (内) 浅黄褐色	11.9	6.2	3.5	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 番の石粒含む	
62	S-26	T-26	15866	II	土師器	坪	変形	黄褐色	12.0	7.2	3.8	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 番の石粒含む
63	O19-20	—	—	土師器	坪	変形	に少し黄褐色	10.6	5.8	3.1	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ 番の石粒含む	
64	R-19, S-19	6494	IV, V, VI	土師器	坪	変形	に少し黄褐色	12.6	7.2	3.5	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り 番の石粒含む	

回収番号
49

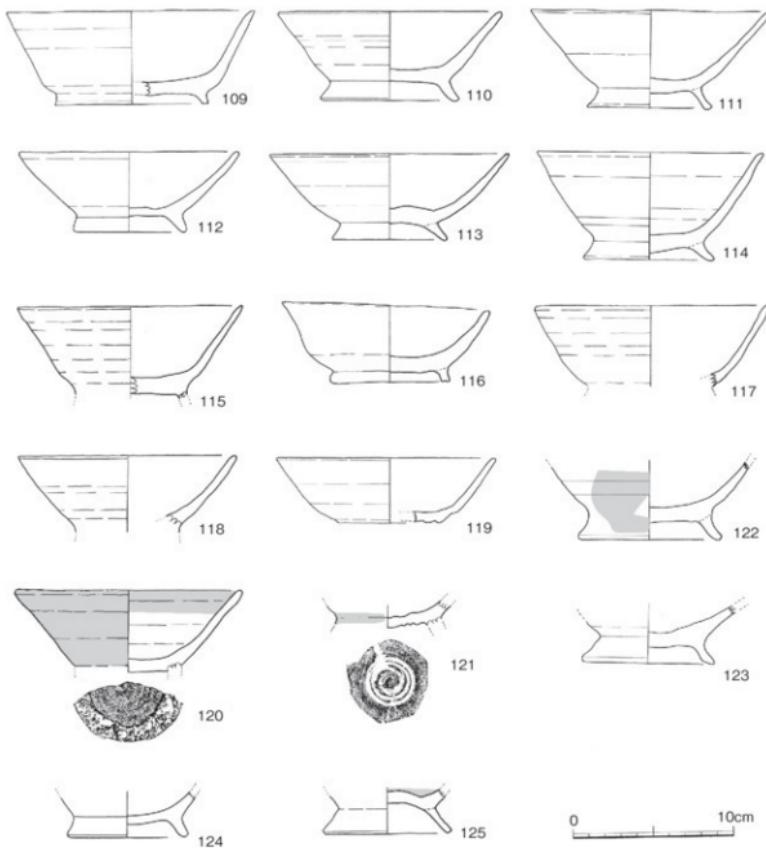
土器類観察表3

登録番号	出土区	取上番号	層位	種類	基盤	部位	色調	法量(cm)			地土	被覆	調整		備考		
								口径	底径	器高	石葉	長石	焼然	その他	外面	内面	
65	Q-20	6360	V	土師器	坪	実形	に少し黄褐色	12.8	7.0	3.7	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り 赤の石粒含む
66	R-22	19, 21	II	土師器	坪	口縁一部部	に少し黄褐色	12.0	6.0	3.8	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り後ナデ 赤の石粒含む
67	R-19	6562	V	土師器	坪	実形	に少し黄褐色	13.0	7.0	4.6	-	-	-	-	良	ナデ	ナデ 小石粒含む
68	S-26	-	II	土師器	坪	実形	(外)に少し黄褐色 (内)浅黄褐色	12.0	6.0	4.0	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り後ナデ 小石粒含む
69	R-21	7730	II	土師器	坪	実形	浅黄褐色	8.0	5.3	3.1	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り後ナデ 赤の石粒含む
70	-	-	-	土師器	坪	実形	褐色	12.8	3.8	4.4	-	-	-	-	良	ナデ 黒(?)ナデ	へラ切り 赤の石粒含む
71	S-19	4276	IV層上	土師器	坪	実形	灰白色	13.1	5.4	4.5	-	-	-	-	良	ナデ	ナデ 小石粒含む 赤の石粒含む
72	S-19	-	II	土師器	坪	口縁一部部	に少し黄褐色	14.4	6.8	4.0	-	-	-	-	良	ナデ 黒(?)ナデ	へラ切り後ナデ 赤の石粒含む
73	S-19	R-19, 6574, 6572	V	土師器	坪	口縁一部部	(外)に少し明褐色 (内)浅黄褐色	15.6	6.9	4.6	-	-	-	-	良	ナデ	ナデ 赤の石粒含む
74	O-19	-	II	土師器	坪	実形	-	14.4	6.0	4.3	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り
75	O-19, 18	-	II	土師器	坪	口縁一部部	(外)に少し黄褐色 (内)灰褐色	14.4	7.0	3.8	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り後ナデ 小石粒含む
76	-	-	V	土師器	坪	実形	(外)浅黄褐色 灰白色	14.2	6.8	4.0	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り後ナデ 小石粒含む
77	RS-19	-	II	土師器	坪	口縁一部部	(外)に少し黄褐色 (内)に少し褐色	15.8	5.4	3.6	-	-	-	-	良	ナデ 黒(?)ナデ	へラ切り 赤の石粒含む
78	D-15, R-19	-	I	土師器	坪	実形	-	14.6	6.8	4.1	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り後ナデ 小石粒含む
79	Q-19	-	II	土師器	坪	口縁一部部	(外)灰褐色 (内)灰黄色	14.5	4.9	4.0	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り後ナデ
80	-	-	-	土師器	坪	実形	-	14.6	6.0	5.2	-	-	-	-	良	ナデ	ナデ へラ切り
81	R-19	-	I	土師器	坪	実形	(外)に少し黄褐色 (内)浅黄褐色	13.8	6.0	5.0	-	-	-	-	良	ナデ	ナデ 小石粒含む 赤の石粒含む
82	-	-	-	土師器	坪	実形	に少し褐色	13.6	7.0	4.4	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り 赤の石粒含む
83	S-21	4915	III	土師器	坪	口縁一部部	(外)浅黄褐色 (内)に少し褐色	13.6	6.2	4.7	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り切付付
84	O-20	6351, 6360	V	土師器	坪	実形	-	12.6	6.8	4.7	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り後ナデ 赤の石粒含む
85	-	-	-	土師器	坪	実形	(外)灰褐色 (内)に少し褐色	13.0	5.8	5.0	-	-	-	-	良	ナデ 黒(?)ナデ	へラ切り後ナデ 赤の石粒含む
86	R-22	20386	II	土師器	坪	口縁一部部	-	13.0	5.8	4.3	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り後ナデ 赤の石粒含む
87	-	-	-	土師器	坪	実形	灰褐色	12.6	6.4	4.4	-	-	-	-	良	ナデ 黒(?)ナデ	へラ切り後ナデ
88	S-22	2, 6	II	土師器	坪	実形	褐色	12.0	6.8	4.3	-	-	-	-	良	ナデ 黒(?)ナデ	へラ切り後ナデ
89	-	-	-	土師器	坪	口縁一部部	浅黄褐色	11.8	6.6	4.8	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り後ナデ
90	-	-	-	土師器	坪	実形	に少し褐色	12.0	4.0	5.5	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り後ナデ
91	-	-	-	土師器	坪	口縁一部部	(外)浅黄褐色 (内)に少し黄褐色	13.4	5.0	5.1	-	-	-	-	良	ナデ 黒(?)ナデ	へラ切り後ナデ
92	R-37	1454	III	土師器	坪	口縁一部部	褐褐色	14.2	8.0	5.3	-	-	-	-	良	ナデ	ナデ へラ切り
93	O-19	-	II	土師器	坪	実形	浅黄褐色	13.4	5.7	5.3	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り
94	P-19	6651	V	土師器	坪	実形	浅黄褐色	12.2	5.6	5.8	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り
95	S-	-	-	土師器	坪	実形	に少し黄褐色	10.2	4.9	5.1	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り
96	QP-19	-	II	土師器	坪	脚部一部部	(外)灰褐色 (内)黄灰色	-	5.8	-	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り
97	O-20	-	II	土師器	坪	脚部一部部	に少し黄褐色	-	8.4	-	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り
98	RQ-19	-	-	土師器	坪	底部	に少し黄褐色	-	7.0	-	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り
99	-	-	-	土師器	坪	口縁一部部	浅黄褐色	13.0	7.6	3.6	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り後ナデ
100	S-23	5845	II	土師器	坪	実形	に少し黄褐色	12.3	7.8	2.6	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り後ナデ
101	-	-	-	土師器	坪	実形	に少し黄褐色	10.5	6.0	2.1	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り 11世紀代
102	R-22	8041	II	土師器	坪	脚部一部部	(外)褐色 (内)明黄色	-	5.6	-	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り
103	R-23	5743	II	土師器	坪	底部	に少し黄褐色	-	7.3	-	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り後ナデ
104	R-24	10441	II	土師器	坪	脚部一部部	に少し黄褐色	-	7.6	-	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り
105	R-19, 20	-	II	土師器	坪	底部	浅黄褐色	-	7.0	-	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り
106	R-24	3946	II	土師器	坪	底部	褐色	-	7.6	-	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り
107	OS-19	-	II	土師器	坪	脚部一部部	褐色	-	6.3	-	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り後ナデ
108	R-20, 21	-	II	土師器	坪	底部	(外)に少し黄褐色 (内)に少し褐色	-	7.0	-	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り
109	R-23	9196	II	土師器	坪	底部	-	-	-	-	-	-	-	-	良	ナデ	へラ切り

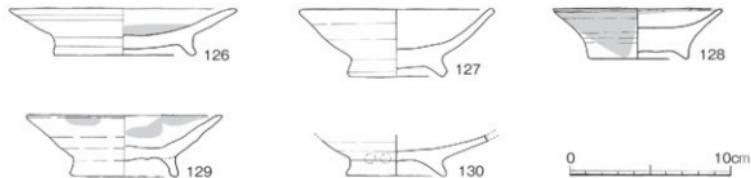
椀（第53・54図）

109～130は椀である。高台を有するものを椀とした。坏に比べて出土量は少ない。そのため特に分類はせず、個別に説明を述べたい。

109は須恵器を模造した箱形を呈する。径の広い高台が底部やや内側に貼り付けられる。110～112は、高台が比較的短く器高も低いもので、体部は直線的に延びる。113は高台が比較的短く、体部が曲線的なものである。114は器高が高く、体部が直線的に延びるものである。高台内面の中央はやや盛り上がる。115は体部が直線的にのびるもので、高台は欠損している。116は高台端部に面を有し、中央がやや凹む。硬質のものであるが、器面は摩滅が激しい。117・118は口縁部である。



第53図 土師器7 椭



第54図 土師器8 高台付坏

119～121は高台が外れており、その部分を調整して使用している。120は外面と口縁内面に煤が付着するため、蓋として使用したものと思われる。121～125は底部である。121は高台内面に削りの痕跡が輪状に残るものである。125は細く高い高台を有する。

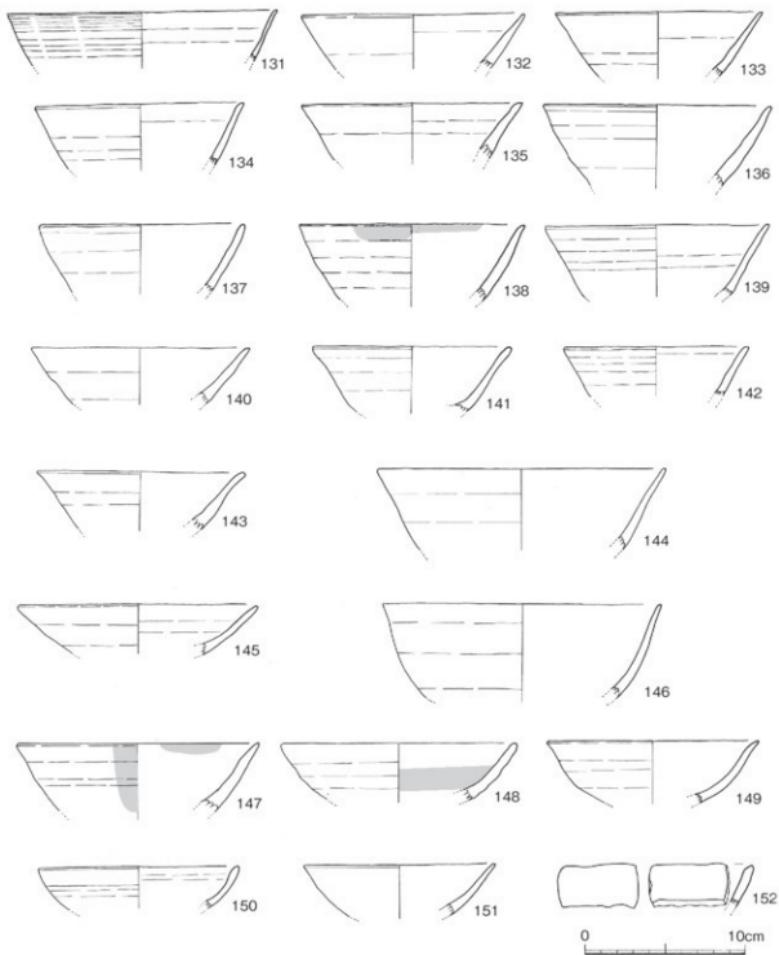
126～130は、高台付坏と呼ばれるものであるが、平底のものを坏、高台を有するものを椀としたため、椀の範疇で取り扱う。比較的短い高台の上に、直線的に短く延びる皿状の体部が付く。126は見込みと高台内面に円形状の煤が付着する。

土師器観察表4

基 盤 番 号	出土区	取上番号	層位	種類	基種	部位	色調	法量(cm)	胎土	焼成 時間	調整		備考
											外 面	内 面	
109	S-19	6374	V	土師器	板	宍形	[外]に少し黄褐色 [内]に少し褐色	15.5 9.6 6.7	石系 長石系 閃长岩	6時間	ナデ	ナデ	ヘラ切り 8世紀代
110	S-26	15306, 16281 1820	II	土師器	板	宍形	[外]淡黄褐色 [内]黄褐色	14.0 8.4 5.5	石系	ナデ	ナデ	ヘラ切り 8世紀代	
111	T-20	-18	V	土師器	板	口縁一部部	[外]淡黄褐色 [内]灰褐色	15.0 6.2 6.0	石系	ナデ	ナデ	ヘラ切り 9世紀半～10世紀代	
112	-	-	V	土師器	板	宍形	灰褐色	13.0 5.0 5.0	石系	ナデ	ナデ	ヘラ切り 9世紀半～10世紀代	
113	-	-	V	土師器	板	宍形	に少し黄褐色	-	石系	ナデ	ナデ	ヘラ切り 9世紀半～10世紀代	
114	S-19.1-20	残	V	土師器	板	宍形	[外]灰褐色 [内]に少し褐色	14.2 8.1 6.7	石系	ナデ	ナデ	ヘラ切り 8世紀代	
115	S-19	-18	V	土師器	板	宍形	灰褐色	14.0	-	石系	ナデ	ナデ	ヘラ切り 小石粒含む
116	R-19	6495	V	土師器	板	宍形	灰褐色	13.0 7.5 4.8	石系	ナデ	ナデ	小石粒含む 9世紀代	
117	-	-	-	土師器	板	口縁一部部	[外]に少し黄褐色	14.6	-	石系	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む
118	S-23	2217	B	土師器	板	口縁一部部	に少し黄褐色	13.5	-	石系	ナデ	ナデ	小石粒含む
119	S-19	-18	V	土師器	板	宍形	[外]灰褐色 [内]に少し黄色	13.7 6.1 4	石系	ナデ	ナデ	ヘラ切り 赤色の石粒含む	
120	S-22	20750	III	土師器	板	口縁一部部	[外]に少し黄褐色 [内]に少し黄褐色	14.2	-	石系	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む 烧成不良
121	R-19	6430	V	土師器	板	底部	灰褐色	-	石系	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む 烧成不良	
122	R-19	-18	-	土師器	板	脚部一部部	[外]灰褐色 [内]に少し褐色	-	石系	ナデ	ナデ	ヘラ切り 保付箋	
123	S-19	-18	V	土師器	板	脚部一部部	灰褐色	-	石系	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
124	R-21	8697	II	土師器	板	底部	[外]赤褐色 [内]暗褐色	7.6	-	石系	ナデ	ナデ	ヘラ切り 赤色の石粒含む
125	R-22	8595	II	土師器	板	底部	[外]赤褐色 [内]に少し褐色	-	石系	ナデ	ナデ	ヘラ切り 小石粒含む	
126	RS-19	-18	II	土師器	高台付坏	宍形	淡黃色	14.2 8.8 2.9	石系	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
127	S-19	-18	V	土師器	高台付坏	宍形	に少し黄褐色	12.2 6.0 4.2	石系	ナデ	ナデ	ヘラ切り 赤色の石粒含む	
128	R-27	17854	II	土師器	高台付坏	口縁一部部	[外]灰褐色 [内]灰褐色	10.4 6.6 3.1	石系	ナデ	ナデ	9世紀半～10世紀代	
129	R-23	6396	II	土師器	高台付坏	口縁一部部	[内]に少し褐色	12.4 6.8 3.8	石系	ナデ	ナデ	竹筒型 保付箋	
130	S-27	59	II	土師器	高台付坏	脚部一部部	褐色	-	石系	ナデ	ナデ	灯明型 保付箋 小石粒含む	
131	S-22	2768	II	土師器	板	口縁一部部	褐色	17.0	-	石系	ナデ	ナデ	ヘラ切り
132	R-22	6593	II	土師器	板	口縁一部部	[外]浅黄褐色 [内]明褐色	14.0	-	石系	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む
133	S-22	20803	II	土師器	板	口縁一部部	浅黃褐色	13.0	-	石系	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む
134	O-19	-18	N	土師器	板	口縁一部部	[外]灰褐色 [内]明褐色	13.0	-	石系	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む
135	O-19	-18	V	土師器	板	口縁一部部	灰褐色	13.8	-	石系	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む
136	R-22	21141	III	土師器	板	口縁一部部	[外]に少し黄褐色	14.2	-	石系	ナデ	ナデ	ヘラ切り
137	S-23	3140, 2147	II	土師器	板	口縁一部部	褐色	13.0	-	石系	ナデ	ナデ	ヘラ切り
138	S-19	-18	N	土師器	板	口縁一部部	[外]反青褐色 [内]灰褐色	14.0	-	石系	ナデ	ナデ	保付箋
139	R-22	3563	II	土師器	板	口縁一部部	褐色	14.0	-	石系	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む
140	S-26	15978	II	土師器	板	口縁一部部	[外]灰褐色 [内]灰褐色	13.6	-	石系	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む
141	S-22	6643	II	土師器	板	口縁一部部	[外]に少し黄褐色 [内]に少し褐色	12.4	-	石系	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む 小石粒含む
142	OR-19	-18	-	土師器	板	口縁一部部	褐色	11.6	-	石系	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む
143	R-22	20545	III	土師器	板	口縁一部部	褐色	13.1	-	石系	ナデ	ナデ	小石粒含む
144	O-19-20	-18	V	土師器	板	口縁一部部	に少し褐色	18.0	-	石系	ナデ	ナデ	小石粒含む
145	Q-18, R-19	-18	-	土師器	板	口縁一部部	[外]灰褐色 [内]に少し褐色	15.0	-	石系	ナデ	ナデ	小石粒含む
146	R-23	17413	II	土師器	板	口縁一部部	[外]褐色 [内]灰褐色	15.4	-	石系	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む
147	O-19	-18	-	土師器	板	口縁一部部	[外]灰褐色 [内]に少し黄褐色	15.0	-	石系	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む
148	T-26	14410	II	土師器	板	口縁一部部	浅黃褐色	14.8	-	石系	ナデ	ナデ	保付箋 赤色の石粒含む
149	R-22	5962	II	土師器	板	口縁一部部	に少し黄褐色	13.4	-	石系	ナデ	ナデ	小石粒含む
150	S-22	7070	II	土師器	板	口縁一部部	褐色	12.4	-	石系	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む
151	S-22	9933	II	土師器	板	口縁一部部	浅黃褐色	12.0	-	石系	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む
152	S-27	18206	II	土師器	板	口縁一部部	に少し黄褐色	-	石系	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む	

口縁部（第55図）

131～152は壺もしくは椀の口縁部である。138は口縁内面に煤が廻るように付着することから、煮炊き具の蓋として使用されたと思われる。147は口縁外面の一部に煤が付着していることから、灯明皿として使用されたと思われる。152は口唇部がやや内側に傾斜し、平坦につくられるものである。

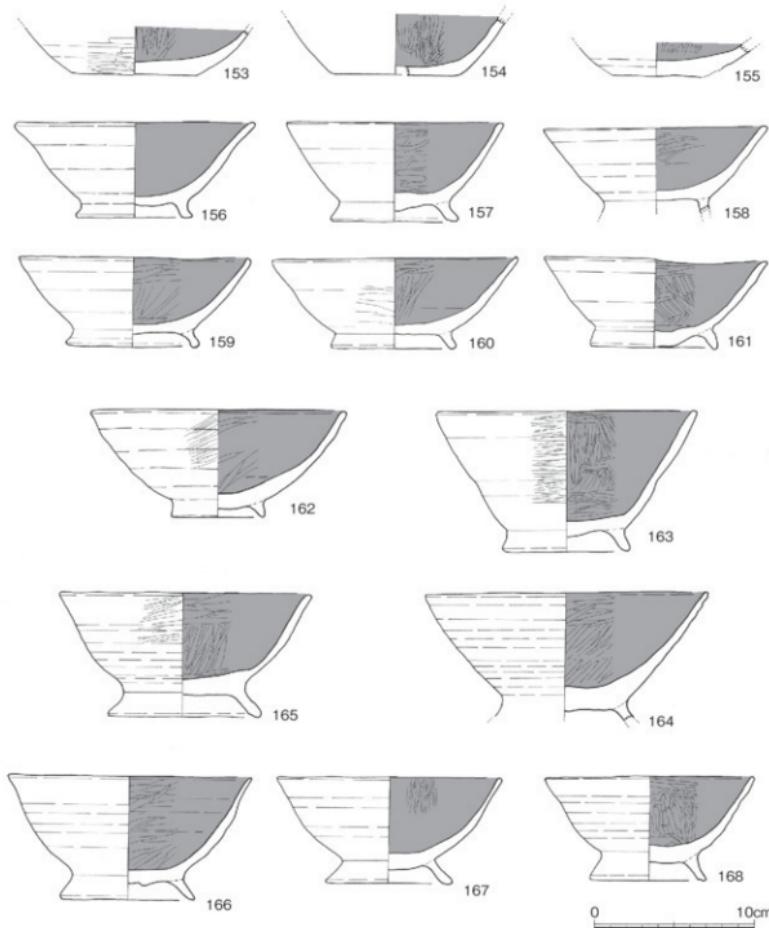


第55図 土師器 9 口縁部

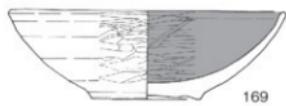
黒色土器 A類（第56~60図）

153~216は内面を磨き、黒色に燃した黒色土器 A類である。内面だけでなく外面も磨くものも見られる。壺・椀を含め、I~V類に分類した。

I類 底部の切り離しがヘラ切りで、平底のものである。いわゆる「壺」である。椀と比較して出土量は少ない。



第56図 土師器10 黒色土器 A類 壺・椀



169



170



171



172



173



174



175



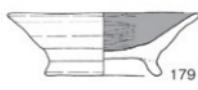
176



177



178



179



180



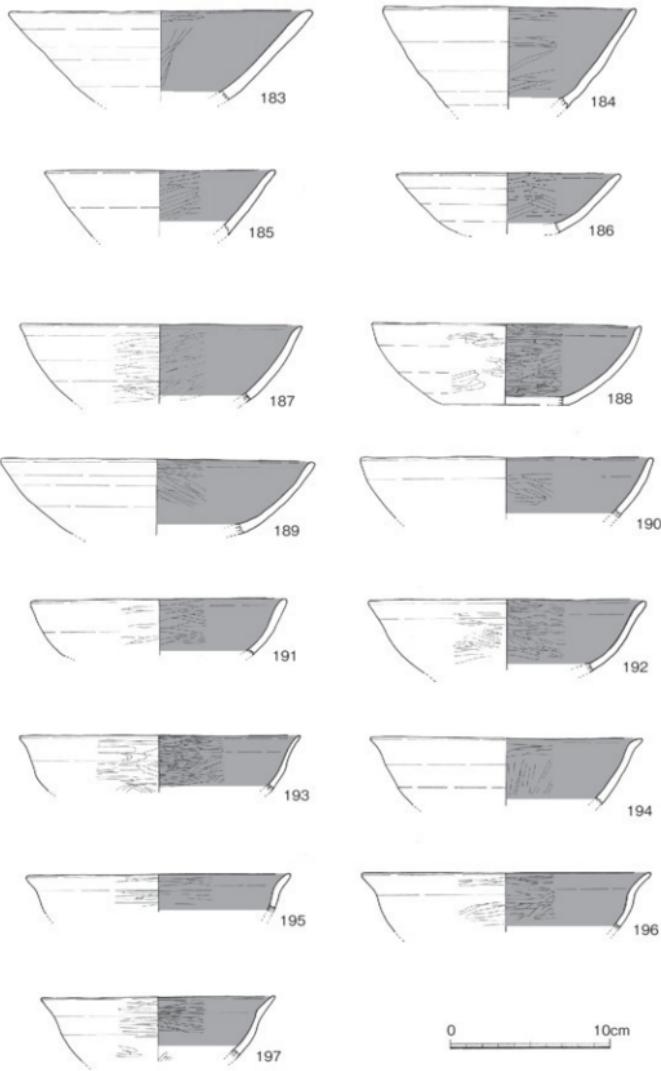
181



182

A scale bar indicating a length of 10 cm.

第57図 土師器11 黒色土器 A類 梗



第58図 土師器12 黒色土器A類 口縁部

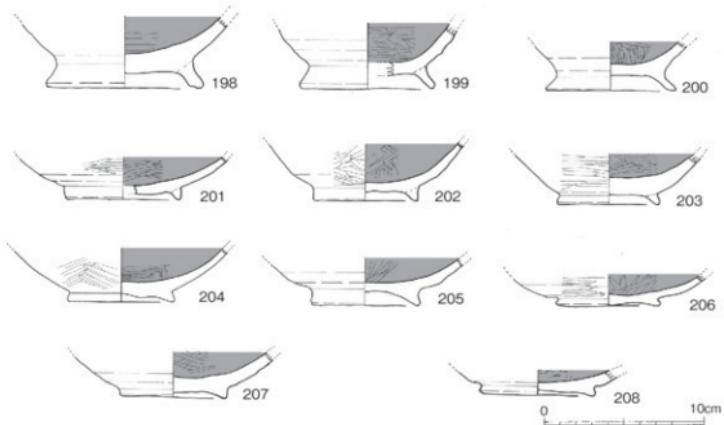
- II類 短い高台を有するもので、器高も低い。体部の形状によりさらにa・bに分類した。
- a 体部が直線的なものである。
 - b 体部が曲線的なものである。
- III類 高い高台を有するもので、器高も高い。
- a 体部が直線的に立ち上がり、口縁部も直線的に延びる。
 - b 体部が曲線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。
- IV類 高台は細く、長い。体部は曲線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。
- V類 非常に短い高台を有し、器高も低い。体部は曲線的で、口縁部は直線的に延びるものとわずかに外反するものが見られる。
- VI類 高台付壺と呼ばれるものである。

153~155はI類である。壺の底部で、内面に縦方向の細かいミガキが施される。

156~162はII類である。内面のミガキは、内底面から体部にかけては斜め方向に、口縁部では横方向に施される。156~158はIIa類に相当するもので、体部が直線的なものである。156は高台先端が平坦につくられる。内面のミガキは摩滅により不明瞭である。159~162はIIb類に相当するもので、体部が曲線なものである。160~162は外面にもミガキが施される。

163~165はIII類である。高台は足高である。内面のミガキは、中心から放射状に施されるが、口縁部では横方向に施される。163~164はIIIa類である。163は外面にもミガキが施される。165はIIIb類である。外面にもミガキが施される。

166~168はIV類に相当するものである。口縁部先端及び高台先端は細くつくられる。



第59図 土師器13 黒色土器 A類 底部

169～176はV類である。口径が大きく、体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部でわずかに外反もしくはそのまま丸く收められる。内外面は細く細かい横方向のミガキが施される。170は非常に短い高台が貼り付けられているが、底部断面が冂筒底状を呈する。171・173・174については、外面のミガキが摩耗のため不明瞭である。176は口縁部先端を外側に折り返して、小さな玉縁を呈する。青磁碗を模造したものと思われる。

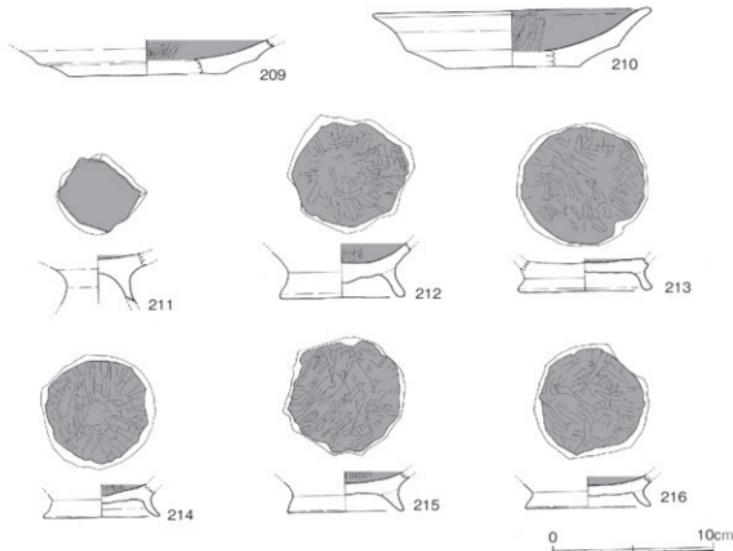
177～179はVI類である。高台付坏で、高台を有するため椀の範疇で取り扱った。

180～216はI～VI類以外のものである。182は高台を有する椀であるが、その部分が外れたものである。外れた面に調整を加え使用している。

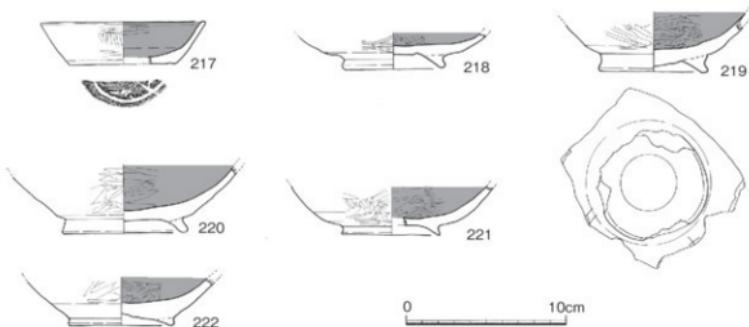
183～197は口縁部である。183～185は体部が直線的に延びるものである。186～197は体部が曲線的に立ち上がり、186～191は口縁部が直線的に延びるもので、192～197はわずかに外反するものである。

198～208は底部である。198は太く高い高台を有するものである。199・200は高台が細く長いもので、先端は丸くつくられる。201～208は高台が非常に低く短いつくりのものである。

209・210は高坏の坏部である。外面にはミガキは施されない。211は高坏の高台部である。メンコ状に坏部の周辺が打ち欠かれている。212～216は椀の底部であるが、121と同様に体部が打ち欠かれてメンコ状に整えられたものである。



第60図 土師器14 黒色土器A類 その他



第61図 土器15 黒色土器B類

黒色土器B類（第61図）

217～222は、内外面ともミガキが施され、黒色に焼された黒色土器B類である。

217は壺である。内面は横方向、外面は縦方向のミガキが施される。218～222は楕の底部である。高台が短く低いタイプのものである。内外面ともに横方向のミガキが施される。

土器観察表5

測定項目	測定番号	出土区	取上番号	層位	種別	基盤	部位	色調	法量(cm)	断土	焼成		調査	備考	
											外表面	内表面			
	153	R-23	3480	Ⅲ	土器部	环	底座	(外)に赤褐色(内)黑色	-	7.8	-	ナデ	ミガキ	ヘラ切り	
	154	T-25・26(1307・1517)	Ⅲ	土器部	环	脚部一底部	(外)に赤褐色(内)黑色	-	8.0	-	○	ナデ	ミガキ	ヘラ切り	
	155	S-19	一括	Ⅲ	土器部	楕	底座	(外)に赤褐色(内)黑色	-	5.6	-	○	ナデ	ミガキ	高台文様
	156	R-22	6016	Ⅲ	土器部	楕	口縁一底部	(外)に赤褐色(内)灰褐色	15.0	7.0	5.9	ナデ	ミガキ	高台文様	
	157	3T	478, 468	Ⅲ	土器部	楕	口縁一底部	(外)に赤褐色(内)黑色	13.6	8.0	6.2	ナデ	ミガキ	小石粒含む	
	158	T-19, 5-19, 3614, 3644	Ⅳ	土器部	楕	口縁一底部	(外)に赤褐色(内)黑色	14.0	-	-	○	ナデ	ミガキ	赤色の石粒含む	
	159	R-22・23(1307・1517)	一括	Ⅲ, Ⅳ	土器部	楕	口縁一底部	(外)に赤褐色(内)黑色	14.4	8.3	5.5	○	ナデ	ミガキ	小石粒含む
	160	R-19	一括	Ⅲ	土器部	楕	口縁一底部	(外)に赤褐色(内)灰褐色	15.2	7.8	5.7	○	ミガキ	小石粒含む	
	161	Q-18・19	一括	II, IV	土器部	楕	口縁一底部	(外)に赤褐色(内)黑色	14.0	8.0	5.5	○	ナデ	ミガキ	小石粒含む
	162	R-21	8625	Ⅲ	土器部	楕	口縁一底部	(外)赤褐色(内)黑色	16.0	5.8	6.6	○	ナデ	ミガキ	小石粒含む 赤色の石粒含む
	163	O-19・20	一括	II, IV	土器部	楕	口縁一底部	(外)灰褐色(内)黑色	16.4	8.0	8.7	○	ミガキ	ミガキ	小石粒含む
	164	O-18・19	一括	IV	土器部	楕	ほぼ完形	(外)灰白色(内)黑色	17.8	-	-	○	ナデ	ミガキ	小石粒含む
	165	T-19	一括	N, V	土器部	楕	ほぼ完形	(外)明黄色(内)黑色	15.7	9.4	7.7	ナデ	ミガキ	ミガキ	
	166	S-1T	1061, 1062, 1074	Ⅲ	土器部	楕	口縁一底部	(外)反褐色(内)黑色	15.2	8.3	7.6	○	ナデ	ミガキ	小石粒含む
	167	一括	IV	土器部	楕	口縁一底部	(外)反褐色(内)黑色	14.0	8.0	6.5	○	ナデ	ミガキ		
	168	O-18, R-19	一括	II, IV	土器部	楕	完形	(外)反褐色(内)黑色	13.0	7.3	6.5	○	ナデ	ミガキ	
	169	T-25	11419, 11421	Ⅲ	土器部	楕	完形	(外)赤褐色(内)黑色	17.4	6.6	5.5	○	ミガキ	ミガキ	
	170	S-19, 20, 25(2020)	2712, 一括	III, V	土器部	楕	完形	(外)暗赤褐色(内)黑色	18.0	6.0	5.0	○	ミガキ	ミガキ	
	171	S-18, R-19・15, 6507	一括	IV, V	土器部	楕	口縁一底部	(外)灰褐色(内)黑色	17.3	6.9	5.3	○	ミガキ	ミガキ	赤色の石粒含む
	172	R-19	一括	III	土器部	楕	口縁一底部	(外)反褐色(内)黑色	16.4	6.2	6.1	○	ミガキ	ミガキ	赤色の石粒含む
	173	O-19・20	一括	III, V	土器部	楕	口縁一底部	(外)反褐色(内)暗灰色	16.6	7.2	5.6	○	ミガキ	ミガキ	
	174	O-19	一括	III	土器部	楕	口縁一底部	(外)反白色(内)黑色	17.8	7.6	5.0	○	ミガキ	ミガキ	
	175	G-20	6618, 6619	N, V	土器部	楕	脚部一底部	(外)に赤褐色(内)黑色	-	6.8	-	○	ミガキ	ミガキ	赤色の石粒含む
	176	O-19, 20, 25(2020)	一括	II, IV	土器部	楕	口縁一底部	(外)に赤褐色(内)黑色	15.2	5.8	5.6	○	ミガキ	ミガキ	
	177	R-22	2377	Ⅲ	土器部	高台付	口縁一底部	(外)に赤褐色(内)黑色	15.0	7.8	4.7	○	ナデ	ミガキ	
	178	R-22・23(23965, 6547)	一括	Ⅲ	土器部	高台付	口縁一底部	(外)に赤褐色(内)黑色	14.0	7.2	3.0	○	ナデ	ミガキ	
	179	R-23	3476	Ⅲ	土器部	高台付	実形	(外)橙褐色(内)黑色	12.0	7.2	3.9	○	ナデ	ミガキ	
	180	R-19, Q-19	一括	IV	土器部	高台付	口縁一底部	(外)淡黄色(内)褐色	17.8	-	-	○	ナデ	ミガキ	高台文様
	181	T-21	4065	Ⅲ	土器部	楕	脚部一底部	(外)淡黄色(内)褐色	-	8.0	-	○	ナデ	ミガキ	高台文様
	182	Q-19, RS-19	一括	IV	土器部	楕	底座	(外)に赤褐色(内)黑色	-	8.8	-	○	ナデ	ミガキ	高台文様

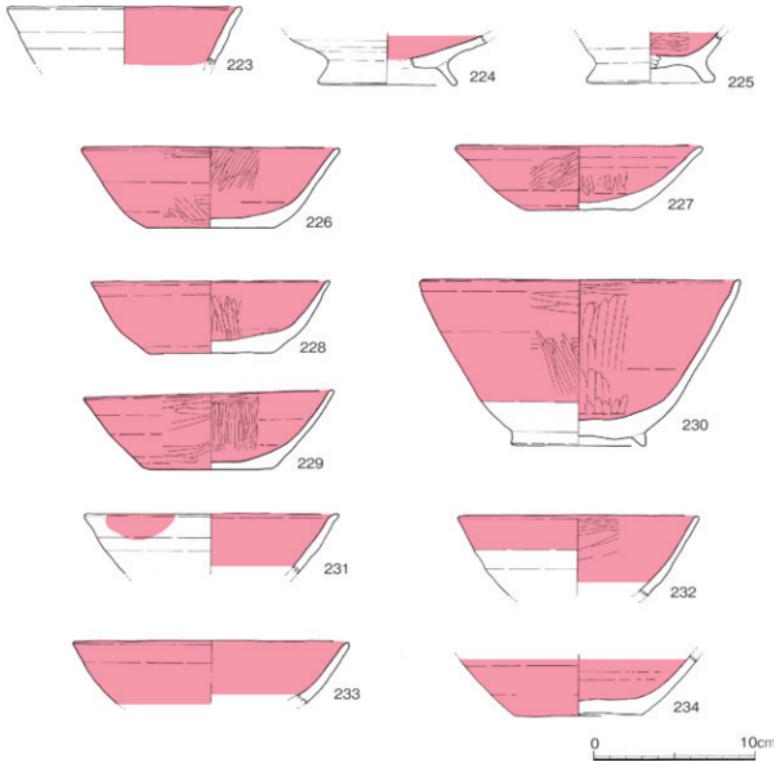
赤色土器（第62図）

223～225は内面にミガキが施され、赤色の顔料が塗布される赤色土器A類である。

223は直線的に延びる口縁部である。ミガキは明瞭でない。224・225は椀の底部である。224のミガキは明瞭でない。225は横方向のミガキが施される。

226～234は内外面ともにミガキが施され、赤色の顔料が塗布される赤色土器B類である。

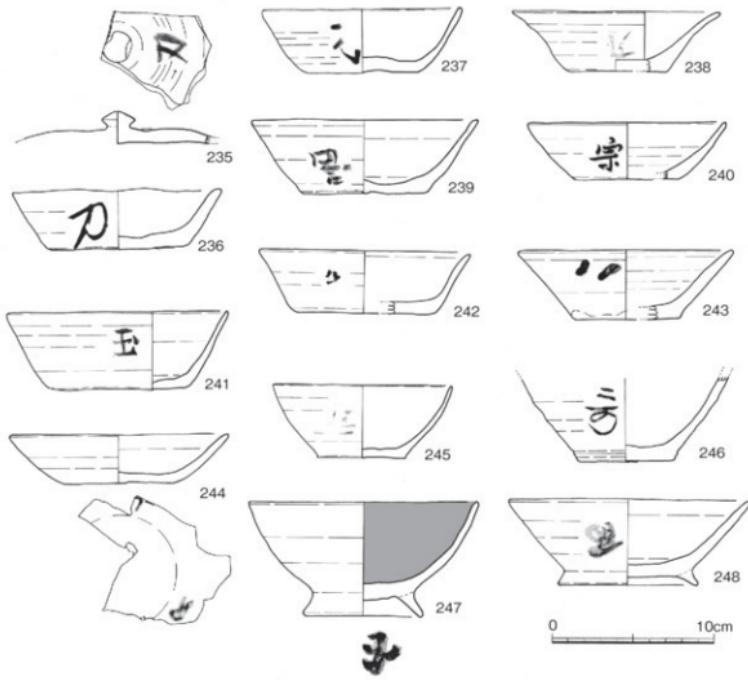
226～229は壺である。内面のミガキは縦及び斜め方向に施され、口縁部で横方向に施される。外面は横及び斜め方向に施されるが、228は不明瞭である。230は椀である。高台は低く短いが、体部は直線的に延び、器高も高い。内外面とも縦及び斜め方向のミガキが施され、口縁部では横方向に施される。231～233は口縁部である。232は外面全体に赤色顔料を塗布するものではなく、口縁部下位のみ塗布する。234は底部が厚く、鉢と思われるものである。内外面ともミガキは明瞭でない。



第62図 土師器16 赤色土器

土師器観察表6

登記番号	出土区	取上番号	層位	種類	基盤	部位	色調	法量(cm)		胎土 石英 角閃石 その他	焼成	調査		備考	
								口径	高径			外面	内面		
183	S-20	5022	Ⅲ	土師器	板	口縁部	(外)灰青色 (内)黑色	19.0	—	○	良	ナデ	ミガキ	小石粒含む	
184	R-21	7160, 7761	Ⅲ	土師器	板	口縁~胴部	(外)に、灰青色 (内)黑色	7.9	—	○	良	ナデ	ミガキ		
185	R-21	1007, 1999	Ⅲ	土師器	板	口縁~胴部	(外)灰青色 (内)黑色	14.4	—	○	良	ナデ	ミガキ	小石粒含む	
186	Q-18, 19	—	—	土師器	板	口縁~胴部	に、灰青色	14.2	—	○	良	ナデ	ミガキ	赤色の石粒含む	
187	S-20	14658	Ⅲ	土師器	板	口縁~胴部	(外)灰青色 (内)黑色	17.6	—	○	良	ミガキ	ミガキ	赤色の石粒含む	
188	R-27, 5-27	18522, 18719, 19429	Ⅲ	土師器	板	口縁~底部	(外)灰青色 (内)黑色	16.8	8.0	5.0	○	良	ミガキ	ミガキ	
189	T-23	21815	Ⅲ	土師器	板	口縁~胴部	(外)に、灰青色	19.6	—	○	良	ナデ	ミガキ	赤色の石粒含む	
190	Q-19	—	—	土師器	板	口縁~胴部	(外)灰青色 (内)黑色	18.2	—	○	良	ナデ	ミガキ	赤色の石粒含む	
191	S-24	10425	Ⅲ	土師器	板	口縁~胴部	(外)灰青色 (内)黑色	16.0	—	○	良	ミガキ	ミガキ	赤色の石粒含む	
192	O-19	—	—	土師器	板	口縁~胴部	(外)灰青色 (内)黑色	17.4	—	○	良	ミガキ	ミガキ	赤色の石粒含む	
193	Q-POR19	—	—	土師器	板	口縁~胴部	(外)に、灰青色 (内)黑色	17.6	—	—	良	ミガキ	ミガキ		
194	R-21	10006, 19962	Ⅲ	土師器	板	口縁~胴部	(外)灰白色 (内)黑色	17.0	—	—	良	ミガキ	ミガキ		
195	Q-19~20	—	—	土師器	板	口縁部	(外)灰白色 (内)黑色	16.6	—	—	良	ミガキ	ミガキ		
196	Q-19	—	—	土師器	板	口縁部	(外)灰青色 (内)黑色	18.0	—	—	良	ミガキ	ミガキ		
197	Q-18~19~20	—	—	土師器	板	口縁~胴部	灰黄色	14.6	—	—	良	ミガキ	ミガキ		
198	S-地点	—	—	土師器	板	胴部~底部	(外)灰青色 (内)黑色	—	9.6	—	良	ナデ	ミガキ		
199	—	539	—	土師器	板	胴部~底部	(外)に、灰青色	—	8.2	—	○	良	ナデ	ミガキ	小石粒含む
200	S-20	—	—	土師器	板	底部	(外)灰青色 (内)黑色	—	8.0	—	○	良	ミガキ	ミガキ	
201	S-27	15216	Ⅲ	土師器	板	胴部~底部	(外)灰白色 (内)黑色	—	7.2	—	○	良	ミガキ	ミガキ	
202	O-19	—	—	土師器	板	底部	(外)灰白色 (内)黑色	—	6.6	—	良	ナデ	ミガキ		
203	R-19	6474	V	土師器	板	底部	(外)灰白色 (内)黑色	—	6.4	—	良	ナデ	ミガキ		
204	—	—	—	土師器	板	底部	灰青色	—	6.5	—	良	ミガキ	ミガキ	11世紀~12世紀代 小石粒含む	
205	Q-18~19~20	—	—	土師器	板	底部	(外)灰白色 (内)黑色	—	6.8	—	良	ミガキ	ミガキ		
206	O-19	—	—	土師器	板	底部	(外)灰白色 (内)黑色	—	6.5	—	良	ナデ	ミガキ		
207	Q-19	—	—	土師器	板	底部	(外)灰白色 (内)黑色	—	6.8	—	良	ナデ	ミガキ	赤色の石粒含む	
208	S-地点	—	—	土師器	板	底部	(外)に、灰青色 (内)黑色	—	7.0	—	良	ナデ	ミガキ		
209	T-20	4467	IV層 黒色土と白い土	土師器	高杯	底部	(外)に、灰青色 (内)黑色	—	10.0	—	○	良	ハラツビ ナデ	ミガキ	
210	R-23	11612	Ⅲ	土師器	高杯	口縁~底部	(外)に、灰青色 (内)黑色	—	17.4	8.4	3.5	○	ハラツビ ナデ	ミガキ	小石粒含む
211	O-20	—	—	土師器	高杯	底部	(外)に、灰青色 (内)黑色	—	—	—	良	ナデ	ミガキ	赤色の石粒含む	
212	S-19	—	—	土師器	板	底部	(外)に、灰青色	—	7.6	—	○	良	ナデ	ミガキ	
213	O-19	—	—	土師器	板	底部	(外)灰白色 (内)黑色	—	8.3	—	良	ナデ	ミガキ		
214	S	—	—	土師器	板	底部	(外)に、灰青色 (内)黑色	—	7.2	—	○	良	ナデ	ミガキ	小石粒含む
215	S-19	—	—	土師器	板	底部	(外)に、灰青色 (内)黑色	—	7.3	—	○	良	ナデ	ミガキ	小石粒含む
216	O-19	—	—	土師器	板	底部	(外)に、灰青色 (内)黑色	—	7.8	—	○	良	ナデ	ミガキ	小石粒含む
217	R-27	17273	Ⅲ	土師器	环	口縁~底部	黑色	10.4	6.6	2.6	良	ミガキ	ミガキ		
218	R-22	5043	—	土師器	板	底部	黄灰色	—	6.6	—	良	ミガキ	ミガキ		
219	Q-19, R-20, 21	—	—	土師器	板	底部	黄灰色	—	6.8	—	良	ミガキ	ミガキ		
220	Q-20, 21	—	—	土師器	板	胴部~底部	黑色	—	7.4	—	良	ミガキ	ミガキ		
221	昭和32年 9月	—	—	土師器	板	胴部~底部	黑色	—	6.2	—	良	ミガキ	ミガキ		
222	R-19	—	—	土師器	板	底部	黑色	—	6.4	—	良	ミガキ	ミガキ		
223	R-22	2439	—	土師器	板	口縁部	(外)灰青色 (内)橙色	—	14.6	—	—	良	ナデ	ナデ	底部へ切り 小石粒含む
224	O-20	—	—	土師器	板	底部	(外)灰青色 (内)赤褐色	—	8.6	—	—	良	ナデ	ナデ	
225	R-22	2443	Ⅳ	赤色土と白い土	板	底部	(外)灰白色 (内)橙色	—	8.0	—	—	良	ナデ	ナデ	小石粒含む
226	—	—	—	土師器	板	口縁~底部	(外)橙色 (内)明るい緑色	—	16.0	8.0	5.0	良	ナデ	ミガキ	
227	O-20	6361	V	赤色土と白い土	环	口縁~底部	明るい緑色	—	15.5	7.0	4.0	良	ミガキ	ミガキ	
228	昭和38年 9月	—	—	土師器	环	口縁~底部	に、赤い緑色	14.8	7.6	4.4	良	ナデ	ミガキ		
229	昭和54年 9月	—	—	土師器	板	口縁部	(外)に、赤い緑色 (内)赤褐色	—	15.6	8.0	4.5	良	ミガキ	ミガキ	
230	昭和54年 9月	—	—	土師器	板	口縁~底部	(外)灰青色 (内)橙色	—	19.8	8.4	10.2	良	ミガキ	ミガキ	
231	R-23	21790	—	土師器	板	口縁部	(外)灰青色 (内)明るい緑色	—	10.4	—	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り 小石粒含む
232	R-22	9813	—	土師器	板	口縁部	(外)に、赤い緑色 (内)明るい緑色	—	15.0	—	—	良	ナデ	ミガキ	ヘラ切り
233	R-23	12924, 2924	—	土師器	板	口縁部	(外)に、赤い緑色 (内)に、赤い緑色	—	17.2	—	—	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り
234	R-19	—	—	土師器	板	口縁~底部	に、赤い緑色	—	8.0	—	—	良	ナデ	ミガキ	ヘラ切り



第63図 土師器17 墨書き土器

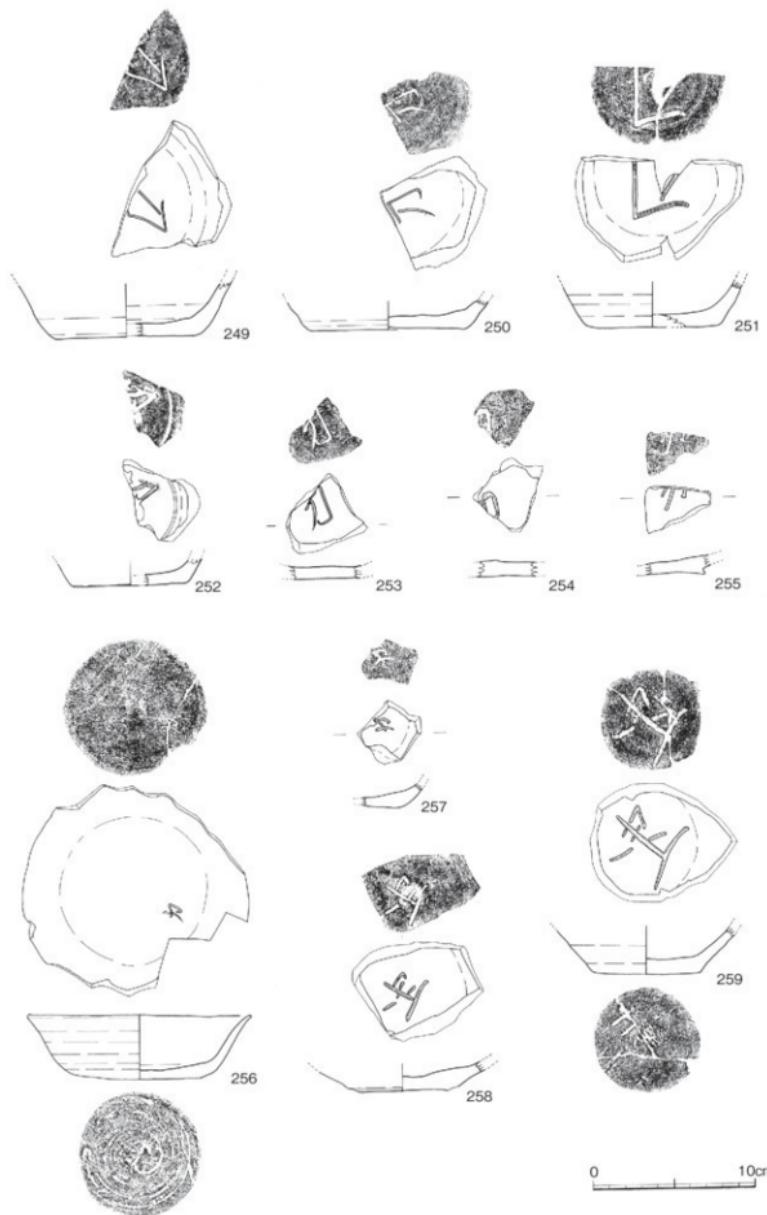
墨書き土器（第63図）

235～248は墨書き土器である。蓋・壺・椀に書かれている。墨書の位置は壺と椀については13点中1点が高台内面で、他は全て体部側面である。

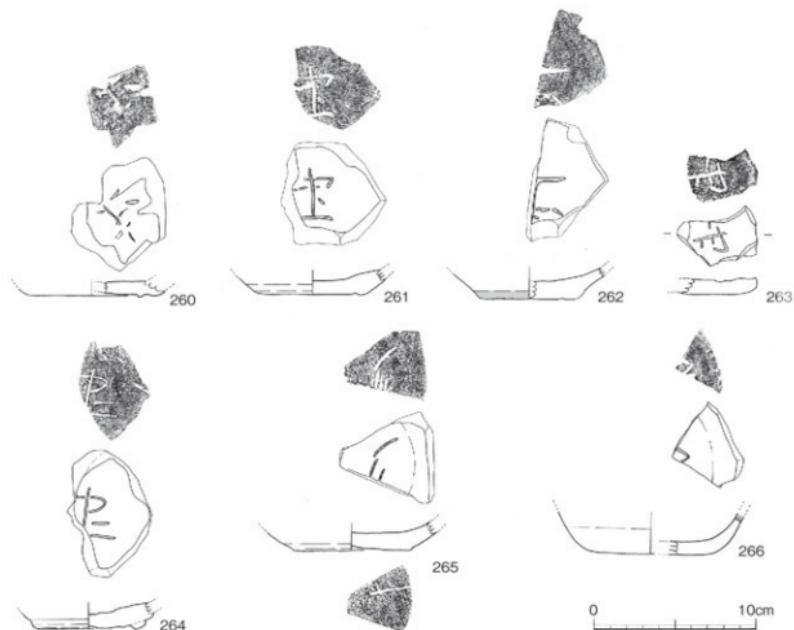
235～238は「刀」の文字が書かれたものである。235は蓋である。天井部に文字が書かれる。236～238は壺である。238は文字が逆位で書かれている。240は「宗」？の文字のように思われるが、判読に苦しい。241は「玉」の文字が書かれたものと思われる。その他242～248については、欠損等で文字の一部分しか残存していないため判読が難しい。247は高台内底に墨書が書かれたものである。

ヘラ書き土器（第64・65図）

249～266はヘラ書き土器である。土器の焼成前に、ヘラ状もしくは棒状の工具で文字を刻んだものを「ヘラ書き土器」として取り扱う。器種は掲載した18点中全てが壺で、文字は内面の見込みに刻まれている。



第64図 土師器18 ヘラ書き土器



第65図 土師器19 ヘラ書き土器

249～255は「刀」の文字が刻まれたものである。見込みに大きく刻まれる。256・257は「力」の文字が刻まれたものである。256は見込みの間に小さく刻まれるが、257は見込みに小さく刻まれる。258～264は「虫」と思われる文字が刻まれたものである。6画目の「」がやや離れた位置に刻まれることもあり、ややバランスの悪い形となっているが、すべての文字が見込み中央に大きく刻まれる。265・266については、判読不能である。

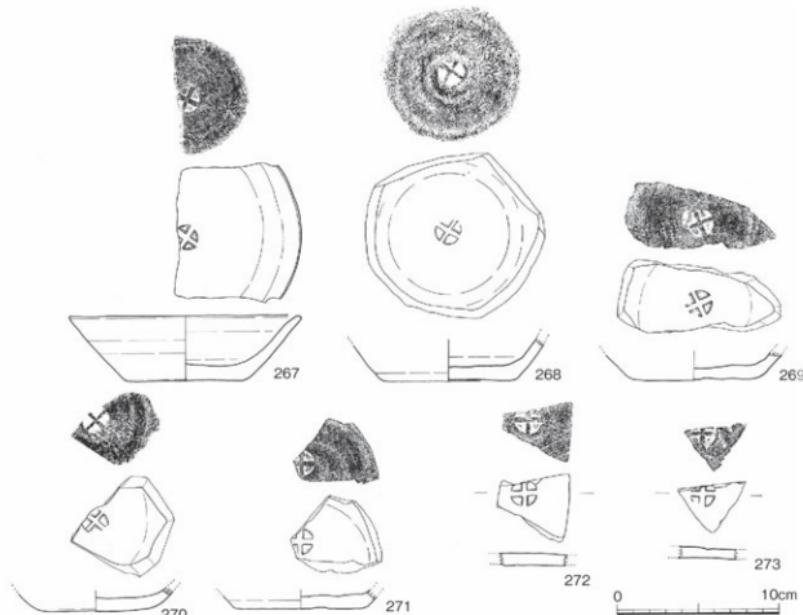
刻印土器（第66図）

267～273は刻印土器である。焼成前に、記号を彫り込んだスタンプ状の工具を押しつけて印を付けたものである。器種は全て壺で、記号は見込み中央に「○」の中に「十」が入った記号が刻印されている。

刻書土器（第67～69図）

274～311は刻書土器である。

焼成前に刻まれたヘラ書き土器と異なり、焼成後に先端が鋭利な工具により記号が刻まれたものを「刻書土器」とした。ヘラ書きの文字は太く深く刻まれ、粘土がたまためた部分が見られるのに対



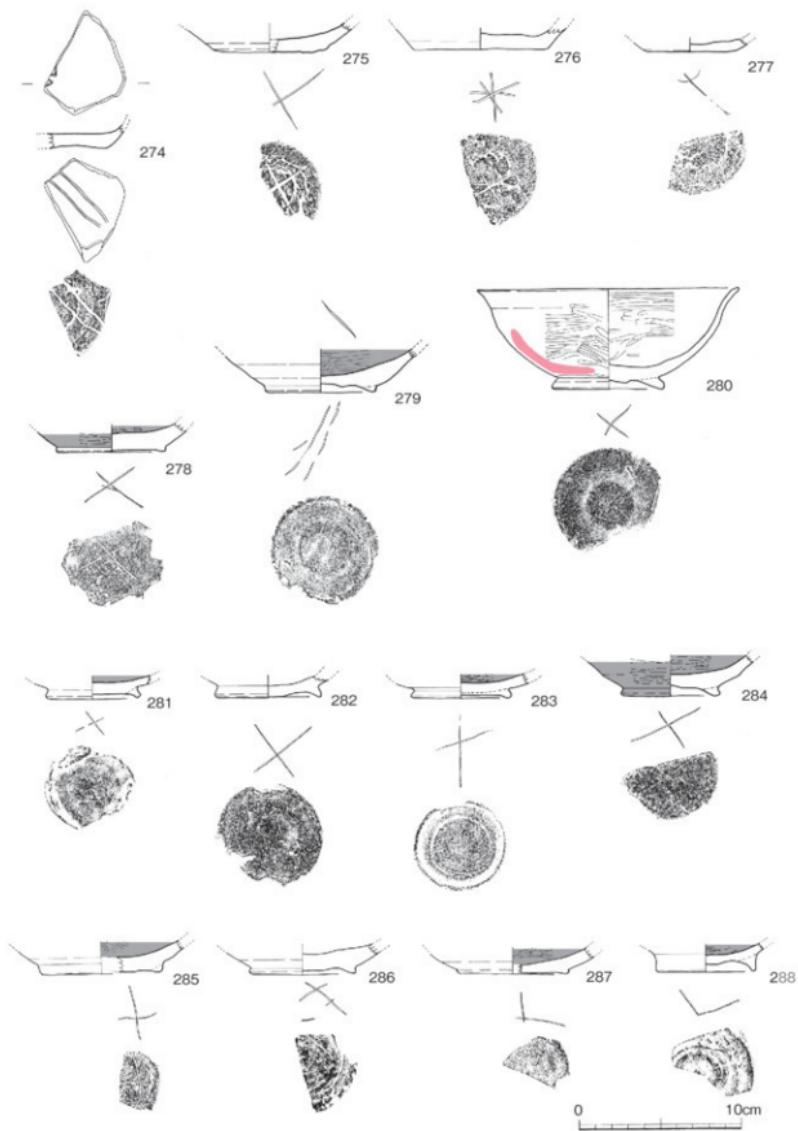
第66図 土師器20 刻印土器

して、刻書の場合は鋭く深い記号が刻まれる。器種は土師器の壺と黒色土器の椀であるが、掲載した38点中、壺は4点で他は全て黒色土器の椀である。記号の位置は、見込みと高台内面の2か所に刻まれるもののが1点、体部側面が1点の他は、全て高台内面の1か所である。

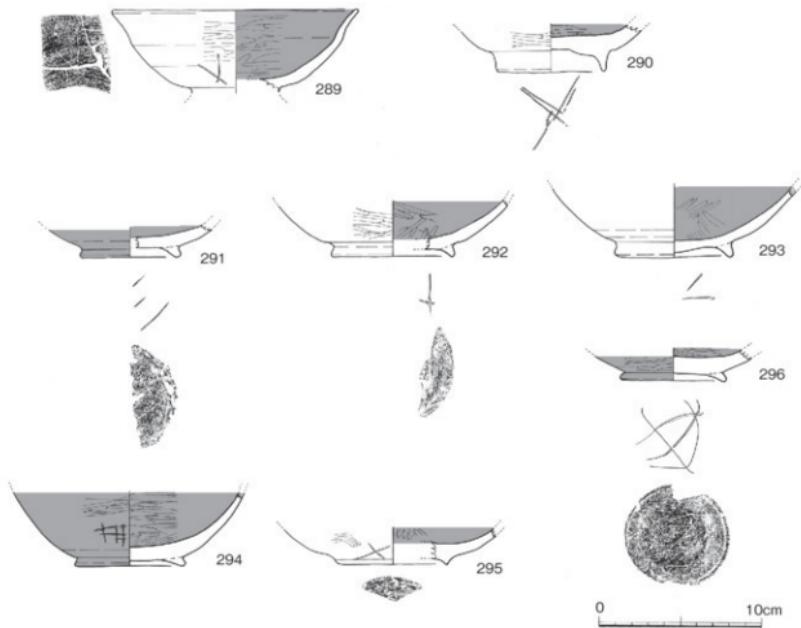
記号の種類については様様で、欠損のため詳細が判読不能なものもある。高台が短く低いもので、体部が曲線的に立ち上がるタイプの黒色土器に多く刻まれている。303~305については、焼成前に刻まれた可能性も考えられ、「田」の文字とも判読できる。

土器観察表7

件名 番号	出土地	測定番号	部位	種別	基種	部位	色調	法量(cm)				削土	焼成	説明	説明	備考	
								口径	底径	高さ	石英	長石	角閃石	その他			
235	S	-	-	黒色土器	壺	つまみ一鉢部	灰白色	-	-	-	○	○	○	○	ヘラサリ	ナデ	墨書き
236	R-19	6682	V	土師器	壺	口縁一底部	褐色	13.0	8.4	3.6	-	-	-	-	ナデ	ナデ	墨書き刀、赤色の石粒含む
237	P-19	6653	V	土師器	壺	口縁一底部	にじい黄褐色	12.2	6.7	3.9	-	-	-	○	ナデ	ナデ	ヘラサリ
238	QR-19	-18	-	黒色土器	壺	口縁一底部	薄青褐色	12.8	6.1	3.7	-	-	-	-	ナデ	ナデ	墨書き刀、赤色の石粒含む
239	R-18	5987	N	黒色土器	壺	口縁一底部	(外)灰白色 (内)褐色	14.0	7.5	4.6	-	-	-	-	ナデ	ナデ	墨書き刀、2×文字
240	-	-	-	土師器	壺	口縁一底部	(外)にじい褐色 (内)淡青褐色	12.0	6.4	3.5	-	-	-	○	ナデ	ナデ	ヘラサリ
241	R-22	19969	II	黒色土器	壺	口縁一底部	薄青褐色	13.0	8.0	4.7	-	-	-	-	ナデ	ナデ	ヘラサリ
242	T-19	4562	N層 直上	土師器	壺	口縁一底部	にじい褐色	13.0	8.3	3.8	-	-	-	○	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む
243	S	-	-	黒色土器	壺	口縁一底部	(外)にじい褐色 (内)淡青褐色	13.4	6.6	4.3	-	-	-	-	ナデ	ナデ	ヘラサリ
244	QP-19	-18	N	土師器	壺	口縁一底部	褐色	13.2	6.9	3.0	-	-	-	○	ナデ	ナデ	赤色の石粒含む
245	R-22	8819	II	黒色土器	壺	口縁一底部	淡青褐色	12.0	5.4	4.5	-	-	-	○	ナデ	ナデ	ヘラサリ
246	Q-19-20	-18	N	土師器	壺	鉢部一底部	にじい褐色	-	5.9	-	-	-	-	-	ナデ	ナデ	墨書き?
247	G-19	-18	N	黒色土器	壺	口縁一底部	(外)にじい褐色 (内)黑色	14.0	7.0	7.0	-	-	-	-	ナデ	ナデ	ヘラサリ
248	R-19	6498 6152	III V	土師器	壺	完形	淡褐色	15.0	8.2	5.3	-	-	-	-	ナデ	ナデ	小石粒含む



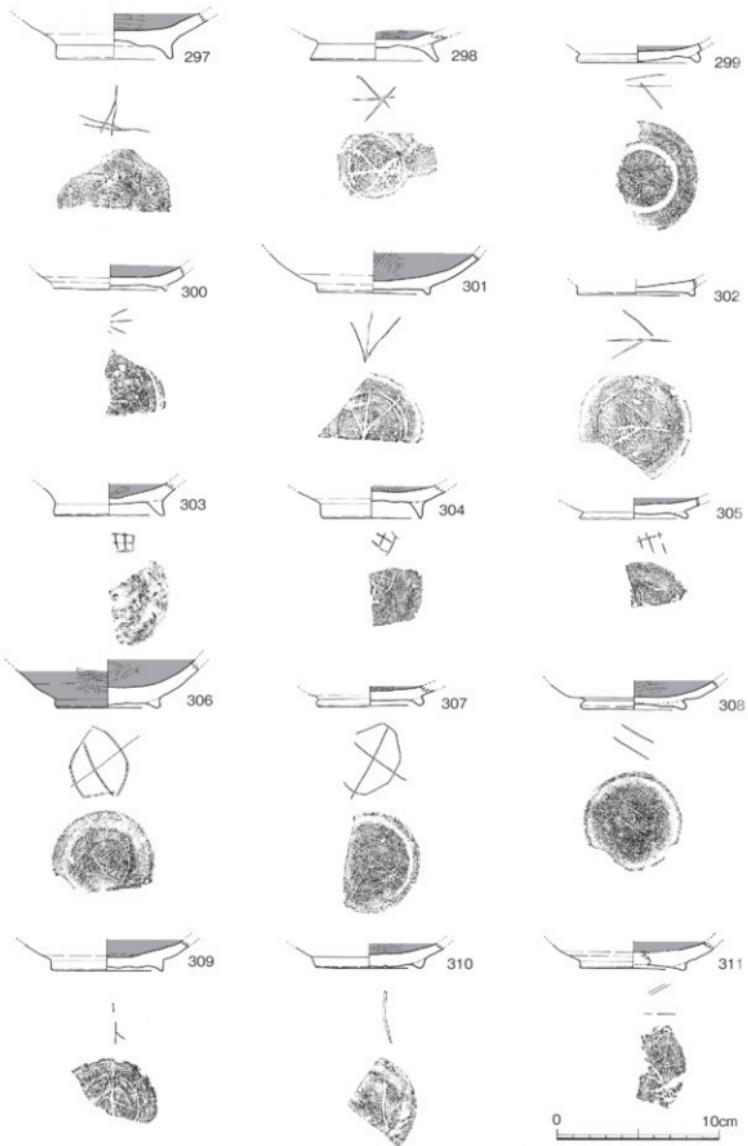
第67図 土師器21 刻書土器



第68図 土器22 刻書土器

土器観察表8

種別(番号)	出土区	表上番号	層位	種類	断面	部位	色調	法量(cm)	測定	測定	測定	測定	測定	測定	備考
								口径	底径	高さ	石墨	鉄石	角閃石	其他	
249	GR-19	-一括	III 六ノ字土器	坪	底部~全体	浅黄灰色	-	9.0	-		○	良	ナデ	ナデ	刀 小石粒含む 全体に石粒含む ヘラ切り
250	R-24	2075	III 六ノ字土器	坪	底部~全体	浅黄褐色	-	9.3	-		○	良	ナデ	ナデ	刀 深色の石粒含む ヘラ切り
251	S-19	4253 4537	IV層 直上 六ノ字土器	坪	底部~全体	灰白色	-	8.4	-		良	ナデ	ナデ	刀 ヘラ切り	
252	R-19	-一括	IV 六ノ字土器	坪	底部	灰白色	-	7.0	-		良	ナデ	ナデ	刀 ヘラ切り	
253	PQ-19	-一括	IV 六ノ字土器	坪	底部	灰白色	-	-	-		良	ナデ	ナデ	刀 ヘラ切り	
254	R-3T	1253	III 六ノ字土器	坪	底部	褐色	-	-	-	○	良	ナデ	ナデ	刀 ヘラ切り	
255	S-23	4906	IV 六ノ字土器	坪	底部	淡黄色	-	-	-		良	ナデ	ナデ	刀 ヘラ切り	
256	R-19	-一括	IV 六ノ字土器	坪	口縁~底部	浅黄褐色	13.8	7.8	4.0	○	良	ナデ	ナデ	カ 一部に朱?	八ノ字土器
257	R-27	19434	III 六ノ字土器	坪	底部~全体	褐色	-	-	-	○	良	ナデ	ナデ	カ 小石粒含む ヘラ切り	
258	O-19	6642	V 六ノ字土器	坪	底部~全体	灰白色	-	2.8	-		良	ナデ	ナデ	虫 ヘラ切り高台欠損	
259	-	-一括	VI 六ノ字土器	坪	底部~全体	灰白色	-	6.7	-	○	良	ナデ	ナデ	虫 ヘラ切り後ナデ	
260	-	-	VI 六ノ字土器	坪	底部	浅黄褐色	-	7.3	-	○	良	ナデ	ナデ	虫 ヘラ切り	
261	U-24	19587	III 六ノ字土器	坪	底部~全体	灰白色	-	6.0	-	○	良	ナデ	ナデ	虫 ヘラ切り	
262	R-22	6092	III 六ノ字土器	坪	底部~全体	浅黄褐色	-	3.1	-	○	良	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
263	-	-	VI 六ノ字土器	坪	底部	浅黄褐色	-	-	-	○	良	ナデ	ナデ	虫 ヘラ切り	
264	R-22	8819	III 六ノ字土器	坪	底部	浅黄褐色	-	6.0	-	○	良	ナデ	ナデ	虫 ヘラ切り	
265	O-19・20	-一括	IV 六ノ字土器	坪	底部~全体	灰白色	-	7.2	-	○	良	ナデ	ナデ	虫 ヘラ切り	通部にスミ ヘラ切り後ナデ
266	R-3T	1376	IV 六ノ字土器	坪	底部~全体	浅黄褐色	-	8.0	-	○	良	ナデ	ナデ	虫の石粒含む ヘラ切り後ナデ	



第69図 土師器23 刻書土器

土師器観察表9

登録番号	出土区	取上番号	層位	種類	基準	部位	色調	測量(cm)			測定者	測定日	備考
								口径	底径	高さ			
267	S-22	9945	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	口縁~底部	褐色	14.4	7.2	4.0	○	真 ナデ	○にナ ヘラ切り便 ナデ
268	S-21	5473	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)灰白色 (内)黄褐色	-	8.2	-	○	真 ナデ	○にナ ヘラ切り便 ナデ
269	QR-19	-15	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	に似る黄褐色	-	7.8	-	○	真 ナデ	○にナ ヘラ切り便 ナデ
270	R-20	-15	Ⅳ	土師器 刮削土器	坪	底部	に似る黄褐色	-	6.2	-	○	真 ナデ	○にナ ヘラ切り便 ナデ
271	RS-19	-15	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	に似る黄褐色	-	8.0	-	○	真 ナデ	○にナ ヘラ切り便 ナデ
272	Q-19-20	-15	Ⅳ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)に似る黄褐色 (内)に似る黄褐色	-	-	-	○	真 ナデ	○にナ ヘラ切り便 ナデ
273	-	-	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)に似る黄褐色 (内)に似る黄褐色	-	-	-	○	真 ナデ	○にナ ヘラ切り便 ナデ
274	R-22	2392	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	に似る黄褐色	-	-	-	○	真 ナデ	△赤色の石粒含む ヘラ切り便ナデ
275	S	-15	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	褐色	-	6.8	-	真	ナデ	ヘラ切り便ナデ
276	S-19	-15	V	土師器 刮削土器	坪	底部一部	灰白色	-	8.2	-	○	真 ナデ	ヘラ切り便ナデ
277	R-17	696	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)に似る褐色 (内)明褐色	-	6.0	-	真	ナデ	△赤色の石粒含む ヘラ切り便ナデ
278	PQ-20	-15	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)灰褐色 (内)暗褐色	-	6.6	-	真	ミガキ	△赤色
279	O-19	-15	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)灰褐色 (内)黒褐色	-	6.8	-	○	真 ナデ	ミガキ
280	QR-19, Q-20	-15	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	口縁~底部	に似る黄褐色	16.2	7.0	6.2	真	ミガキ	ミガキ
281	T-26	14416	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)浅黄褐色 (内)黒褐色	-	5.8	-	真	ミガキ	ミガキ
282	R-22	4199	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	に似る黄褐色	-	6.6	-	真	ナデ	ナデ
283	R-27	49	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)浅黄褐色 (内)黒褐色	-	6.2	-	○	真 ナデ	ミガキ
284	RQ-19	-15	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)灰褐色 (内)暗褐色	-	6.2	-	真	ミガキ	ミガキ
285	T-25	13602	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)浅黄褐色 (内)黒褐色	-	7.4	-	○	真 ナデ	ミガキ
286	R-519	-15	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)浅黄褐色 (内)黒褐色	-	6.4	-	○	真 ナデ	ミガキ
287	S	-	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)に似る黄褐色 (内)黒褐色	-	7.0	-	○	真 ナデ	ミガキ
288	S-23	3106	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)浅黄褐色 (内)黒褐色	-	6.4	-	真 ナデ	ミガキ	赤色の石粒含む
289	Q-19	-15	Ⅲ, Ⅳ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)灰褐色 (内)黒褐色	15.4	-	-	真	ミガキ	ミガキ
290	Q-19	-15	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)に似る黄褐色 (内)黒褐色	-	6.5	-	○	真 ナデ	ミガキ
291	S-15・16	-15	-	土師器 刮削土器	坪	底部	黒色	-	6.2	-	真	ミガキ	ミガキ
292	R-22	6501	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	脚部~底部	(外)灰褐色 (内)黒褐色	-	7.4	-	真	ミガキ	ミガキ
293	O-19	-15	Ⅲ, Ⅳ	土師器 刮削土器	坪	脚部~底部	(外)浅黄褐色 (内)黒褐色	-	7.3	-	○	真 ナデ	ミガキ
294	Q-18・19	-15	Ⅲ, Ⅳ	土師器 刮削土器	坪	底部	黒色	-	6.6	-	真	ミガキ	ミガキ
295	O-20	-15	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	脚部~底部	(外)灰白色 (内)暗褐色	-	7.0	-	真	ミガキ	ミガキ
296	S-19	-15	Ⅳ	土師器 刮削土器	坪	底部	黒色	-	6.2	-	真	ミガキ	ミガキ
297	T-26	18384	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)浅黄褐色 (内)黒褐色	-	7.2	-	○	真 ナデ	ミガキ
298	R-27	17894	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)浅黄褐色 (内)黒褐色	-	8.0	-	真	-	ミガキ
299	O-20	-15	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)灰白色 (内)黒褐色	-	7.6	-	真 ナデ	ミガキ	ミガキ
300	S-25	18002	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)浅黄褐色 (内)暗褐色	-	7.0	-	真 ナデ	ミガキ	ミガキ
301	R-27	11478	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)灰白色 (内)黒褐色	-	7.0	-	○	真 ナデ	ミガキ
302	R-27	13908	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)に似る黄褐色 (内)暗褐色	-	7.3	-	真 ナデ	ミガキ	赤色の石粒含む
303	S-23	2265	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	黒色	-	6.8	-	真 ナデ	ミガキ	ミガキ
304	S-27	18054	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)浅黄褐色 (内)黒褐色	-	6.2	-	○	真 ナデ	ミガキ
305	R-22	2500	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)に似る黄褐色 (内)浅黄褐色	-	6.8	-	真 ナデ	ミガキ	赤色の石粒含む
306	R-21	8700	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	黒色	-	6.6	-	真 ハケ目	ナデ	ナデ ハケ目
307	T-25	11262	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)に似る黄褐色 (内)黒褐色	-	6.6	-	真 ハケ目	ナデ ハケ目	ナデ ハケ目
308	S-27	19320	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	脚部~底部	(外)浅黄褐色 (内)黒褐色	-	6.7	-	○	真 ハケ目	ナデ ハケ目 ヘラツシリ
309	S-22	6124	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)灰白色 (内)暗褐色	-	7.0	-	○	真 ナデ	ミガキ
310	T-26	14825	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	淡黄色	-	6.6	-	○	真 ナデ	ミガキ
311	R-22	4546	Ⅲ	土師器 刮削土器	坪	底部	(外)灰黄色 (内)黒褐色	-	6.6	-	真 ナデ	ミガキ	赤色の石粒含む

甕（第70～79図）

本遺跡からは多数の土師器の甕が出土した。器形や内外面の調整方法によりVI類に分類した。

I類 口縁部は短く、器壁は厚手のものがほとんどであるが、薄手のものも見られる。

内面調整は内面のケズリ上端を水平にそろえる。そのため口縁部内面に明瞭な稜ができる。器形により、a 脇部が張らないもの、b 脇部が張るものに細分化した。

II類 口縁部が長く、器壁も薄いものが多い。調整は外面に継方向のハケ目が施される。内面は口縁部に回転ナデを施した後、口縁部と脇部の境に細いハケ目を入れ、脇部は斜め方向のケズリを施す。ケズリの先端は揃えない。器形により、a 脇部が張らないもの、b 脇部が張るものに細分化した。

III類 口縁部が長く、器壁は薄いものの厚いもののどちらも見られる。調整は、外面はヘラ状工具によるナデが継方向や横方向に施されるものがある。内面は斜め方向のヘラケズリが施され、ケズリの上端は揃えない。器形により、a 脇部が張らないもの、b 脇部が張るものに細分化した。

IV類 口縁が長く、器壁は薄い。調整は、外面がナデ、内面は口縁部から脇部中位まで回転ナデが施される。ヘラケズリは脇部下位から中位までとなる。器形により、a 脇部が張らないもの、b 脇部が張るものに細分化した。

V類 口縁部が長く、器壁は薄い。鍋状の器形を呈するものである。調整は、外面はヘラ状工具によりナデ、内面は横方向のヘラケズリが施される。

VI類 口径が20cm以下の小形の甕である。器壁は薄く、脇部はやや張り気味で、全体的に丸みを帯びる。調整は、外面がナデ、内面は斜め方向のヘラケズリが施される。ケズリの先端は平行に整えられないが、明瞭な稜が残る。

312～316はI a類である。312・313は器壁が薄いが、314～316は厚い。316は頸部の屈曲がほとんどないものである。317～319はI b類である。318は器壁が薄く、内面に横方向のケズリが施される。

320～328はII a類である。328以外は、口縁は細く長く伸びる。329～338はII b類である。脇部が丸く膨らむものである。338は丸い形状を呈する脇部である。

339～345はIII a類である。器壁は薄い。343は、内面調整のヘラナデの痕跡が強く残り、ヘラケズリのように見える。344は口縁部内面に回転ヘラナデの痕跡が強く残る。345は外面にヘラ状工具による横方向のナデが筋状に残るものである。346～353はIII b類である。器壁は厚い。353は口縁部のラインも歪んで、外面には指圧痕が観察される。

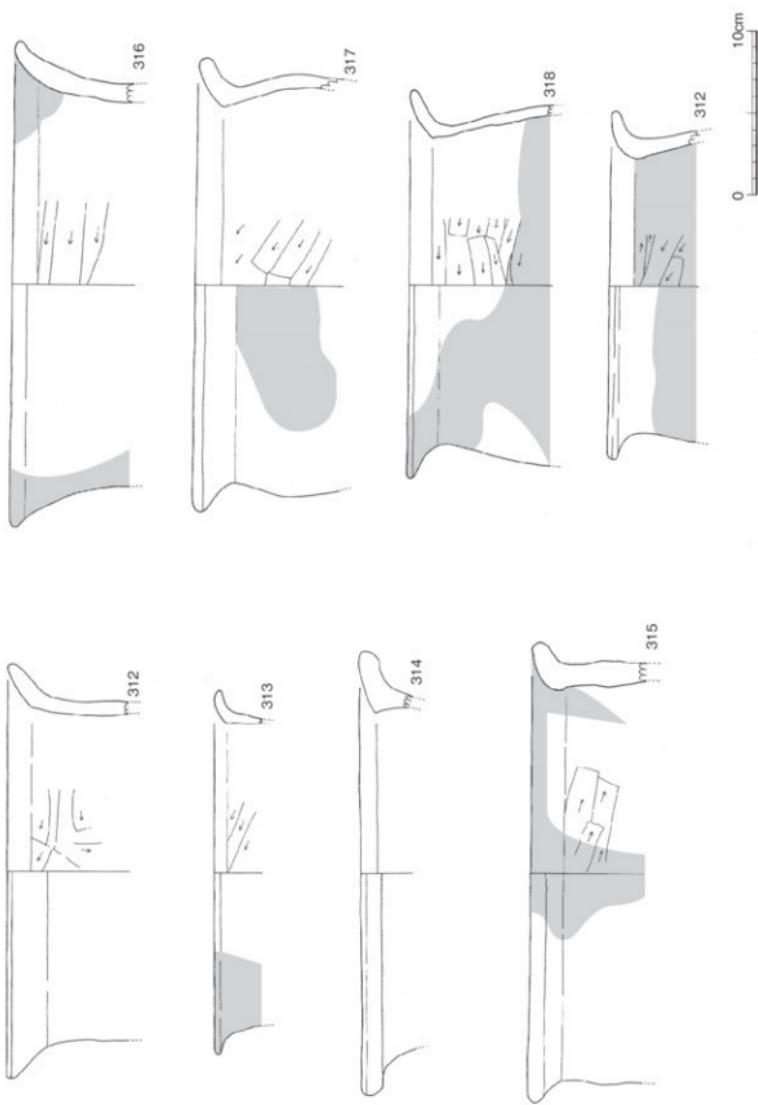
354～363はIV a類である。器壁は薄く、口縁部は長い。363はやや器壁が厚い。364～369はIV b類である。

370・371はV類である。

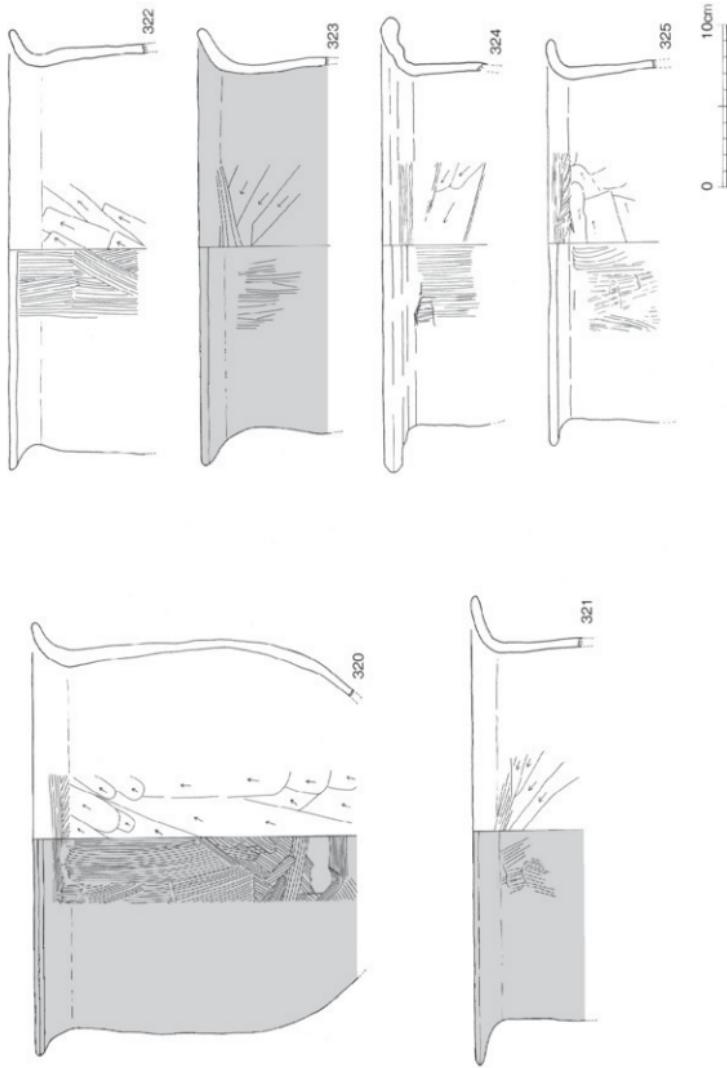
372・373は分類以外のものである。372は外面口縁部下位に把手が付いたものである。内面は口縁部下位までヘラケズリが施される。鉢とも捉えられるが、甕の範疇で取り扱った。373は甕の脇部である。器壁が厚く、外面にはヘラ状工具による細かいナデが施される。内面は横方向のヘラケズリが見られる。

374～381はVI類である。小形で、器壁も薄い。全体的に丸みをもつ形状で、底部も丸底である。

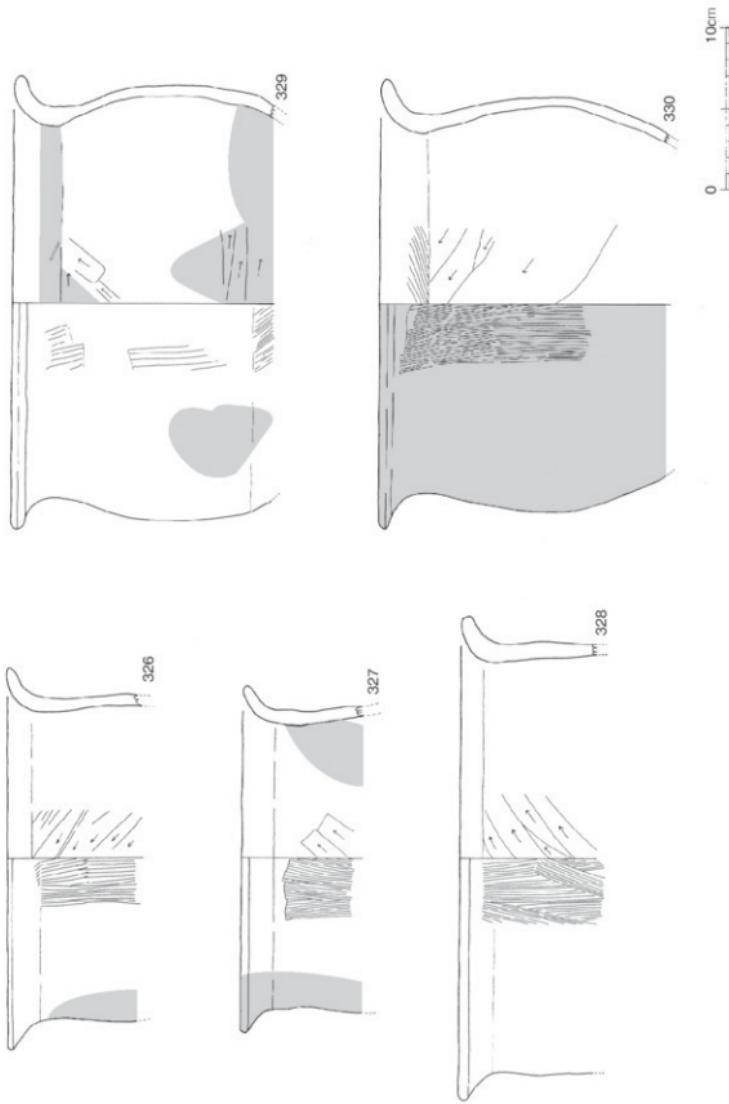
第70図 土師器24 甌



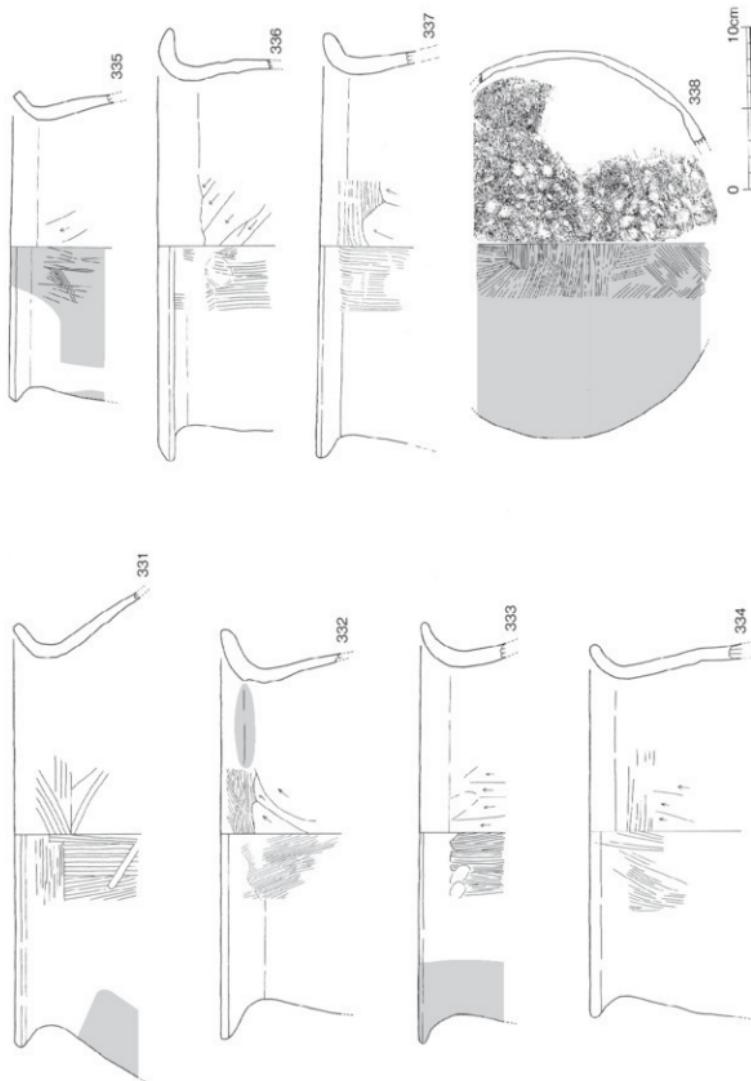
第71圖 土師器25 瓢



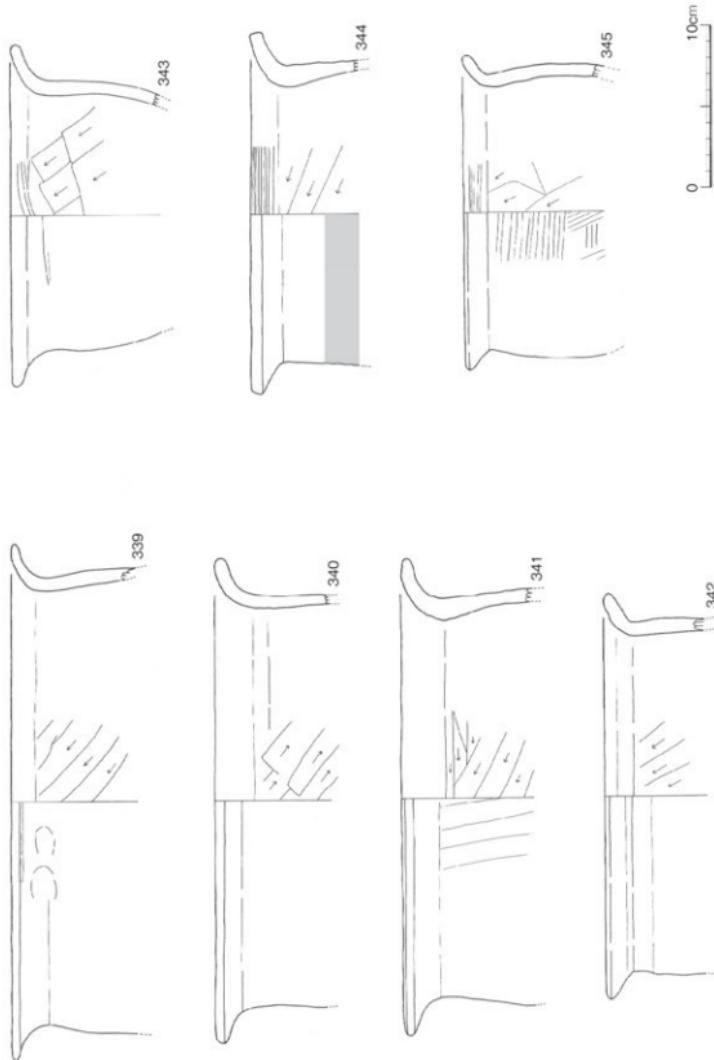
第72圖 土師器26 瓢



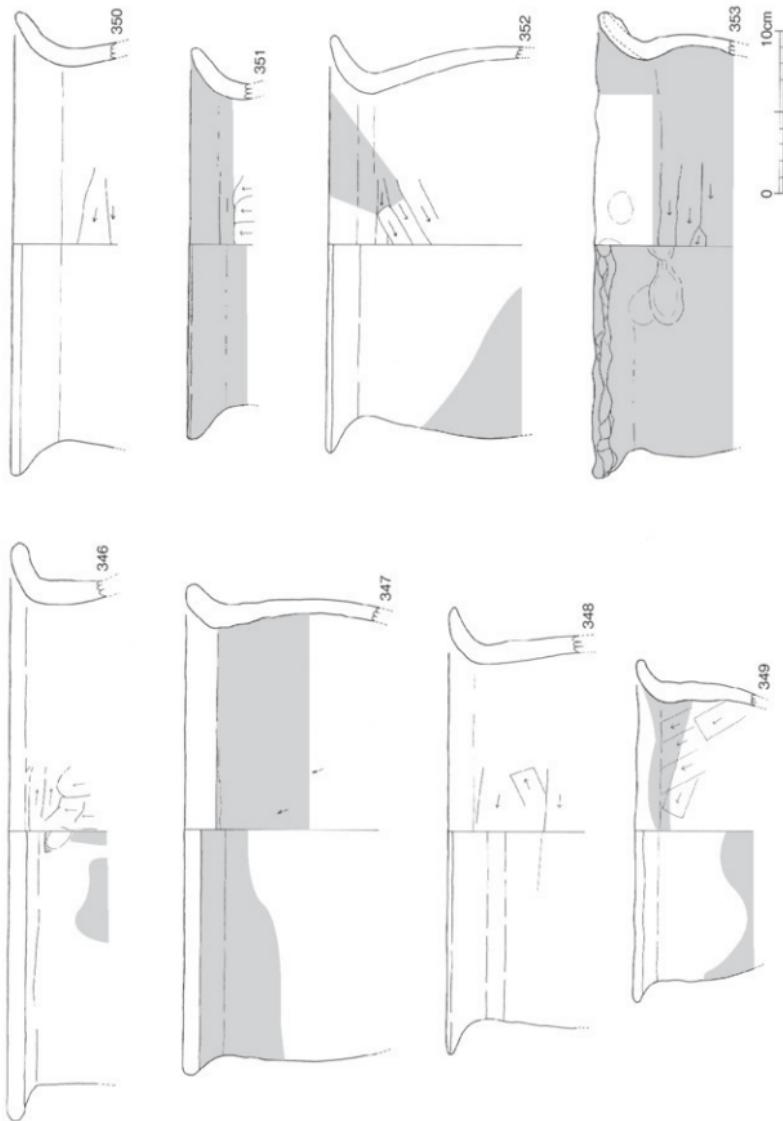
第73圖 土師器27 瓢

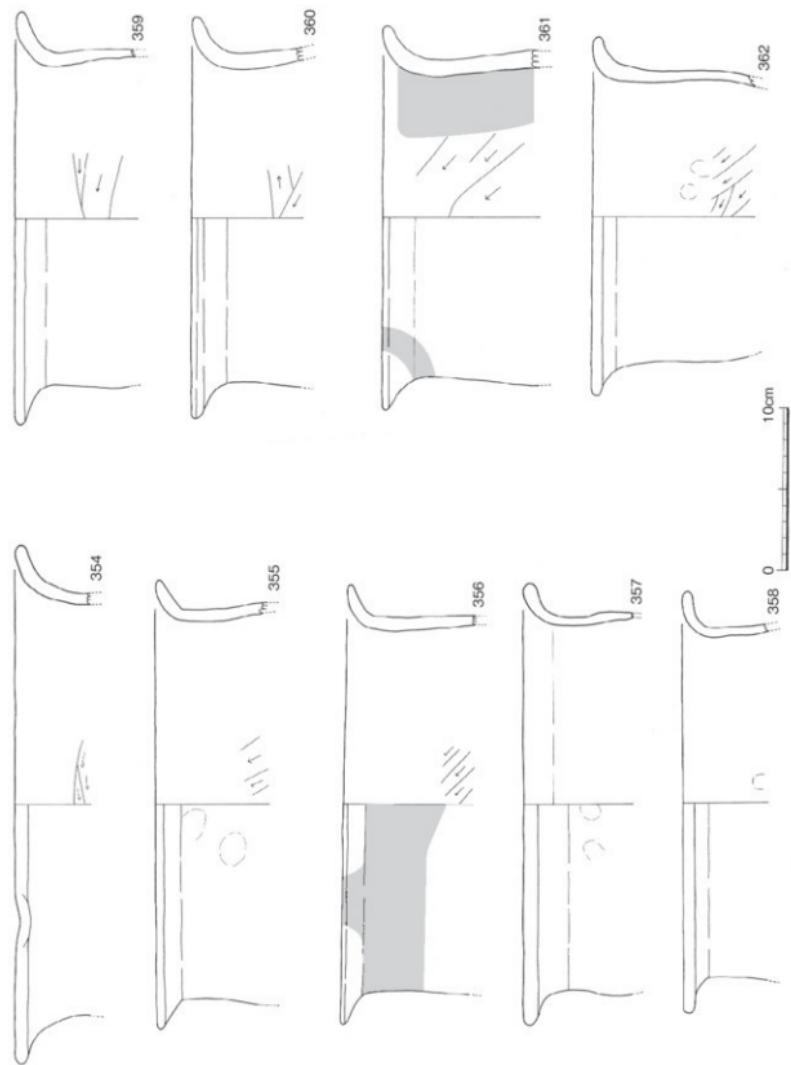


第74図 土師器28 瓢



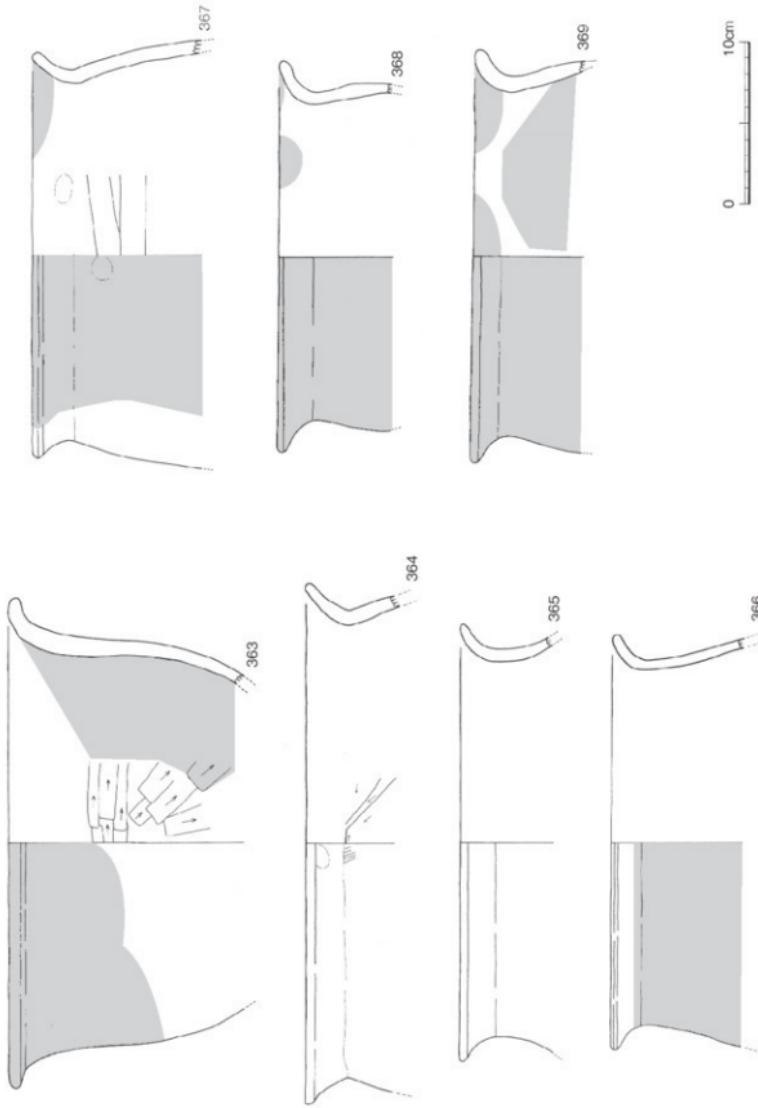
第75圖 土師器29 甌

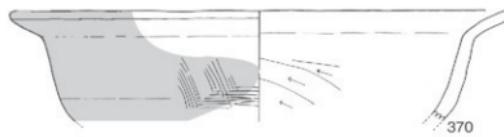




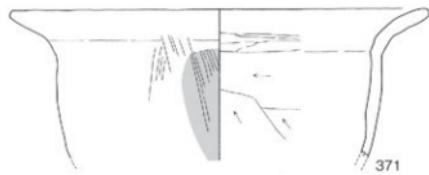
第76図 土師器30種

第77図 土師器31 瓢

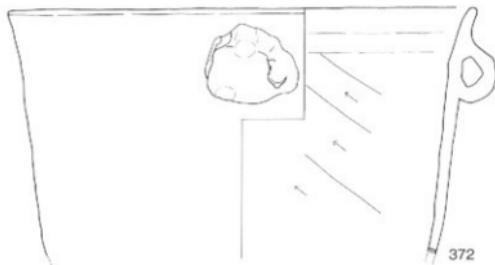




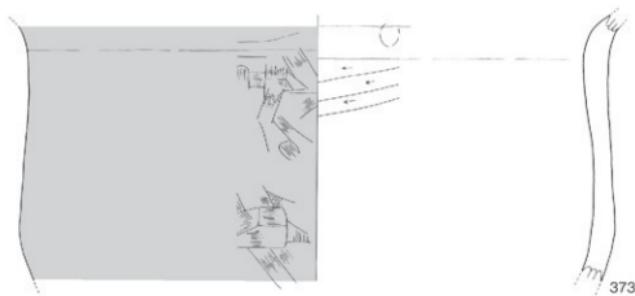
370



371



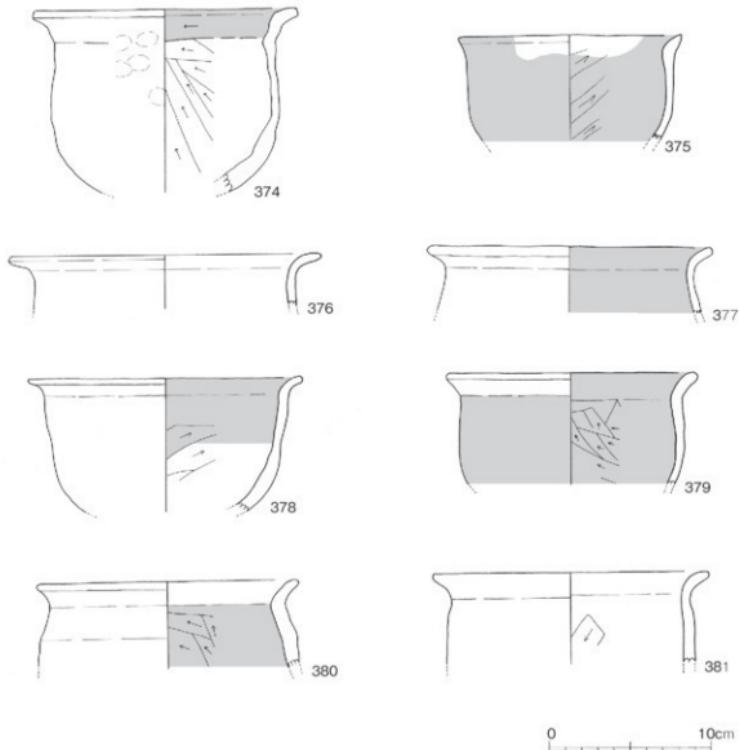
372



373

0 1 10cm

第78図 土師器32 頭



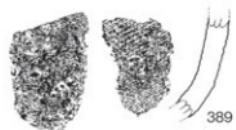
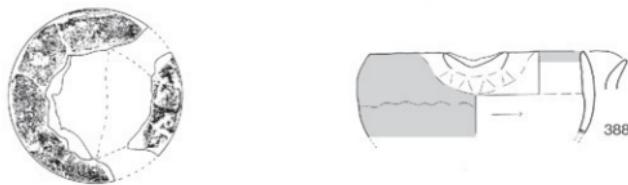
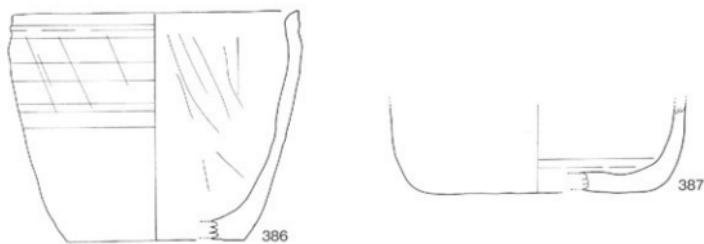
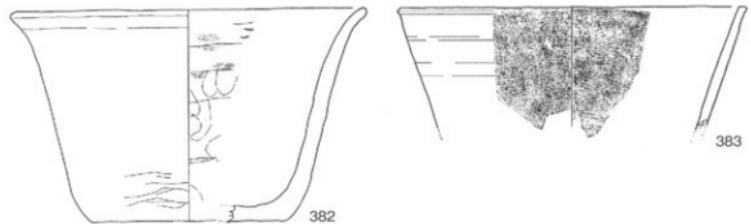
第79図 土師器33 頸

鉢（第80図）

382～388は土師器の鉢である。382～387はバケツ状の器形を呈するものである。382は口縁部がやや外反するもので、外面はヘラ状工具によるナデ調整が、内面はヘラミガキ後ナデ調整が施される。口縁部内面は回転ナデである。383は内外面とも回転ナデが施される。384・385・387は底部である。387は外底面に煤が付着する。386は口縁部がやや内湾するものである。内面は斜め方向のヘラケズリが口縁下位まで施される。388は片口部を有するものである。

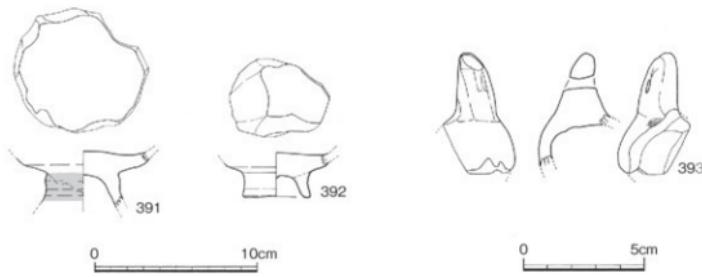
焼塩壺（第80図）

389・390は焼塩壺の胴部である。型作りで、2点とも内面に布目の圧痕が観察される。389の底部は丸底になると思われる。



0 10cm

第80図 土師器34 鉢・焼塙壺他



第81図 土器35 その他

その他（第81図）

391は高壺の脚部と思われるものである。392は高壺の脚部を短くしたような形状のものである。393は土製品で土鉢と思われる。

紡錘車（第82図）

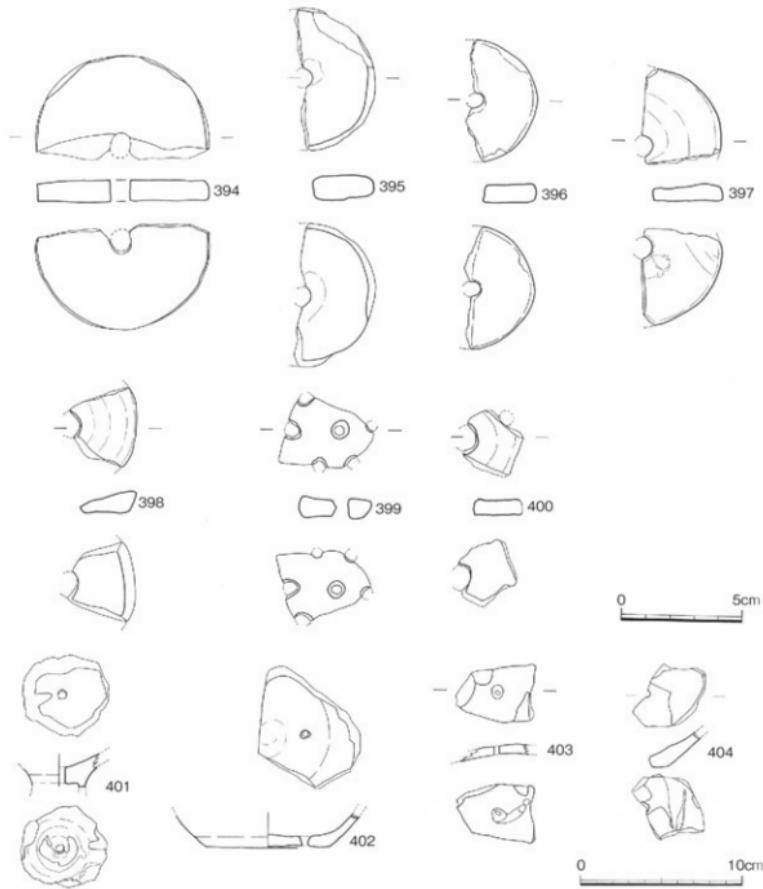
394～404は紡錘車である。394～398は円盤状のもので、中央に穿孔があけられる。394は両面とも丁寧に磨かれている。399・400は2か所以上の穴があけられているもので、紡錘車ではない可能性もある。401～404は椀や壺を紡錘車に転用する製作途中のものである。底部に穿孔を施し、周辺を打ち欠いているが、失敗したものと思われる。

土錘（第83図）

405～439は土錘である。土錘は大量に出土している。本遺跡の近くにある海や川で漁労を行っていたと考えられる。古代のものと中世のものとの分類が不可能であったため、まとめて掲載しておきたい。土錘の形状は、大・小、長・短、中心部が膨らむものと筒状のもの等様様である。網に通したためか、先端部が破損しているものが目立つ。

土器観察表10

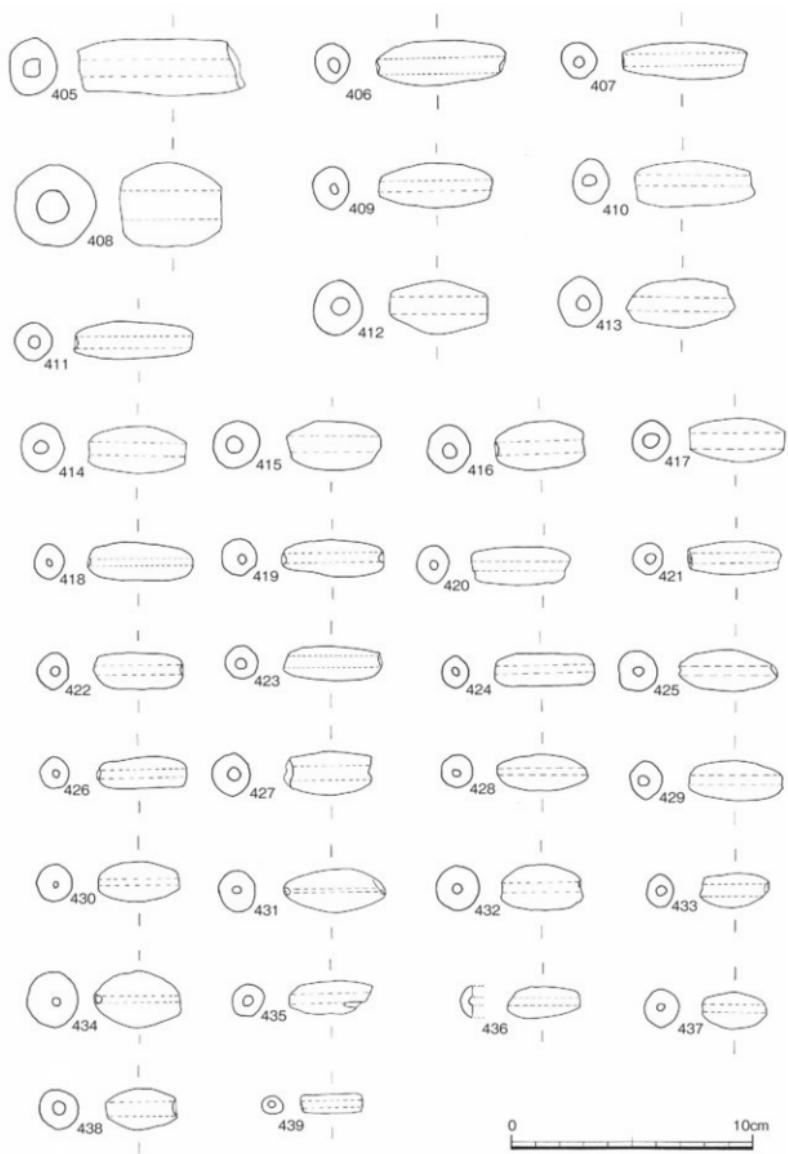
登録番号 通年番号	出土区	取上番号	層位	種別	基盤	部位	色調	法量(cm)		削土	地成	調整		備考
								口径	底径	高さ	石英	石英	外面	内面
312	1-20	-	V	土鉢	便	口縁部	こぶし形	25.0	-	-	良	ナデ	ナシ	ナシ
313	QR-19	-	V	土鉢器	便	口縁部	(内)に少い黄褐色	22.2	-	-	○	良	ナデ	ナシ
314	S-19	-	V	土鉢器	便	口縁部	こぶし形	27.0	-	-	○	良	ナデ	ナシ
315	T-25	1201, 12510, 12672	V	土鉢器	便	口縁部	(外)に褐色	28.0	-	-	○	良	ナデ	ナシ
316	S-19-20	-	V	土鉢器	便	口縁部	褐色	29.6	-	-	○	良	ナデ	ナシ
317	Q-19-20	-	V	土鉢器	便	口縁部	こぶし形	27.6	-	-	○	良	ナデ	ナシ
318	Q-19	6379	V	土鉢器	便	口縁部	(外)に少い褐色 (内)に少い黄褐色	23.6	-	-	○	良	ナデ	ナシ
319	QR-19	-	-	土鉢器	便	口縁部	(内)に少い褐色 (内)に少い黄褐色	21.2	-	-	○	良	ナデ	ナシ
320	Q-19-20	6309	N, V	土鉢器	便	口縁一部	(外)灰褐色(内)灰黃褐色	26.6	-	-	○	良	ハラミナデ	ナシ
321	Q-19	6631	V	土鉢器	便	口縁部	(外)灰褐色(内)灰褐色	28.0	-	-	○	良	ハラミナデ	ナシ
322	R-23	6731, 6738, 6865	V	土鉢器	便	口縁部	(外)に少い褐色 (内)に少い黄褐色	27.0	-	-	○	良	ハラミナデ	ナシ
323	R-10	1819	-	土鉢器	便	口縁部	褐色	28.6	-	-	○	良	ハラミナデ	ナシ
324	-	-	-	土鉢器	便	口縁部	灰褐色	28.0	-	-	○	良	ハラミナデ	ナシ
325	O-20	6345	V	土鉢器	便	口縁部	こぶし形	25.0	-	○	良	ハラミナデ	ナシ	
326	R-23	19809	V	土鉢器	便	口縁部	(外)灰褐色(内)褐色	23.4	-	-	○	良	ナシ	ハケ目
327	S-	-	-	土鉢器	便	口縁部	(外)灰褐色(内)灰褐色	21.2	-	-	○	良	ハラミナデ	ナシ
328	R-23	10274, 10285	V	土鉢器	便	口縁部	褐色	29.2	-	-	○	良	ハケ目	ナシ
329	Q-19-19	6377	V	土鉢器	便	口縁一部	こぶし形	27.8	-	-	○	良	ハケ目	ナシ
330	Q-19	6632	V	土鉢器	便	口縁一部	(外)灰褐色(内)灰褐色	27.6	-	-	○	良	ハラミナデ	ナシ
72	72													内面にスス有り
														小石粒含む



第82図 土師器36 紡錘車

土師器鉢表11

登記番号	出土区	取上番号	層位	種別	基種	部位	色調	測量 (cm)		削 成	調査	備考		
								口径	高径	底面	石英	長石	角閃石	その他
331	O-20	6339	V	土師器	甕	口縁部	にふい 黄褐色	26.0	—	—	○	真	ナデ	ハケ目
332	O-20	6355	V	土師器	甕	口縁部	にふい 黄褐色	25.2	—	—	○	真	ナデ	ハケ目
333	O-19-20	—	N	土師器	甕	口縁部	(外) にふい 黄褐色 (内) 洗黄色	26.0	—	—	○	真	ハケ目	ハケ目
334	S-20	819, 6461,	2609	N.V.	土師器	甕	(外) 灰白色 (内) 明褐色	23.0	—	—	○	真	ナデ	ハケ目
	Q-18-19, 20	6370	V	土師器	甕	口縁部	にふい 黄褐色	18.6	—	—	○	真	ナデ	ハケ目
335	Q-18-19, 20	—	—	土師器	甕	口縁部	(外) にふい 黄褐色 (内) 明褐色	26.6	—	—	○	真	ハケ目	ハケ目
	R-23	7204, 4349	I	土師器	甕	口縁部	にふい 黄褐色	25.6	—	—	○	真	ナデ	ハケ目
336	—	—	—	土師器	甕	底面	(外) にふい 黄褐色 (内) 洗黄色	—	—	—	—	真	ナデ	ハケ目
	337	—	—	土師器	甕	口縁部	にふい 黄褐色	25.6	—	—	○	真	ナデ	ハケ目
338	Q-19	—	—	土師器	甕	底面	(外) にふい 黄褐色 (内) 洗黄色	—	—	—	—	真	ハケ目	ハケ目
	339	PQ-18-19	—	—	土師器	甕	にふい 黄褐色	31.8	—	—	○	真	ナデ	ハケアリ
340	R-19	6557	V	土師器	甕	口縁部	(外) にふい 黄褐色 (内) にふい 堆積物	29.8	—	—	○	真	ナデ	ハケアリ
	—	—	—	土師器	甕	底面	にふい 黄褐色	—	—	—	—	真	ナデ	ハケアリ



第83図 土錘

土師器観察表2

採集場所(年月日)	出土区	取上番号	層位	種別	岩相	部位	色調	測量(cm)			測定	備考
								口径	底径	周長		
341	Q-20	6344	V	土師器	便	口縁部	[外]に少し褐色 [内]に少し黄褐色	29.6	-	-	○	良 ハラナテ ハラカツリ ナデ
342	-	-	-	土師器	便	口縁部	に少し褐色	25.0	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ ナデ
343	QR-18・19	-	-	土師器	便	口縁部	浅黄褐色	21.0	-	-	○	良 ハラカツリ ナデ
344	-	-	-	土師器	便	口縁部	[外]浅黄色 [内]灰白色	22.4	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ ナデ
345	S-22	20722	II	土師器	便	口縁部	[外]に少し褐色 [内]に少し褐色	19.4	-	-	○	良 ハラナテ ハラカツリ ナデ
346	-	-	-	土師器	便	口縁部	灰白色	35.6	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ ハラナテ
347	T-24・25	201/208/204 209/205	III	土師器	便	口縁一部部	に少し褐色	29.8	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ ナデ
348	5-19	-	IV	土師器	便	口縁部	[外]に少し褐色 [内]に少し褐色	27.6	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ ナデ
349	Q-18	6664	V	土師器	便	口縁部	灰黄色	21.0	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ ナデ
350	Q-19・20	-	-	土師器	便	口縁部	に少し黄褐色	28.6	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ ナデ
351	T-19	-	-	土師器	便	口縁部	[外]に少し褐色 [内]に黄褐色	24.0	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ ナデ
352	S-19・20 T-19	3055/3063	II, III	土師器	便	口縁部	[外]褐色 [内]褐色	24.8	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ ナデ
353	S-19	3959	V	土師器	便	口縁部	[外]黑色 [内]暗黑色	28.6	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ ナデ
354	R-22	9292/9435	III	土師器	便	口縁部	に少し褐色	36.0	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
355	T-20	3008/3054	IV	土師器	便	口縁部	[外]褐色 [内]深褐色	27.8	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
356	T-20	3978	V	土師器	便	口縁部	[外]に少し褐色 [内]明褐色	27.2	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
357	R-22	5410	III	土師器	便	口縁部	[外]浅褐色 [内]に少し褐色	27.2	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
358	R-27	19207	III	土師器	便	口縁部	浅褐色	26.0	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
359	T-19	-	V	土師器	便	口縁部	に少し褐色	19.0	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
360	Q-19	-	-	土師器	便	口縁部	灰褐色	24.8	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
361	S-20	-	-	土師器	便	口縁部	[外]褐色 [内]暗灰色	23.4	-	-	○	良 ハラカツリ ハラナテ
362	S-19・19, PG-19	2074	I, II, V	土師器	便	口縁一部部	に少し褐色	22.0	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
363	R-21	21745	III	土師器	便	口縁一部部	に少し褐色	30.0	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
364	-	-	-	土師器	便	口縁部	浅褐色	32.0	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
365	T-20	3003/3017	II, IV	土師器	便	口縁部	に少し褐色	27.0	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
366	R-19	-	IV	土師器	便	口縁部	[外]に少し褐色 [内]褐色	25.6	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
367	T-19	-	-	土師器	便	口縁部	[外]に少し褐色 [内]黄褐色	25.0	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
368	-	-	-	土師器	便	口縁部	浅褐色	24.0	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
369	PD-05.05. (8.6)	-	-	土師器	便	口縁部	[外]褐色 [内]灰褐色	25.4	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
370	R-19	6581	V	土師器	便	口縁部	[外]に少し褐色 [内]に黄褐色	30.6	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ ハラカツリ
371	R-23	6409/9638	III	土師器	便	口縁一部部	に少し褐色	25.6	-	-	○	良 ハラナテ ハラカツリ
372	RS-19	-	-	土師器	便	口縁一部部	[外]に黄褐色 [内]明褐色	29.0	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
373	-	-	-	土師器	便	脚	脚	-	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
374	R-22	229/2660 293/2396	III	土師器	便	口縁一部部	[外]褐色 [内]に少し褐色	16.2	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ ハラカツリ
375	-	-	-	土師器	便	口縁一部部	外 黄褐色	13.6	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
376	F-19	-	IV	土師器	便	口縁部	[外]灰褐色 [内]灰褐色	19.2	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
377	07.10.30.19	-	-	土師器	便	口縁部	[外]に少し褐色 [内]褐色	17.6	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
378	Q-22	7742/7571, 7570	III	土師器	便	口縁部	に少し黃褐色	17.0	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
379	QR-18・19	-	-	土師器	便	口縁一部部	[外]に少し褐色 [内]褐色	15.4	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
380	QR	-	-	土師器	便	口縁部	[外]に少し褐色 [内]褐色	16.2	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
381	R-22	PD-05.05. 6535	III	土師器	便	口縁部	[外]に少し褐色 [内]黄褐色	17.0	-	-	○	良 ナデ ハラカツリ
382	R-23	6715, 6716, 6717, 7635	III	土師器	計	口縁一部部	褐色	21.4	12.4	13.0	○	良 ハラカツリ ハラカツリ ハラナテ ハラカツリ
383	R-19	6519, 6520	V	土師器	計	口縁一部部	[外]に少し褐色 [内]明褐色	21.6	-	-	○	良 ナデ ナデ
384	Q-19・20	-	-	V	土師器	計	底部	[外]に少し褐色 [内]灰褐色	-	10.4	○	良 ナデ ナデ
385	-	-	-	土師器	計	底部	灰褐色	-	7.8	-	○	良 ナデ ナデ
386	T-25	1933.1897, 1447.2.1934 1935.2.1935 1936.2.1936	III, IV	土師器	計	口縁一部部	に少し褐色	17.6	10.8	-	○	良 ハラナテ ハラカツリ
387	RS-19	-	-	II	土師器	計	脚部一部部	[外]灰褐色 [内]に黄褐色	-	14.6	○	良 ナデ ナデ
388	-	-	-	土師器	片口	口縁一部部	に少し黄褐色	13.4	-	-	○	良 ナデ ナデ
389	-	-	-	土師器	施塗器	脚部	赤褐色	-	-	-	○	良 ナデ 布目座
390	R-22	5437	II	土師器	施塗器	脚部	赤褐色	-	-	-	○	良 布目座
391	-	-	-	II	土師器	高坏?	脚部	灰白色	-	-	○	良 ナデ ナデ
392	T-19	-	-	II	土師器	高坏?	底部	に少し褐色	-	4.2	○	良 ナデ ナデ
393	R-24	11665	II	土師器	土器	-	浅黄褐色	-	-	-	○	良 - 土器

土師器観察表13

探査番号	揭露番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	色調	法量(cm)		備考
								径	厚さ	
第82回	394	Q-22	9795	Ⅲ	土師器	紡錘車	にぶい黄橙色	0.7	0.9	
	395	QR-19	—	Ⅲ	土師器	紡錘車	褐色	—	1.0	
	396	T-19	3150	N	土師器	紡錘車	褐灰色	—	0.8	
	397	Q-19	—	Ⅱ	土師器	紡錘車	にぶい黄橙色	—	0.7	
	398	R-22	2564	Ⅲ	土師器	紡錘車	浅黄橙色	—	0.5	
	399	R-21	7719	Ⅲ	土師器	紡錘車	にぶい褐色	—	0.9	
	400	QR-18	—	N	土師器	紡錘車	にぶい赤褐色	—	0.6	
	401	R-20	—	—	土師器	紡錘車	灰色	7.6	1.1	赤色の石粒含む
	402	—	—	—	土師器	紡錘車	浅黄橙色	—	0.7	
	403	S21	5211	Ⅱ	土師器	紡錘車	(外) 黄褐色 (内) 黒色	—	0.5	
	404	S22	2724	Ⅲ	土師器	紡錘車	明黄褐色	—	0.9	

土師器観察表14

探査番号	揭露番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	色調	法量(cm)		備考
								長さ	厚さ	
第83回	405	T-24	13341	Ⅱ	土師器	土錐	灰黄色	6.5	2.2	
	406	S-19	—	N	土師器	土錐	淡黄色	5.3	1.4	
	407	S-20	4	N	土師器	土錐	灰黄褐色	5.1	1.5	
	408	Q-22	7559	Ⅱ	土師器	土錐	にぶい黄橙色	4.2	3.3	
	409	Q-19	—	N	土師器	土錐	灰白色	4.7	1.5	
	410	S-26	18699	Ⅲ	土師器	土錐	褐色	4.8	1.5	
	411	S-23	—	Ⅲ	土師器	土錐	にぶい黄橙色	4.9	1.5	
	412	R-23	—	—	土師器	土錐	明黄褐色	4.1	2.0	
	413	T-26	14035	Ⅱ	土師器	土錐	浅黄色	4.5	1.7	
	414	S-27	16399	Ⅲ	土師器	土錐	灰白色	4.0	1.7	
	415	RS-19	—	Ⅲ	土師器	土錐	灰白色	3.8	1.9	
	416	S	—	N	土師器	土錐	灰白色	3.6	1.8	
	417	SR-21	—	—	土師器	土錐	浅黄色	3.9	1.6	
	418	R-19	—	N	土師器	土錐	灰黄色	4.3	1.3	
	419	S-16	—	I	土師器	土錐	にぶい黄橙色	4.2	1.5	
	420	U-24	18554	Ⅲ	土師器	土錐	褐色	3.9	1.3	
	421	R-25	—	—	土師器	土錐	灰黄色	3.8	1.3	
	422	QR-19	—	—	土師器	土錐	にぶい黄橙色	3.6	1.3	
	423	P-19	Q-20	—	土師器	土錐	灰白色	4.0	1.3	
	424	QR-18・19	—	Ⅲ	土師器	土錐	にぶい黄橙色	4.1	1.1	
	425	S-1T	1195	Ⅱ	土師器	土錐	褐黒色	4.0	1.6	
	426	PQ-19	—	Ⅲ	土師器	土錐	淡黄色	3.7	1.2	
	427	S-24	20049	Ⅲ	土師器	土錐	にぶい黄橙色	3.4	1.6	
	428	Q-20	—	Ⅱ	土師器	土錐	灰白色	3.7	1.3	
	429	R-20	—	N	土師器	土錐	黒色	3.9	1.4	
	430	S-21	4910	Ⅲ	土師器	土錐	黄褐色	3.3	1.5	
	431	R-22	—	—	土師器	土錐	浅黄色	4.2	1.5	
	432	T-19	7	Ⅲ	土師器	土錐	にぶい黄橙色	3.3	1.8	
	433	T-25	19082	Ⅲ	土師器	土錐	褐色	2.7	1.5	
	434	R-18	—	N	土師器	土錐	灰黄色	3.5	2.1	
	435	S-25	11978	Ⅱ	土師器	土錐	にぶい黄橙色	3.3	1.3	
	436	U-25	19021	Ⅲ	土師器	土錐	にぶい黄橙色	3.0	—	
	437	S-22	6772	Ⅱ	土師器	土錐	黒色	2.7	1.4	
	438	T-20	—	V	土師器	土錐	灰白色	2.9	1.6	
	439	Q-23	20212	Ⅲ	土師器	土錐	浅黄橙色	2.5	0.8	

須恵器（第84～102図）

須恵器は蓋、壺、椀、壺、甕、鉢等が出土している。本遺跡の須恵器の特徴としては、その色調が挙げられる。一般的な須恵器の色調である灰色のものは少なく、褐色もしくは橙色のものが多く見られる。還元焼成ではなく酸化がかかってしまったものと思われるが、土師器との区別がつきにくいものもある。そのため、甕では淡黄色のものも見られる。

蓋（第84図）

1～18は蓋である。1～5は、胎土の色調が褐色を呈するもので、黒色の火摺が観察される。つまみは平坦な宝珠状を呈する。6は箱形を呈する蓋である。白色の小石粒が多く混じる。7は輪状のつまみを有するものである。8は天井部が平らで、天井部までの高さが低いものである。9～13は、天井部までの高さが高いものである。つまみは平たい宝珠状のものが付く。14～16は天井部がやや凹む形状を呈するものである。つまみは14が宝珠状を呈し、15・16は平たい宝珠状を呈する。17は天井部がなだらかに傾斜する形状のものである。18は宝珠状のつまみ部である。

壺（第85図）

19～42は壺である。底部は平底で、底部切り離しはヘラ切りである。19～27は口径と底径の差が小さく、器形が箱形を呈するものである。21～24・27は外面体部と底部の境に回転ヘラケズリを施す。28～34は、底径と口径の差がやや大きくなるものである。体部は直線的に延び、口縁部でやや外反する。外面はナデ調整が施される。29は体部と底部の境を回転ヘラケズリする。35は口縁部である。36～42は底部である。

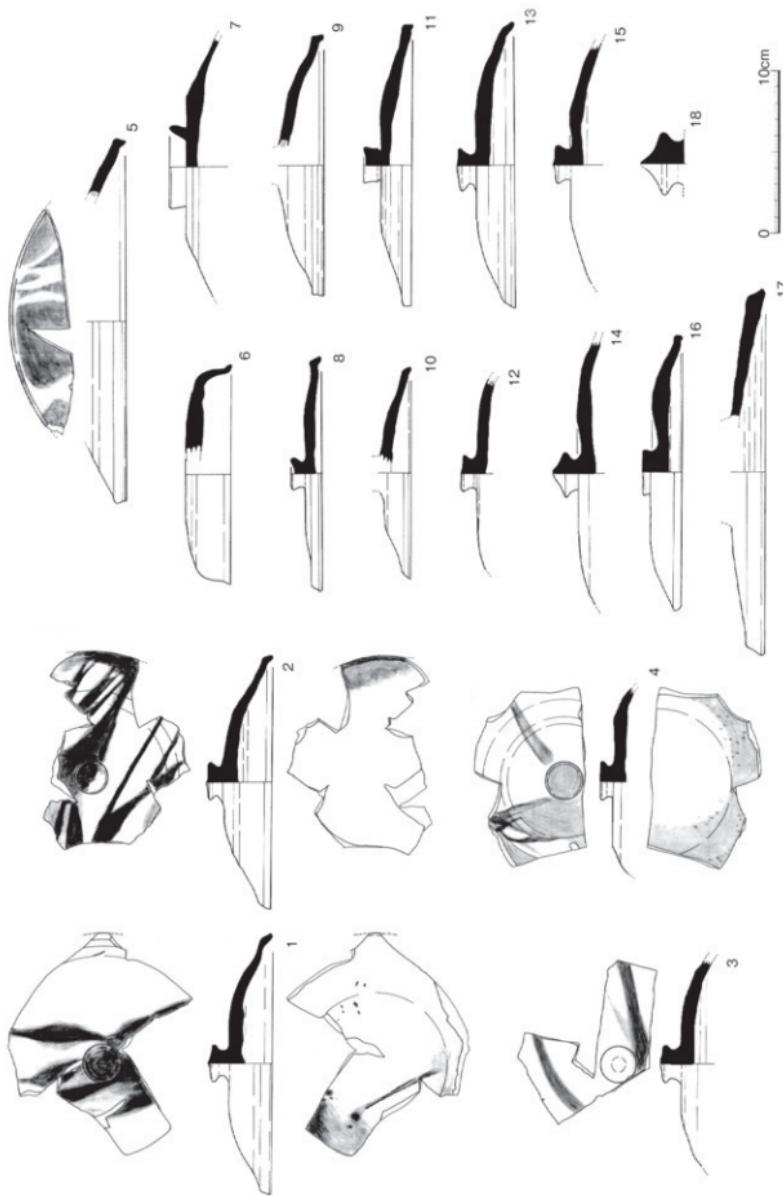
椀（第86図）

43～53は椀である。壺部の外底面のやや内側に、低い高台が付く。43～46は箱形を呈するものである。外面の腰部には明瞭な稜が入る。46は大形のもので、器高も高い。外面腰部には稜が入る。高台は斜めに削られ、三角形の形状を呈する。47～50は箱形を呈するが、腰部の稜が明瞭でなく丸くなるものである。51は底部から直線的に体部が延びるものである。52・53は底部である。腰部は丸みを帯びる。

須恵器観察表1

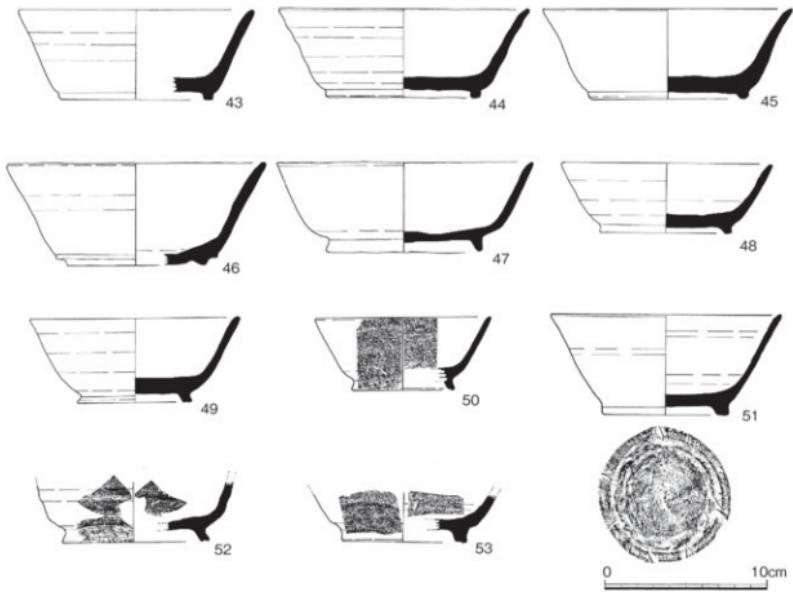
件号	河原番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	測量(cm)			調査	
									口径	火摺	底径	外周	内面
1	T-20	520.2003	E, F	須恵器	蓋	つまみ～口縁	(外)に少い黄褐色 (内)に少い褐色	16.0	2.3	4.0	回転ヘラケズリナデ	ナデ	火輝
2	R-19	一括	B, F	須恵器	蓋	つまみ～口縁	(外)黄褐色 (内)少い黄褐色	15.5	2.3	4.0	回転ヘラケズリナデ	ナデ	火輝
3	S-19	一括	V	須恵器	蓋	つまみ～体部	に少い褐色	—	2.2	—	回転ヘラケズリナデ	ナデ	小石粒含む
4	SQR-19	一括	—	須恵器	蓋	つまみ～体部	に少い褐色	—	2.3	—	回転ヘラケズリナデ	ナデ	火輝
5	S-19 0-19	1811	E, B	須恵器	蓋	口縁部	(外)黄褐色 (内)灰褐色	22.4	—	—	回転ヘラケズリナデ	ナデ	火輝
6	SQR-19	一括	N'	須恵器	蓋	口縁～体部	(外)灰褐色 (内)灰褐色	13.6	—	—	ナデ	ナデ	
7	S-21	5664 5566	III	須恵器	蓋	つまみ～体部	褐色	—	4.8	—	ヘラケズリナデ	ナデ	
8	S-26	1578 15508 18136	II	須恵器	蓋	つまみ～口縁	黄褐色	14.4	1.9	1.9	ヘラケズリナデ	ナデ	
9	R-23	961 4964	III	須恵器	蓋	口縁～体部	(外)灰褐色 (内)少い褐色	16.0	—	—	ヘラケズリナデ	ナデ	小石粒含む
10	S-19	一括	N'	須恵器	蓋	口縁～体部	灰褐色	13.0	—	—	ヘラケズリナデ	ナデ	小石粒含む
11	R-23 524-26, T-25	1664 15913 4303 5344	II	須恵器	蓋	つまみ～口縁	灰褐色	17.2	2.2	2.4	ヘラケズリナデ	ナデ	
12	T-19	一括	V	須恵器	蓋	つまみ～体部	灰白色	—	2.2	—	ヘラケズリナデ	ナデ	
13	RS-S-19	2345	N, V	須恵器	蓋	つまみ～口縁	灰褐色	17.5	2.5	3.5	ヘラケズリナデ	ナデ	

第84図 須惠器 1 蓋





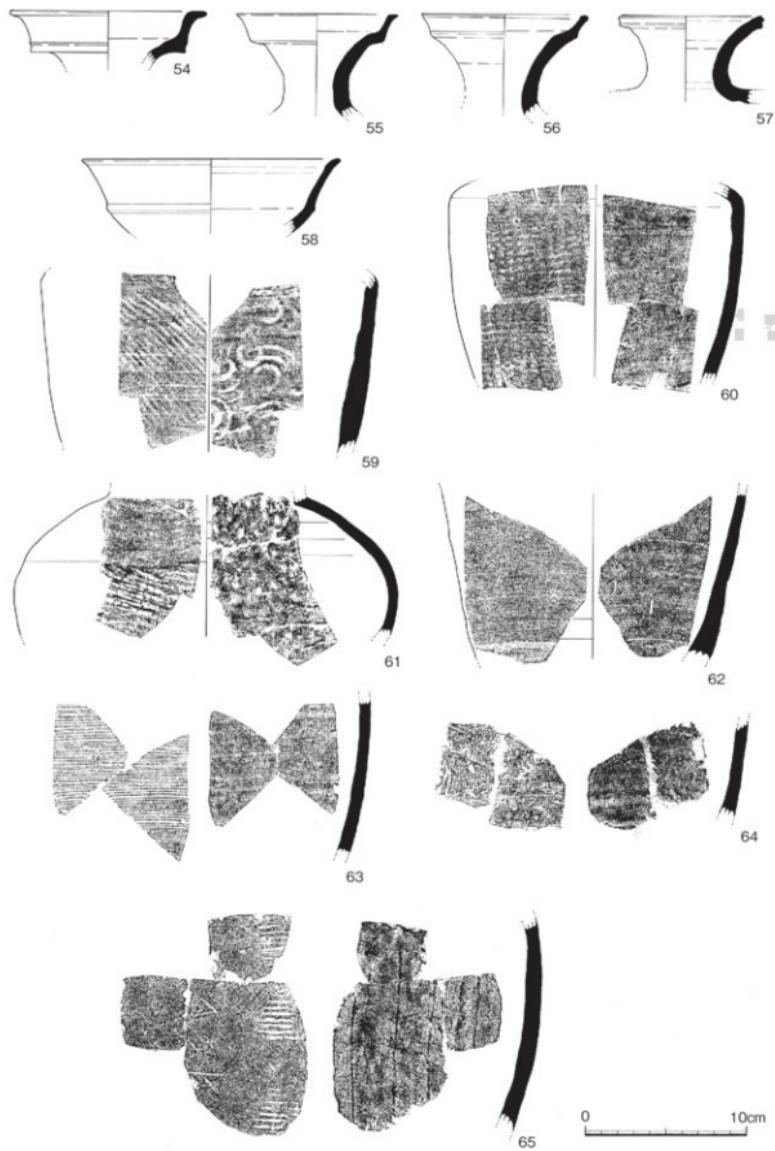
第85図 須恵器 2 坏



第86図 須恵器3 梱

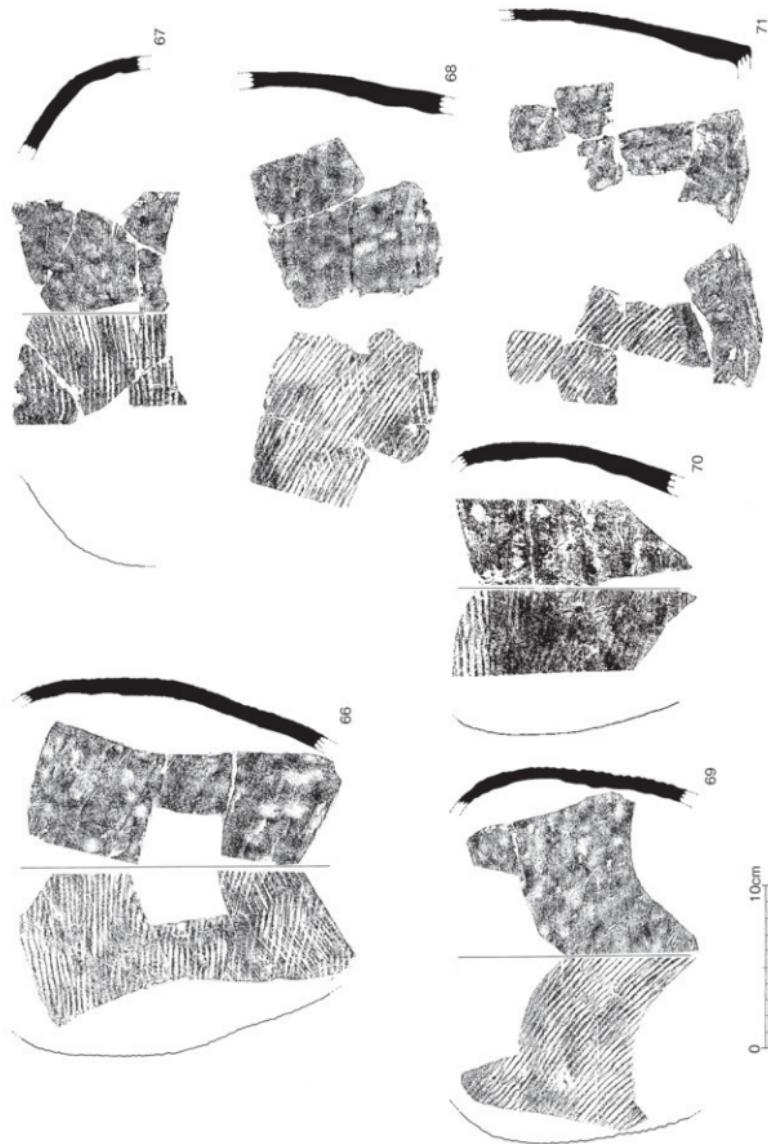
須恵器観察表2

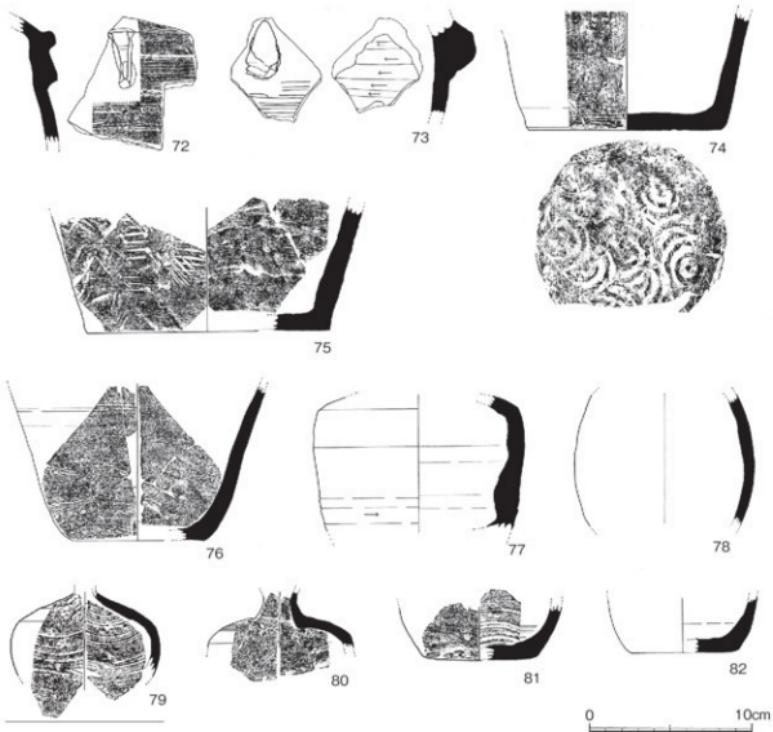
器形 部品 番号	出土地 名	取上番号	層位	種別	基種	部位	色調	高さ(cm)			調整	備考		
								外壁	底壁	器底				
14	RS-S-19	6523	V	須恵器	蓋	つまみ～全体	灰白色	—	2.7	—	ハラカズリ ナデ	小石粒含む		
15	RS-Q-19	6378	V	須恵器	蓋	つまみ～全体	灰褐色	—	2.3	—	ハラカズリ ナデ	小石粒含む		
16	S-19-RG-19	—	一括	V	須恵器	蓋	つまみ～口縁	灰色	16.5	2.3	2.4	ハラカズリ ナデ	小石粒含む	
17	—	—	—	須恵器	蓋	全体～口縁	灰色	22.6	—	—	ハラカズリ ナデ	—		
18	RS-R-20	—	一括	N	須恵器	蓋	つまみ	灰色	—	3.3	—	ナデ	—	
19	Q-19-RG-19	6343, 6350	V	須恵器	环	口縁～底部	(外)灰白色 (内)灰褐色	11.9	7.5	4.4	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
20	B-10・19	—	一括	E, N	須恵器	环	ほぼ完形	褐色	12.4	7.7	4.1	ナデ	ナデ	ヘラ切り
21	Q-19, PQR-19	—	一括	N	須恵器	环	口縁～底部	深褐色	12.2	7.4	4.2	ハラカズリ ナデ	ナデ	小石粒含む
22	S-19	—	一括	N	須恵器	环	口縁～底部	(外)灰褐色 (内)明灰褐色	12.0	7.1	3.7	ナデ	ナデ	ヘラ切り 小石粒含む
23	Q-19	—	一括	N	須恵器	环	口縁～底部	(外)灰褐色 (内)灰黃褐色	12.0	7.0	4.4	ナデ	ナデ	ヘラ切り 小石粒含む
24	S-21	4961, 4959	II	須恵器	环	口縁～底部	(外)灰褐色 (内)明灰褐色	13.6	7.8	4.3	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
25	B-10-RG-19	6387	E, V	須恵器	环	口縁～底部	灰色	12.9	7.0	3.7	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
26	T-24	7832	V	須恵器	环	变形	(外)灰褐色 (内)灰褐色	11.4	6.4	4.3	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
27	RQ-19	—	III	須恵器	环	变形	褐色	10.9	5.8	4.0	ナデ ハラカズリ	ナデ	9世紀代ヘラ切り 小石粒含む	
28	R-19	—	一括	—	須恵器	环	变形	に赤い褐色	13.8	7.2	4.1	ナデ	ナデ	ヘラ切り 小石粒含む
29	Q5-19	—	一括	N	須恵器	环	口縁～底部	に赤い黄褐色	12.7	6.9	3.9	ナデ	ナデ	ヘラ切り壁ナデ 小石粒含む
30	GR-18-19	—	一括	—	須恵器	环	口縁～底部	灰褐色	15.0	7.1	4.1	ハラカズリ ナデ	ナデ	ヘラ切り 小石粒含む
31	S-19	—	一括	N	須恵器	环	口縁～底部	灰黃褐色	14.4	8.2	3.8	ナデ	ナデ	ヘラ切り壁ナデ 小石粒含む
32	R-19	6578	V	須恵器	环	变形	橙色	15.2	7.6	4.1	ハラカズリ	ナデ	ヘラ切り壁ナデ 小石粒含む	
33	R-22・23	1735, 1737	II	須恵器	环	口縁～底部	赤褐色	13.0	6.6	3.7	ナデ	ナデ	ヘラ切り壁ナデ 小石粒含む	
34	S-19	4945	N, V	須恵器	环	变形	に赤い黄褐色	14.4	6.6	3.6	ナデ	ナデ	ヘラ切り壁ナデ	
35	R-24	3978	—	須恵器	环	口縁～脚部	灰褐色	16.0	—	—	ナデ	ナデ	小石粒含む	
36	S-21	4937	III	須恵器	环	底部	(外)に赤い黄褐色 (内)明黄褐色	—	7.6	—	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
37	RS-19	—	一括	II	須恵器	环	底部	褐色	—	7.4	—	ナデ	ナデ	ヘラ切り



第87図 須恵器 4 壺

第88圖 須惠器 5 茶

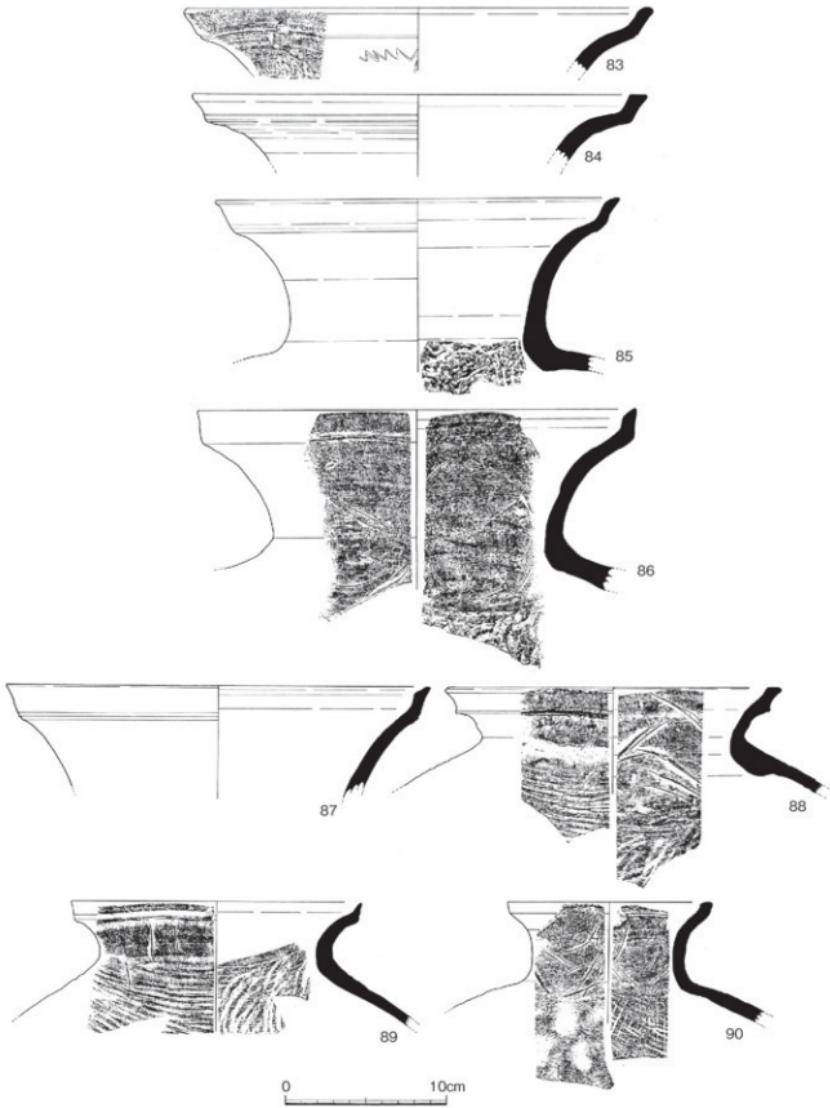




第89図 須恵器 6 壺

壺（第87~89図）

54~58は口縁部である。二重口縁を呈するが、57は先端部が短くなりほとんど屈曲しないものである。59~71は肩部から胴部である。肩部が張って屈曲するものとなめらかに屈曲するものがある。59は内面に同心円状のタタキが観察される。60は外面は格子目タタキの後ナデ、内面はナデ調整が施される。61は外面胴部は平行タタキ、肩部はナデが施され、内面はナデ調整である。62は内外面ともに横方向のハケ目が施される。63・64は外面は横方向のハケ目、内面はナデ調整が施される。65は外面に格子目タタキ、内面にナデが施される。72・73は肩部に貼り付けられた耳である。74~76は底部である。3点とも平底であるが、76は胴部と底部の境がやや丸みを帯びる。74は外底面に同心円状のタタキが見られ、荒尾窯のものと思われる。77~82は小形の壺である。77~80は肩部から胴部で、77以外は肩が丸みを帶び、78は肩が張らないものである。81・82は底部である。

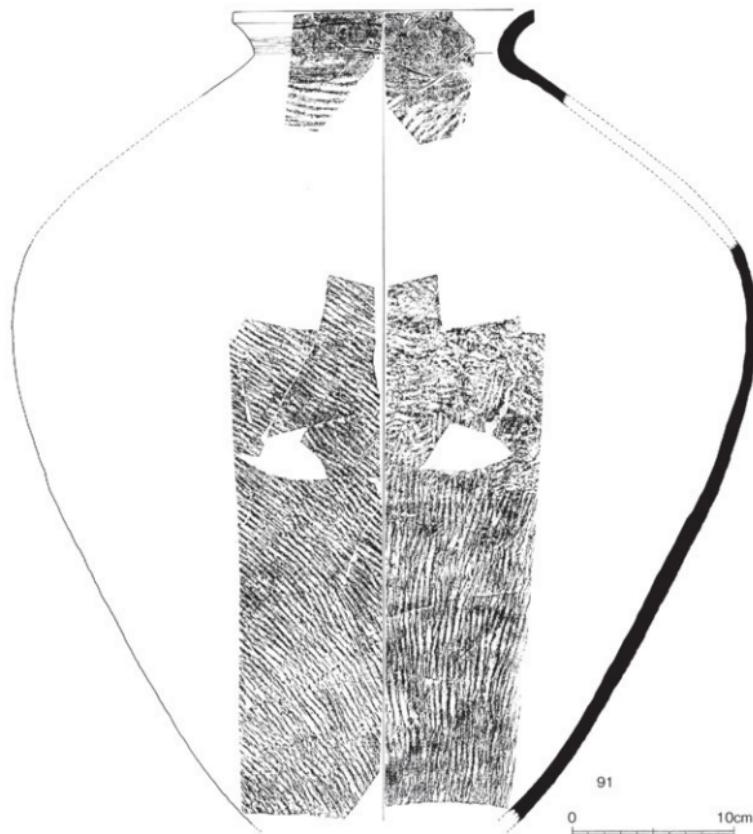


第90図 須恵器 7 瓦

甕（第90～100図）

須恵器の甕は出土量は、土師器の甕と同量程度出土している。口縁部は比較的短いものがほとんどである。底部は丸底で胴部が張り、丸みを帯びるもののがほとんどであるが、一部底部がわずかに平底になるものも見られる。調整方法は、外面は平行ないし格子目タタキで、内面は胴部上位から肩部にかけて同心円状の当て具痕が残り、以下は平行タタキが残る。頸部から口縁部にかけては回転ナデが施されている。

83～90は二重口縁を呈する口縁部である。83～88は口縁部先端に明瞭な段を有し、二重口縁を呈するものである。89・90は口縁部先端の立ち上がりが短く、二重口縁がはっきりしない。



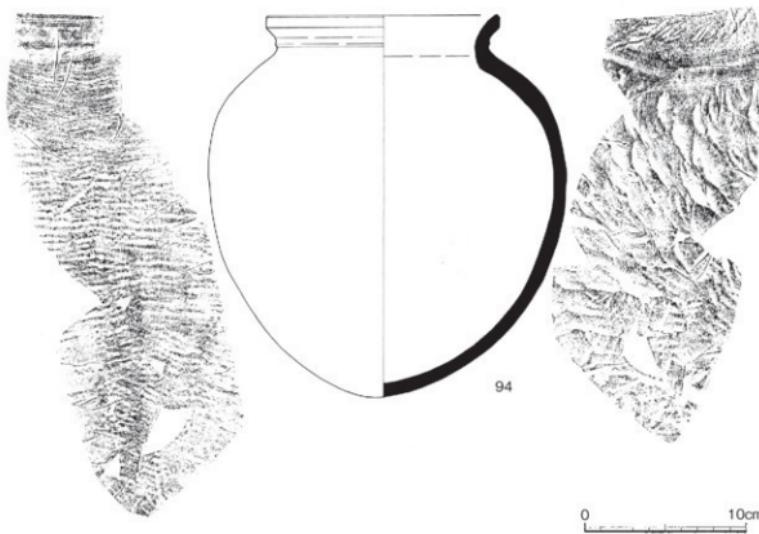
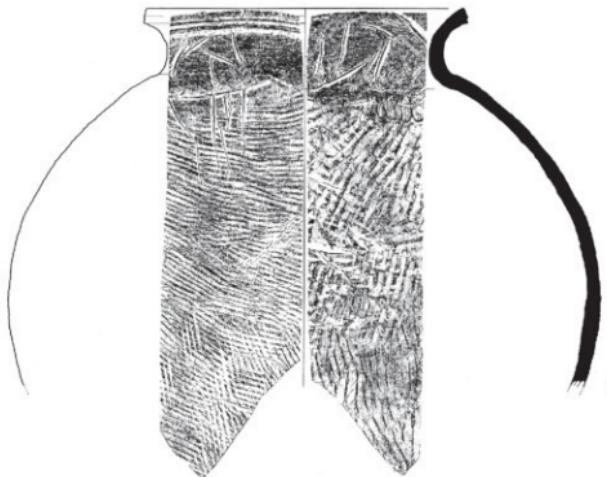
第91図 須恵器8 甕

91は図上復元ができたものである。器形は肩部が張り、底部は丸底になるものと思われる。92・93は大形の甕である。口縁部はやや開きながら立ち上がり、肩部から胴部にかけては丸みを帯びる。底部の形状は、92は丸底、93も丸底になるものと思われる。94は小形のものである。底部はやや先端が尖り気味になる丸底である。95～108は口縁部から肩部である。外側に開いた口縁端部にわずかに溝を有するものである。109～116は口縁部先端が下に垂れる形状を呈するものである。111は、外面に細い縦方向の平行タタキが観察できる。

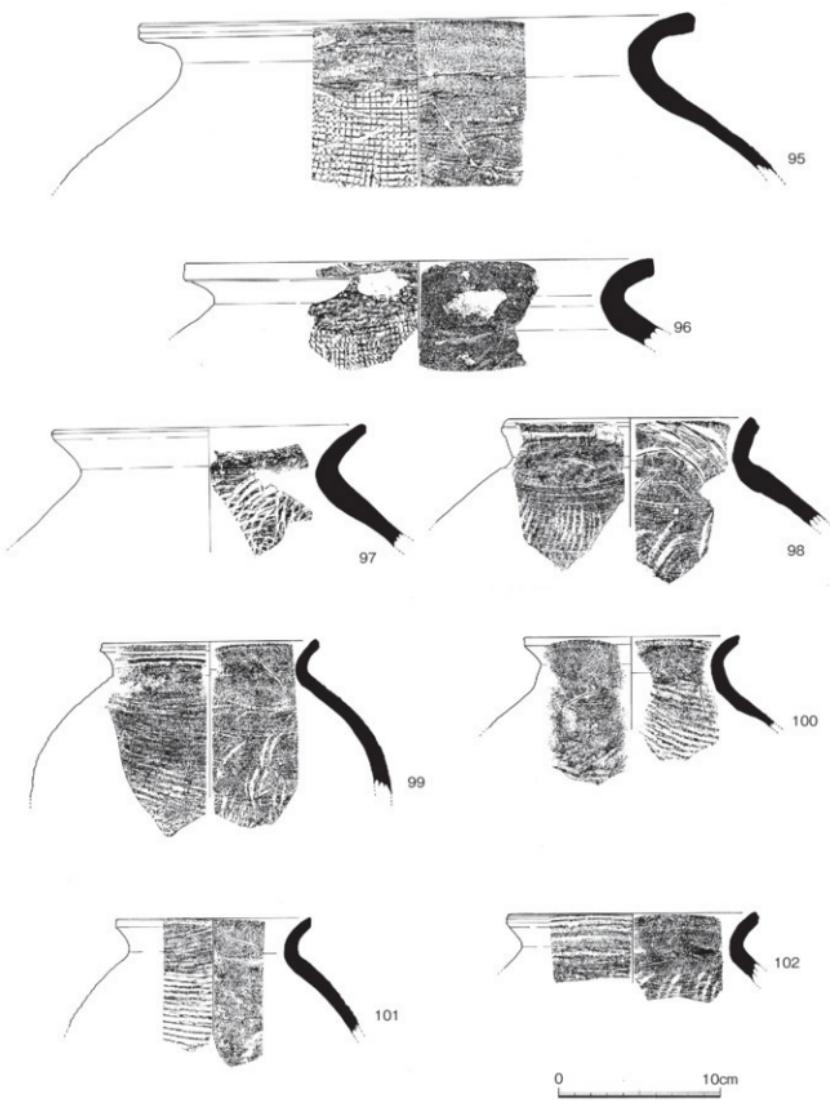
117～127は外面が格子目タタキの肩部及び胴部である。117・118の内面は同心円状タタキである。119・120は、内面に同心円状のタタキと平行タタキが混在する。タタキの道具が変化する部位である。121～127は内面に平行タタキが観察される。128～136は外面が平行タタキの肩部及び胴部である。128～132は内面に同心円状タタキが見られる。133～136は平行タタキである。137～146は底部である。137～139はやや先が尖る形状の丸底である。137・139の底部内面は放射状に平行タタキが入る。140は丸形の底部である。141・142は丸底になるものと思われる。143～146は底部にわずかな平坦面を有するものである。



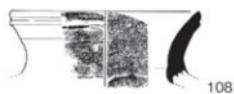
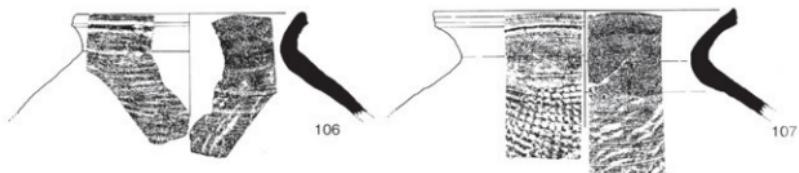
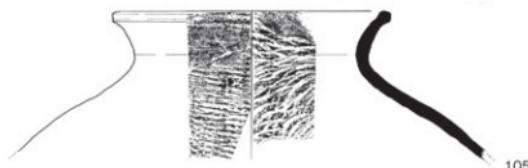
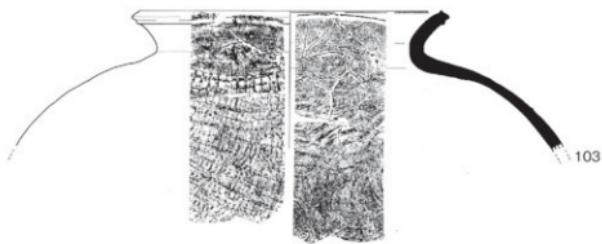
第92図 須恵器9 甕



第93図 須恵器10 瓢

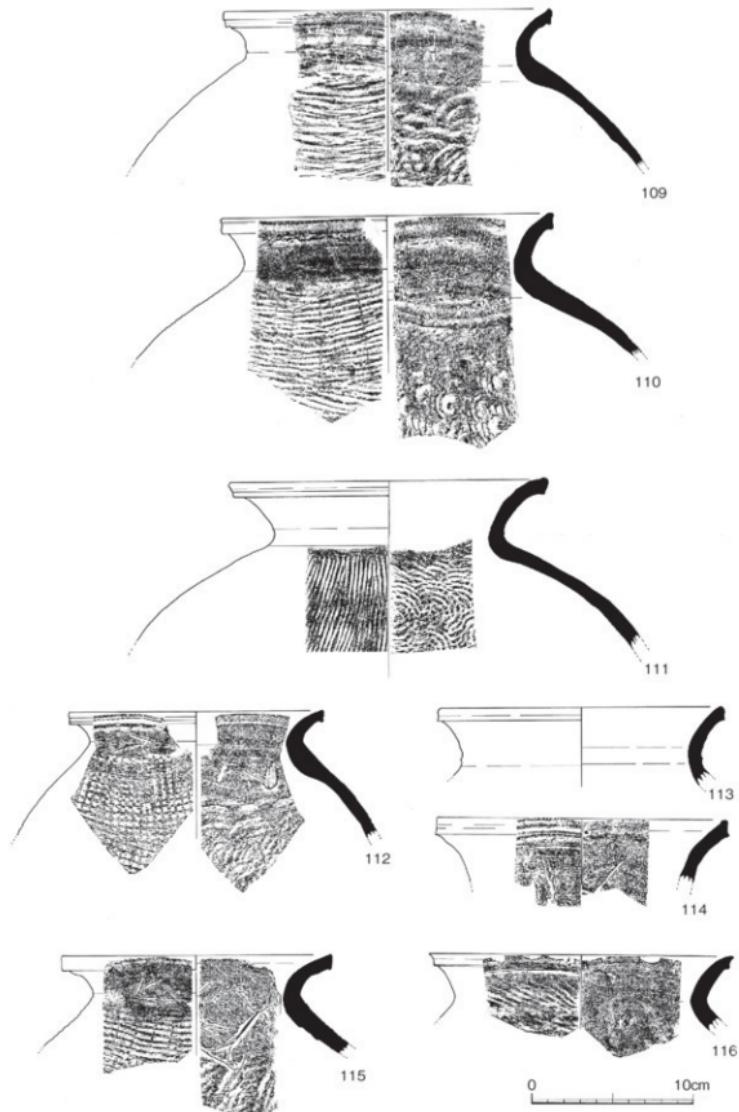


第94図 須恵器11 壺



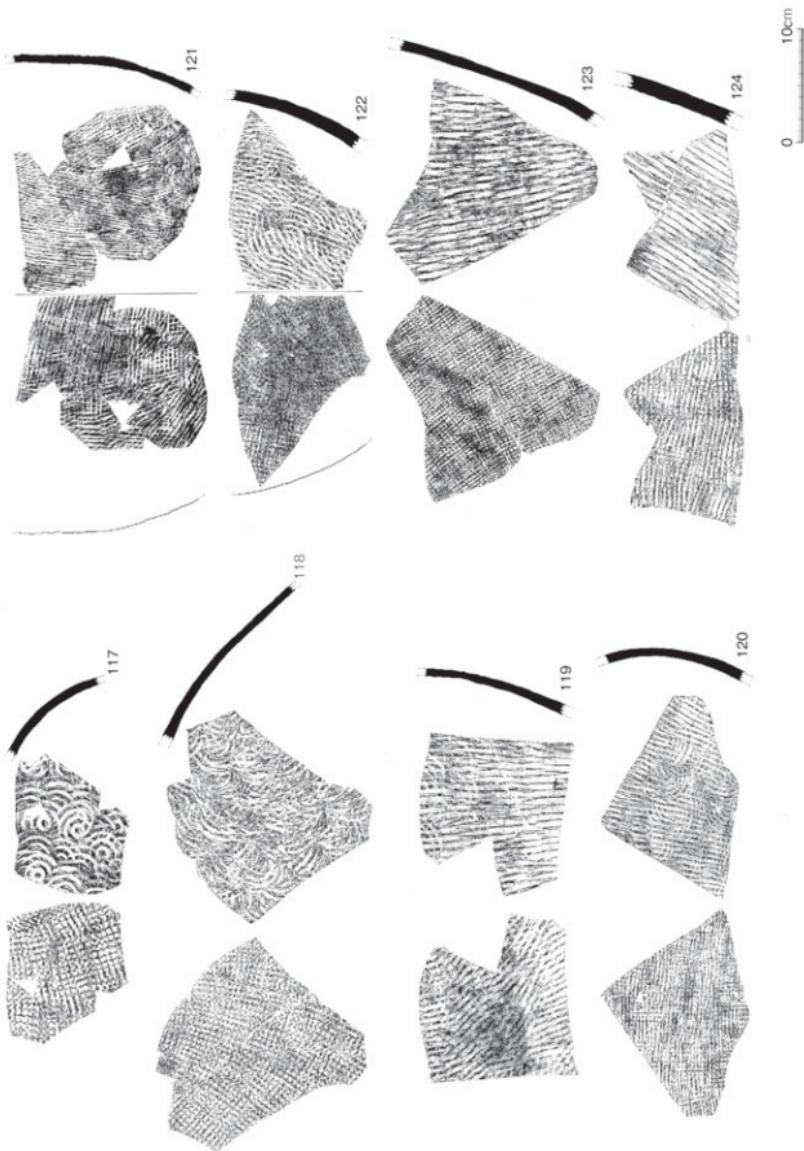
0 10cm

第95図 須恵器12 壺

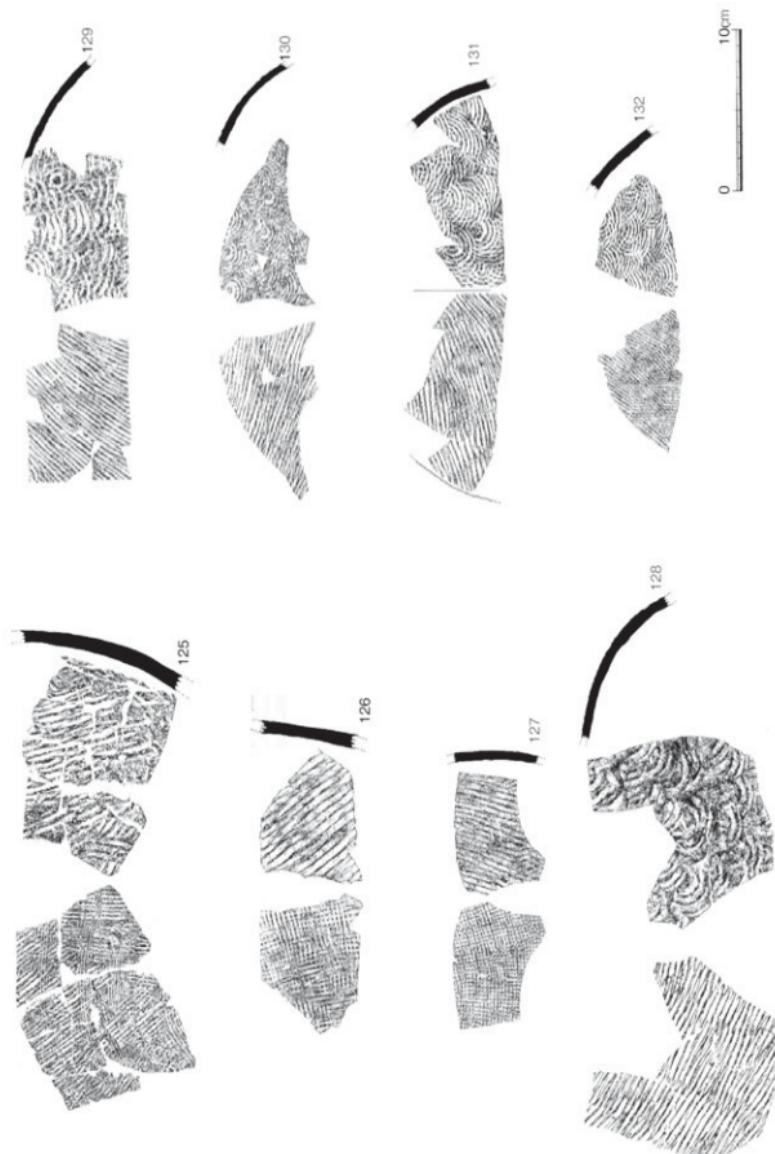


第96図 須恵器13 瓢

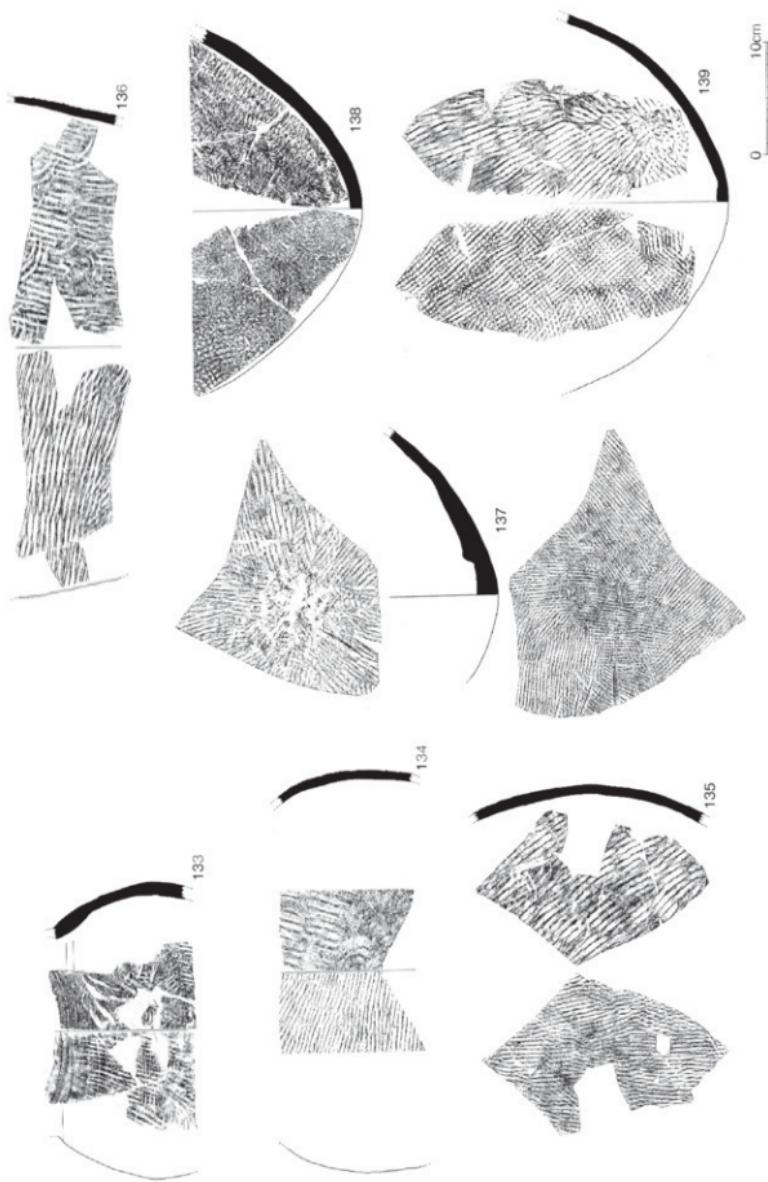
第97図 須恵器14 甌



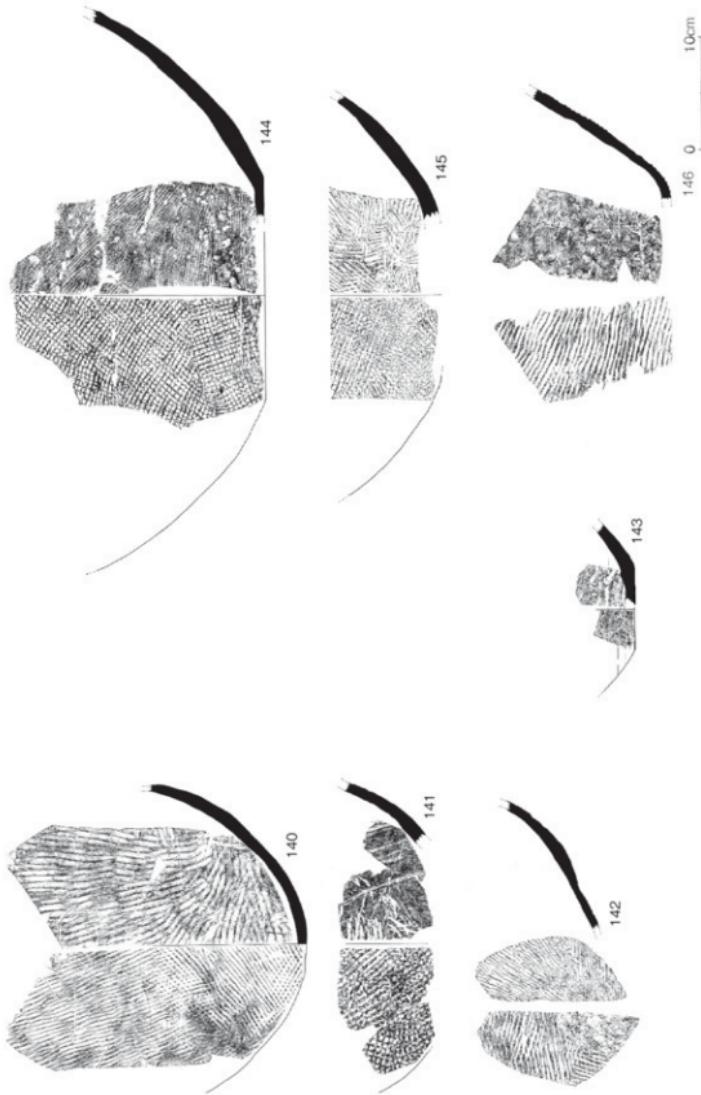
第98図 須恵器15 遷



第99圖 須惠器16 瓢



第100図 須恵器17 瓢





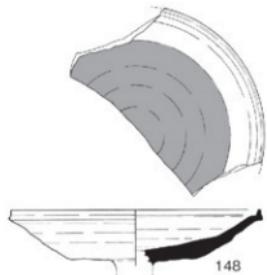
第101図 須恵器18 横瓶

横瓶（第101図）

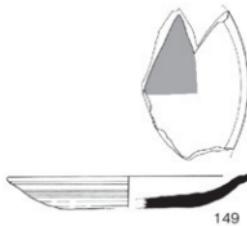
147は横瓶である。底部は丸底で、横長で俵形の頸部をもつ。中央上部に短頸の小さい口縁部がつく。色調は、一般的な須恵器の色調である灰色ではなく、灰白色を呈する。

硯・鉄鉢他（第102図）

148～150は硯である。148・149は須恵器の蓋を硯に転用したものである。使用された部分は磨かれたようになっている。150は円面硯である。側面にはヘラ書きにより幾何学文状の文様が刻まれる。151～153は鉄鉢である。托鉢僧が乞食のために持ち歩く鉢である。器形は広口の平たいつくりで、口縁部は内湾しながら窄まる。底部は151のみ同一個体と思われるものを図上復元したが、やや先の尖る形状を呈する。154は鉢である。内外面とも回転ナデ調整である。155は用途不明のものである。鉢としたが器種も不明である。156は須恵器の坏もしくは鉢と思われるものである。第85図で掲載したものに比べ器壁が厚く、鉢の範疇に入るものと考えここに掲載した。口縁部外面から体部下位まで自然釉がかかり、明瞭な軸ラインが確認されることから、重ね焼きで焼かれていたことが窺える。



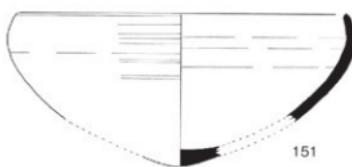
148



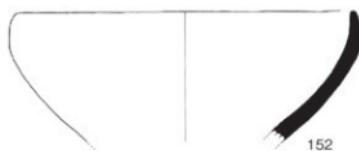
149



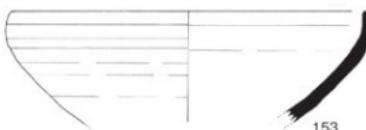
150



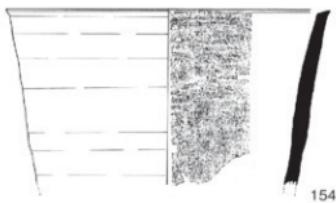
151



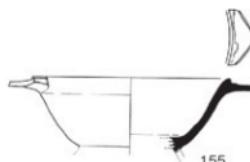
152



153



154



155



156

0 10cm

第102図 須恵器19 砥・鉄鉢他

須惠器觀察表3

品目番号	出土地	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)		調整	備考					
								口径	底径							
36	S-19	2699	N, V	須惠器	环	脚部→腹部	(外)褐色 (内)にいじや青色	-	5.2	-	ナデ					
39	S-19	4225	V	須惠器	环	脚部→腹部	(外)褐色 (内)にいじや青色	-	7.6	-	ナデ					
40	RO-19	-	一括	III	須惠器	底部	(内)にいじや青色	-	7.6	-	ナデ					
41	-	-	-	須惠器	环	底部	にいじや青色	-	7.6	-	ナデ					
42	S-20	-	一括	N	須惠器	脚部→腹部	(外)にいじや青色 (内)にいじや青色	-	8.8	-	ナデ					
43	Q-20	6368	V	須惠器	环	口縁部→腹部	灰白色	14.6	9.4	5.5	ナデ					
44	Q-20	6369	V	須惠器	环	口縁部→腹部	(外)褐色 (内)灰白色	14.6	9.4	5.5	ナデ					
45	Q-20	6370	V	須惠器	环	口縁部→腹部	灰白色	15.4	9.6	5.5	ナデ					
46	Q-20	6371	V	須惠器	环	口縁部→腹部	(外)褐色 (内)灰白色	16.0	8.4	6.3	ナデ					
47	Q-20	6372	V	須惠器	环	口縁部→腹部	灰白色	15.8	9.4	5.5	ナデ					
48	Q-20	6373	V	須惠器	环	口縁部→腹部	(外)褐色 (内)灰白色	12.8	8.0	4.3	ナデ					
49	Q-20	6374	V	須惠器	环	口縁部→腹部	灰白色	13.0	6.6	5.2	ナデ					
50	T-20	14426	1826	V	須惠器	环	口縁部→腹部	灰白色	13.0	6.6	5.2	ナデ				
51	T-20	14427	1827	V	須惠器	环	口縁部→腹部	灰白色	13.0	6.6	5.2	ナデ				
52	R-20	15815	16038	II	須惠器	环	口縁部→腹部	(外)灰褐色 (内)灰白色	14.2	7.8	6.2	ナデ				
53	U-24	13654	V	須惠器	环	口縁部→腹部	(外)灰褐色 (内)灰白色	-	7.6	-	ナデ					
54	S-21	2592	N, V	須惠器	环	口縁部→腹部	灰白色	12.2	-	-	ナデ					
55	S-21	2593	N, V	須惠器	环	口縁部→腹部	(外)にいじや青色 (内)にいじや青色	-	-	-	ナデ					
56	T-24	13154	19741	II	須惠器	環	口縁部	-	10.0	-	ナデ					
57	S-21	4932	4914	III	須惠器	環	口縁部	(外)にいじや青色 (内)黄色	10.2	-	-	ナデ				
58	R-19	6573	V	須惠器	環	口縁部	褐色	8.4	-	-	ナデ					
59	S-19	-	一括	須惠器	環	口縁部	(外)黑色 (内)灰褐色	16.0	-	-	ナデ					
60	T-24	13470	11861	II	須惠器	環	脚部	(外)にいじや青色 (内)灰褐色	-	-	平打タキ	印内ヨリタキ				
61	R-22	T-19	2433	3416	I, II, IV	須惠器	環	脚部	-	-	-	骨子ヨリタキ	ナデ			
62	G-18	1919	-	一括	N, V	須惠器	環	(外)灰褐色 (内)灰白色	-	-	ナデ	平打タキ	小石粒食む			
63	S-26	1829	III	須惠器	環	脚部→腹部	浅褐色	-	-	-	ハケ目	ナデ				
64	S-26	1830	III	須惠器	環	脚部→腹部	灰白色	-	-	-	ハケ目	ナデ				
65	S-26	1831	III	須惠器	環	脚部→腹部	灰色	-	-	-	ハラズテ	ナデ				
66	S-26	1832	III	須惠器	環	脚部→腹部	(外)灰褐色 (内)灰白色	-	-	-	骨子ハラズテ	ナデ				
67	S-22	23	21	44.0	352	III	須惠器	環	脚部	-	-	平打タキ	当て具頭			
68	S-20	19517	19518	II	須惠器	環	脚部	(外)灰褐色 (内)灰褐色	-	-	平打タキ	当て具頭				
69	S-21	19519	19520	II	須惠器	環	脚部	(外)灰褐色 (内)灰褐色	-	-	平打タキ	当て具頭				
70	R-21	519	20527	5947	II, IV	須惠器	環	脚部	(外)灰褐色 (内)灰褐色	-	-	平打タキ	ハラズテ リラズテ	小石粒食む		
71	S-21	19521	19522	II, IV	須惠器	環	脚部→腹部	(外)灰褐色 (内)灰褐色	-	-	骨子ヨリタキ	当て具頭				
72	S-19	-	一括	N	須惠器	環	灰色	-	-	-	ナデ	ナデ	小石粒食む			
73	R-23	5766	III	須惠器	環	灰褐色	-	-	-	平打タキ	ハラズテ	ナデ				
74	S-21	5607	5147	III	須惠器	環	脚部→腹部	(外)灰褐色 (内)灰白色	-	12.0	-	タタキ	ナデ	外底面同心内タタキ 小石粒食む		
75	R-22	2403	II	須惠器	環	脚部→腹部	(外)相色 (内)にいじや青色	-	15.0	-	骨子ヨリタキ	ナデ				
76	Q-19	20	20	一括	N	須惠器	環	(外)相色 (内)灰白色	-	8.0	-	ハラズテ ハラズタ	ナデ	小石粒食む		
77	Q-19	20	19	一括	N	須惠器	環	(外)灰白色 (内)灰白色	-	-	-	ハラズテ	ナラズタ	小石粒食む		
78	Q-19	20	18	一括	N	須惠器	環	(外)灰白色 (内)灰白色	-	-	-	ナデ	ナデ	小石粒食む		
79	Q-19	20	17	一括	N	須惠器	環	(外)灰白色 (内)灰白色	-	-	-	ナデ	ナデ	小石粒食む		
80	T-25	26	25	19730	19734	II	須惠器	環	口縁部	青灰色	-	-	ナデ	骨面研削して使用か?		
81	T-19	2666	III	須惠器	環	底部	(外)黒褐色 (内)灰褐色	-	7.2	-	ナデ	ナデ	ナデ			
82	G-20	6359	V	須惠器	環	底部	黒褐色	-	6.4	-	ハラズテ	ナデ	小石粒食む			
83	T-26	Q-19	17522	I, N	須惠器	便	口縁部	(外)暗灰色 (内)灰白色	28.2	-	-	ナデ	ナデ	波状紋		
84	Q-19	3917	V	須惠器	便	口縁部	(外)暗褐色 (内)灰白色	28.0	-	-	ナデ	ナデ	ナデ			
85	Q-19	3918	V	須惠器	便	口縁部	(外)暗褐色 (内)灰白色	28.0	-	-	ナデ	ナデ	ナデ			
86	R-20	-	一括	須惠器	便	口縁部	深褐色	27.0	-	-	ナデ	ナデ	小石粒食む			
87	S-25	PS-19	1	一括	V	須惠器	便	口縁部	灰色	24.0	-	ナデ	ナデ	小石粒食む		
88	D-15	518	19	13357	3624	III	須惠器	便	口縁→尾部	灰色	20.8	-	ナデ	ナデ	油墨痕	
89	Q-21	3921	3922	II	須惠器	便	口縁→尾部	灰色	18.0	-	-	ナデ	ナデ	骨子ヨリタキ		
90	S-26	T-26	1256	15077	II	須惠器	便	口縁→尾部	(外)灰褐色 (内)灰褐色	12.5	-	-	ナデ	ナデ	当て具頭	
91	S-21	2025	2026	II	須惠器	便	口縁部	(外)黒褐色 (内)灰褐色	18.4	-	-	ナデ	ナデ	骨子ヨリタキ		
92	S-21	2027	2028	II	須惠器	便	口縁部	(外)黒褐色 (内)灰褐色	18.4	-	-	ナデ	ナデ	骨子ヨリタキ		
93	T-25	26	17708	13294	II	須惠器	便	口縁→尾部	にいじや黄褐色	20.0	-	-	ナデ	ナデ	小石粒食む	
94	S-19	19	19	114	298	1326	III	(外)灰褐色 (内)灰褐色	14.2	-	23.5	ナデ	ナデ	骨子ヨリタキ		
95	S-19	20	20	114	298	1327	III	(外)灰褐色 (内)灰褐色	14.2	-	23.5	ナデ	ナデ	骨子ヨリタキ		
96	PS-19	-	一括	S-19	V	須惠器	便	口縁部	灰色	33.6	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	
97	S-19	PO-19	19	19	S-19	V	須惠器	便	口縁部	灰白色	29.0	-	-	ナデ	ナデ	ナデ
98	R-23	2946	II	須惠器	便	口縁部	灰色	14.8	-	-	ナデ	ナデ	ナデ			
99	PO-19	-	一括	S-19	V	須惠器	便	口縁部	(外)灰褐色 (内)灰白色	13.4	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	
100	Q-19	25	25	1305	14018	II, III, V	須惠器	便	口縁部	灰色	13.1	-	-	ナデ	ナデ	ナデ
101	C-26	325	II	須惠器	便	口縁部	(外)灰褐色 (内)灰白色	12.0	-	-	ナデ	ナデ	ナデ			
102	O-19	-	一括	S-19	V	須惠器	便	口縁部	灰色	15.2	-	-	ナデ	ナデ	ナデ	
103	S-19	20	20	114	305	1321	III	(外)灰褐色 (内)灰褐色	14.2	-	23.5	ナデ	ナデ	骨子ヨリタキ		
104	S-19	21	21	114	305	1322	III	(外)灰褐色 (内)灰褐色	14.2	-	23.5	ナデ	ナデ	骨子ヨリタキ		

須恵器類表4

種別 部品 番号	出土地	取上番号	層位	種別	基準	部位	色調	重量(cm)		調整		備考	
								口径	底径	表面	内面		
103	9-18.19-20 S-19.R5.19	1224	II, N	須惠器	便	口縁部	[外] 壱灰色 [内] 淡灰色	18.7	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ	
104	8-19.19-20 S-19.R5.19	6516.8113	I, V	須惠器	便	口縁部	壹灰色	18.2	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ	
105	S-19. T-23	3945.21491	II, N	須惠器	便	口縁部	[外] 壱灰色 [内] 壱灰色	16.4	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ	
106	Q-19	—	一括	N	須惠器	便	口縁部	[外] 壱灰色 [内] 壱灰色	13.4	—	ナデ	ナデ	平行タリキ
107	PQRS-19	—	一括	III, N	須惠器	便	口縁一部部	壹灰色	18.7	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ
108	S-25-26	1252.12580	II	須惠器	便	口縁部	[外] 壱灰色 [内] ふいぐる灰色	11.6	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ	
109	9-25-18-19 S-19.9	—	一括	III, N	須惠器	便	口縁部	灰色	20.2	—	ナデ	ナデ	平行タリキ
110	R-19.521	6653.5470	V	須惠器	便	口縁一部部	灰色	20.6	—	ナデ	ナデ	平行タリキ	
111	R-18.RG-19	6443	N, V	須惠器	便	口縁一部部	灰色	19.4	—	ナデ	ナデ	平行タリキ	
112	Q-19	—	一括	—	須惠器	便	口縁一部部	灰色	15.8	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ
113	—	—	—	—	須惠器	便	口縁一部部	にいぐる灰色	17.6	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ
114	R-22	9410	II	須惠器	便	口縁部	[外] 壱灰色 [内] 淡黄色	18.0	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ	
115	R-27.S26	1865.1865 1865	II	須惠器	便	口縁一部部	にいぐる灰色	16.8	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ	
116	R-26.523 59-20	2204.311	II, N	須惠器	便	口縁一部部	青灰色	19.0	—	ナデ	ナデ	平行タリキ	
117	S-19	2722	N	須惠器	便	胴部	[外] 明青灰色 [内] 壱灰色	—	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ	
118	S-21	546.446.476. 579.580.470	II, III	須惠器	便	胴部	灰色	—	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ	
須惠器A系 9-19.19-19-20 S-20	—	一括	III, V	須惠器	便	胴部	[外] 壱灰色 [内] 淡黄色	—	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ	
120	F-19.19-20	—	一括	E.V	須惠器	便	胴部	[外] 壱灰色 [内] 壱灰色	—	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ
121	9-19.19-20	6676	N, V	須惠器	便	胴部	壹灰色	—	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ	
122	T4-5.22	13257.5180	II	須惠器	便	胴部	壹灰色	—	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ	
123	—	1021	II	須惠器	便	胴部	[外] ふいぐる灰色 [内] 壱灰色	—	—	ナデ	ナデ	平行タリキ	
124	Q-19	6664.18508	V	須惠器	便	胴部	[外] 壱灰色	—	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ	
125	1-20.3.20	4908.8080	II, III	須惠器	便	胴部	灰色	—	—	ナデ	ナデ	平行タリキ	
126	S-23	365.5013	须	須惠器	便	胴部	[外] 壱灰色 [内] 壱灰色	—	—	ナデ	ナデ	平行タリキ	
127	R-21-22	95.921.8701	II	須惠器	便	胴部	[外] ふいぐる灰色 [内] 壱灰色	—	—	ナデ	ナデ	平行タリキ	
128	Q-19.R19 PQR-19	—	一括	II, III	須惠器	便	胴部	灰色	—	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ
129	8-19.19-20 S-20	6412.6435. 1833	III, V	須惠器	便	胴部	[外] 壱灰色 [内] 壱灰色	—	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ	
130	Q-19-19	—	一括	N	須惠器	便	胴部	[外] ふいぐる灰色 [内] 壱灰色	—	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ
131	R-20.19-20	4991	II, III	須惠器	便	胴部	[外] 壱灰色 [内] 壱灰色	—	—	ナデ	ナデ	平行タリキ	
132	R-22	7673	II	須惠器	便	胴部	灰色	—	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ	
133	R-22-23	432.9673. 462.9299	II	須惠器	便	胴部	壹灰色	—	—	ナデ	ナデ	平行タリキ	
134	S-19-19 R-19	—	一括	III, V	須惠器	便	胴部	[外] 壱灰色 [内] 壱灰色	—	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ
135	S-19-20	1600	III, V	須惠器	便	胴部	[外] 壱灰色 [内] 壱灰色	—	—	ナデ	ナデ	平行タリキ	
136	S-19-19	—	一括	N	須惠器	便	胴部	[外] 壱灰色 [内] 壱灰色	—	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ
137	R-19	6015	II	須惠器	便	底部	[外] ふいぐる灰色 [内] 壱灰色	—	—	ナデ	ナデ	平行タリキ	
138	9-19.19-20 S-19.19-20	4474.6527. 4474.6527	III, V	須惠器	便	底部	灰色	—	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ	
139	1-20.19-20 S-19.19-20	6376.4065. 3970	III, V	須惠器	便	底部	[外] 明青灰色 [内] 壱灰色	—	—	ナデ	ナデ	平行タリキ	
140	9-19.19-20 S-20.8-20	6434.6413. 6391.6415. 6410	III, V	須惠器	便	底部	[外] 壱灰色 [内] 黒色	—	—	ナデ	ナデ	平行タリキ	
141	S-19	—	一括	N	須惠器	便	胴部	[外] 壱灰色 [内] 黄灰色	—	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ
142	S-20-20 G-19-19	—	一括	N	須惠器	便	胴部	[外] 壱灰色 [内] 黄灰色	—	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ
143	R-20	6227	V	須惠器	便	胴部	[外] 壱灰色 [内] 黄灰色	—	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ	
144	Q-20	—	一括	II, III	須惠器	便	底部	[外] 壱灰色 [内] 白灰色	—	19.2	—	ナデ	ヘラナデ
145	QR-19	—	一括	III	須惠器	便	胴部	[外] 壱灰色 [内] 黄灰色	—	—	ナデ	ナデ	平行タリキ
146	PD-14	—	一括	N	須惠器	便	胴部	[外] 壱灰色 [内] 壱灰色	—	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ
147	Q-19.R19 S-19.QP-19	—	一括	N, V	須惠器	横樋	額縁～底部	壹灰色	—	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ
148	Q-19-20 Q-19	—	一括	II	須惠器	便	口唇～つまみ	[外] 壱灰色 [内] 壱灰色	15.8	—	ナデ	ナデ	ヘラナデ
149	9-19.30-19	—	一括	III	須惠器	横樋	口縁部	灰色	15.0	—	ナデ	ナデ	ヘラナデ
150	U-24-25	1190.13668	II	須惠器	口縁	灰色	—	—	ナデ	ナデ	ヘラナデ	9子日タリキ	
151	S-24	1154.1952	II	須惠器	鉢	口縁～底部	にいぐる灰色	20.4	—	ナデ	ナデ	ヘラナデ	
152	9-18.QR-19	—	一括	II	須惠器	鉢	口縁～底部	褐色	21.0	—	ナデ	ナデ	ヘラナデ
153	S-22	7849	II	須惠器	鉢	口縁～底部	褐色	22.0	—	ナデ	ナデ	ヘラナデ	
154	S-19	—	一括	N, V	須惠器	鉢	口縁～底部	灰色	20.0	—	ナデ	ナデ	ヘラナデ
155	S-7.20-21	—	一括	III	須惠器	不明	口縁部	灰色	12.2	—	ナデ	ナデ	ヘラナデ
156	9-19.9-19 P-10.9-19-19 PQ-19	3947	III, V	須惠器	环	口縁～底部	[外] 壱灰色 [内] 淡白色	12.0	—	ナデ	ナデ	9子日タリキ	

木製品

低地部の湿地部分からは古代～近世のものと思われる多量の木製品が出土した。以下にこれらの遺物について述べる。なお、木製品の分類については以下の文献を参考にした。

『木器集成図録近畿原始編』 1993 奈良国立文化財研究所

『木器集成図録近畿古代編』 1985 奈良国立文化財研究所

挽物皿（第103図）

1は板目取りした木材を使用した皿である。内面には同心円状の溝が残っている。2～5は、高台付の皿である。体部はゆるやかに立ち上がる。内面には炭化物が付着している。3は高さ13cmの高台をもつ。見込みの中央はやや窪んでいる。4は、板目取りした木材を使用している。見込みは平坦であるが、体部はやや持ち上がるものと思われる。また、高台と体部の境目にには、高台を切り出した時のものと思われる傷のような跡が看取できる。5は、直径約17cmの皿である。高台の高さは5mmと低い。見込み部分には刃物傷が多数見られ、まな板としての代用も考えられる。

木製品（第104図）

6は、挽物皿の木製品である。柾目取りした板の角を削って、体部を製作している途中である。体部には幅2cm～2.5cmの工具痕が全面に残っている。7は、皿などを輶轆で挽いて製作する際に製品から切り離された部分である。底には輶轆の爪跡がある。

曲物（第105・106図）

8～15は底板または蓋であると思われる。8は、幅6mm、厚さ1.5mmの木の板を天板の縁に沿うように曲げて皮紐で綴じてある。9は、厚さ約5mmで結合孔が1か所残っている。10は、径16.2cm、厚さ4.5mmで結合孔が2か所残っており、うち1か所には皮紐が残っている。11は、板の円周を4等分して結合孔を配置する。うち3か所には皮紐が残る。蓋板の径は16.1cm、厚さ6mmである。内面には、側板の位置を決める針書き刻線がめぐる。また、外面には刃物傷が見られる。12は、針書き線が内面に1条、外面には3条刻まれている。また、外面には刃物傷がある。13も内面に針書き刻線があり、結合孔には皮紐が残っている。外面には刃物でつけたような傷が多数あり、まな板として転用されていたようである。14にも結合孔に皮紐が残っている。15には結合孔が見られないが、木針で結合していたものではないかと思われる。16は釘結合曲物の底板である。結合木針は2か所確認できる。

杓子形木製品・まな板（第107図）

17は、側面から見ると柄と身が一直線をなす。柄の長さは10.8cm、身の長さは9cmである。周縁は丸く仕上げている。この遺物はG調査区郷土寄屋敷の排水溝出土である。18の欠損部分には柄がつくと思われる。17と同様、周縁部は丸く仕上げている。

19は、元は建築部材であると思われるが、表裏に刃物のようなものでつけた傷が多数あることから、まな板として転用されていたものと思われる。板は柾目取りである。炭化した部分や、熱いものを乗せたような、焦げて窪んだ部分もある。

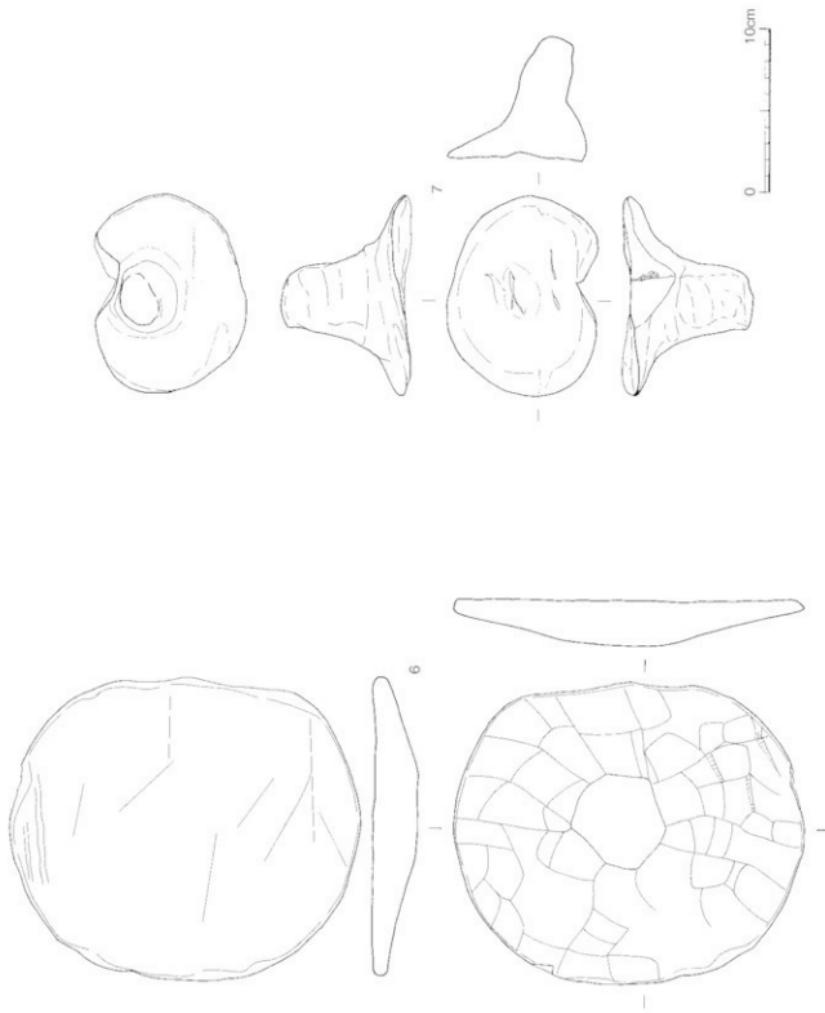
部材（第108図）

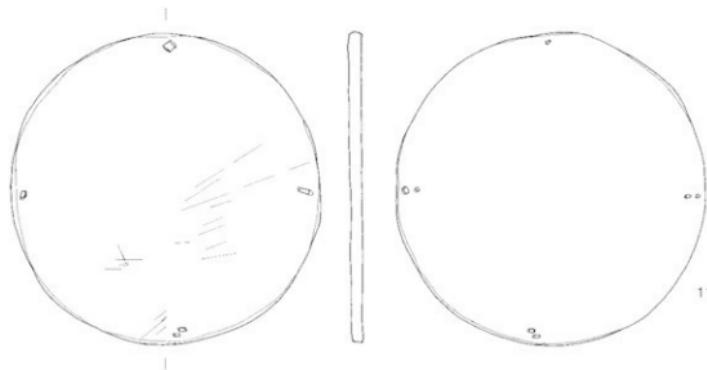
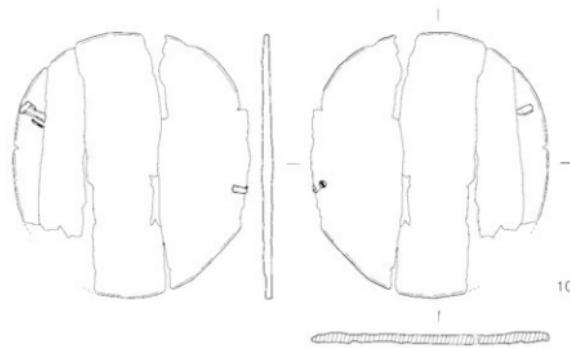
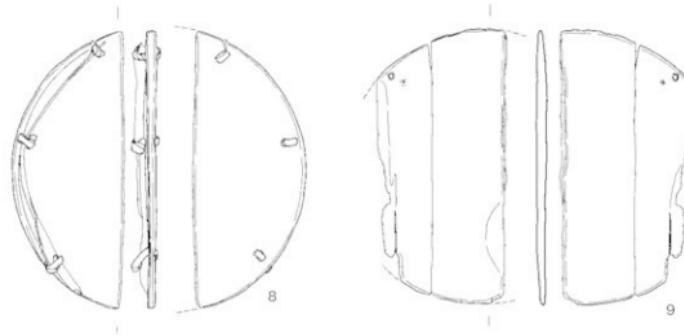
20～24は、建築部材または製品の部材であると思われる。20は全長34.2cmの板材で、3か所孔が



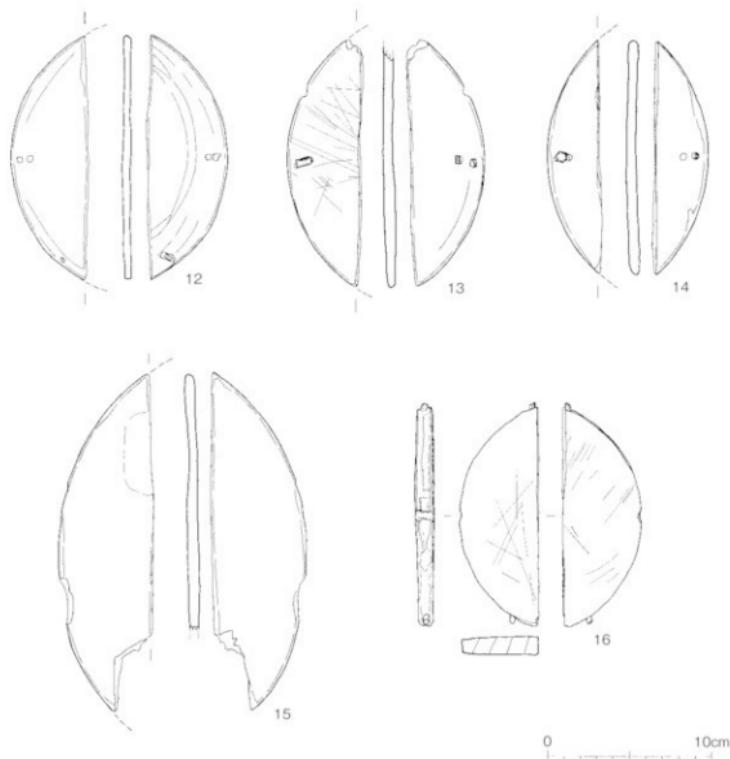
第103図 木製品1

第104図 木製品2





第105図 木製品3

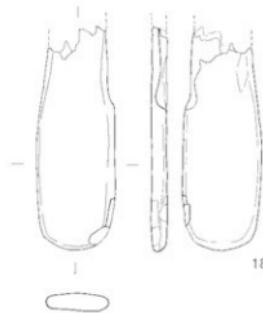
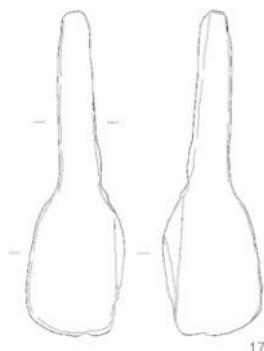


第106図 木製品4

穿たれている。21は、断面六角形の建築部材である。表面は丁寧に磨いてある。中心部に2つの孔を穿っている。欠損部にも細長い孔、もしくは切り込みがあったと思われる。中心の孔の裏側にはT字形の柄があることから、他の部品と組み合わせて使用していたと考えられる。22は、角材である。上面には 1×1 cm、深さ4 mmの四角形の凹みがある。23は芯材を使用している。両面に刃物傷があり、まな板として転用されていた可能性がある。24は、柾目取りした長さ13.8cmの板の中央に長方形の孔をあけたものである。幅、孔の大きさは欠損しているため不明である。

木鍤（第109図）

25~28は、藁や竹・草・麻の製品を編む時に使用する縫糸を巻く農具である。輪切りにした芯持材の両端近くから側面中央に向けて斜めに削り込み、側面から見て鼓形に仕上げている。これらの木鍤は、中央部の細くなった部分に縫糸を巻いていたと考えられるが、擦痕など糸を巻いていた形

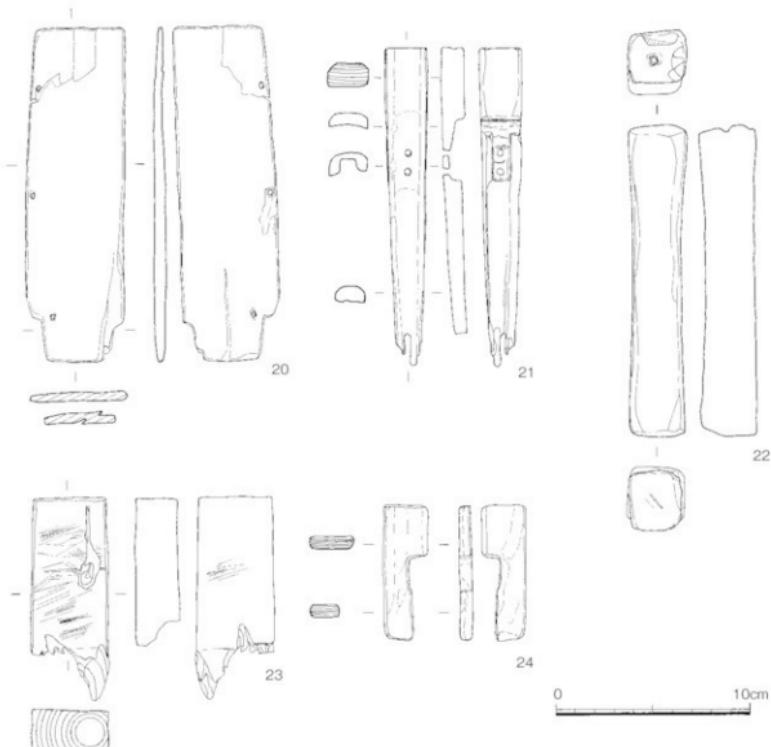


0 10cm



0 20cm

第107図 木製品5



第108図 木製品6

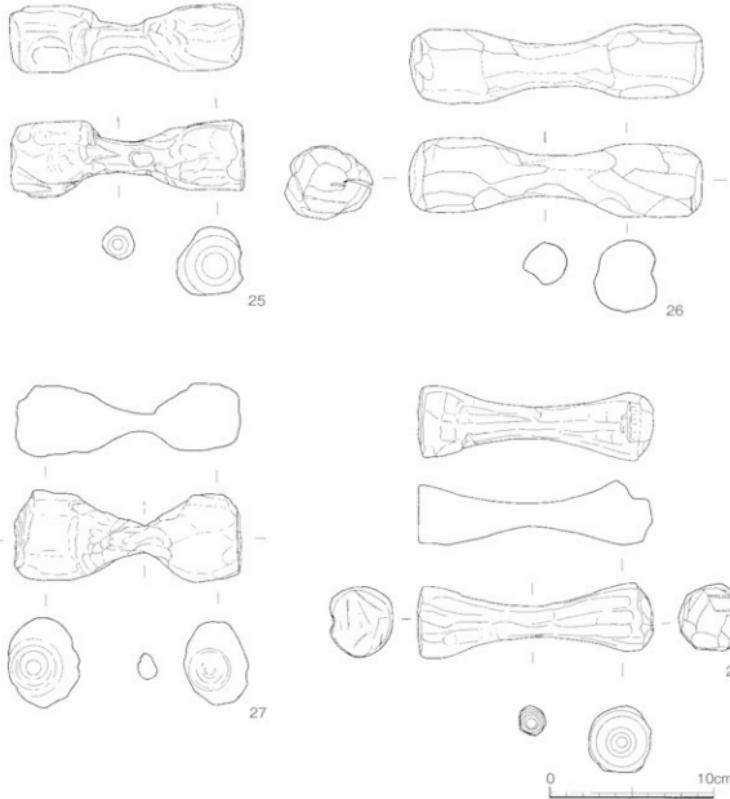
跡がはっきりと残っているものはなかった。28は、他に比べてやや細身で幅7~10mmの工具痕がはっきりと残っている。片方の端部は平坦面に工具痕が残るだけであるが、もう片方は面をとって丸く仕上げようとしている。

横槌（第110図）

29~31は、芯持丸太材を用いた横槌である。29は、身を細く削って柄をつくり、柄の先端は滑り止めのように少し太くしている。身の側面には使用痕は看取できない。30は、柄の部分はほとんど残存しておらず、身の部分も半分は腐食している。残っている身の部分は非常に滑らかである。31は、横槌の一種であると思われるが、29・30に比べて身が小さく柄が細い。

下駄（第111図）

32・33は板目取りの木材を使用した隅丸長方形の連歯下駄である。32の長さは15.6cm。前壺を台

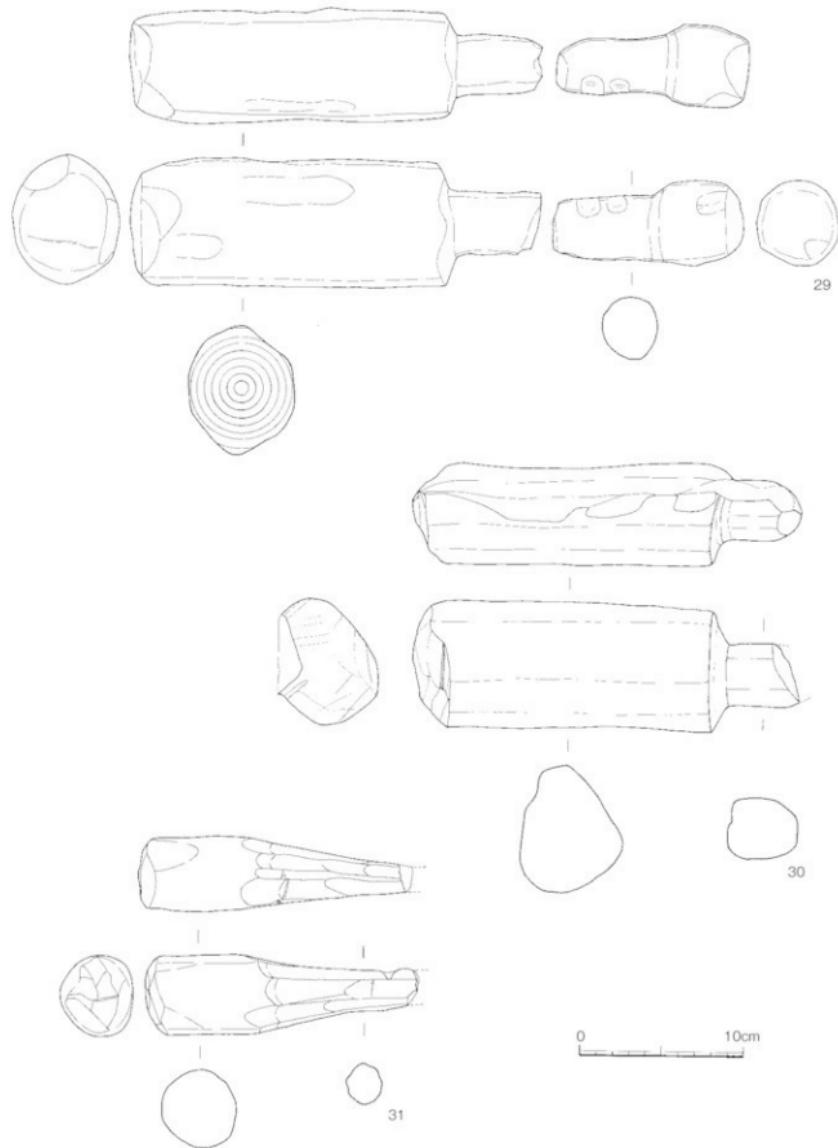


第109図 木製品7

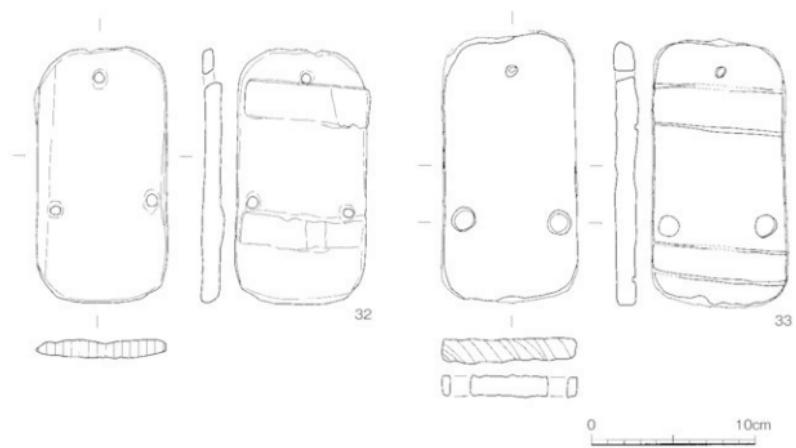
の中央にあけ、後壺を歯の内側にあけている。歯の断面は台形で、歯の下幅辺は台の幅よりも広い。33の長さは16.4cm。鼻緒孔の位置は32と同様であるが、歯は台の幅と同じであったと思われる。歯はほとんど残存していないが、歯を掘り出した溝がある。

その他・用途不明品（第112図）

34・35は、付札状木製品とした。その形状からして使用された可能性があるが、墨書などが看取できないため実際の用途は不明である。34は、厚さ2.5mmほどの板状の木製品で、先端を細く仕上げている。35は、長方形の板の一部に切り込みを入れている。36は、板目取りの製品である。一部に切り込みを入れてくびれ部をついている。また周縁は丸く仕上げている。37は用途不明品



第110図 木製品8

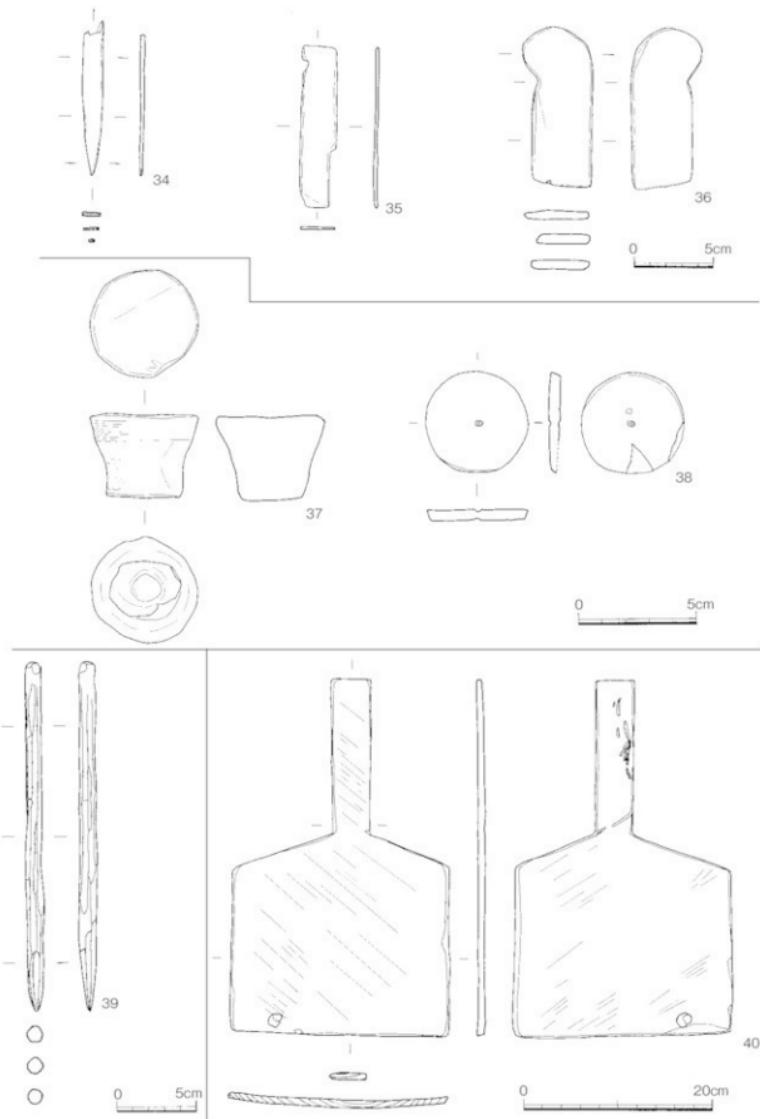


第111図 木製品9

である。何らかの栓の役割をしていた可能性もある。側面、底部とも丁寧に磨かれたようなつくりをしており、上面には円形の溝がある。38は、紡錘車の未製品であると思われる。中心の孔は貫通していない。39は全面を削って、細く丸く仕上げており、先端は細く、鋭い。木針、留針、箸などの可能性が考えられる。40は、板目取り材を鋸い刃物で切り出している。表面には、斜め方向に成形を行った跡が看取できる。1か所ある孔は、孔に沿って木目がゆがんでいることから意図的なものではないと判断した。

低地部木製品観察表

件名番号	掲載番号	取り上げ番号	出土区	層	種別	器種	法量(㎝)			樹種	備考
							最大長	最大幅	最大厚		
1	6814	R-18	三	砂	砂物	圓	—	—	1.5		
2	6006	R-19	五	砂	砂物	圓	—	—	1.5		
3	6595	R-19	Y	砂	砂物	圓	—	—	2.0		
4	4265	S-19	Y	砂	砂物	圓	—	—	1.4		
5	6588	R-19	V	砂物未製品	圓	21.5	18.4	2.8			
6	—	1T	砂層直上		ごま状木製品	7.5	12.3	12.3			
7	4890	—	V	曲物	圓	17.0	—	0.7			
8	6900	Q-19	V	曲物	圓	16.8	—	0.6			
9	6902	Q-19	V	曲物	圓	16.2	—	0.6			
10	6583	R-19	V	曲物	圓	16.1	—	0.9			
11	6589	R-19	V	曲物	圓	—	—	0.6	カヤ		
12	6599	R-19	V	曲物	圓	—	—	0.9	カヤ		
13	4310	T-19	V	曲物	圓	—	—	0.7	カヤ		
14	4300	—	三	曲物	圓	—	—	0.6	カヤ		
15	6591	R-19	V	曲物	圓	—	—	0.6	カヤ		
16	6597	R-19	V	曲物	圓	—	—	1.2	カヤ		
17	—	—	美濃層		糸文字	19.8	6.0	0.9		G層區三上	
18	4161	N層直上			竹子木筋	—	4.8	0.9			
19	6599	Q-19	V	貴婦員	不規	48.1	27.0	3.0			
20	4267	N層直上			主な樹? 織籠材?	34.2	10.1	1.3			
21	6605	Q-19	V	辯材	不規	32.7	4.4	2.5			
22	—	2T	砂層直上		辯材	不規	32.0	6.0	6.5	ヤブノキ	
23	—	—			辯材	不規	—	8.0	4.6	広葉樹	
24	204	1T			木綿	13.6	4.6	1.6			
25	6176	R-17	V	貴員	木綿	14.3	4.1	1.1			
26	5962	Q-19	V	貴員	木綿	18.0	4.8	3.9			
27	5802	R-18	V	貴員	木綿	13.9	5.7	4.5			
28	5990	R-19	V	貴員	木綿	14.3	4.5	3.9			
29	—	—			横板	—	7.8	6.6			
30	6641	Q-19	V	貴員	横板	—	8.1	6.3	サカキ		
31	4311	S-19	VI層直上		横板	—	4.9	4.8			
32	5991	Q-19	V	貴員	下駄	15.6	8.9	1.5	セイシアン		
33	—	—			下駄	—	9.2	1.2	スギ		
34	659	Q-19	V	その他	付札林木製品	—	1.4	0.3			
35	6002	R-19	V	その他	付札林木製品	10.2	2.4	0.2			
36	—	—			その他	—	4.5	0.6			
37	—	—			その他	栓	6.4	7.8			
38	5805	R-18	三	その他	紡錘車	4.3	4.3	0.5			
39	5929	Q-19	三	その他	不明	22.0	1.0	1.0	クスノキ		
40	—	—	三	その他	不明	37.5	13.0	0.6	スギ		



第112図 木製品10

3 中世の調査

(1) 遺構

中世の遺構については、R調査区のT-21～23区、S-23区で中世墓が13基検出された。墓壙内には残りが悪いが人骨も残存しているものもある。副葬品としては土師器、古銭等が出土している。また、同じR調査区から溝3条も検出されている。

中世墓（第113～119図 R調査区）

13基検出された。どの墓壙も3層に掘り込まれており、埋土は褐灰色砂質土である。

なお、墓壙内の出土遺物については、土師器・白磁等を●、古銭を○、釘を▲で表した。

1号墓（第114図）

T-21区で検出された。上面は削平を受けており、実際はまだ深かったと思われる。平面についても、一部はトレンチによって削平を受けている。遺物等は出土していない。

墓壙の年代は不明である。

2号墓（第114図）

T-21区で検出された。上部がかなり削平されており、深さが8cmしか残存していない。平面もトレンチにより削平を受けている。

墓壙内からは、古銭・土師器の一部・釘が出土した。

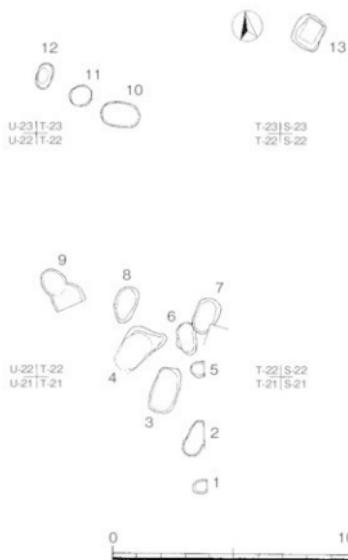
1は古銭である。洪武通宝（1368年～）である。

古銭の鋳造年代から、14世紀後半以降につくられた墓壙と思われる。

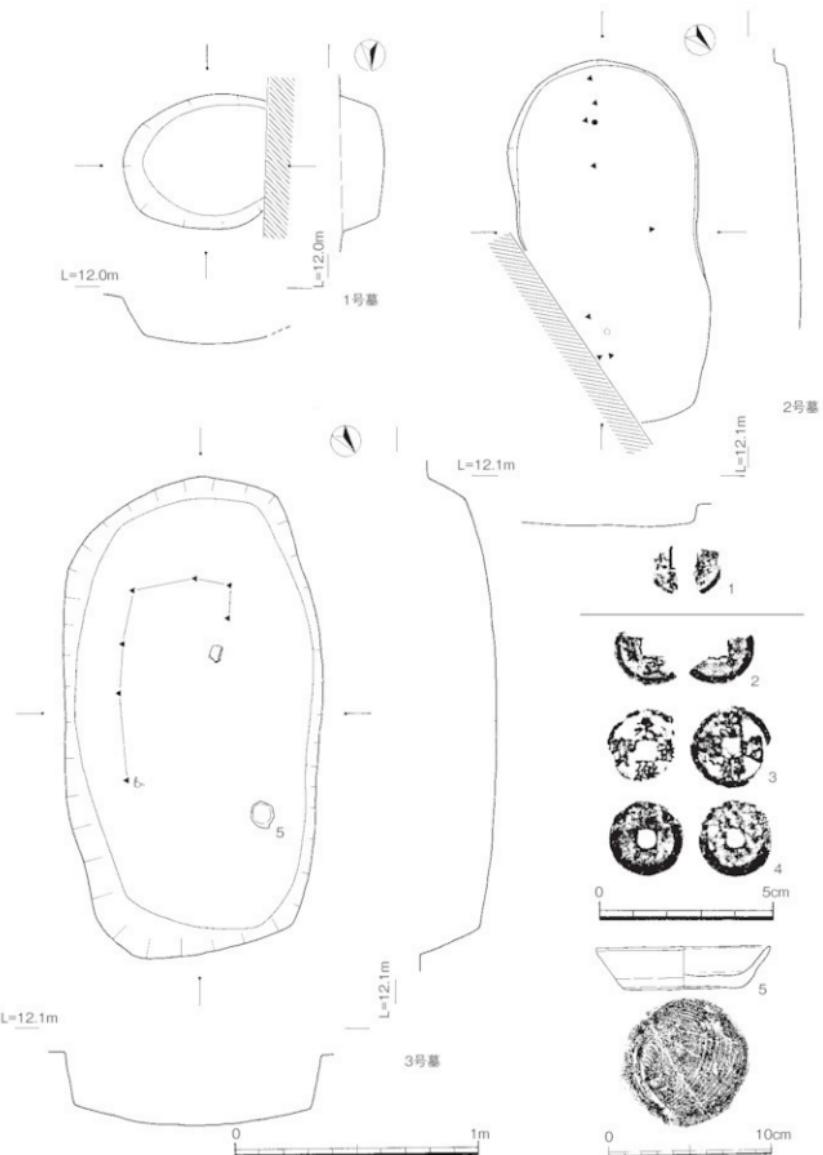
3号墓（第114図）

T-21区で検出された。墓壙内から土師器の小皿2点と古銭・釘が出土した。釘が確認される位置に、棺があったと想定される。

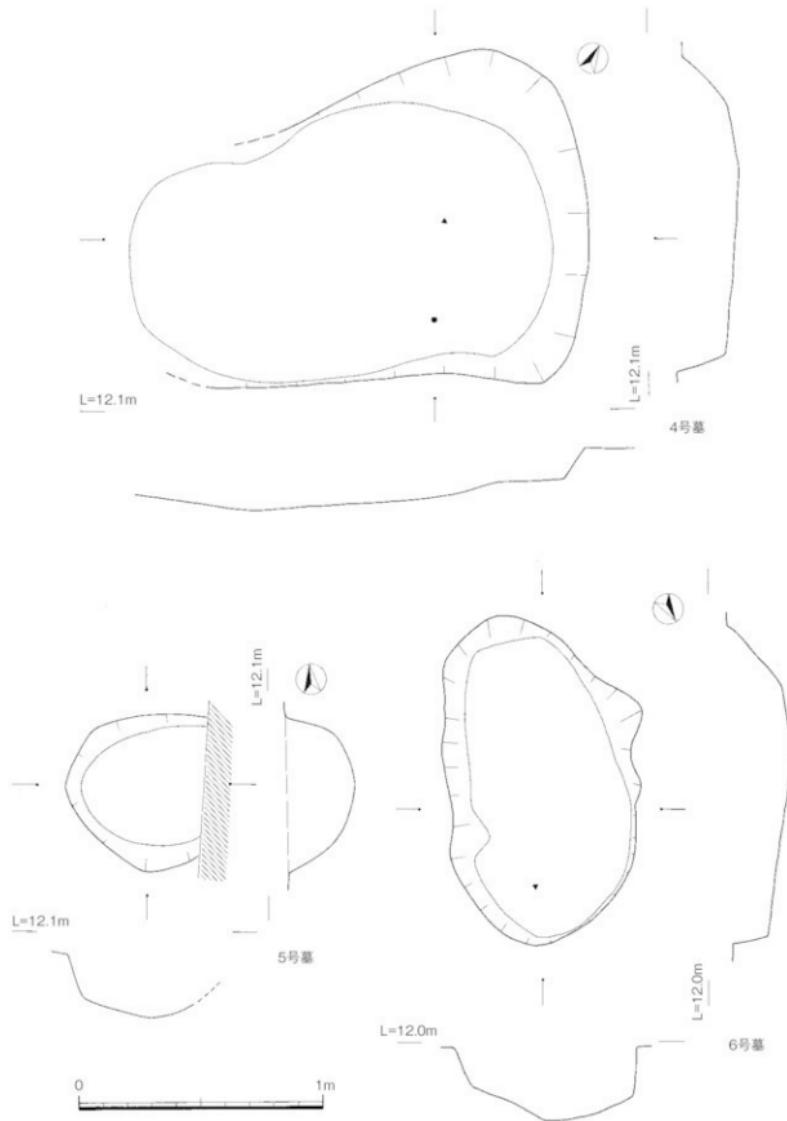
2～4は古銭である。古銭は最低でも6枚確認できる。2は1枚で、3は2枚で、4は3枚



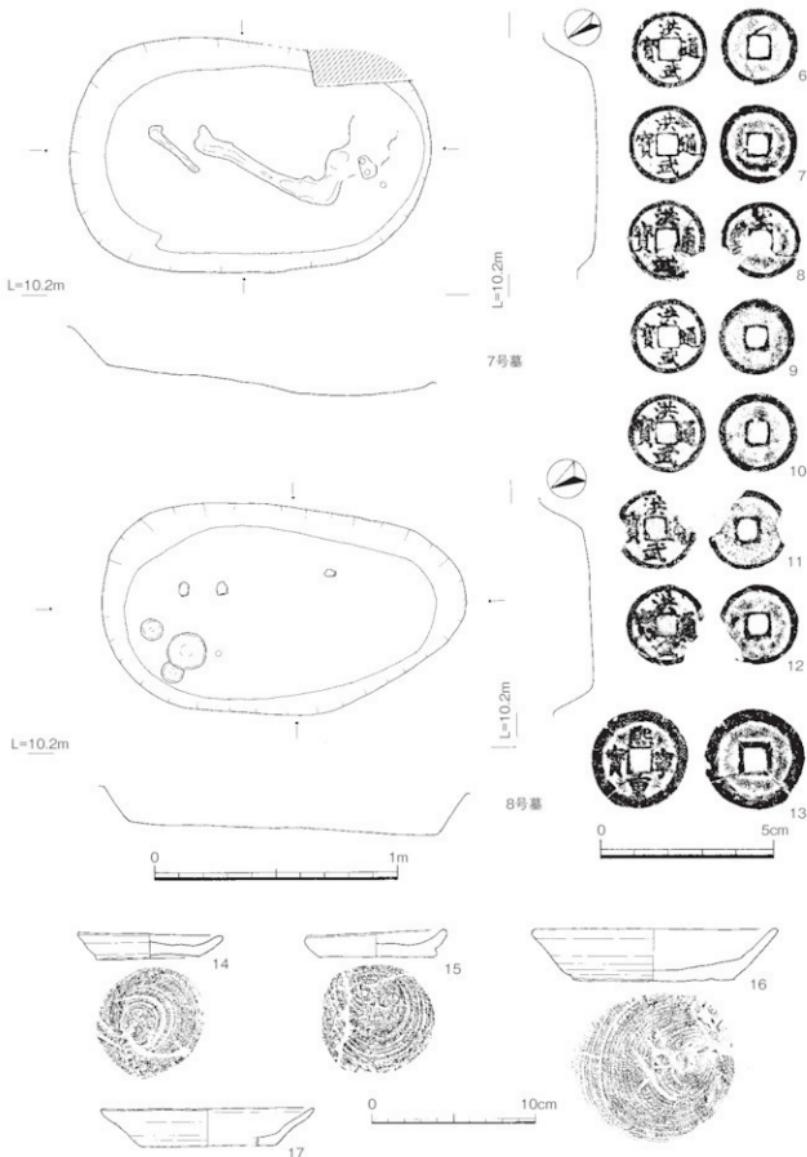
第113図 中世墓配置図



第114図 中世墓1～3及び出土遺物



第115図 中世墓 4~6



第116図 中世墓7・8及び出土遺物

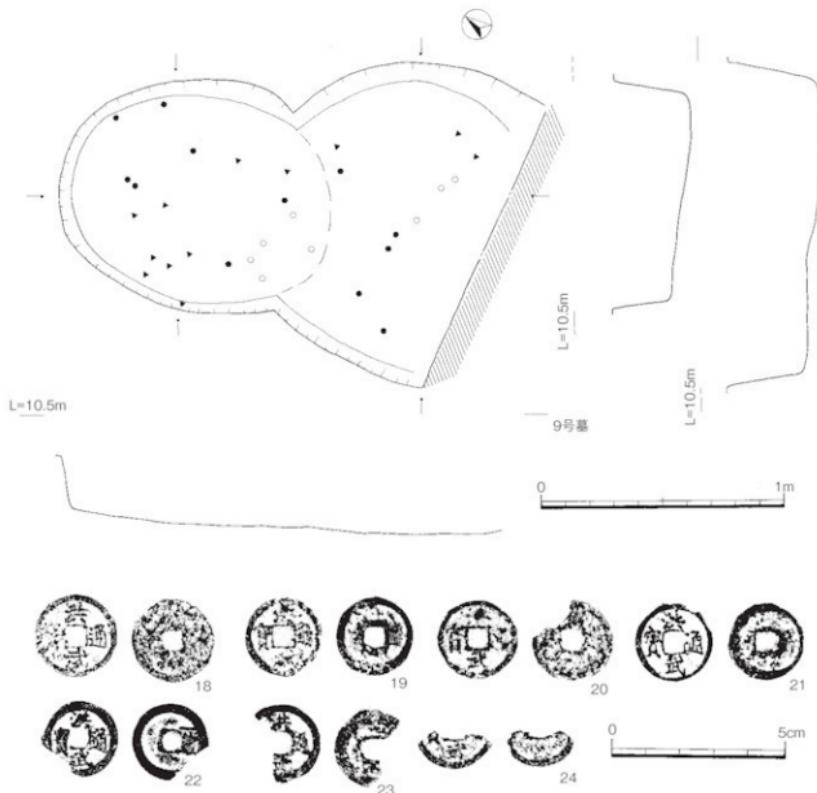
が重なっている。3・4は古銭に密接して布状の依存体が確認できるが、詳細は不明である。3は永樂通宝（1408年～）である。5は土師器の坏である。口径10.6cm、器高2.6cmで、底部は糸切りである。体部と底部の境にナデを施し、内面には指頭ナデは見られない。

古銭の铸造年代と土師器の形状から、15～16世紀代につくられた墓壙と思われる。

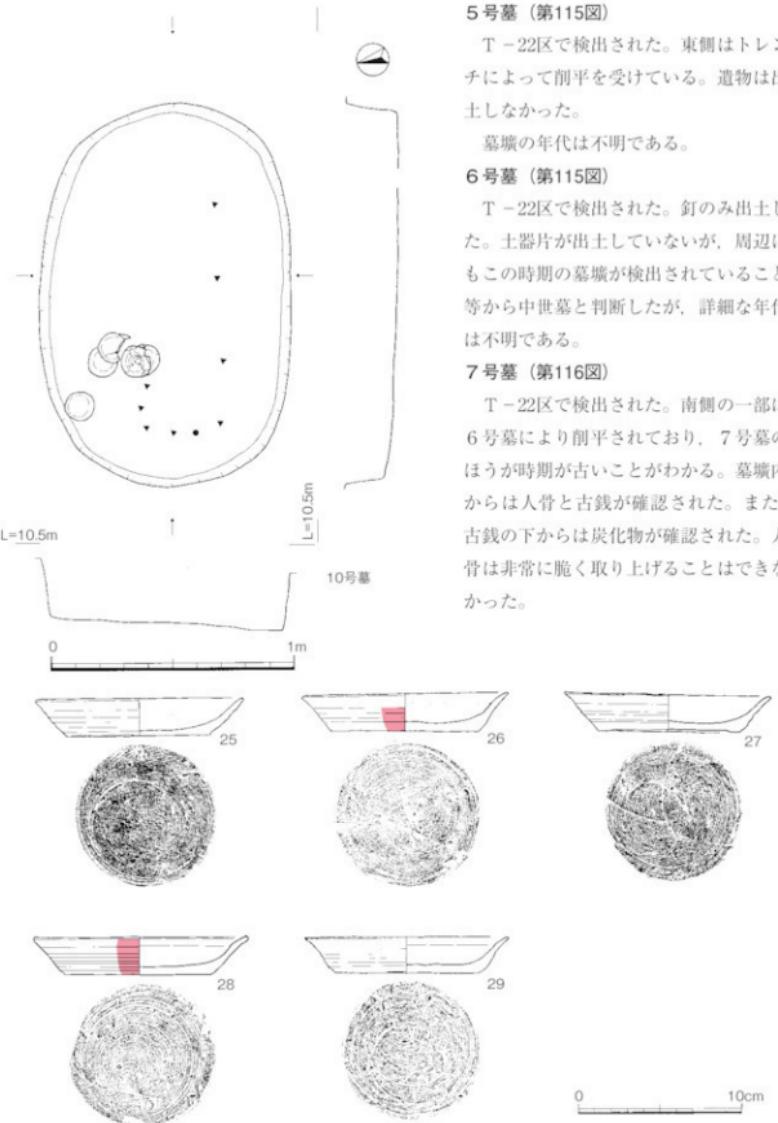
4号墓（第115図）

T-22区で検出された。墓壙西側は削平を受けている。墓壙内からは白磁小片と釘が出土したが、小片のため図化できなかった。

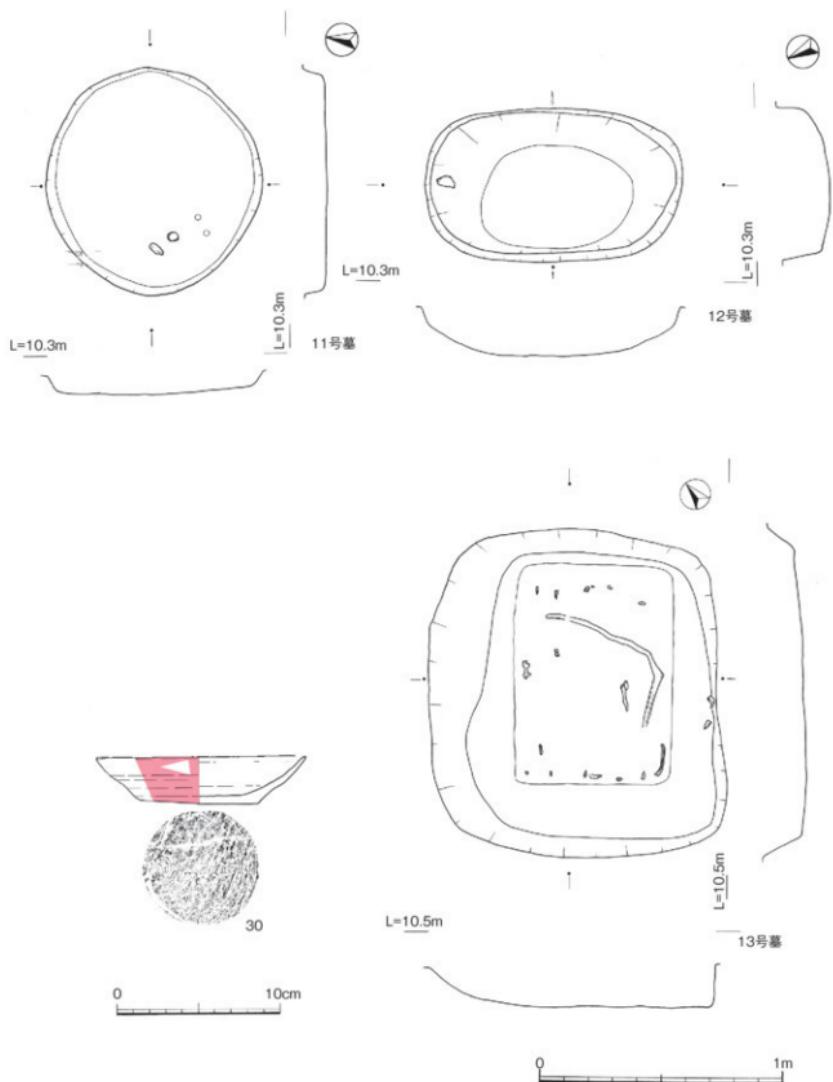
墓壙の年代は不明である。



第117図 中世墓9及び出土遺物



第118図 中世墓10及び出土遺物



第119図 中世墓11～13及び出土遺物

6～12は古銭で、すべて洪武通宝（1368年～）である。通常6枚の古銭が出土することが多いが、7枚出土している。6号墓と切り合っていることから、6号墓のものが混じった可能性も考えられる。

墓壙の年代は、14世紀後半以降のものと思われる。

8号墓（第116図）

T-22区で検出された。土師器5点と古銭が出土し、土師器4点と古銭を図化した。

13は古銭で、熙寧重宝（1071年～）である。14・15は土師器の小皿である。内面は中心がやや盛り上がる。16・17は坏である。16は体部は直線的に立ち上がり、口縁部もまっすぐに開くが、17は口縁部がやや外反する。17については14～16と時期差があると考えられ、混入の可能性も考えられる。

墓壙の年代は、古銭の鋳造年代と土師器の形状から、12世紀後半～13世紀代と思われる。

9号墓（第117図）

T-22区で検出された。墓壙の一部は削平を受けている。形状と古銭の出土状況から2基の墓壙が切り合っている可能性が考えられる。墓壙内からは、釘・土師器・白磁・古銭が出土しているが小片のため、古銭以外は図化できなかった。

18～24は古銭で、洪武通宝（1368年～）である。

墓壙は14世紀後半以降のものと思われる。

10号墓（第118図）

T-23区で検出された。墓壙内からは釘・土師器の坏5点が出土した。

25～29は土師器の坏である。口径約12.4～13.2cm、器高2.1～2.3cm程度のもので、内面に指頭ナデが見られる。26と28は外面底部から口縁部の一部に朱が残存している。

土師器の形状から、15世紀後半～16世紀代と思われる。

11号墓（第119図）

T-23区で検出された。円形のプランである。墓壙内からは土師器片と古銭が出土した。

墓壙の年代は、14世紀後半以降になると思われる。

12号墓（第119図）

T-23区で検出された。墓壙内から土師器が出土した。

30は土師器の坏である。口径13cm、器高2.9cmで、口縁部はわずかに外反し、内面には指頭ナデが見られる。また、外面底部から口縁部の一部には朱が塗布されていたものと思われる。時期は土師器の形状から、12世紀中頃～13世紀代と考えられる。

13号墓（第119図）

S-23区で検出された。墓壙内から人骨が検出されていて、長方形の桶痕が明瞭に残る。この13号墓のみ平面プランが隅丸方形である。

墓壙の年代は不明である。

中世墓出土遺物観察表

検 査 番 号	規 則 番 号	出土区	頂上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)			構成	調整		備 考
									口径	底径	器高		外面	内面	
第 14 回	5	T-21	-	3号墓	土師器	环	口縁～底部	(外) 淡黄褐色 (内) 橙色	10.6	6.9	2.6	良	ナデ	ナデ	底部 細切り
第 15 回	14	T-22	1	8号墓	土師器	小皿	完形	(外) 橙色 (内) にぶい橙色	9.0	6.2	1.7	良	ナデ	ナデ	直部 細切り 中世前半12C～13C
第 16 回	15	T-22	3	8号墓	土師器	小皿	ほぼ完形	淡黄褐色	8.4	7.0	1.7	良	ナデ	ナデ	直部 細切り 中世前半12C～13C
第 17 回	16	T-22	2	8号墓	土師器	环	完形	淡黄褐色	15.2	10.0	3.3	良	ナデ	ナデ	直部 細切り 小石粒含む 中世前半12C～13C
第 18 回	17	T-22	6	8号墓	土師器	环	口縁～底部	淡黄色	13.4	8.2	2.3	良	ナデ	ナデ	直部 細切り 小石粒含む
第 19 回	25	T-23	42	10号墓	土師器	环	ほぼ完形	にぶい黄褐色	13.0	8.8	2.3	良	ナデ	指頭ナデ	直部 細切り 小石粒含む 中世後半15C～16C頃
第 20 回	26	T-23	44	10号墓	土師器	环	ほぼ完形	にぶい黄褐色	12.4	9.1	2.3	良	ナデ	指頭ナデ	直部 細切り 小石粒含む 中世後半15C～16C頃
第 21 回	27	T-23	43	10号墓	土師器	环	ほぼ完形	にぶい黄褐色	12.7	8.7	2.2	良	ナデ	指頭ナデ	直部 細切り 小石粒含む 中世後半15C～16C頃
第 22 回	28	T-23	40	10号墓	土師器	环	完形	にぶい黄褐色	13.2	6.2	2.3	良	ナデ	指頭ナデ	直部 細切り 小石粒含む 中世後半15C～16C頃
第 23 回	29	T-23	41	10号墓	土師器	环	完形	にぶい黄褐色	12.6	8.6	2.1	良	ナデ	指頭ナデ	直部 細切り 小石粒含む 中世後半15C～16C頃
第 24 回	30	S-23	12.3	12号墓	土師器	环	ほぼ完形	淡黄褐色	13.0	7.2	2.9	良	ナデ	指頭ナデ	直部 細切り 小石粒含む 中世後半15C～16C頃

溝状遺構（第120図）

R調査区において、溝3条が検出された。溝1と溝2はほぼ平行に走っており、溝3は溝に垂直に交わるように走っている。3条ともアカホヤ火山灰であるⅢb層上面で検出されており、実際はⅢa層から堀り込まれていたと考えられる。そのため溝の幅や深さについては、まだ大きくなるものと思われる。

溝1（第120図）

R-U-23・24区で検出された。長さ約31.5m、幅約50~60cm、深さ約15~30cmを計る。溝内からは、古代の土師器9点、黒色土器A類3点、須恵器5点、白磁1点、青磁1点の19点の遺物が出土しているが、小片のため図化できなかった。

溝2（第120図）

R-23・24、S-T-U-24区、Ⅲb層で検出された。長さ約18m、幅約20~40cm、深さ約10~20cmを計る。溝内からは土師器1点と白磁が出土している。

1は土師器の甕の口縁部である。内面はヘラケズリが斜めに深く施されるため、口縁部下位に強い稜ができる。2は白磁の碗である。口縁部は玉縁状を呈する。

溝3（第120図）

U-24区で検出された。長さ約4m、幅約50cm、深さ約10cmを計り、非常に浅い溝であるが、検出面がⅢb層であったため、実際はまだ深かったものと思われる。溝内出土遺物はないが、溝1にはほぼ垂直に交わるようにながっており、溝1と同時期のものと考えられる。

大中公供養塔（第121図）

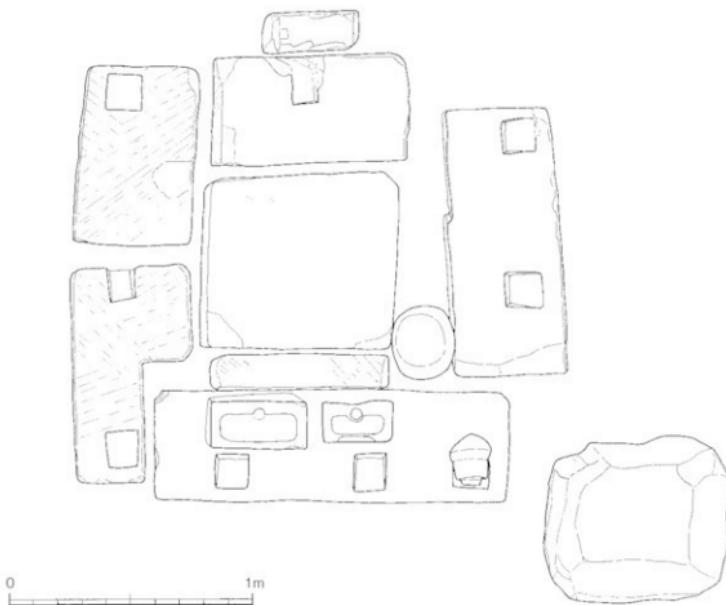
S-T-23区に建てられていた。地面からの高さは約2mを計る。供養塔には銘文が刻まれており、写真によって掲載した。供養塔の脇にある旧串木野市の文化財説明看板によると「島津家久が元亀元年（1570年）、串木野と隈之城の地頭を兼務したとき、その翌年6月22日、父貴久の御靈をここへ迎えて廟をつくったものである。また、良福寺に御靈を迎え、法要を怠らなかった。藩政時代良福寺は串木野郷の菩提寺として自社方修甫の格式高い寺であった。」と書かれている。貴久の廟はもともと日置田（へった）に建立されたという伝承があり、現在の地へ供養塔が移転されたと思われる。また、大中公供養塔の管理者原口齊吉氏の御子息の話によると、供養塔自体は本来数基あり、うち1基のみが復元建立されて再安置されているという。この話を裏付けるように供養塔の石垣には塔の一部と思われる丸石が確認されている。

（2）遺物

中世土師器の皿・壺、白磁、青磁、青白磁、朝鮮系陶器、青花、中世須恵器（権万丈・カミイイヤキ）、瓦質土器、北宋錢等が出土している。分布域としては古代の遺物が出土する地域と同じであり、古代から中世にかけてR調査区を中心とする地域で、生活が営まれていたと考えられる。

中世土師器（第122・123図）

底部の切り離しが糸切りのものを、中世の土師器として掲載した。皿と壺がある。



第121図 大中供養塔

III (第122図)

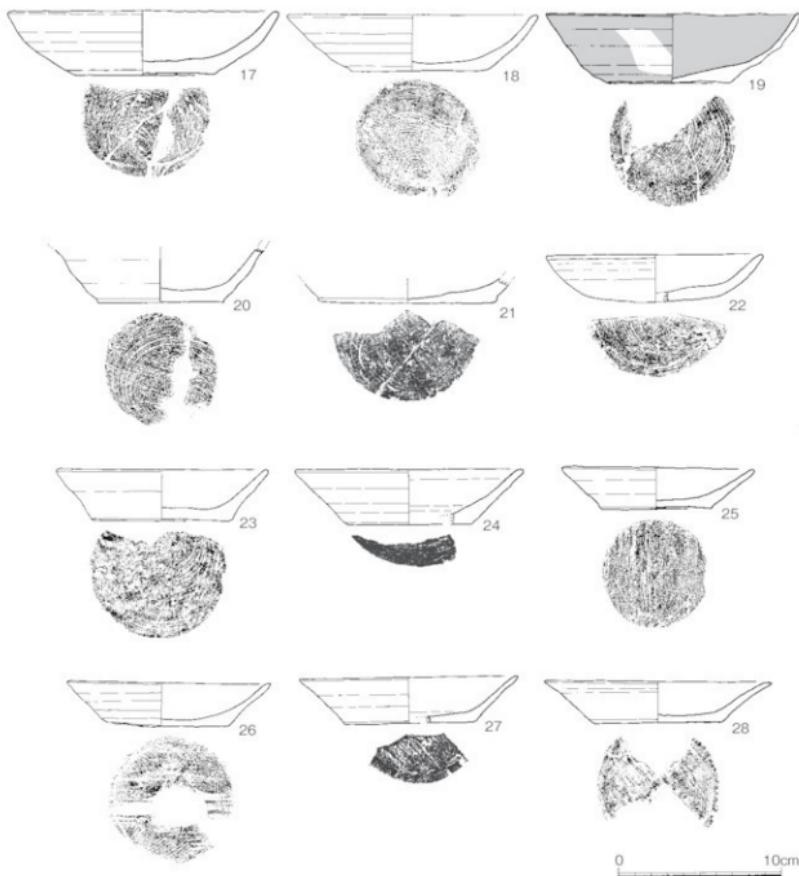
1～16は皿である。器高が2cm未満のものを皿とした。1～3は口径が9.6～9.9cmで、深さが浅いものである。外面は丁寧にナデられている。4～10は口径が7.2～9.0cmのものである。4・6・9は底部切り離し後、体部と底部の境にナデ調整を施す。11・12は口径が8.2cmと8.4cmを測り、底部は切り離し後ナデ調整を施さないものである。深さは1.8cmである。13～15は7.4～8.8cm、16は10.2cmを測る。体部はほぼ上方向に短く立ち上がるもので、そのため口径と底径の差が小さい。16は皿とするにはやや大きく器高2cm未満とする分類に反するものであるが、体部の作りから皿に分類した。



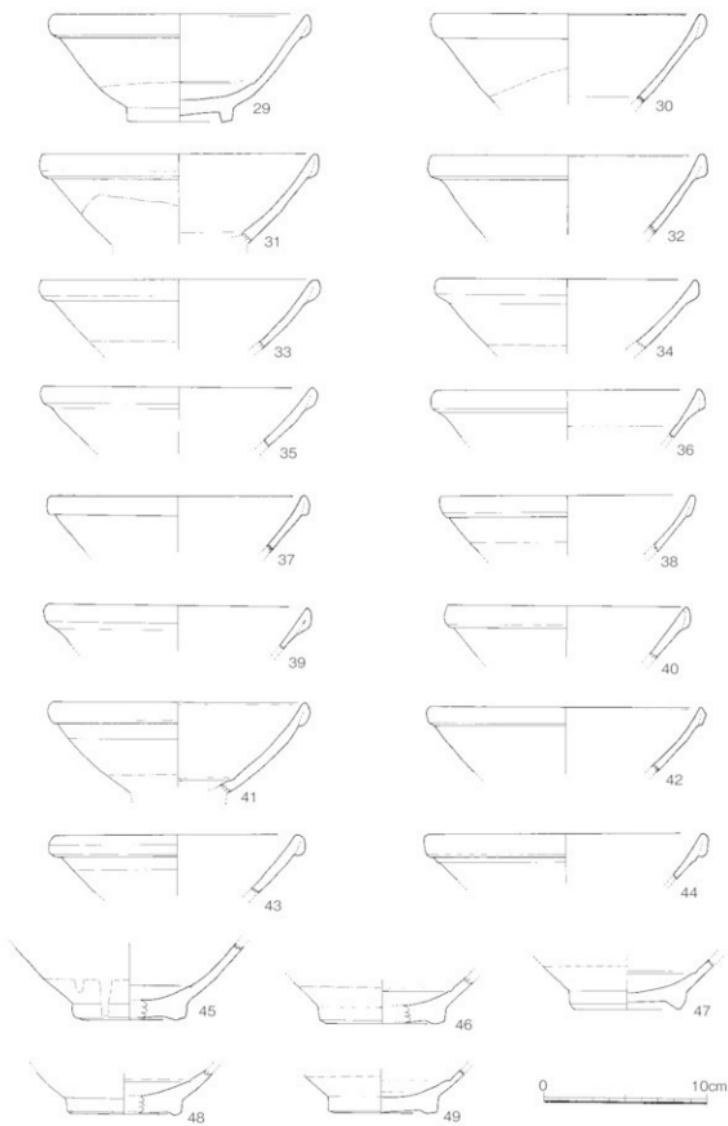
第122図 土師器1 皿

坏 (第123図)

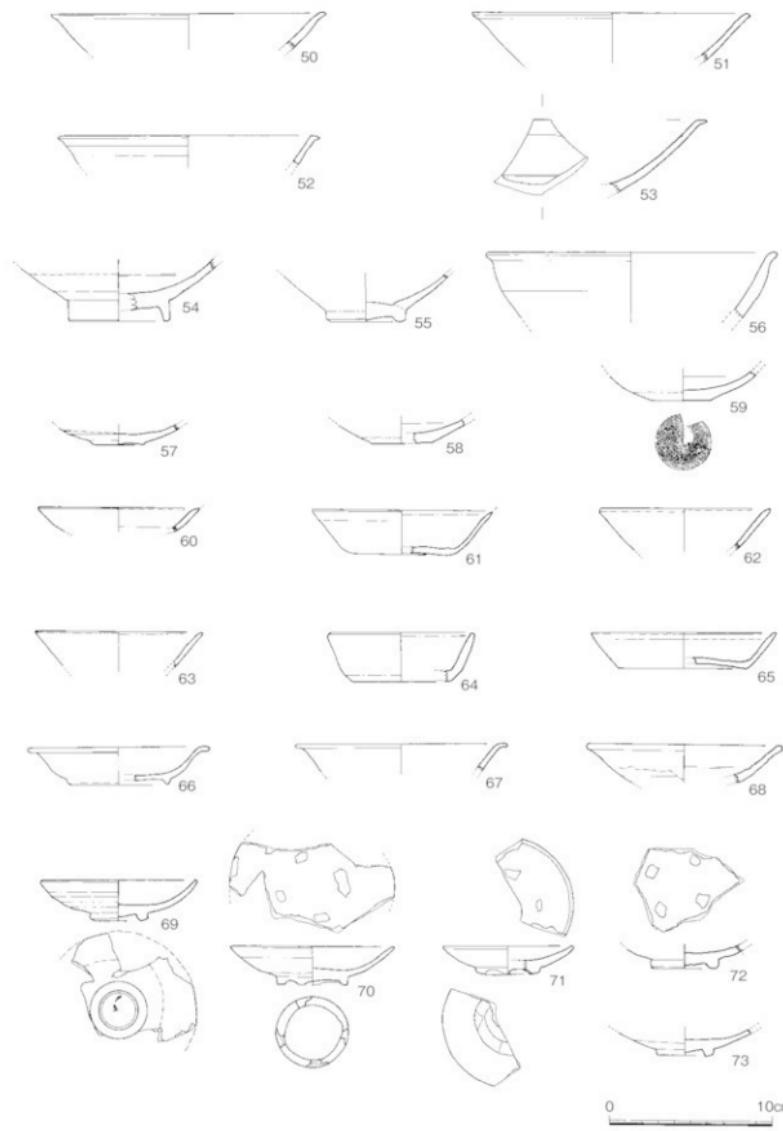
17~28は坏である。17~22は体部が曲線的に立ち上がり、口縁部もやや内湾気味に延びるものである。底部はやや厚みがある。19は内面全体と外面の半分に煤が付着している。23~25は体部の立ち上がりが直線的なものである。底部は厚みが無く、25に見られるように糸切りの後にナデ調整を施すものである。26~28は体部の立ち上がりが外反するタイプのものである。底部糸切り離し後側面をナデて器形調整している。



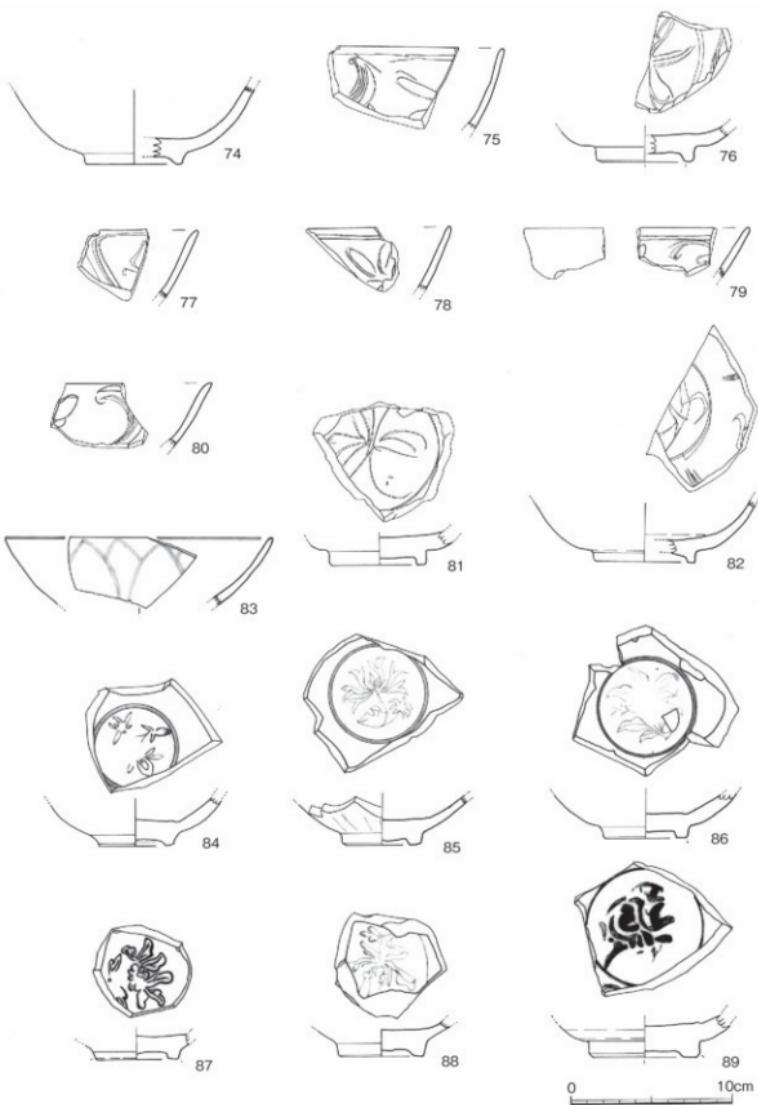
第123図 土師器2 坏



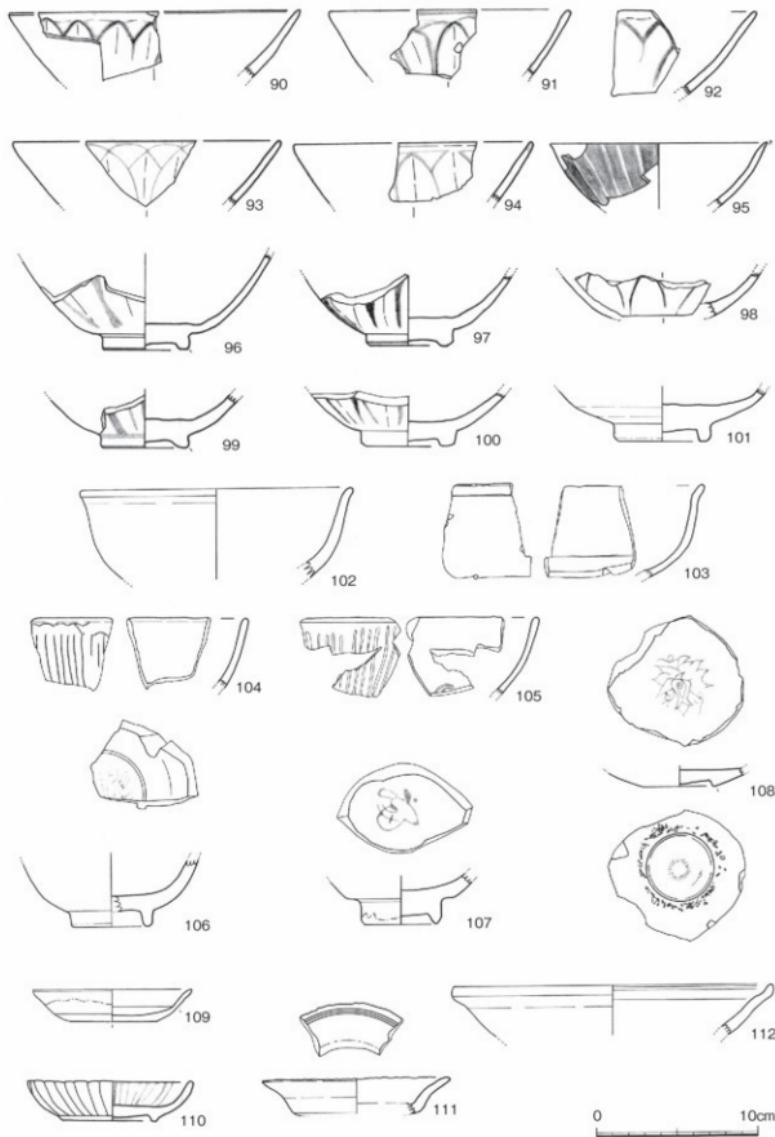
第124図 白磁 1



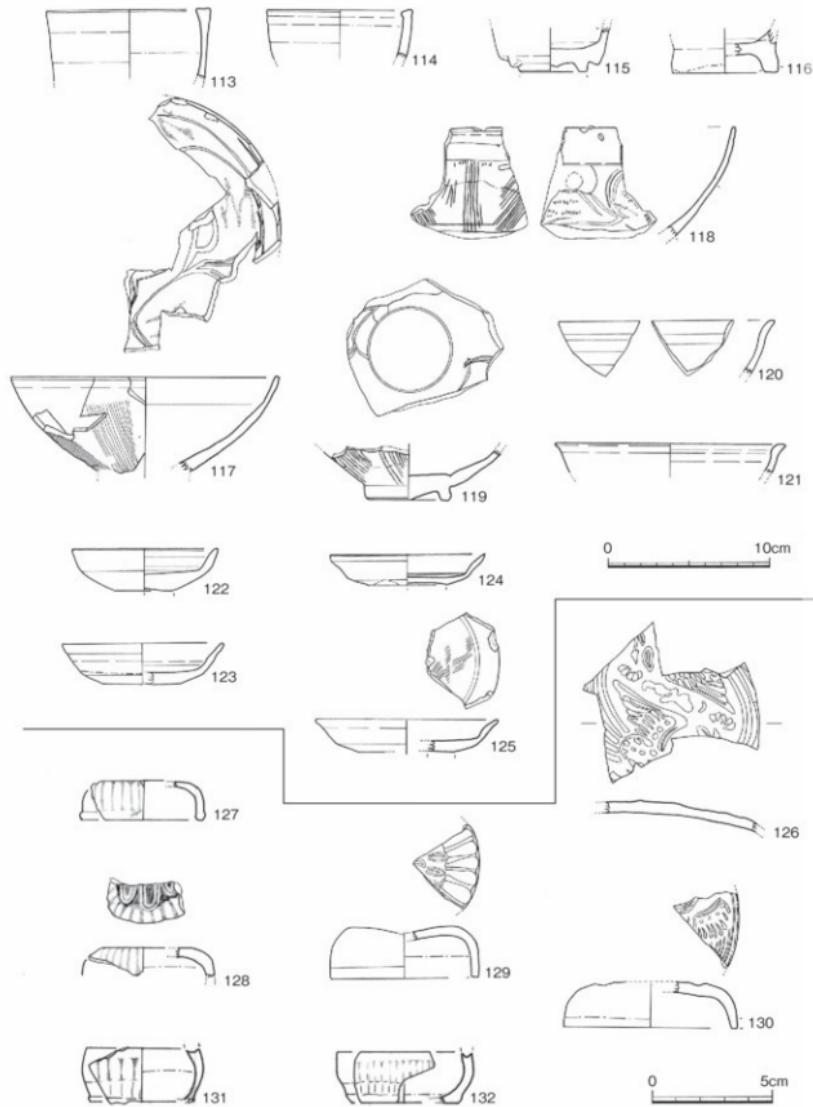
第125図 白磁2



第126図 青磁1



第127図 青磁2



第128図 青磁3・青白磁



第129図 粉青沙器

白磁（第124・125図）

29~73は白磁である。

29~49は口縁部が玉縁を呈する椀である。29~44は口縁部である。玉縁部は肉厚で、体部も厚い。29~41は見込みに1段、段を有する。45~49は底部である。高台の削り出しが浅いため、底部は肉厚となる。釉は内面と外面腰部までかけられる。50~54は口縁部が屈曲し、先端が平坦になる椀である。50~53は口縁部である。54は底部で、高台は細くつくられる。55は口縁部が口禿げとなる椀の底部である。見込みには段を有し、中心は盛り上がる形状を呈する。56は浅形の椀である。

57~73は皿である。57・58は体部が中位でわずかに屈曲し、底部がやや上げ底気味になるものである。57は無文、58は有文のもので、外面は腰部まで施釉される。59は底部が平底で、体部が内側へ屈曲するものである。外面は腰部まで施釉される。60~65は口縁部先端が口禿げとなる皿である。66・67は口縁部が端反になる皿である。

68~73は器壁が厚い小形の皿である。68は口縁端部が肥厚しやや外反する。69は体部から口縁部にかけてやや内湾するものである。高台内底に墨書が観察される。70・71は抉り高台を呈するもので、見込みに目跡が残る。72・73は抉りのない高台である。72は見込みに目跡が残る。

青磁（第126~128図）

74~125は青磁である。生産地により、龍泉窯系のものと同安窯系のものに大別した。

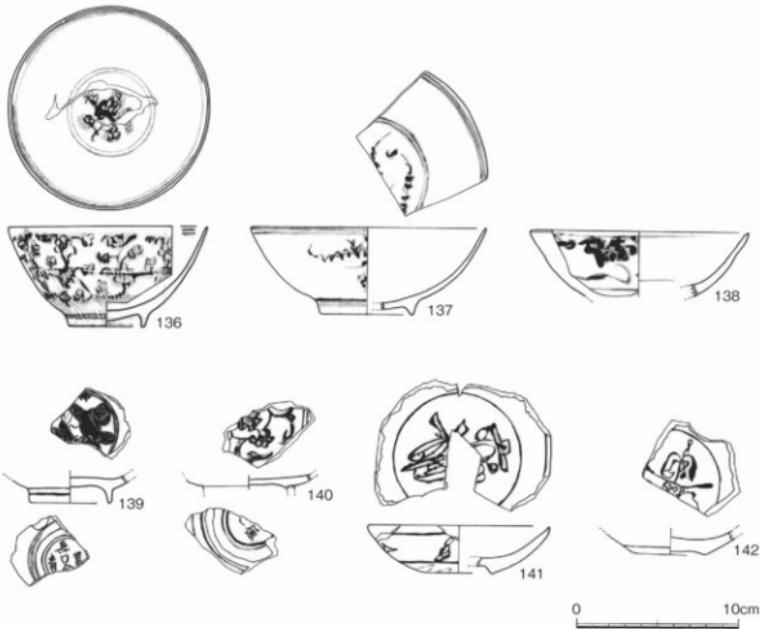
74~116は龍泉窯系青磁である。74~107は椀である。74~82は同タイプのものであるが、74は内面が無文で、75~82は内面に劃花文が描かれるものである。口縁部は直口もしくはやや外反し、底部は肉厚である。83~89は器形等は前述のタイプと同じものであるが、外面に連弁文が施されるものである。83は口縁部である。84~89は底部で、見込みには細い草花文の印刻が見られる。90~101は内面は無紋で、外面に連弁文が見られるものである。高台は低い角高台である。102・103は器壁が肉厚で、腰部が張り、口縁部は外反するものである。104・105は外面に鎧連弁が簡略化された綾筋が入るものである。106・107は器壁が内厚の底部である。見込みには細い草花文の印刻が入る。

108は杯である。底部は恭筒底をなし、砂が付着している。

109~111は皿である。109は内外面とも無文のものである。110は輪花皿である。111は稜花皿である。

112は盤である。

113~115は香炉である。113・114は口縁部で、内面は無釉である。115は底部で、高台の脇に、形骸化した3足がつく。



第130図 青花

116は瓶類の底部である。

117～125は同安窯系の青磁である。

117～121は椀である。117～119は外面に細かい縦の櫛目文、内面にヘラ状の施文具による簡略化した花文と櫛の先端で押したジグザグ文が施されるものである。121は口縁部が外反するものである。

122～125は皿である。122は体部が中位で屈曲するものである。123～125は口縁部先端が薄く尖り気味になり、わずかに外反するものである。125の見込みには、ジグザグ文が観察される。

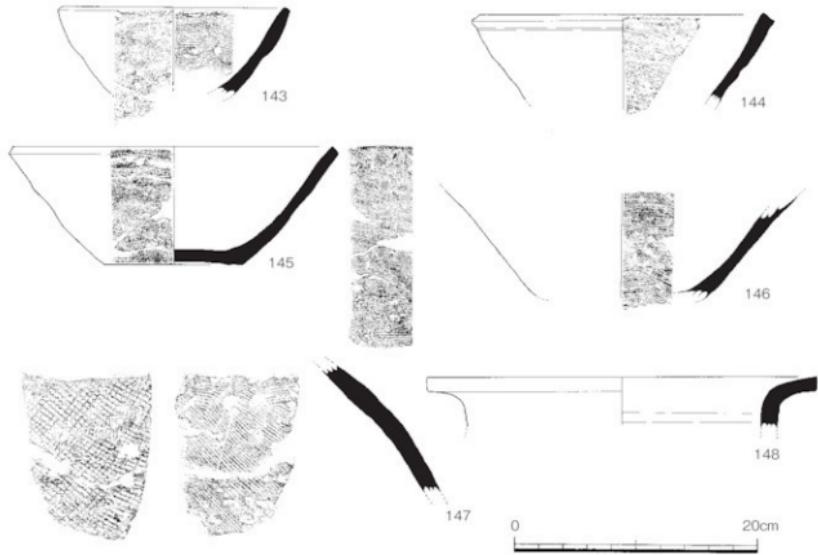
青白磁（第128図）

126～132は青白磁で、合子である。126・130は合子の蓋で、上面の文様が細かいものである。

127～129も蓋部である。131・132は身の部分である。

粉青沙器（第129図）

133～135は、朝鮮王朝時代につくられた白土を特徴とした炻器である。133は碗、134は皿である。内面に白土で象眼が施される。135は瓶類と思われる。外面に白土で象眼が施される。



第131図 中世須恵器 樺万丈

青花（第130図）

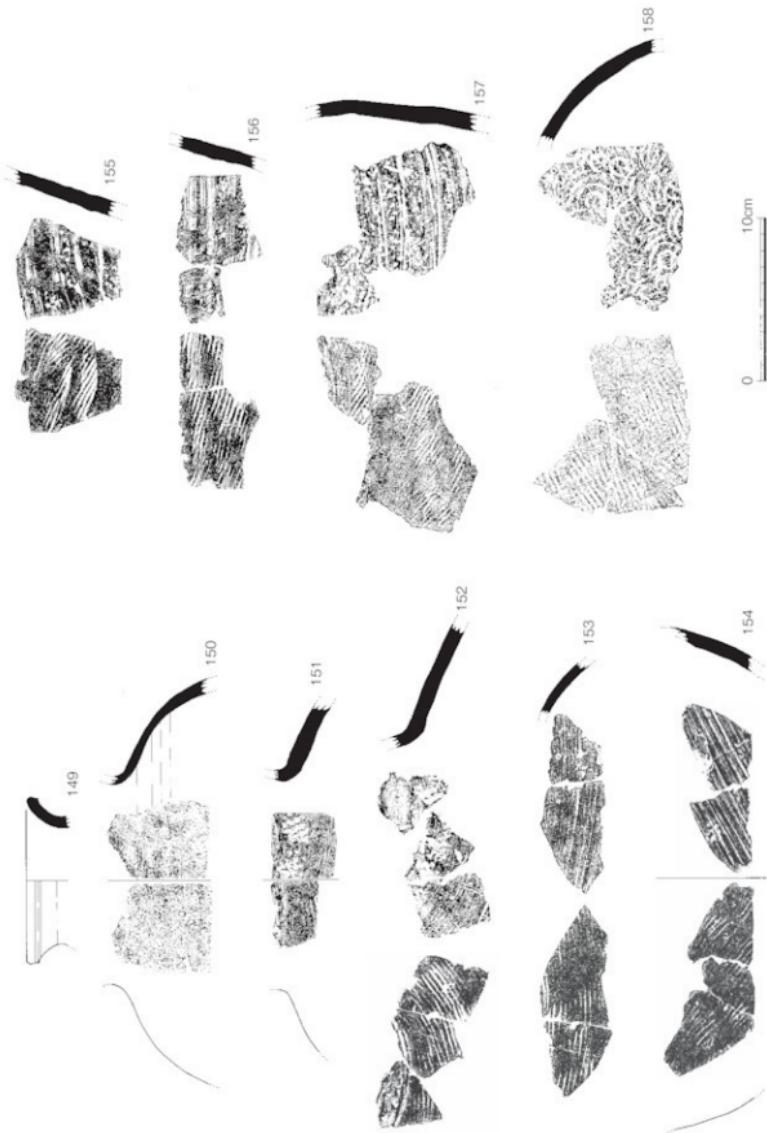
136～142は中国製の染付で青花である。136は景德鎮窯系の蓮子碗である。高台はやや内湾氣味で、疊付は細くなる。見込みは二重圓線の中に花文が描かれ、外面は唐草文が描かれる。釉は疊付を除き全面施釉される。137・138は景德鎮窯系の深さが浅いタイプの蓮子碗である。139は景德鎮窯系のもので、見込みがゆるやかに盛り上がる饅頭心になる碗である。高台内底には「長命富貴」の文字が見られる。140は景德鎮窯系の皿である。141・142は漳洲窯系の皿である。胎土は黄白色で呉須の発色は悪い。底部は葵筒底を呈する。

中世須恵器（第131・132図）

樺万丈（第131図）

熊本県荒尾市樺に所在する中世須恵器系窯のものである。胎土は灰色もしくは灰黒色で、瓦質土器に似ている。143～146は鉢である。内面には横もしくは斜め方向のハケ目が入れられる。147・148は壺である。147は肩部で、外面は格子目タタキ、内面はハケ目が施される。148は口縁部である。

第132図 中世須惠器 カムイヤキ

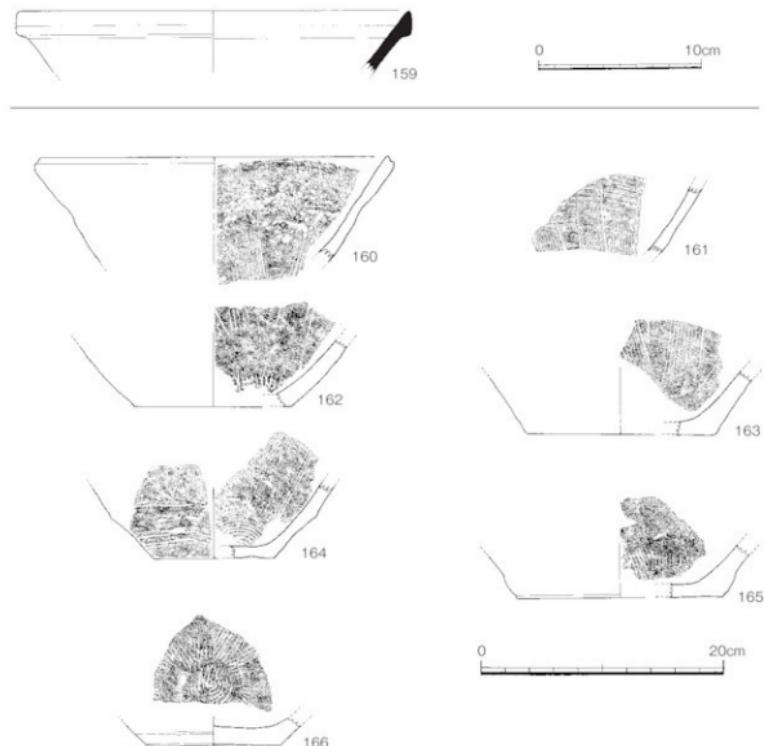


カムイヤキ（第132図）

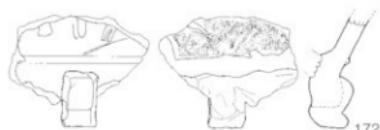
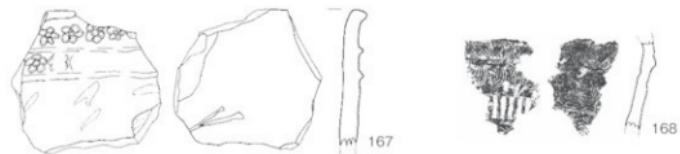
徳之島町に所在する南島系中世須恵器窯のものである。胎土はやや粗く小豆色を呈し、白色の小石粒を含む。149～158は壺である。149は口縁部である。150～152は頸部から肩部である。150は内外面ともにナデ調整で、特に内面は筋状の工具痕が残る。151・152は、外面に平行タタキのあとナデ、内面に横筋の残るナデ調整が施されるものである。153は肩部、154～158は胴部である。すべて外面は平行タタキで、内面はナデ調整で横筋が残る。

東播系須恵器（第133図）

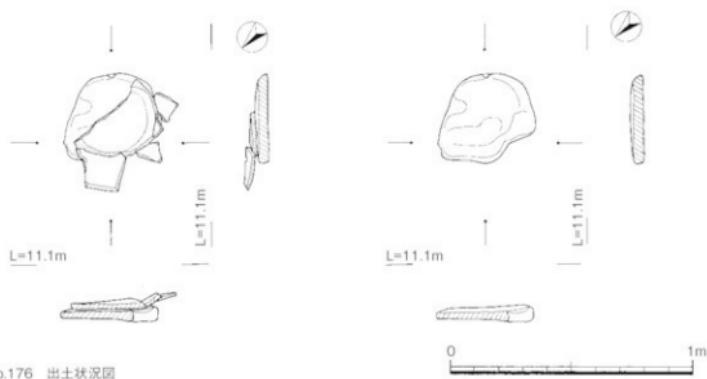
東播系須恵器は、20点ほど出土していたが、小片であったため、1点を図化した。159は鉢の口縁部である。口縁部は玉縁状に肥厚する。



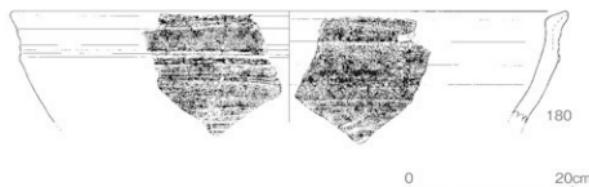
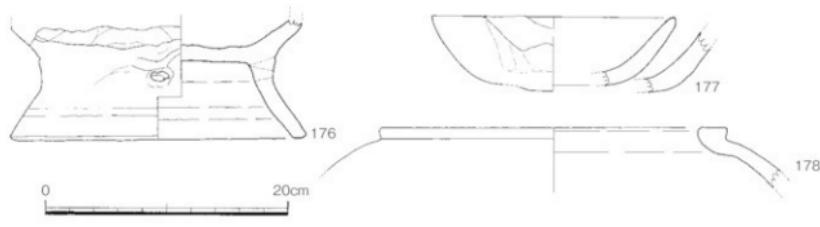
第133図 東播系須恵器・瓦質土器1



第134図 瓦質土器2



No.176 出土状況図



第135図 瓦質土器出土状況及び瓦質土器 3

瓦質土器（第133～135図）

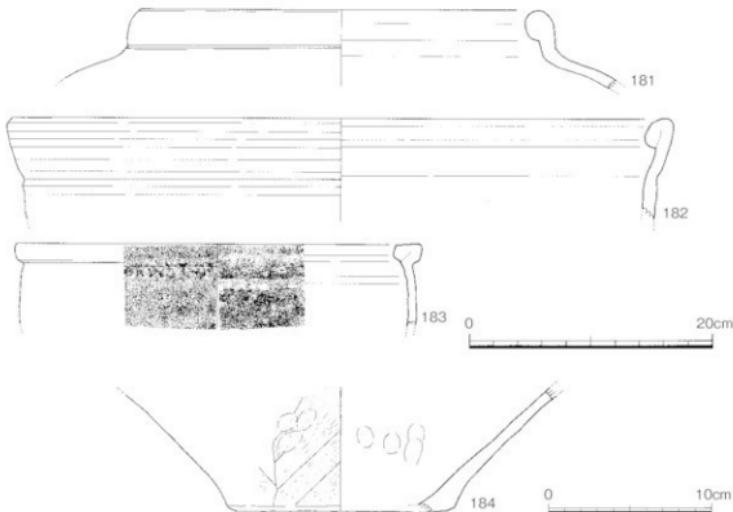
擂鉢（第133図）

160～166は瓦質の擂鉢である。胎土は161以外はオレンジ系で、161は灰色である。硬質でよく焼き締まっており、掘り目がなくなるほどではないが、使用面の研磨が著しい。器形は「逆ハ」の字形で、口縁部先端は平坦面を有する。掘り目は太く、粗く入れられる。164・166の内面には渦巻き状に入れられた掘り目が見られる。

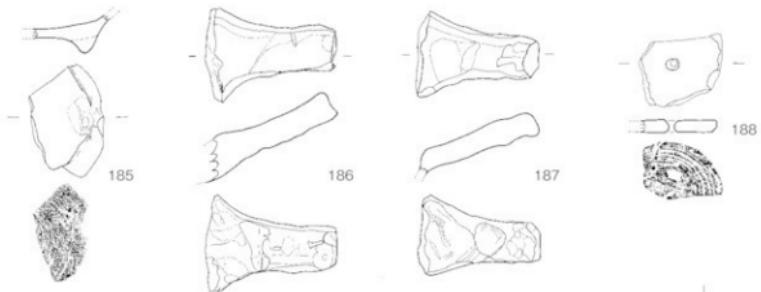
火鉢（第134・135図）

167～176は火鉢である。167・168は外面にスタンプで文様が刻まれる物である。169・170は黒色に焼かれたもので、外面口縁部には雷文がスタンプされる。171・172は底部である。足が3足つくと思われる。173は外面に細かい花の文様が施されたもので、内面はヘラ状工具による斜め方向のハケ目が観察される。火鉢以外の用途も考えられる。174・175は底部である。3足の足がつくと考えられる。176は火鉢の底部である。S-23区、長径約45cm×短径約38cmの扁平な石の上で検出された。高い高台を有するもので、高台の一部には穿孔が施される。

177・178は黒色に焼かれたものである。177は片口で、口縁部から底部にかけての境が明確でなく、丸い形状を呈する。178は壺である。179・180は用途・器種ともに不明のもので、中世須恵器の可能性も考えられるが、瓦質土器として取り扱った。179の内面は、タタキ成形をナデ消しているが、痕跡が残る。外面は腰部以下タタキ目が見られる。180は焼きがよく、須恵器質のものである。内外面ともナデ調整が施される。



第136図 その他1

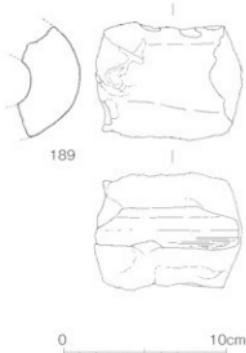


第137図 その他2

その他（第136・137図）

181・184は備前焼の壺である。口縁部は玉縁を呈する。184は底部である。182は常滑焼である。182は口縁部で、先端は内側に折り込まれ肥厚させる。183は鉢と思われるものであるが、産地も不明である。胎土は淡橙色を呈する。

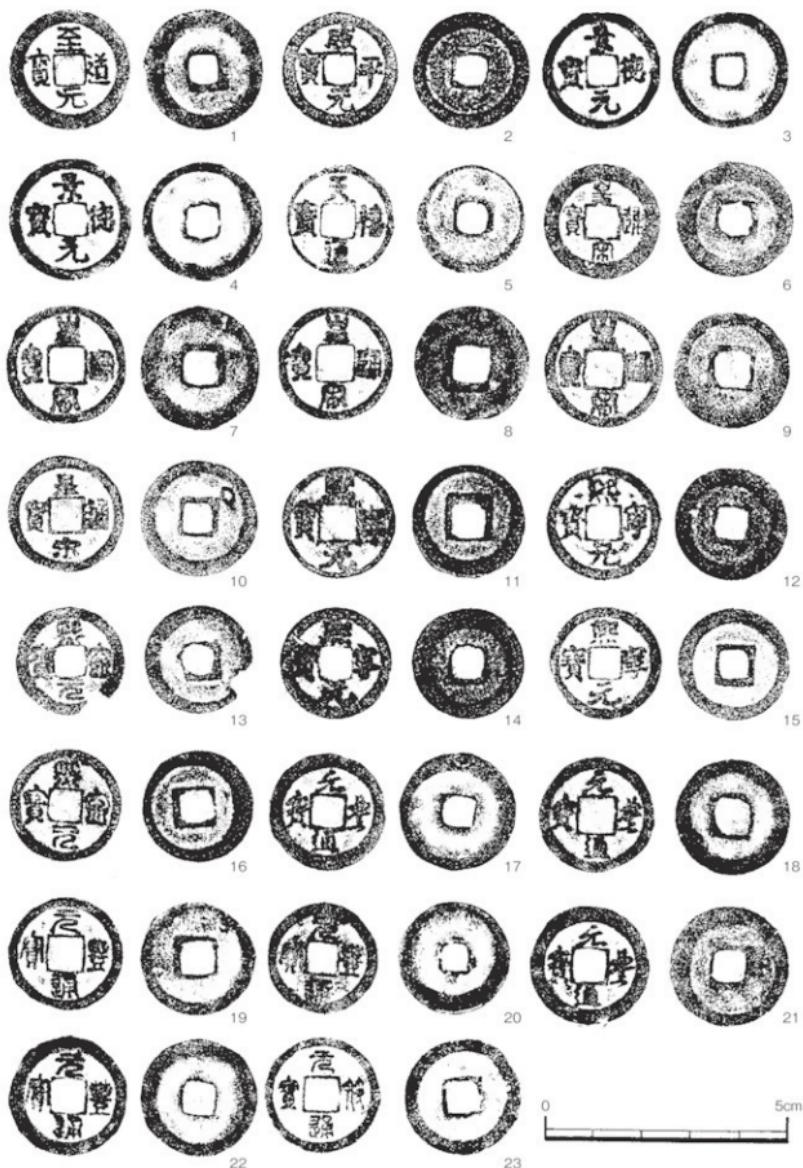
185は土師質のものである。底面に3足の足が付くものと思われる。186・187は焰烙の把手部である。188は土師器の壺の底部である。穿孔が施されており、紡錘車に加工する途中であったと思われる。189は轆の羽口である。



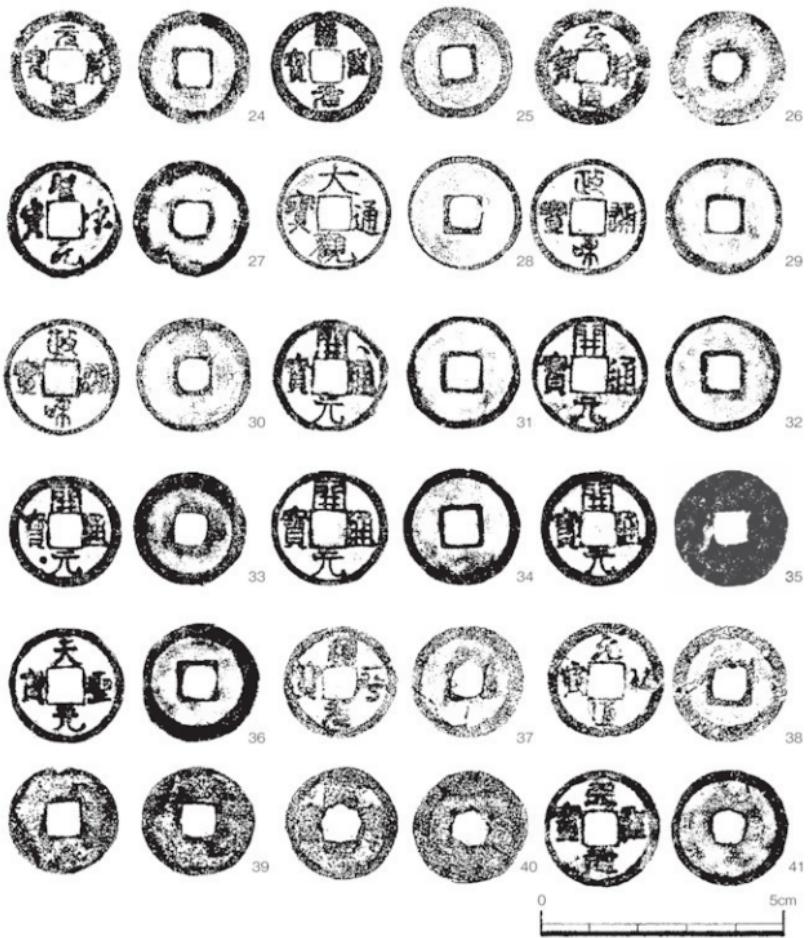
古銭（第138・139図）

1～41は古銭である。R-19区から41枚が重なって出土した。紐状のものに通されひとつにまとめられていたと考えられる。埋納錢とも考えられるが、掘り込み等は見られなかった。

1は至道元寶で铸造年代は995年である。2は咸平元寶で铸造年代は998年である。3・4は景德元寶で铸造年代は1004年である。5は天禧通寶で铸造年代は1017年である。6～10は皇宋通寶で铸造年代は1038年である。11～16は熙寧元寶で铸造年代は1068年である。17～22は元豐通寶で铸造年代は1078年である。23・24は元祐通寶で铸造年代は1086年である。25は紹聖元寶で铸造年代は1094年である。26は元符通寶で铸造年代は1098年である。27は聖宋元寶で铸造年代は1101年である。28は大觀通寶で铸造年代は1107年である。29・30は政和通寶で铸造年代は1111年である。31～35は開元通寶で铸造年代は不明である。36は天聖元寶で铸造年代は不明である。37は模鎔錢（治平通寶）で铸造年代は不明である。38～41は不明である。



第138図 古銭1



第139図 古銭2

中世土師器観察表

博物 番号	規範 番号	出土区	取上番号	層位	種別	器種	部位	色調	法量(cm)		調整		備考
									口径	底径	器高	外圓	内面
1	ST	1630, 1725	II, III	土師器	壺	口縁～底部	(外) 黄褐色 (内) 褐紅色	9.0	7.6	1.4	ナデ	ナデ	底部 あ切り 赤色の石粒含む
2	R-23	9148	II	土師器	壺	口縁～底部	淡黄色	9.2	7.6	1.3	ナデ	ナデ	底部 あ切り
3	S-22	4497	II	土師器	壺	口縁～底部	にぶい黄褐色	9.6	8.6	1.6	ナデ	ナデ	底部 あ切り
4	R-19	6611	V	土師器	壺	口縁～底部	にぶい黄褐色	9.0	3.0	1.5	ナデ	ナデ	底部 あ切り
5	Q-20	一括	III, IV	土師器	壺	尖形	にぶい黄褐色	8.8	6.0	1.9	ナデ	ナデ	底部 あ切り
6	S-22	6665	II	土師器	壺	口縁～底部	橙色	7.8	6.0	1.4	ナデ	ナデ	底部 あ切り 赤色の石粒含む
7	—	—	—	土師器	壺	口縁～底部	灰白色	8.2	5.6	2.0	ナデ	ナデ	底部 あ切り 小石粒含む
8	—	—	—	土師器	壺	口縁～底部	灰白色	8.8	7.0	1.9	ナデ	ナデ	底部 あ切り 赤色の石粒含む
9	R-23	20342	III	土師器	壺	口縁～底部	にぶい黄褐色	9.0	5.8	1.6	ナデ	ナデ	底部 あ切り 赤色の石粒含む
10	Q-19	一括	IV	土師器	壺	口縁～底部	にぶい黄褐色	9.0	6.8	1.7	ナデ	ナデ	底部 あ切り 赤色の石粒含む
11	—	—	—	土師器	壺	口縁～底部	灰白色	8.2	6.1	1.8	ナデ	ナデ	底部 あ切り 小石粒含む
12	RS-18・19	—	—	土師器	壺	口縁～底部	にぶい黄褐色	8.4	6.0	1.8	ナデ	ナデ	底部 あ切り
13	—	186	II	土師器	壺	口縁～底部	にぶい黄褐色	7.0	5.6	1.3	ナデ	ナデ	底部 あ切り 赤色の石粒含む
14	—	—	—	土師器	壺	口縁～底部	にぶい黄褐色	7.2	7.0	1.2	ナデ	ナデ	底部 あ切り 小石粒含む
15	R-22	4093, 4086	II	土師器	壺	尖形	(外) にぶい黄褐色 (内) にぶい褐色	7.6	6.0	2.0	ナデ	ナデ	底部 あ切り 赤色の石粒含む
16	Q-22	17753	V	土師器	壺	口縁～底部	(外) にぶい黄褐色 (内) 淡黄褐色	13.2	11.4	2.6	ナデ	ナデ	底部 あ切り 小石粒含む
17	Q-19・20	一括	—	土師器	壺	尖形	(外) 淡黄褐色 (内) にぶい黄褐色	16.6	8.4	3.9	ナデ	ナデ	底部 あ切り 12～13世紀代 赤色の石粒含む
18	T-22	21536	II	土師器	壺	尖形	橙色	15.4	8.0	3.5	ナデ	ナデ	底部 あ切り 12～13世紀代 赤色の石粒含む
19	Q-18・19	一括	II, III	土師器	壺	尖形	黒褐色	15.8	7.7	4.2	ナデ	ナデ	底部 あ切り 12～13世紀代 赤色の石粒含む
20	S	—	—	土師器	壺	底部	灰白色	—	7.4	—	ナデ	ナデ	底部 あ切り 小石粒含む
21	S-26	15462, 15554	II	土師器	壺	底部	にぶい黄褐色	—	11.0	—	ナデ	ナデ	底部 あ切り 赤色の石粒含む
22	S-26	15924	II	土師器	壺	尖形	にぶい橙色	13.4	8.0	2.9	ナデ	ナデ	底部 あ切り 赤色の石粒含む
23	S-22	2781	III	土師器	壺	口縁～底部	橙色	13.0	7.4	3.2	ナデ	ナデ	底部 あ切り 小石粒含む 赤色の石粒含む
24	R-23	8887	II	土師器	壺	口縁～底部	浅黃褐色	14.0	8.6	3.4	ナデ	ナデ	底部 あ切り
25	T-22	21518	II	土師器	壺	尖形	浅黃褐色	11.8	6.9	2.6	ナデ	ナデ	底部 あ切り 小石粒含む
26	S-23	2920, 2921	II	土師器	壺	尖形	(外) 浅黃褐色 (内) 淡白色	12.5	5.4	2.7	ナデ	ナデ	底部 あ切り
27	R-22	4622	II	土師器	壺	口縁～底部	にぶい黄褐色	13.4	8.0	2.8	ナデ	ナデ	底部 あ切り
28	R-22	5583, 5584	II	土師器	壺	尖形	浅黄褐色	14.0	7.8	2.5	ナデ	ナデ	底部 あ切り

第123回

第123回

白磁・青磁觀察表

標本番号	規範番号	種別	器種	出土区	取り上げ番号	層位	法量 (cm)			胎土の色調	釉薬	施釉	備考
							口径	底径	高さ				
29	白磁	板	R-22, 3T	5561, 390, 386	II	15.6	6.4	6.6	灰白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
30	白磁	板	R-27	17634, 17904	II	16.8	-	-	灰白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
31	白磁	板	R-20	5191, 5307	II, III	16.8	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
32	白磁	板	S-26	14731	II	14.8	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
33	白磁	板	Q-19	-	III	16.8	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
34	白磁	板	T-26	11344	III	15.8	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
35	白磁	板	6T	1767, 1779	N	16.8	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
36	白磁	板	S-20	5291	III	16.2	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
37	白磁	板	T-24, 6T, 3T	13435, 1784, 1662	II, III	14.4	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
38	白磁	板	Q-19	-	III	15.5	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
39	白磁	板	R-20	6234	V	16.0	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
40	白磁	板	RQ-16-19-20	-	III	14.6	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
41	白磁	板	S-23-24, T-24, Q-19	11796, 7238, 3895	II, III	14.8	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
42	白磁	板	S-19	18	IV	17.0	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
43	白磁	板	Q-19	-	III	14.9	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
44	白磁	板	RQ-19	-	III	17.0	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
45	白磁	板	S-24, T-25	10426, 7408	II	7.0	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
46	白磁	板	S-23	4464	II	7.8	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
47	白磁	板	R-20-22	6277, 2594	II, V	6.5	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
48	白磁	板	Q-22, R-22	4353, 4173	III, II	7.0	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
49	白磁	板	RS-19	-	III	6.0	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉	N I a	
50	白磁	板	S-23-24	5356	II	16.8	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
51	白磁	板	S-22-23, T-25	4816, 10166, 2499, 11885	II, III	17.0	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
52	白磁	板	S-22	6126	II	16.0	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
53	白磁	板	R-22	4725	II	-	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
54	白磁	板	3T	270	II	6.2	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉	V4	
55	白磁	板	PQ-19	-	III	4.9	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉	V4	
56	白磁	板	T-19-20	-	III	17.8	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉	X2	
57	白磁	皿	R-26-27	-	-	3.2	-	-	反黄色	透明釉	内面と外表面部まで施釉	VII I a	
58	白磁	皿	Q-20	-	III	3.8	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉	VII	
59	白磁	皿	S-23, QR-20	2157	II, III	3.4	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉	VII I a	
60	白磁	皿	Q-20	-	III	9.8	-	-	反白色	透明釉	口禪付	Xa	
61	白磁	皿	Q-20	-	III	11.0	6.2	2.7	反白色	透明釉	口禪付	X I a	
62	白磁	皿	Q-19	-	III	10.4	-	-	反白色	透明釉	口禪付	Xb/c	
63	白磁	皿	T-19	3333, 3001	N	10.2	-	-	反白色	透明釉	口禪付	Xbc	
64	白磁	皿	T-19	-	III, IV	8.6	5.0	2.7	反白色	透明釉	口禪付 外底面無釉	X2b	
65	白磁	皿	2T	1008	III	11.3	7.7	2.2	反白色	透明釉	口禪付 外底面無釉	X2h	
66	白磁	皿	S-22	4245	II	11.2	6.2	2.3	反白色	透明釉	全面施釉	森田皿	
67	白磁	皿	3T	-	-	13.0	-	-	反白色	透明釉	残存部全面施釉	森田皿E	
68	白磁	皿	R-24	3782	II	12.0	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉		
69	白磁	皿	S-16	-	I	9.6	3.6	2.6	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉	底部 製畫	
70	白磁	皿	3T	1183, 876, 1176	II	10.0	4.4	2.4	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉	抹り高台 見込みに重ね焼きの目跡有り	
71	白磁	皿	-	-	-	8.0	-	-	反白色	透明釉	口禪付 口台面無釉	見込みに重ね焼きの目跡有り	
72	白磁	皿	-	-	-	4.2	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉	森田皿	
73	白磁	皿	-	-	-	3.6	-	-	反白色	透明釉	内面と外表面部まで施釉	見込みに重ね焼きの目跡有り	
74	青磁	板	T-20	13633	II	5.8	-	-	灰色	青磁釉	裏付と高台内面無釉	I I a	
75	青磁	板	-	-	-	-	-	-	灰色	青磁釉	残存部全面施釉	12 内面劃花文	
76	青磁	板	-	-	-	-	5.0	-	灰色	青磁釉	残存部全面施釉	12 内面劃花文	
77	青磁	板	R-27	18398	I	-	-	-	反白色	青磁釉	残存部全面施釉	14 内面劃花文	
78	青磁	板	1-3	879	II	-	-	-	反白色	青磁釉	残存部全面施釉	12 内面劃花文	
79	青磁	板	-	-	-	-	-	-	反白色	青磁釉	残存部全面施釉	内面劃花文	
80	青磁	板	S-19	-	III	-	-	-	灰色	青磁釉	残存部全面施釉	14 内面劃花文	
81	青磁	板	Q-19	-	II	-	5.8	-	反白色	青磁釉	裏付と高台内面無釉	14 内面劃花文	
82	青磁	板	Q-19	-	II	-	6.4	-	反白色	青磁釉	裏付と高台内面無釉	14 内面劃花文	
83	青磁	板	Q-21, R-22	70667, 4123	II	16.4	-	-	反白色	青磁釉	残存部全面施釉	II a 内面連弁文	
84	青磁	板	Q-20	-	III	-	4.8	-	反白色	青磁釉	裏付と高台内面無釉	II c 見込みに花文	
85	青磁	板	Q-20	-	N	-	4.9	-	反白色	青磁釉	裏付と高台内面無釉	II c 連弁文、見込みに花文	
86	青磁	板	Q-19	-	II	-	5.2	-	反白色	青磁釉	裏付と高台内面無釉	II c 連弁文 見込みに花文	
87	青磁	板	RQ-16-19-20	-	III	-	5.0	-	反白色	青磁釉	裏付と高台内面無釉	見込みに花文	
88	青磁	板	Q-18	-	III	-	5.2	-	反白色	青磁釉	裏付と高台内面無釉	連弁文	
89	青磁	板	R-20	-	III	-	6.4	-	反白色	青磁釉	裏付と高台内面無釉	II c	

青磁・粉青沙器・中世須恵器観察表

検査番号	規範番号	種別	器種	出土区	取り上げ番号	層位	法量(cm)		胎土の色調	釉薬	施釉	備考		
							口径	底径						
第127回	90	青磁	板	S	—	—	18.0	—	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	区 通井文		
	91	青磁	板	Q-19-R-19	一括	N	15.2	—	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	通井文		
	92	青磁	板	Q-19-R-19	—	III, N'	—	—	反白色	青磁釉	残存部全面施釉	通井文		
	93	青磁	板	Q-19	一括	N	16.8	—	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	通井文		
	94	青磁	板	QR-19, QR-20	—	III	15.0	—	反白色	青磁釉	残存部全面施釉	通井文		
	95	青磁	板	S-25	5391	II	13.6	—	灰白色	青磁釉	残存部全面施釉	N? 通井文		
	96	青磁	板	Q-19-8, 8-9 S-20, T-25	1559, 12237	II, III	—	5.3	—	灰白色	青磁釉	高台面から高台全面無釉		
	97	青磁	板	S-19	一括	II	—	4.7	—	反白色	青磁釉	高台面から高台全面無釉		
	98	青磁	板	Q-18-T-19	一括	II, III, N'	—	—	灰白色	青磁釉	高台面から高台全面無釉	N		
	99	青磁	板	T-20	5717	III	—	5.6	反白色	青磁釉	高台面から高台全面無釉			
	100	青磁	板	Q-20	一括	IV	—	5.0	—	反白色	青磁釉	高台面から高台全面無釉		
	101	青磁	板	—	—	—	—	6.0	—	灰色	青磁釉	高台面から高台全面無釉	N? 4	
第128回	102	青磁	板	R	—	—	17.0	—	反白色	青磁釉	残存部全面施釉	上田 O N		
	103	青磁	板	R-19	一括	N	—	—	灰色	青磁釉	残存部全面施釉	上田 O E		
	104	青磁	板	RS-18	一括	II	—	—	反白色	青磁釉	残存部全面施釉	上田 O~N'		
	105	青磁	板	R-20	5360, 5404	II	—	—	反白色	青磁釉	残存部全面施釉	上田 N'		
	106	青磁	板	P-18, R-19	一括	II	—	5.0	反白色	青磁釉	高台全面無釉	上田 II 明 花文		
	107	青磁	板	—	—	—	—	4.4	反白色	青磁釉	高台全面無釉	自明 花文		
	108	青磁	片	—	—	—	—	4.2	反白色	青磁釉	蓋付から高台全面無釉	环 区~ 明 花文 番號底		
	109	青磁	皿	T-26	13519, 11354	II	9.9	5.0	反白色	青磁釉	内部と外面部全面まで施釉	1 Ia		
	110	青磁	皿	P-22	73	II	10.3	6.0	反白色	青磁釉	蓋付と高台全面無釉	菊花文 圓~明		
	111	青磁	皿	Q-17	一括	—	—	11.6	—	反白色	青磁釉	残存部全面施釉	蝶花紋 明	
	112	青磁	盤	—	—	—	—	19.8	—	反白色	青磁釉	残存部全面施釉	R 小堀N	
第129回	113	青磁	香炉	S-19	2778	III	10.0	—	反白色	青磁釉	内面無釉			
	114	青磁	香炉	RS-19	一括	—	9.0	—	反白色	青磁釉	内面無釉			
	115	青磁	香炉	T-24-25	12493, 12547	II	—	4.1	淡青色	青磁釉	内面無釉 高台全面無釉			
	116	青磁	袋物	R-18	一括	N	—	6.4	灰色	青磁釉	蓋付無釉			
	117	青磁	板	R-19	一括	—	—	16.6	—	灰色	青磁釉	内面と外面部全面まで施釉	瓶 水注、巻?寺銘 I b 外面網目文 内面花文 ジグザク文	
	118	青磁	板	T-25	—	II	—	—	反白色	青磁釉	内面と外面部全面まで施釉	外面網目文 内面花文 ジグザク文		
	119	青磁	板	Q-19	一括	II	—	5.0	反白色	青磁釉	内面と外面部全面まで施釉	外面網目文 内面花文 ジグザク文		
	120	青磁	板	S-27	16225	II	—	—	反白色	青磁釉	残存部全面施釉	板 E		
	121	青磁	板	—	—	N	14.0	—	反白色	青磁釉	残存部全面施釉	N 1b		
	122	青磁	皿	Q-19-20, RS-18-19	一括	III, IV	8.9	3.6	2.6	反白色	青磁釉	外底全面無釉		
第130回	123	青磁	皿	R-19	一括	II	9.9	4.8	2.5	反白色	青磁釉	外底全面無釉	I 1a	
	124	青磁	皿	Q-19	—	III	9.6	4.7	1.9	反白色	青磁釉	外底全面無釉	I 1a	
	125	青磁	皿	—	—	—	—	11.2	5.8	2.0	反白色	青磁釉	腹部から内底全面無釉	I 2a
	126	青白磁	合子	—	—	—	—	—	—	反白色	透明釉	残存部全面施釉		
	127	青白磁	合子	R-23	9036	—	4.9	—	1.6	反白色	透明釉	内面全面無釉		
	128	青白磁	合子	—	—	—	—	—	—	反白色	透明釉	残存部全面施釉	△ D ~	
	129	青白磁	合子	Q-19	一括	III	6.0	—	—	反白色	透明釉	内面全面無釉		
	130	青白磁	合子	Q-19	一括	III	7.2	—	—	反白色	透明釉	内面全面無釉		
	131	青白磁	合子	—	—	—	—	5.6	—	反白色	透明釉	外底全面以下無釉		
	132	青白磁	合子	T-25	13638	III	—	—	反白色	透明釉	腹部から内底全面無釉 裏受け銀無釉			
第131回	133	粉青沙器	皿	N-30	188	II	—	—	灰色	青磁釉	残存部全面施釉	白土象嵌		
	134	粉青沙器	皿	—	—	—	—	—	灰色	青磁釉	残存部全面施釉	白土象嵌		
	135	粉青沙器	瓶	—	—	—	—	—	灰色	青磁釉	残存部全面施釉	白土象嵌		
	136	青花	板	S-22	21681	II	12.4	6.4	6.2	白色	透明釉	蓋付以外施釉	外表面草文 内面花文	
	137	青花	板	—	—	—	14.5	6.0	5.4	白色	透明釉	蓋付以外施釉		
第132回	138	青花	板	Q	—	—	14.0	—	—	淡青色	透明釉	見込みに始の目輪剥ぎ		
	139	青花	板	—	—	—	—	5.0	—	反白色	透明釉	蓋付以外施釉		
	140	青花	皿	2T	278	II	—	—	反白色	透明釉	残存部全面施釉			
	141	青花	皿	—	—	—	—	4.0	—	反白色	透明釉	腹部から内底全面無釉	幕物底	
	142	青花	皿	—	—	—	—	4.4	—	淡黃褐色	透明釉	腹部から内底全面無釉	幕物底	
第133回	143	中世須恵器 (柳万丈)	鉢	Q-18, SQ-18	一括	III, IV	18.0	—	反白色	—	—			
	144	中世須恵器 (柳万丈)	鉢	Q-19-20	一括	II, III	23.4	—	反白色	—	—			
	145	中世須恵器 (柳万丈)	鉢	Q-19-20S	一括	II	26.2	11.4	9.7	反白色	—	—		
	146	中世須恵器 (柳万丈)	鉢	R-20, RS-19	一括	N	—	—	反白色	—	—			
第134回	147	中世須恵器 (柳万丈)	要	SPO-19, Q-22	一括	III	—	—	反白色	—	—			
	148	中世須恵器 (柳万丈)	要	—	—	—	32.0	—	反白色	—	—			

中世須恵器・瓦質土器觀察表

施設番号	施設名	種別	器種	出土区	取り上げ番号	層位	法量 (cm)			胎土の色調	粘葉	施釉	備考
							口径	底径	高さ				
149	中世須恵器 カムイナガサ	要	—	—	—	II	10.0	—	—	暗赤褐色	—	—	—
150	中世須恵器 カムイナガサ	壺	T-25, S-26	—	14963, 18627, 16058, 15331	II, III	—	—	—	灰色	—	—	—
151	中世須恵器 カムイナガサ	壺	RS-19	—	—	III	14.0	—	—	に赤い赤褐色	—	—	—
152	中世須恵器 カムイナガサ	壺	S-24, T-24, C-24	—	4832, 11567, 13442	II	—	—	—	暗赤褐色	—	—	—
153	中世須恵器 カムイナガサ	壺	S-25	—	1170, 1708	II	—	—	—	灰色	—	—	—
154	中世須恵器 カムイナガサ	壺	S-24-25	—	11985, 13122	II	—	—	—	灰褐色	—	—	—
155	中世須恵器 カムイナガサ	壺	ST	—	773	II	—	—	—	暗赤褐色	—	—	—
156	中世須恵器 カムイナガサ	壺	S-24	—	4825	II	—	—	—	暗赤褐色	—	—	—
157	中世須恵器 カムイナガサ	壺	R-25	—	5293	II	—	—	—	褐色	—	—	—
158	中世須恵器 カムイナガサ	壺	R-27, S-27, T-26	—	18434, 17696, 15264	II	—	—	—	灰白色	—	—	—
159	東造手形器	鉢	T-24, S-24	—	14110, 4829	II	24.0	—	—	灰白色	—	—	小石粒含む
160	瓦質土器	火鉢	Q-20	—	—	III	29.6	—	—	灰白色	—	—	小石粒含む
161	瓦質土器	火鉢	RS-20	—	—	—	—	—	—	灰白色	—	—	—
162	瓦質土器	火鉢	T-20	—	2020, 2022	III	—	13.0	—	浅黄色	—	—	小石粒含む
163	瓦質土器	火鉢	T-24	—	12295	II	—	15.4	—	灰白色	—	—	小石粒含む
164	瓦質土器	火鉢	S-25	—	12979	II	—	9.8	—	浅黄色	—	—	小石粒含む
165	瓦質土器	火鉢	Q-23	—	7490	II	—	17.0	—	灰白色	—	—	—
166	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	11.0	—	—	浅黄色	—	—	—
167	瓦質土器	火鉢	R-18	—	—	—	—	—	—	黄灰色	—	—	—
168	瓦質土器	火鉢	T-25	—	7373	II	—	—	—	浅黄色	—	—	—
169	瓦質土器	火鉢	S-15	—	—	—	—	—	—	浅黄色	—	—	—
170	瓦質土器	火鉢	RS-18	—	—	II	—	—	—	灰白色	—	—	—
171	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	—	—	—	灰白色	—	—	—
172	瓦質土器	火鉢	T-21	—	5764	III	—	—	—	浅黄色	—	—	—
173	瓦質土器	茶碗?	SQ-20, QR-19, SPG-18/19	—	—	III	—	—	—	灰白色	—	—	—
174	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	28.6	—	—	黄灰色	—	—	—
175	瓦質土器	火鉢	S-20	—	1672	III	—	30.0	—	に赤い黄褐色	—	—	—
176	瓦質土器	火鉢	S-23	—	—	—	—	23.4	—	浅黄色	—	—	—
177	瓦質土器	火鉢	—	—	—	—	20.0	—	6.0	灰白色	—	—	—
178	瓦質土器	壺	Q-18	—	—	II	28.4	—	—	灰黄色	—	—	—
179	瓦質土器	鉢	T-19-20, R-21, 23, P-26, S-16a, -21	—	9898, 10726, 3451, 2136, 3283, 3682, 06, 633, 525, 5800	II, III, IV	36.6	—	—	灰白色	—	—	赤色の石粒含む
180	瓦質土器	鉢	R-22	—	20506	III	—	34.2	—	灰黄色	—	—	小石粒含む
181	瓦質土器	要	—	—	—	—	33.0	—	—	暗赤色	灰釉	—	—
182	瓦質土器	要	—	—	—	—	54.0	—	—	褐色	铁釉	—	—
183	不明	鉢?	—	—	—	—	33.4	—	—	暗灰色	灰釉	—	—
184	瓦質土器	壺	R-21, 27, S-20	—	5330	II, III	—	15.0	—	に赤い橙色	—	—	小石粒含む
185	中世須恵器	壺?	R-20	—	6193	V	—	—	—	橙色	—	—	—
186	土師質土器	鉢	—	—	—	—	—	—	—	灰黄色	—	—	—
187	土師質土器	鉢	T-19	—	—	III, IV	—	—	—	浅黄色	—	—	—
188	中世須恵器	鉢	S-26	—	16114	II	—	—	—	に赤い黄褐色	—	—	—
189	瓦質土器	鉢	Q-19	—	—	II	—	—	—	に赤い橙色	—	—	—

4 近世以降の調査

(1) 遺構 (第140~143図)

近世以降の時代に相当すると思われる遺構としては、R調査区から杭列、P調査区から石臼が廃棄された土坑、溝、良福寺和尚墓が検出された。

柱穴 (第140図)

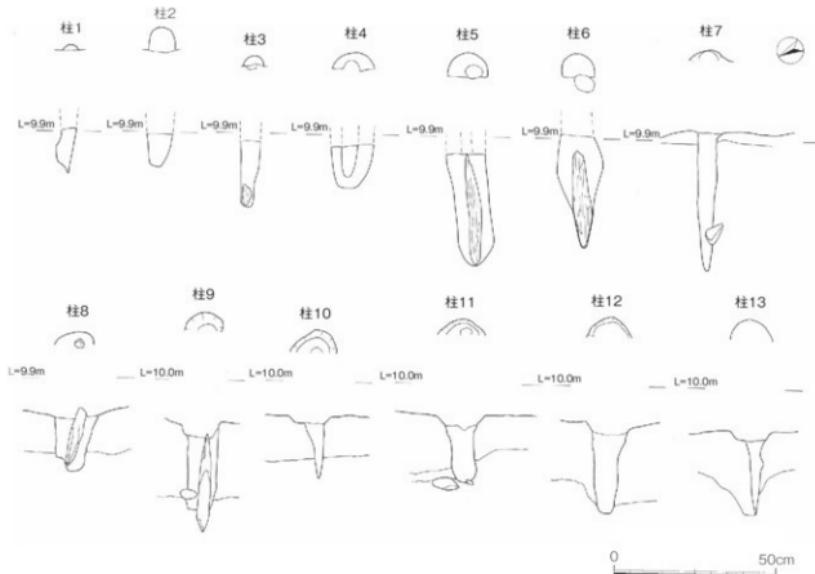
R調査区のT-24、S-24・25区、Ⅲ層で検出された。柱穴は東西方向を軸に13基並ぶ。柱穴3・5・6・8・9については、柱が残存する状況であった。近世以降のものと思われる。

溝 (第141図 P調査区)

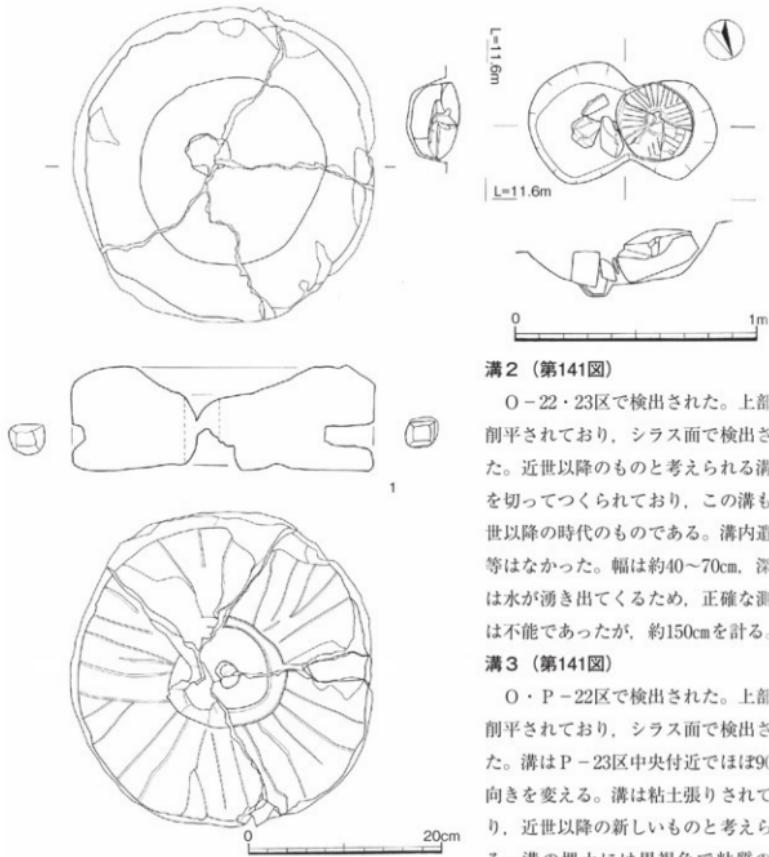
P調査区において、暗渠と思われる溝2条と粘土貼の溝1条が検出された。

溝1 (第141図)

O・P-21~24区で検出された。上部は削平を受けており、シラス面での検出である。近世以降につくられたと考えられる溝3を切っていることから、溝1も近世以降の溝と判断した。溝はO-23区、24区境付近ではほぼ直角に曲がり、P-24区で検出不能となったが、その先は近世墓のほうへ延びると思われる。幅は約60~110cm、深さは非常に深く、約150cmであった。水がしみ出してくる状況であったため、溝の断面図は実測不可能であった。溝内からの出土遺物はみられない。



第140図 柱穴1~13



第142図 石臼廐棄土坑

石臼廐棄土坑（第142図）

P調査区、P-23区のシラス面で検出された。埋土は淡褐色灰色砂質土である。土坑としたが、掘り込みが人為的なものであるか、石臼の重みで凹んだものかははつきりしない。

良福寺和尚墓（第143図）

P-23区で検出された。第十世松山大和尚、第十四世萬春大和尚の墓石である。萬春大和尚に近接して加藤家のものと思われる墓石が存在することから、良福寺の墓石は破壊され現位置に転落もしくは廐棄されたものと思われる。萬春大和尚墓は無縫塔（円柱状）のものであるが、松山和尚墓は角柱状で荒削りなつくりである。萬春大和尚墓にはホゾがあり、また隣接する墓石の一部にはホゾ穴があり、一对のものであった可能性も考えられる。

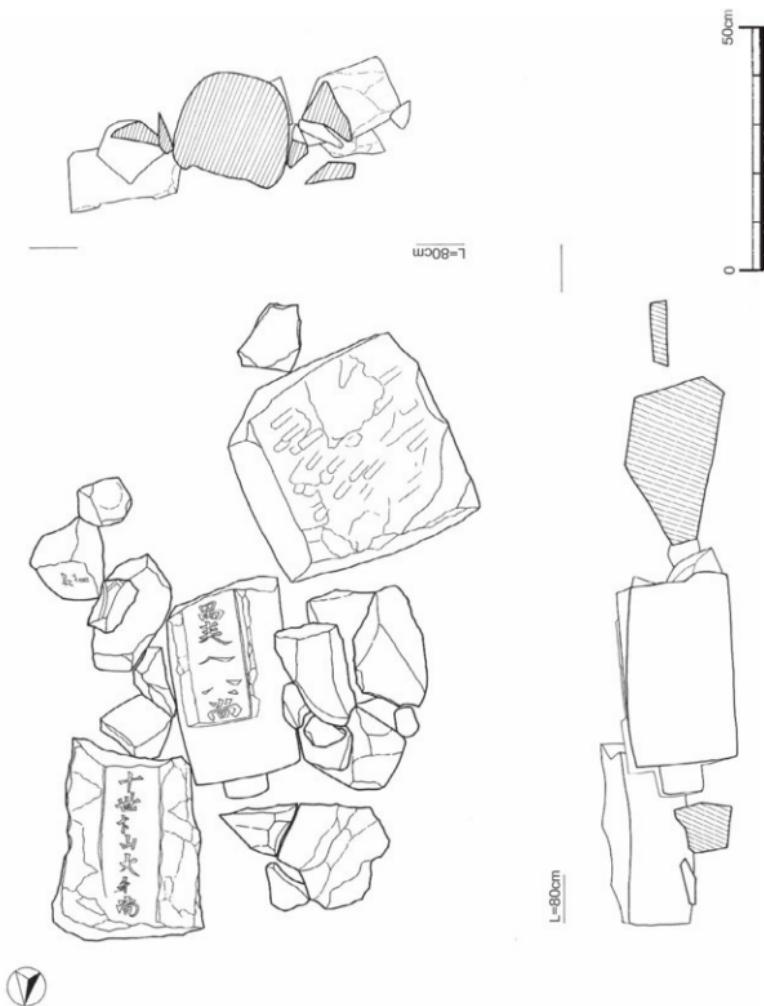
溝2（第141図）

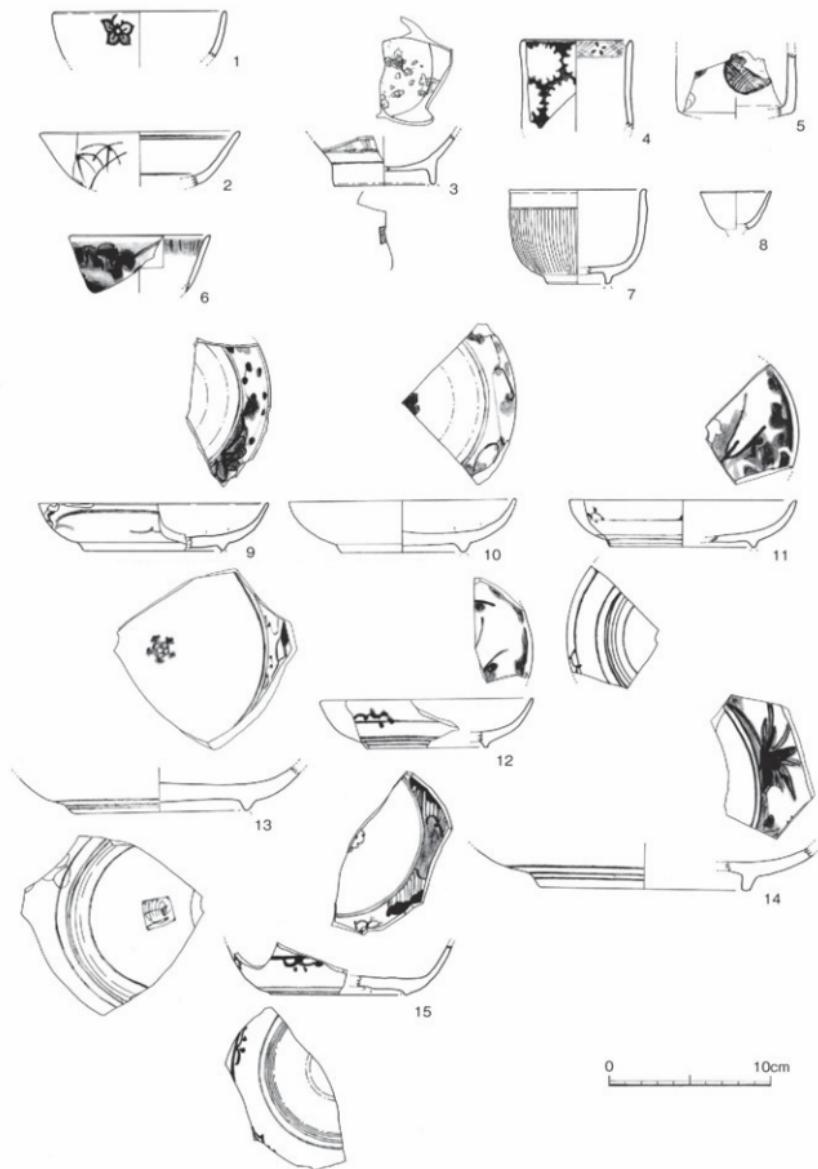
O-22・23区で検出された。上部は削平されており、シラス面で検出された。近世以降のものと考えられる溝3を切ってつくられており、この溝も近世以降の時代のものである。溝内遺物等はなかった。幅は約40~70cm、深さは水が湧き出てくるため、正確な測定は不能であったが、約150cmを計る。

溝3（第141図）

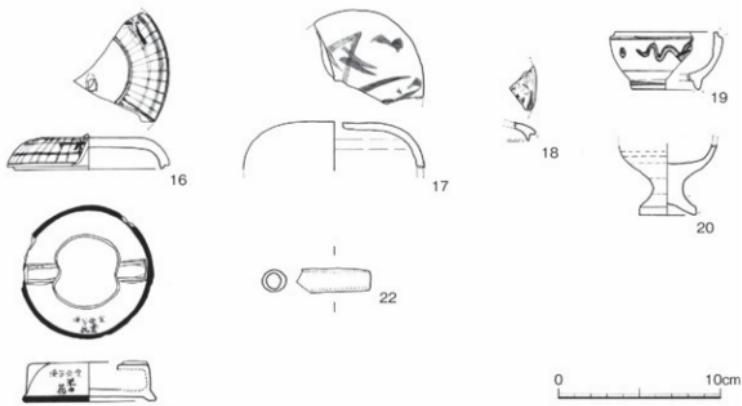
O・P-22区で検出された。上部は削平されており、シラス面で検出された。溝はP-23区中央付近ではほぼ90度向きを変える。溝は粘土張りされており、近世以降の新しいものと考えられる。溝の埋土には黒褐色で粘質のブロックと砂質でバミス混じりのブロックが入る。

第143图 良福寺和尚墓挖出状况





第144図 磁器 1



第145図 磁器2

(2) 遺物

近世以降の遺物としては、量的には多くないが陶磁器が出土している。G調査区の郷土屋形跡に関連するものの可能性が考えられる。

磁器（第144・145図）

1～8は碗類である。1は丸形碗で、外面にコンニャク印判で花文が描かれる。2は外面に筆文が描かれる碗である。3は広東碗である。4は茶飲み碗。5は筒形碗である。6は在地系と思われる端反碗である。7は肥前系の湯飲み碗である。外面には細い縦方向の櫛目が壓押しで入れられる。8は肥前系の白磁の小壺である。

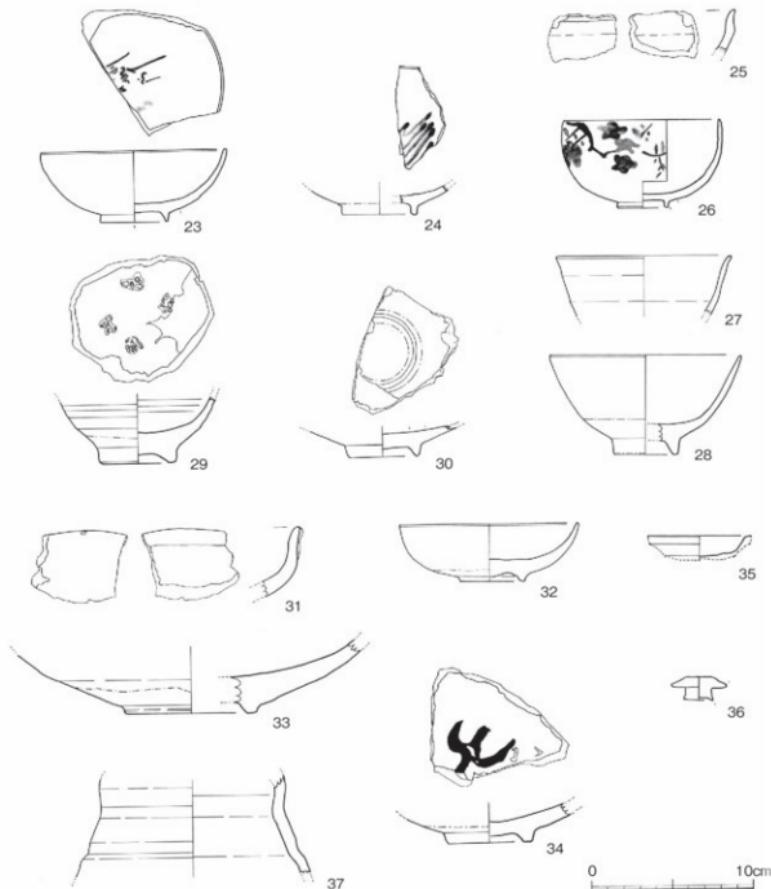
9～15は皿である。9～12・15は中形の皿である。9・10は波佐見焼で、9は見込みに蛇の目釉剥ぎが施され、10は見込み中央にコンニャク印判五弁花が観察される。11は見込みに木の葉文が描かれる。15は高台が蛇の目型高台をなすものである。13・14は大皿である。13は見込みにコンニャク印判の五弁花、裏銘に「渕福」が描かれる。14は肥前の大皿である。

16～17は蓋物の蓋である。16は上面にアーチ状のつまみがつく。17は帆掛け船の文様が描かれる。

19は蓋物の身の部分である。20は白磁の仏飯器である。21は灰皿である。近代以降のもので、「米の花」という焼酎が優秀受賞した際の記念品と思われる。22は馬の尻かいである。外面は銅緑色を呈する。

陶器（第146～149図）

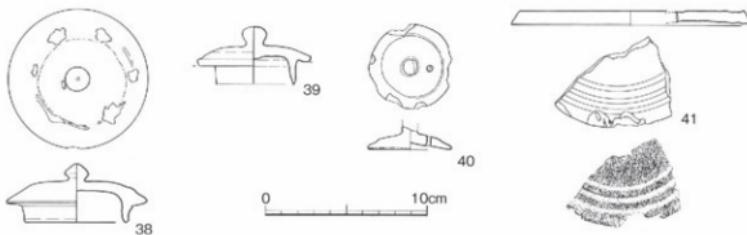
23～29は碗である。23・24は肥前の京焼風陶器である。外面腰部から高台内面は露胎する。25は瀬戸・美濃の天目碗であり。26は京焼である。27～29は薩摩焼龍門司系の碗である。27は内外面黒



第146図 陶器 1

釉がかかる。28は白化粧に透明釉がかかる二彩手である。29は見込みにゴマ目が残るもので、掲軸が内面と外面腰部までかかる。30は疊付以外全面に鉄軸がかかり、見込みは蛇の目軸剥ぎが施される。

30~34は皿である。すべて唐津焼である。31・33は同一個体である可能性がある。33は柱穴内から出土したものである。遺構として取り上げなかったため、出土遺物はここに掲載した。高台径は小さく、外面は腰部まで施釉される。34は鉄絵唐津である。35は、紅皿等の器種と思われるもので、



第147図 陶器2

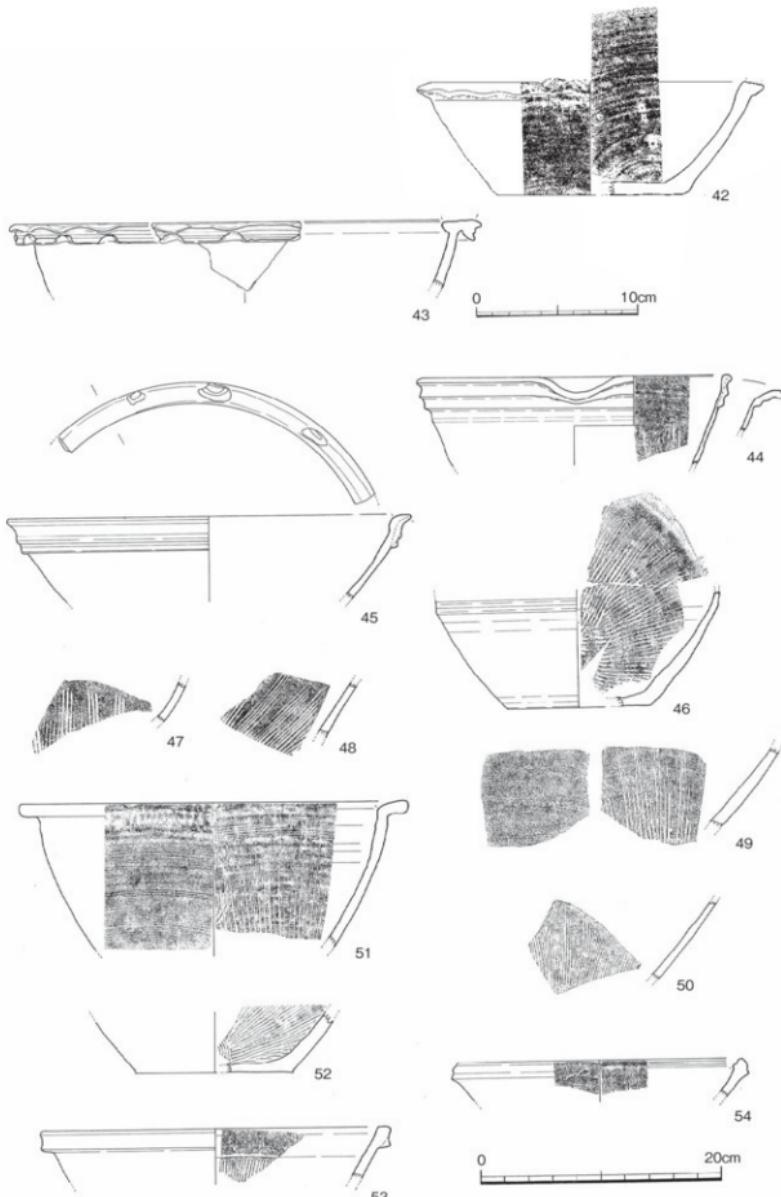
型押し成形のため外側が外れてしまったものである。36は瓶の蓋である。37は一般的に白薩摩と呼ばれる白色陶胎の仏花器である。

38～40は上瓶蓋である。38の上面には重ね焼きの痕跡が残る。40は急須蓋で、龍門司焼の紋肌である。41は陶製の蓋である。下面に貝目が残る。

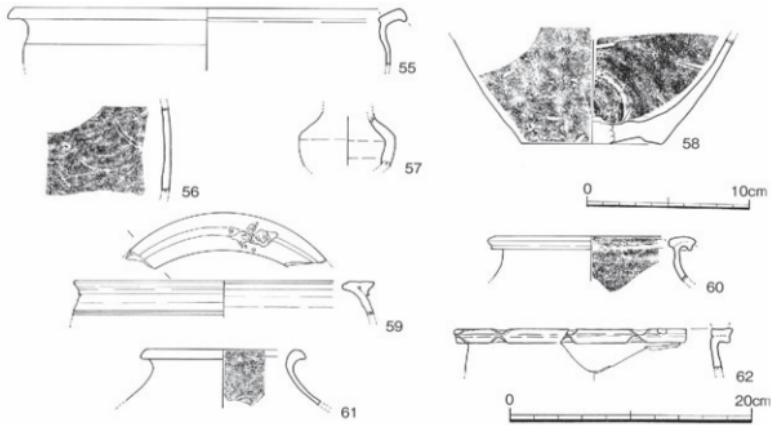
42・43は口縁部に装飾を施したもので、鉢、壺または植木鉢の可能性のあるものである。42は口唇部を除き施釉されるが、43は小片のため内面の施釉状況は不明である。

44～54は擂鉢である。44～50は薩摩焼苗代川系の堂平窯の製品と思われるものである。44は器壁が非常に薄く、胎土は緻密であるが層状にはなっていない。口縁部は外側に折り返して肥厚させ、2段の突帯をつくる。擂り目はほとんど確認できず、擂り目の上端は余白を残す。堂平窯Ⅰ期（17世紀前半）のものと思われる。45～50は堂平窯Ⅱ期（17世紀後半）のものと思われる。51・52は薩摩焼苗代川系のもので、51は口縁部が「L」字状を呈するものである。擂り目の先端は口縁部まで達し、擂り目の下に横方向の調整痕が残る。52は底部である。53・54は产地不明の擂鉢である。53は擂り目の上端をナデ消して余白部をつくるものである。外面に鉄釉がかかる。54は焼き締めである。

55～57は薩摩焼苗代川系のもので、17世紀前半の初期薩摩焼と思われる。55は片口の口縁部である。胎土は層状をなし、串木野窯の製品である可能性も考えられる。56は壺の胴部である。内面に同心円状のタタキ目が残る。57は器種不明のものである。外面は灰釉、内面は透明釉がかかる。58は置付を除き褐釉がかかるもので、鉢であると思われる。59は苗代川系の壺である。口唇部には貝目が残る。60・61は壺である。60は大形、61は小形のものである。どちらも器壁は非常に薄く、胎土は緻密である。苗代川系の初期薩摩焼である。62は口縁部をつまんで装飾を施すもので、植木鉢または壺と思われる。



第148図 陶器 3



第149図 陶器 4

陶器器観察表

登録番号	規範番号	種別	分類	基盤	産地	出土区	取り上げ番号	層位	測定(厘米)	断面の色調	施釉の状態	施釉の部位	時期	備考			
1	染付	碗	大碗	肥前系	—	—	—	—	10.0	—	灰白色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀前葉から中葉	コンニャック酒甌文		
2	染付	碗	大碗	肥前系	—	—	—	—	12.4	—	灰白色	透明釉	残存部全面施釉	1820~1860年代	雙文		
3	染付	碗	大碗	肥前系	—	—	—	—	6.2	—	灰白色	透明釉	残存部全面施釉	17世紀後半~18世紀初葉	白磁		
4	染付	碗	大碗	肥前系	—	—	—	—	6.7	—	灰白色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀後半	白磁		
5	染付	碗	大碗	肥前系	—	—	—	—	—	—	灰白色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀後半	白磁		
6	染付	碗	大碗	肥前系	—	—	—	—	18.6	—	灰白色	透明釉	残存部全面施釉	1820~1860年代	双文		
7	白釉	碗	濃青山紋	肥前系	—	—	—	—	7.4	3.7	5.8	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	1820~1860年代	コンニャック酒甌文	
8	白釉	碗	濃青山紋	肥前系	—	—	—	—	—	—	—	透明釉	残存部全面施釉	18世紀後半~19世紀初葉	白磁		
9	白釉	碗	濃青山紋	肥前系	—	—	—	—	14.2	8.2	2.9	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀後半~19世紀初葉	白磁	
10	白釉	碗	濃青山紋	肥前系	—	—	—	—	14.0	7.6	3.2	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀後半	白磁	
11	白釉	碗	濃青山紋	肥前系	—	—	—	—	14.0	9.0	2.9	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	1760年~18世紀初葉	白磁	
12	白釉	碗	濃青山紋	肥前系	—	—	—	—	13.0	7.4	3.0	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀後半	白磁	
13	白釉	碗	濃青山紋	肥前系	—	—	—	—	13.6	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀後半	白磁	
14	白釉	碗	濃青山紋	肥前系	P-18	—	—	—	—	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀後半	白磁	
15	白釉	碗	濃青山紋	肥前系	—	—	—	—	8.4	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀後半	白磁	
16	染付	壺	肥前系	Q	—	—	—	—	9.2	—	—	灰白色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀後半	白磁	
17	染付	壺	肥前系	Q	—	—	—	—	—	—	—	透明釉	残存部全面施釉	18世紀後半	白磁		
18	染付	壺	肥前系	Q	—	—	—	—	—	—	—	透明釉	残存部全面施釉	18世紀後半	白磁		
19	染付	壺	肥前系	Q	—	—	—	—	6.4	4.2	3.6	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀後半	白磁	
20	白釉	碟	乳頭	在地	—	—	—	—	—	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	19世紀初葉	白磁	
21	陶器	灰皿	圓筒形	在地	—	—	—	—	—	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	近代	白麻葉	
22	陶器	灰皿	灰皿	在地	Q517-18	—	—	—	—	11.6	6.2	4.4	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀末~19世紀初葉	白麻葉
23	陶器	灰皿	灰皿	在地	Q517-19	—	—	—	—	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀末~19世紀初葉	白麻葉	
24	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	—	—	—	—	—	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀末~19世紀初葉	白麻葉	
25	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	—	—	—	—	—	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀末~19世紀初葉	白麻葉	
26	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	—	—	—	—	9.6	3.2	5.4	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀末~19世紀初葉	白麻葉	
27	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	—	—	—	—	10.5	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀末~19世紀初葉	白麻葉	
28	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	—	—	—	—	11.0	4.0	6.1	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀末~19世紀初葉	白麻葉	
29	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	P-16	—	—	—	—	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀後半	白麻葉	
30	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	T-15	—	—	—	4.2	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀前葉	白麻葉	
31	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	Q22	21091	—	—	—	—	—	—	透明釉	残存部全面施釉	1500年~1610年代	白麻葉	
32	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	Q22	21091	—	—	11.0	4.0	3.9	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	1500年~1610年代	白麻葉	
33	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	Q22	21091	—	—	8.1	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	1500年~1610年代	白麻葉	
34	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	—	—	—	—	—	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	1500年~1610年代	白麻葉	
35	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	—	—	—	—	6.4	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	15世紀後半~16世紀初葉	白麻葉	
36	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	S-19	—	—	—	—	3.4	—	—	透明釉	残存部全面施釉	15世紀後半~16世紀初葉	白麻葉	
37	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	S-19	—	—	—	—	—	—	—	透明釉	残存部全面施釉	15世紀後半~16世紀初葉	白麻葉	
38	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	S-19	—	—	—	—	6.2	8.7	3.6	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	15世紀後半~16世紀初葉	白麻葉
39	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	P-18	—	—	—	4.9	7.0	3.6	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	15世紀後半~16世紀初葉	白麻葉	
40	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	T-19	—	—	—	5.2	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	15世紀後半~16世紀初葉	白麻葉	
41	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	T-19	—	—	—	23.0	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	15世紀後半~16世紀初葉	白麻葉	
42	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	T-19	—	—	—	21.5	13.0	7.7	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	15世紀後半~16世紀初葉	白麻葉	
43	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	T-19	—	—	—	20.5	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	15世紀後半~16世紀初葉	白麻葉	
44	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	R-22	2332-2354	—	—	26.2	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	17世紀前半	白麻葉	
45	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	S-19-19	—	—	—	33.2	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	17世紀前半	白麻葉	
46	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	P-16	—	—	—	—	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	17世紀前半	白麻葉	
47	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	P-16	—	—	—	—	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	17世紀前半	白麻葉	
48	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	P-16	—	—	—	—	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	17世紀前半	白麻葉	
49	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	—	—	—	—	—	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	17世紀前半	白麻葉	
50	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	—	—	—	—	—	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	17世紀前半	白麻葉	
51	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	—	—	—	—	31.8	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	17世紀前半	白麻葉	
52	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	—	—	—	—	—	13.0	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	17世紀前半	白麻葉
53	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	—	—	—	—	29.2	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	17世紀前半	白麻葉	
54	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	T-19	3212	—	—	23.6	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	20世紀代	白麻葉	
55	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	—	—	—	—	24.0	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	20世紀代	白麻葉	
56	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	T-18	—	—	—	—	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	17世紀前半	白麻葉	
57	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	T-18-19	—	—	—	—	—	—	白灰色	透明釉	残存部全面施釉	17世紀前半	白麻葉	
58	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	T-18-19	—	—	—	—	8.6	—	—	白黃褐色	透明釉	残存部全面施釉	18世紀代	白麻葉
59	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	—	—	—	—	—	—	—	白黃褐色	透明釉	残存部全面施釉	17世紀前半	白麻葉	
60	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	—	—	—	—	—	—	—	白黃褐色	透明釉	残存部全面施釉	17世紀前半	白麻葉	
61	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	—	—	—	—	—	—	—	白黃褐色	透明釉	残存部全面施釉	17世紀前半	白麻葉	
62	陶器	灰皿	灰皿	肥前系	—	—	—	—	—	—	—	白黃褐色	透明釉	残存部全面施釉	17世紀前半	白麻葉	

第149回
第149回

P・R・S区の石器、石製品

ここでは、I～IV層の石器、石製品を一括して扱う。なぜなら、各層にわたって縄文土器が出土しており、本来の包含層による明確な時期区分ができないからである。例えば、縄文晩期の土器はII、III層に多いが、早期の土器もII～V層にわたって出土している。これは、古代～近世に渡る擾乱のためであろうと考えている。

磨製石斧（1～17）

17本のうち完形は1の一本だけである。1は大型であり着柄のためか頭部近くに抉りが作り出されており、このような特徴は早期の大型石斧に多い。対象的なものが2である。これもまた早期からよく見られるものであるが、「鑿」のような使い方を想定させる小型の石斧である。

4は刃部から縦に避けるような破損の後、再度研磨して作り直したものである。11もまた、破損した石斧を作り直したようである。7～10は磨製石斧の未製品である。整形剥離の段階で放棄されたもので、敲打、研磨工程までに至っていない。7はやや図がおかしいが、8や9とともに縦の基軸が直線的であり、例えば、打製石斧の18のように縦の基軸が湾曲しない。

打製石斧（18～30）

18と26は、平面形状が磨製石斧の未製品と同じであるが、磨製石斧の項で書いたように縦の基軸面が湾曲する。湾曲した基軸面を持つと刃先の向きと力のベクトルが一致しない、いわゆる「刃が立つ」状態にならないので、木の伐採等には適さないが、掘棒の先端具としてみれば、土を掻き出すのに湾曲した基軸が適しているから、これは磨製石斧の未製品ではなく、土掘り具としての打製石斧である。ほかはいずれも縄文晩期等に特有な着柄のための抉入部を持つ打製石斧である。30は打製石斧の折損品を転用した敲石である。

石鎌（31～74）

小形三角鎌、鉤形鎌、鋸歯縁鎌、有肩鎌等、有茎鎌を除く縄文時代の石鎌の形がそろっている。一方、石材は黒曜石、黒色安山岩、頁岩、鉄石英であり、よく見られるタンパク石やチャート製が見られないのが特徴である。

削器（75～78、80）

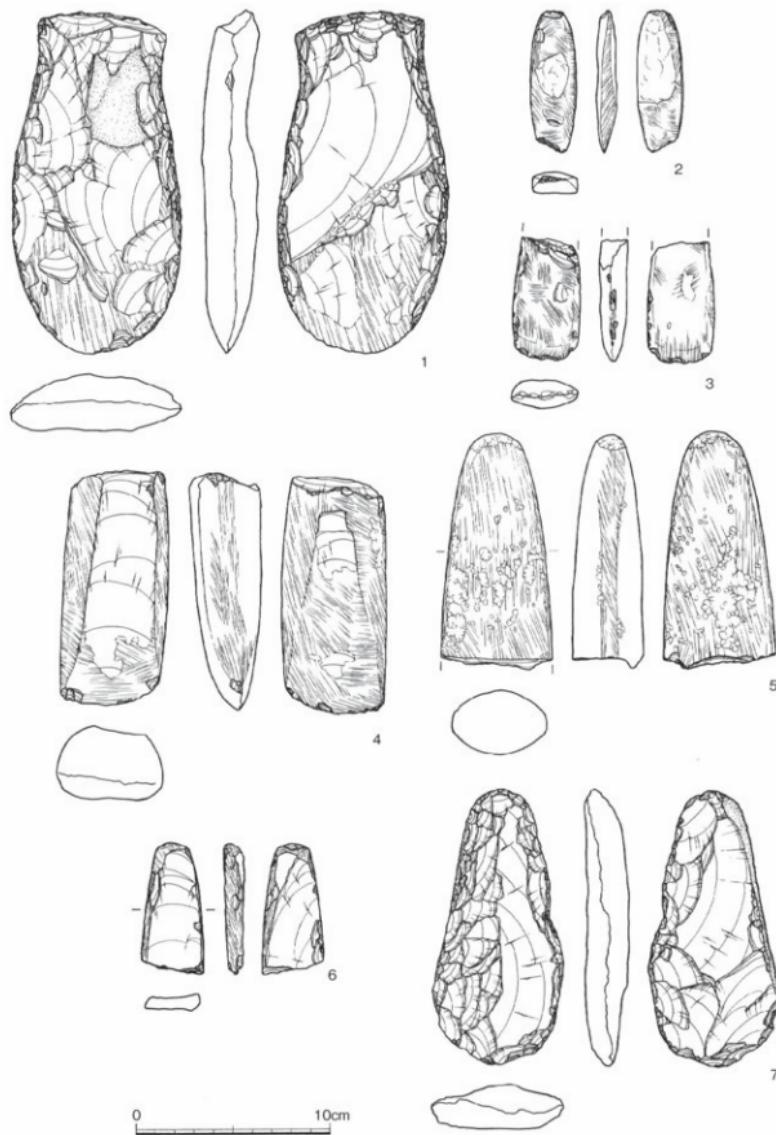
いずれも不定形剥片を素材とするものであり、両刃の刃部が作られている。75は頁岩製でありラフな整形剥離が表面には施されている。また、頭部近くには抉入した刃部が、下端にも刃部が作られている。77も頁岩製であり、曲線の両側縁の刃部が特徴的である。76、80は黒色安山岩製であり、76は下縁の直線的な刃部が、80は左側縁の曲線の刃部が特徴的である。5点とも縄文時代の所産であろう。

異形石器（79、81）

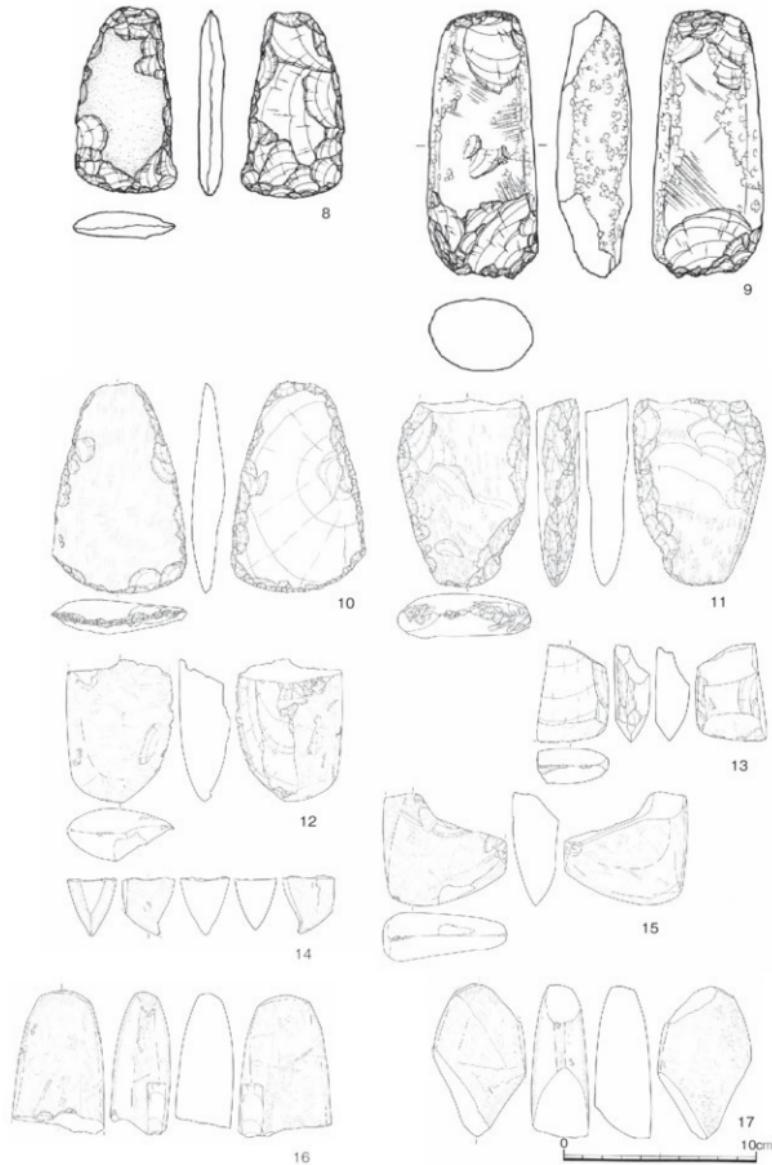
この2点は、黒曜石製であり、同一母岩と思われる。さらに整形剥離の有りようや断面形、平面形を見ると同一個体と思われる。おそらく中間部を欠損したものであろう。断面形はいびつな菱形を呈し、平面形は79、81ともに側縁が蛇行しており、くねる蛇体のような形をしているものと思われる。79の折断面はバティナが新しい。

石匙（82、85）

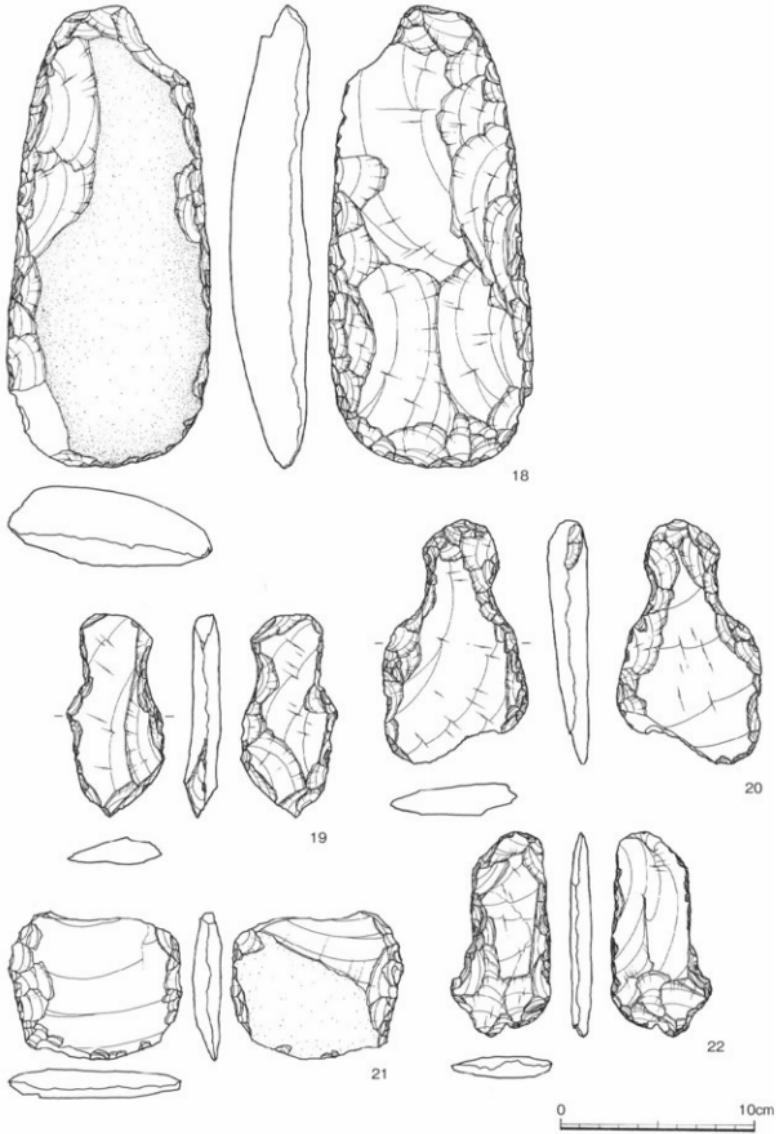
82、85ともに黒曜石製である。82は寸詰まりの縦長剥片を素材とする縦形石匙で、平行する小さ



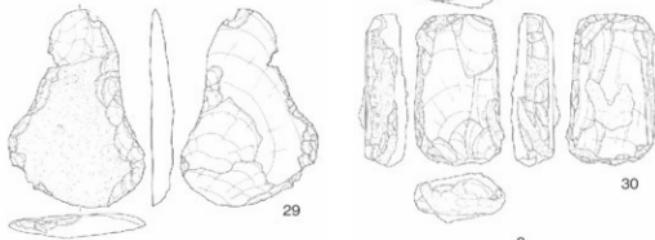
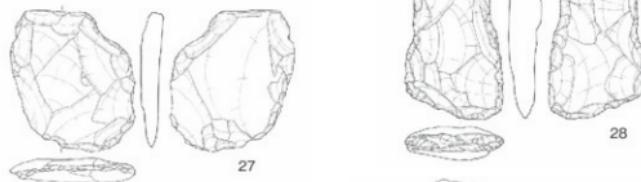
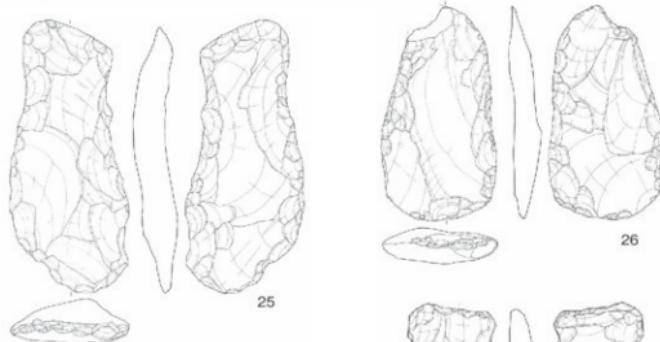
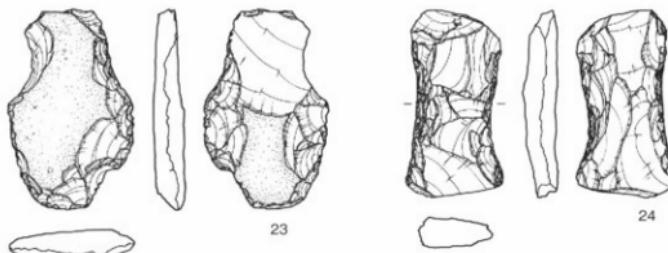
第150図 P·R·S区の石器 1



第151図 P・R・S区の石器2

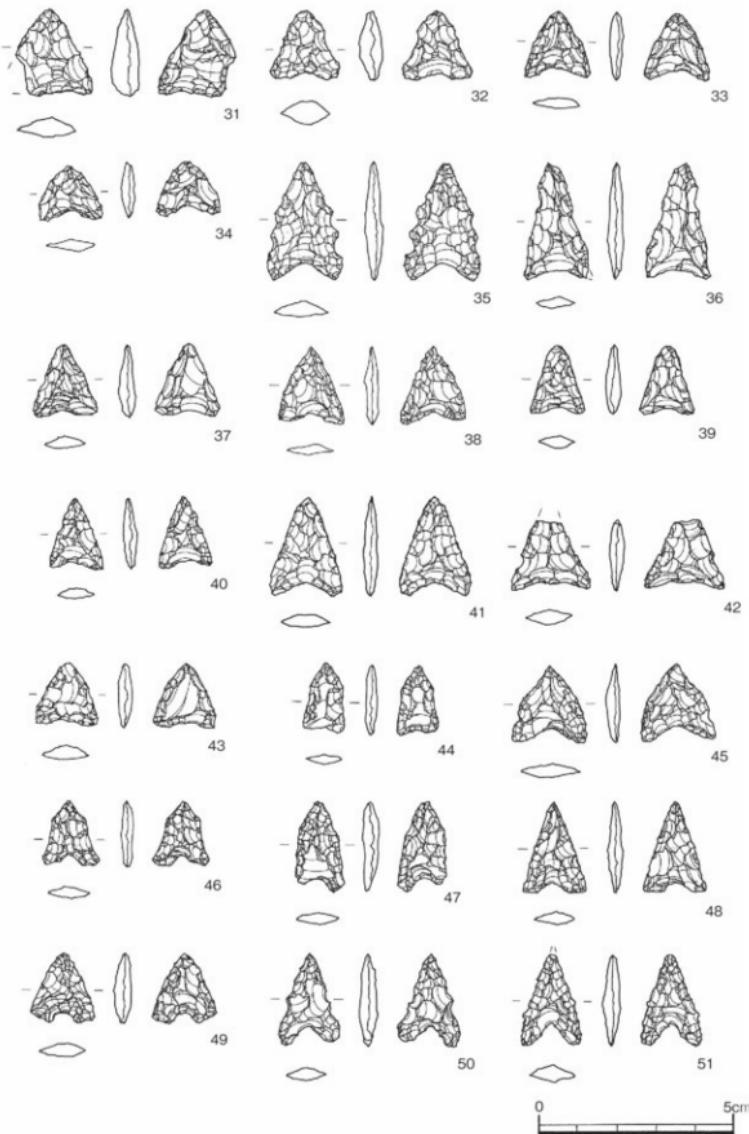


第152図 P・R・S区の石器 3

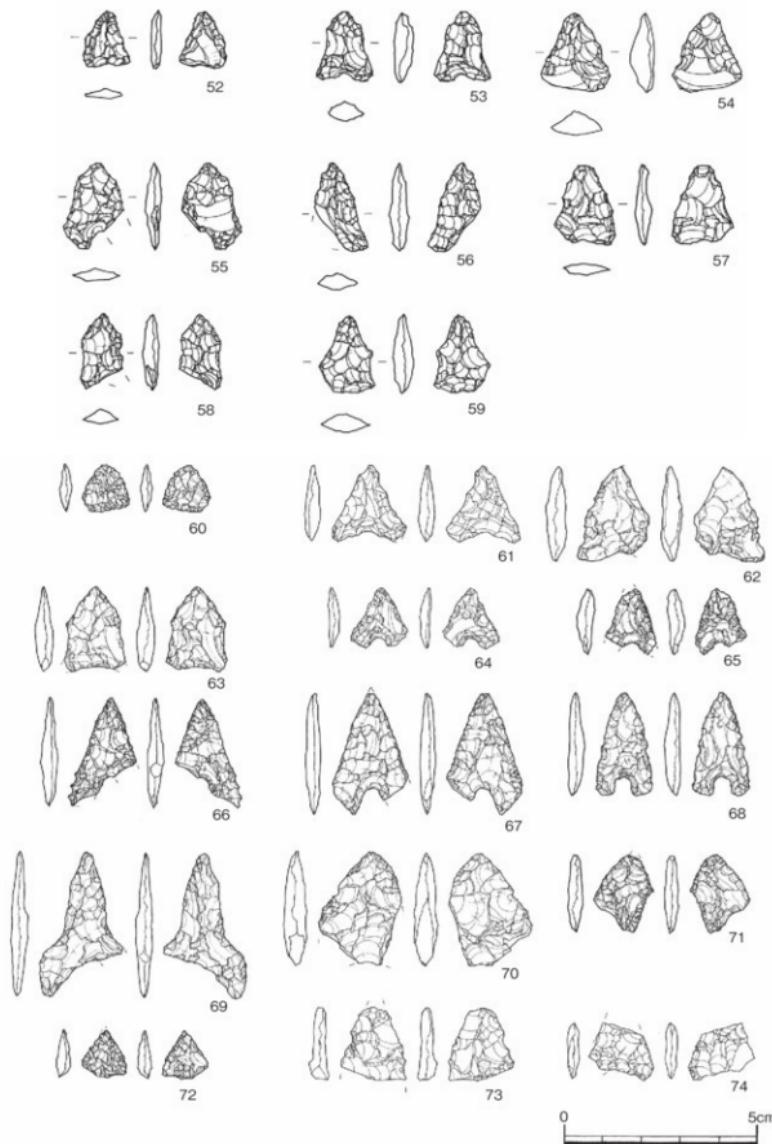


0 10cm

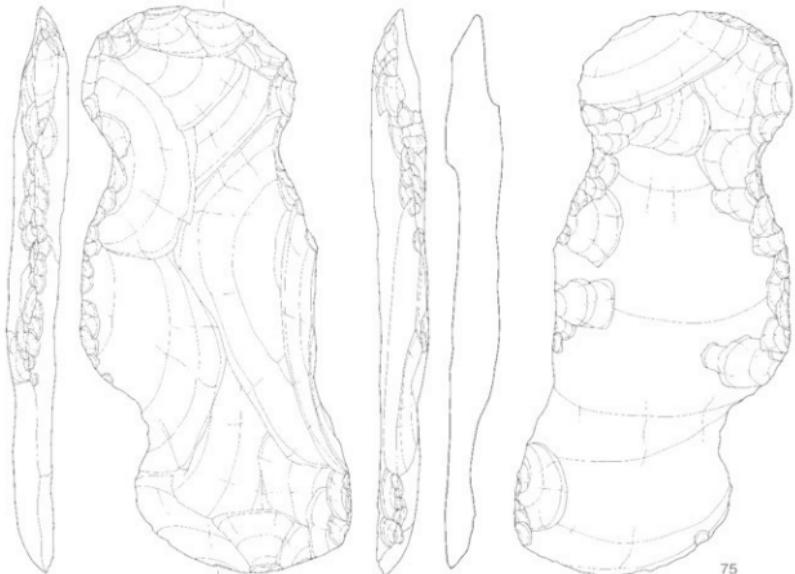
第153図 P・R・S区の石器 4



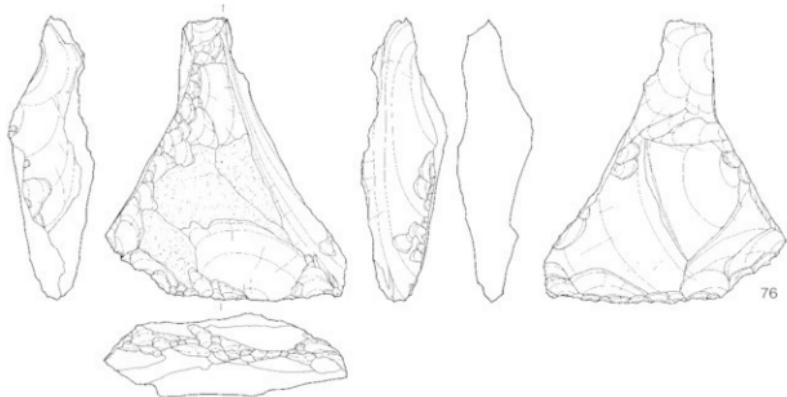
第154図 P・R・S区の石器5



第155図 P・R・S区の石器 6



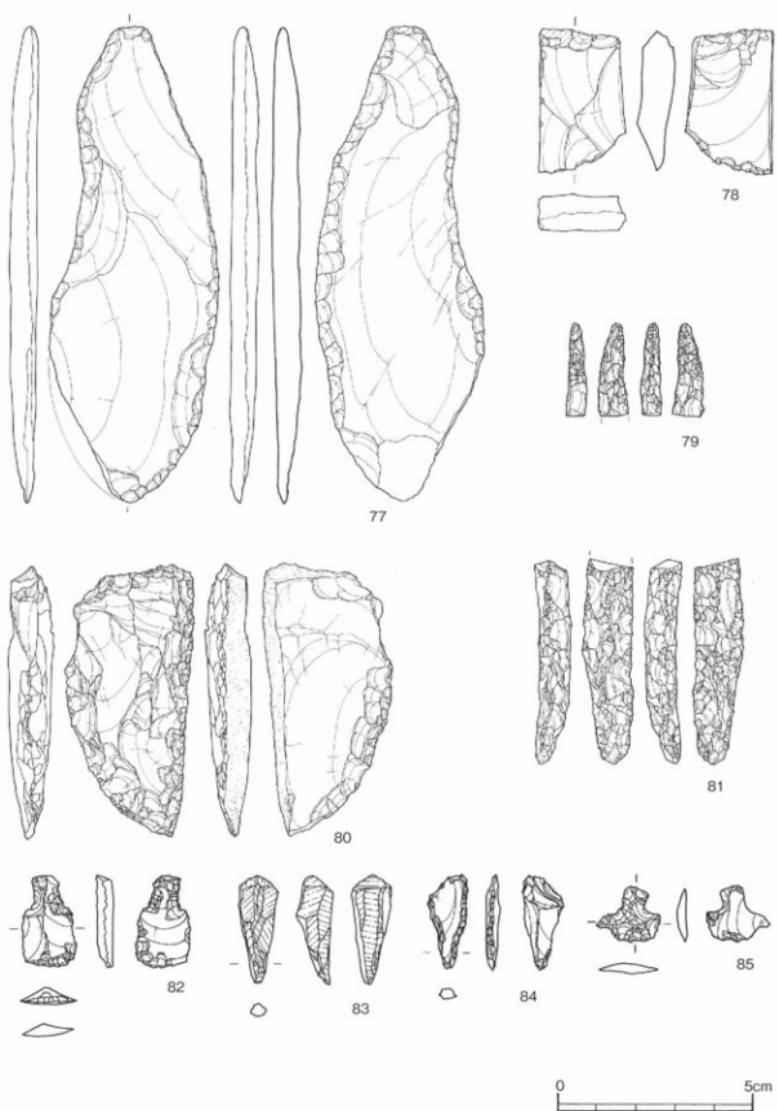
75



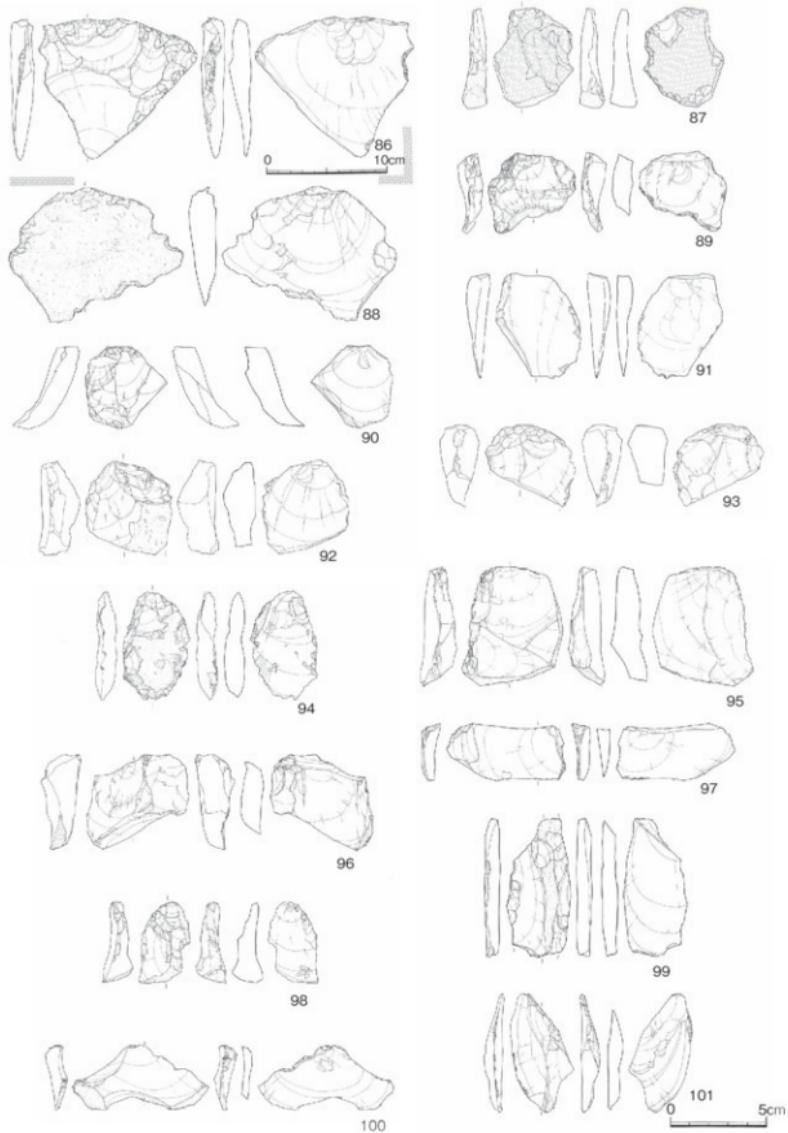
76



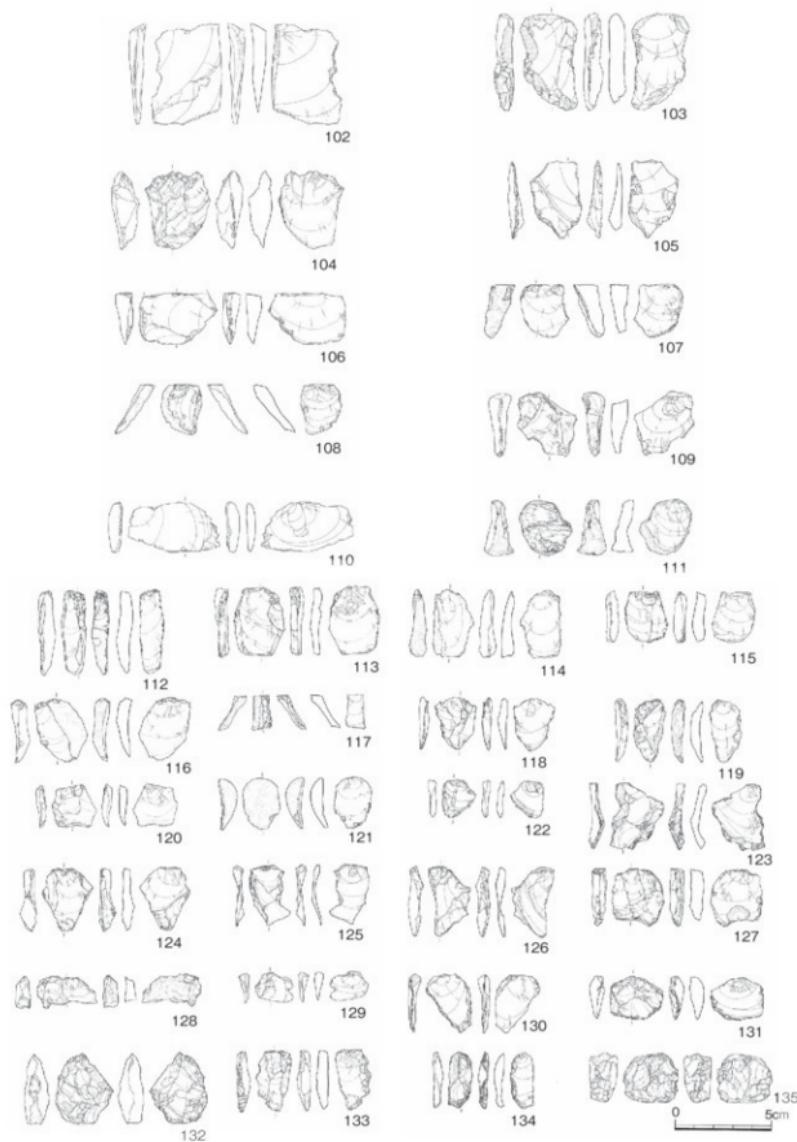
第156図 P・R・S区の石器 7



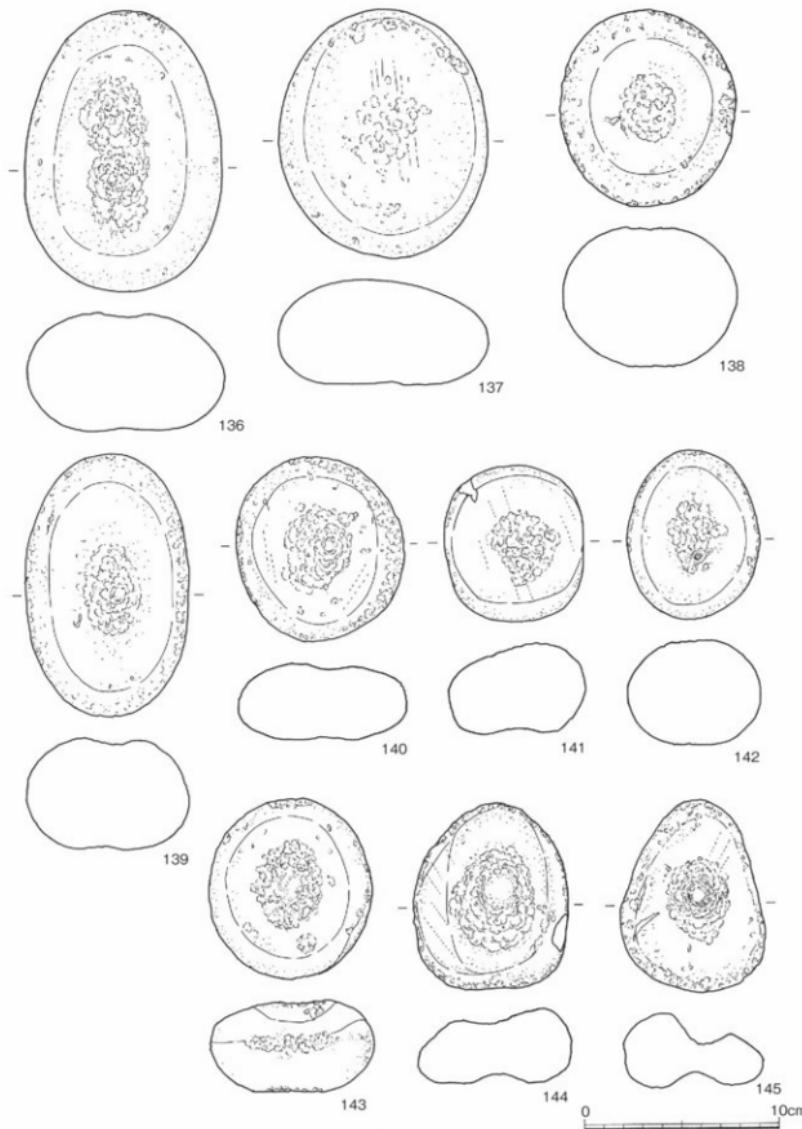
第157図 P・R・S区の石器 8



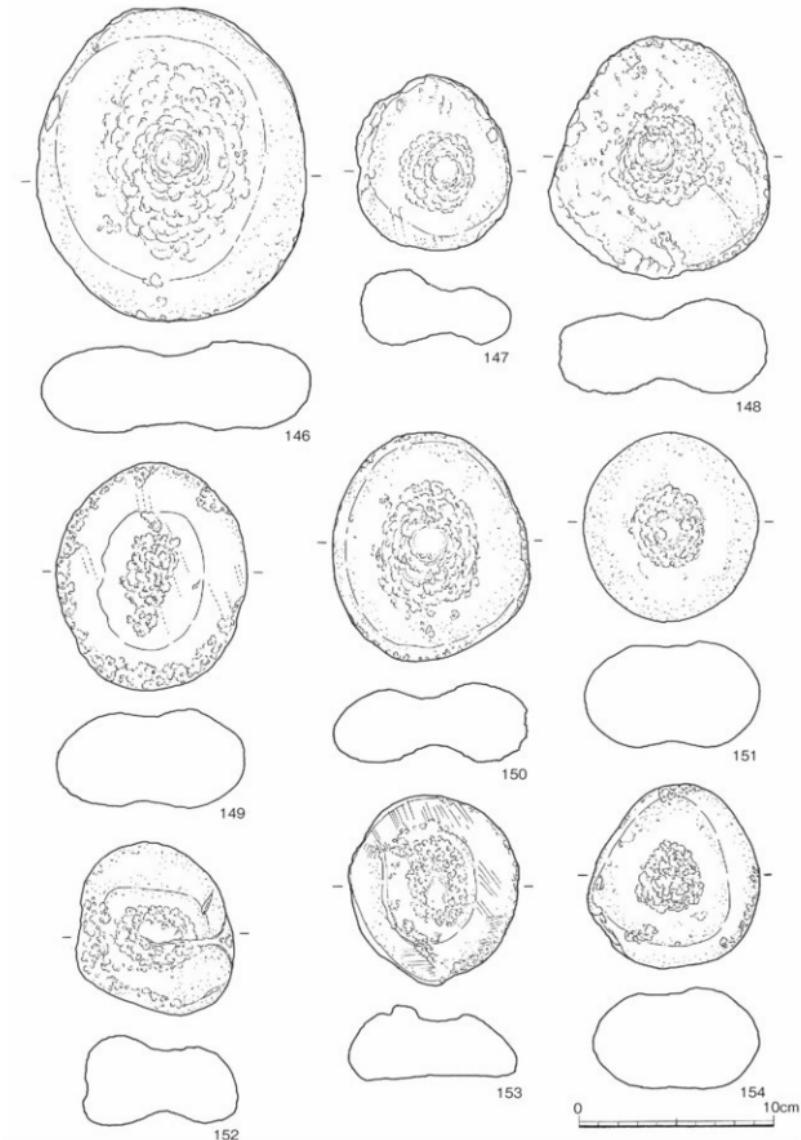
第158図 P・R・S区の石器 9



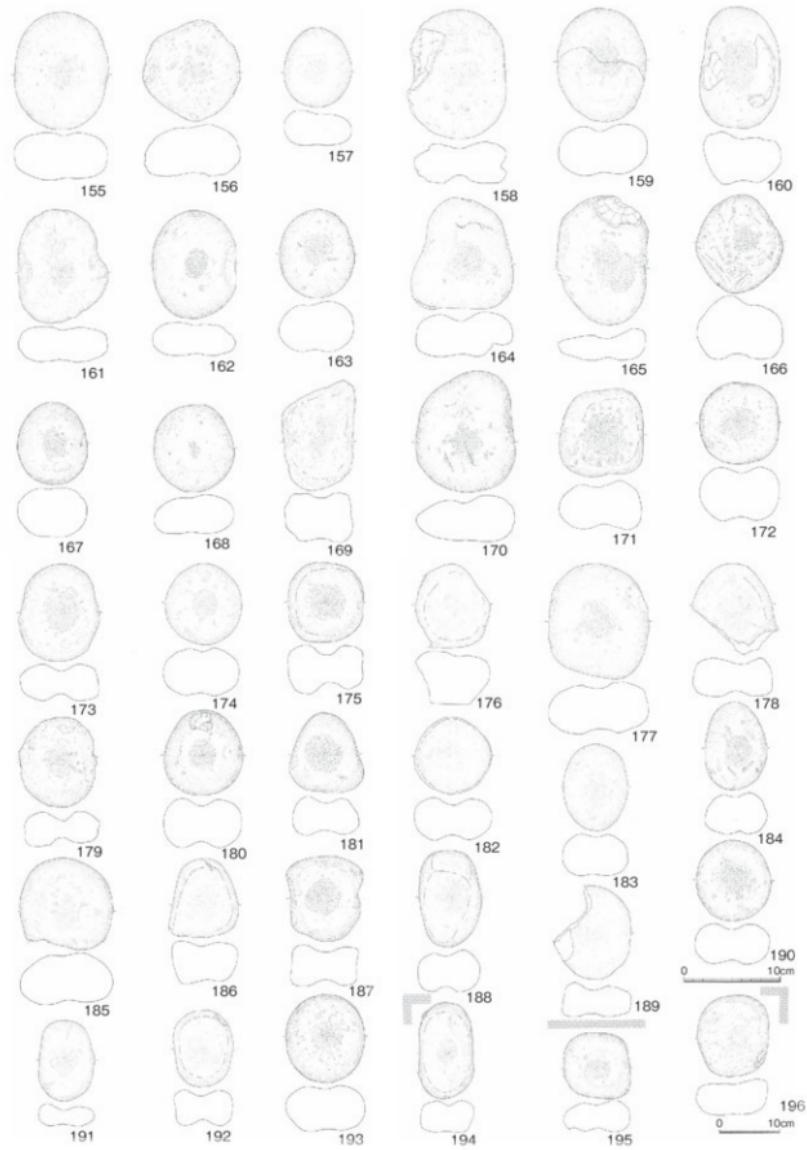
第159図 P・R・S区の石器10



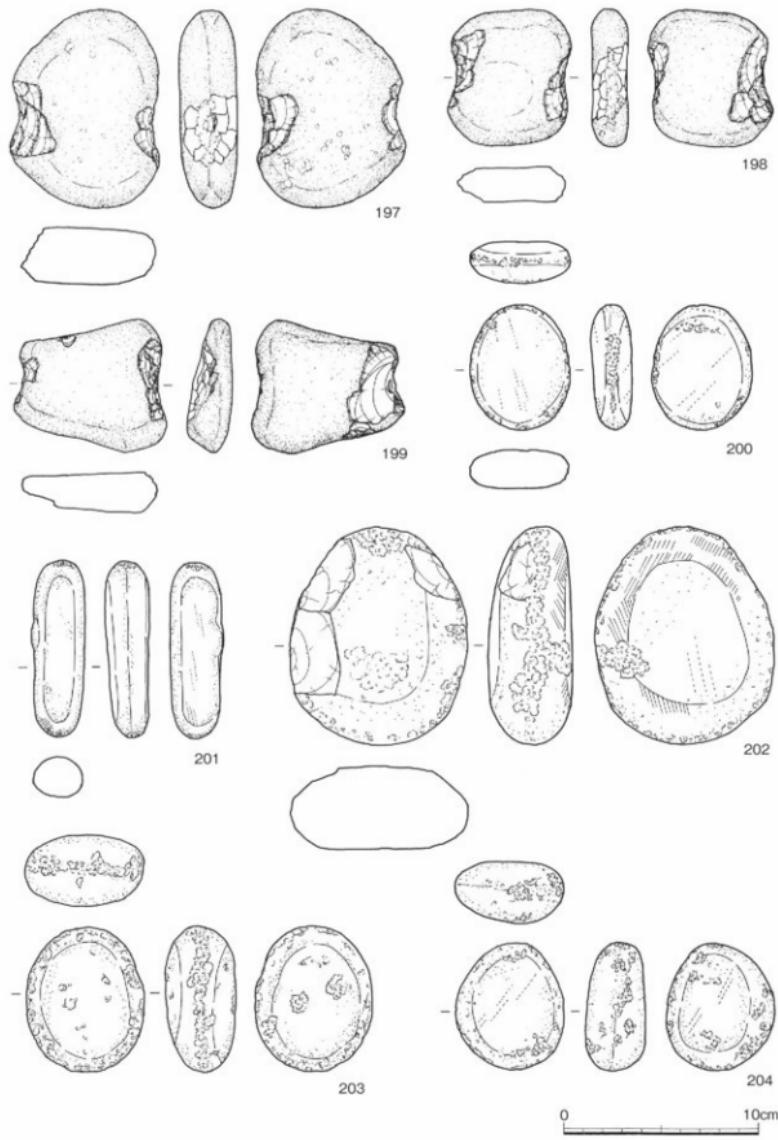
第160図 P・R・S区の石器11



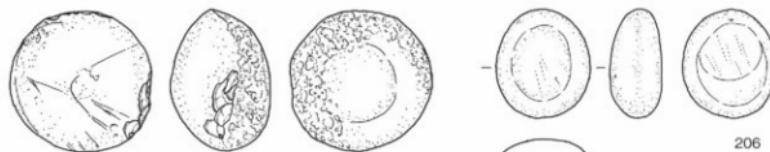
第161図 P・R・S区の石器12



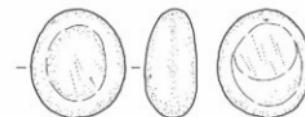
第162図 P・R・S区の石器13



第163図 P・R・S区の石器14



205



206



208



207



208



210



209



212



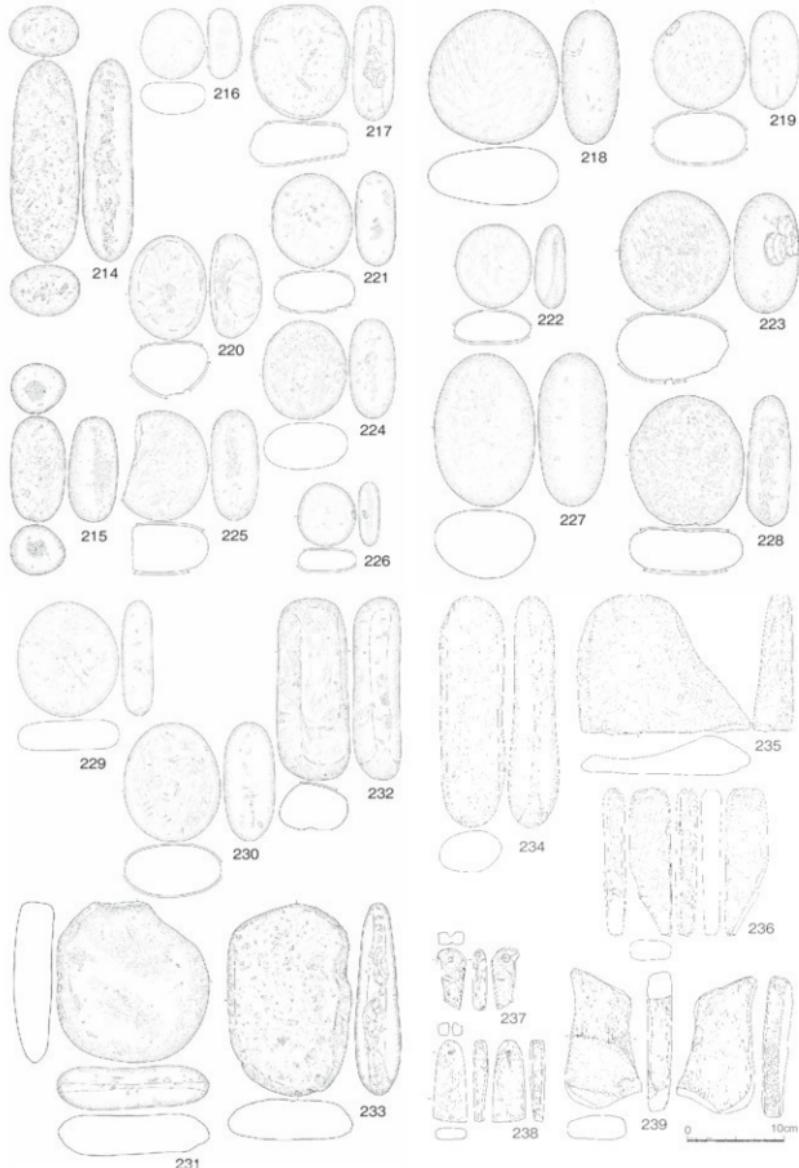
211



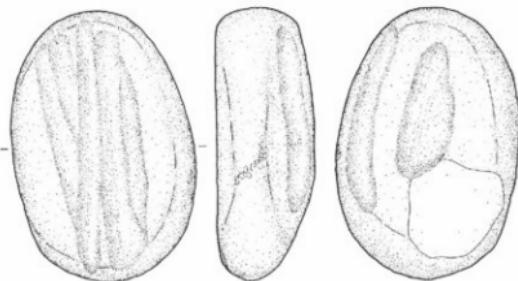
213



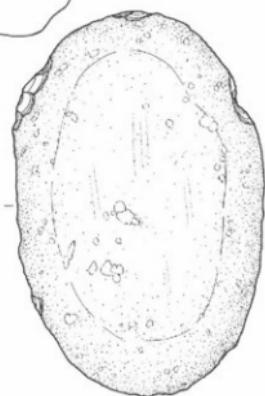
第164図 P・R・S区の石器15



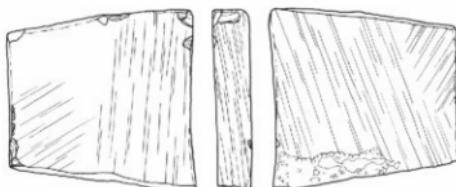
第165図 P・R・S区の石器16



240



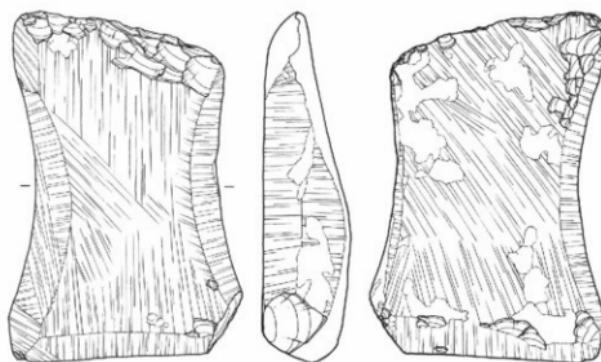
241



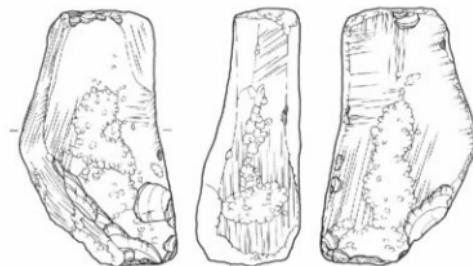
242



第166図 P・R・S区の石器17



243



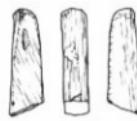
244



245



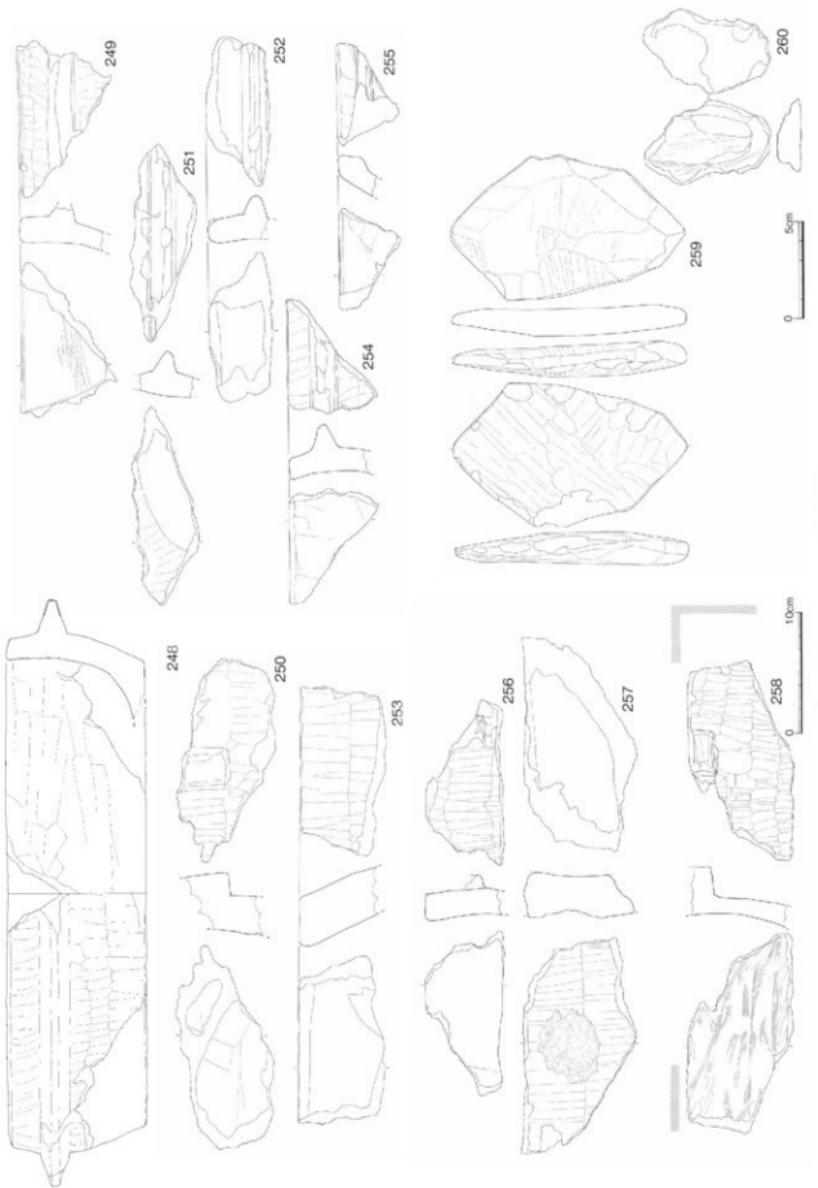
246



247



第167図 P・R・S区の石器18

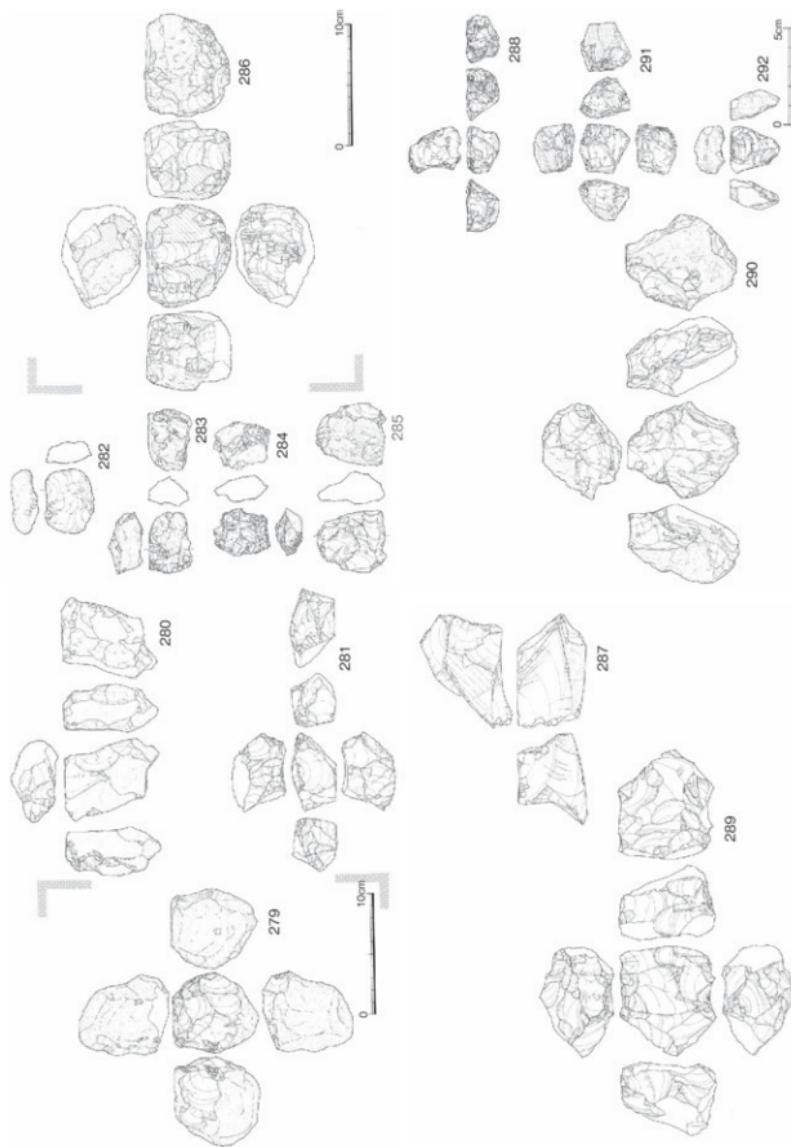


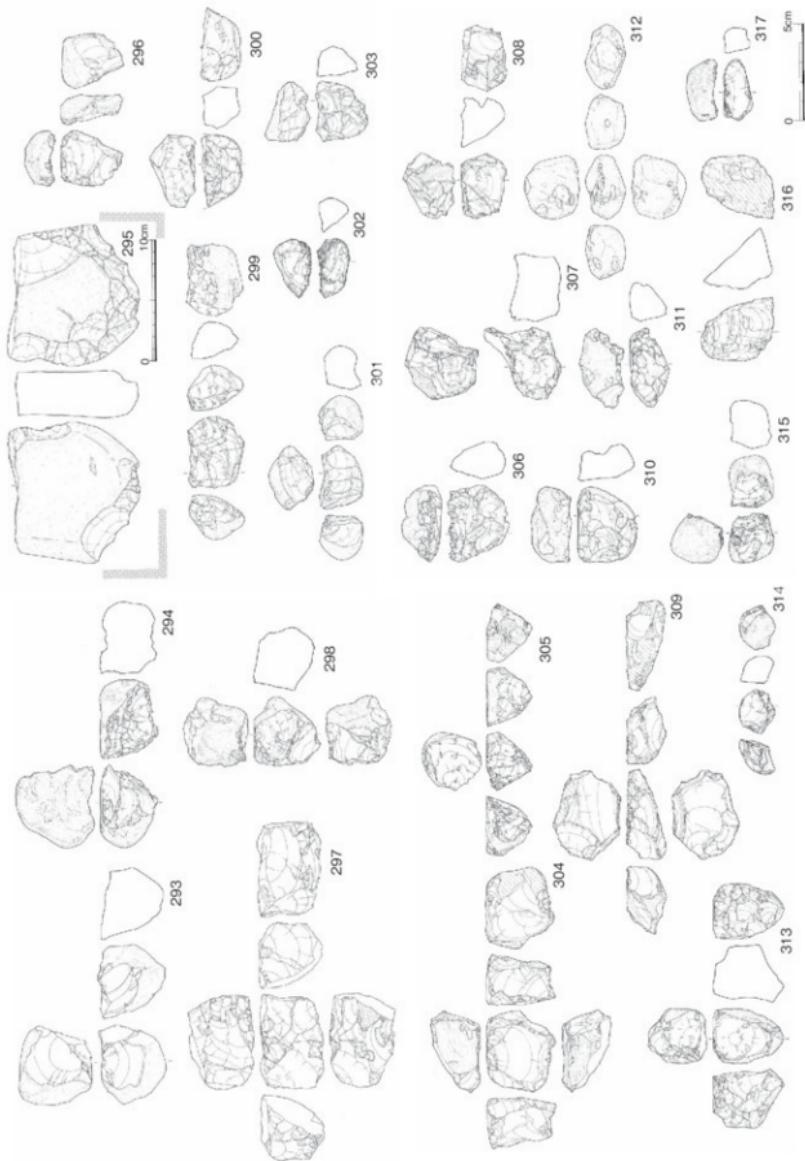
第168図 P・R・S区の石器19

第169図 P・R・S区の石器20



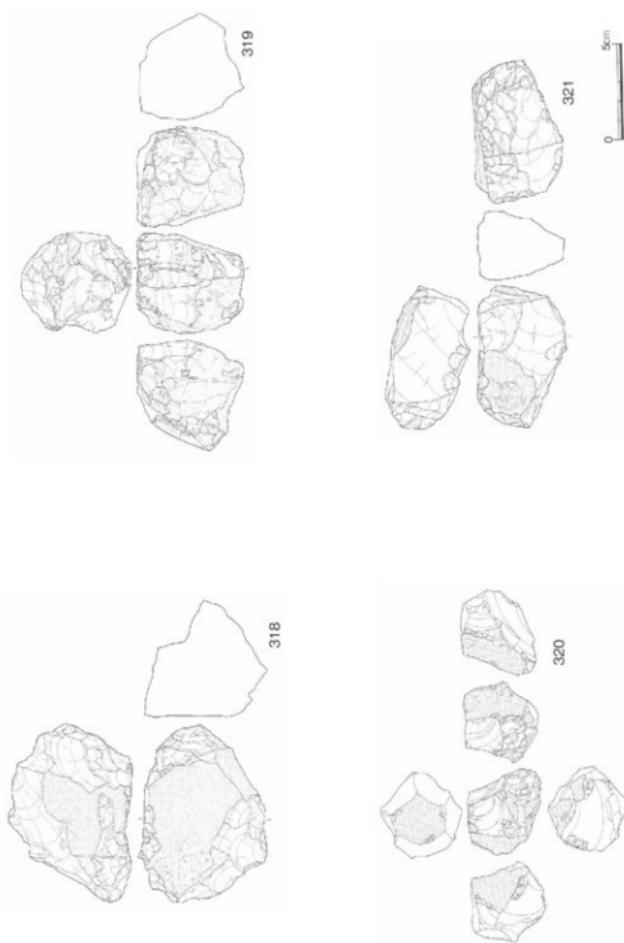
第170図 P・R・S区の石器21





第171図 P・R・S区の石器22

第172図 P・R・S区の石器23



なつまみを作り、左三分の一は欠けているものの、下端に浅い弧状になる刃部を作る。85は非常に小形の横型石匙である。小さなつまみとはば直線的な刃部を持つ。

石錐（83, 84）

83は水晶を用いたもので縦、横の微細な剥離で錐刃を作り出している。84は、黒色安山岩の横長剥片を用いたもので、横からの微細剥離で錐刃を作り出している。

剥片（86～135）

石材を表に示したが、通常、縄文遺跡ではこの他にチャート、タンパク石等が出土する例が多いが、この遺跡には少ないのが特徴である。形状は通常のものが多く特徴は見いだせない。

凹石（136～196）

山腹部も含めて、凹石が異常に多いのが、この遺跡の最大の特徴である。また、その平面形状にも特徴がある。通常縄文遺跡の凹石は扁平な円碟が用いられるが、この遺跡の凹石は亜角碟が用いられるものが目立つ。このような凹石は成川式土器を作った住居跡から検出される例が知られている。

石錘（197～199）

197, 198は安山岩の縁碟を、199は流紋岩の亜角碟を素材とし、紐掛の抉入部を作っている。

敲石（200, 201, 214, 215）

201, 215は砂岩の、214は安山岩の棒状碟の両端に敲打痕が集中し、つぶれた面を作っている。

磨石（202～213, 216～230）

砂岩や安山岩の円碟を用いているが、2点だけ斑鰐岩の円碟を用いている。216のように小さなものから218のような大型のものまである。

砥石（231～247）

石材、形状等を見るに、各時代のものが入り交じっている。231～235は石を対象とする縄文時代のものであろう。236～239, 242～247は、おそらく鉄器を対象とする古代～中世のものであろう。237, 238は穿孔のある提砥である。240是有溝砥石であり、攻玉用であろう。

滑石製石鍋（248～256, 258）

250, 256, 258は瘤状把手の付くもので、瘤の部分で割れており断面縦長になるのか四角形になるのか判断が付かない。258は特に大型の鉢形を呈するようである。248, 249, 252, 254は、直立する口縁を持ち、やや尖った断面台形の鍔が付く。251は破片が小さいので口縁の立ち上がり等は判断できないが、鍔はやや下垂するようである。255は外に開く口縁を持ち、退化した鍔は肥厚した口縁のようである。

滑石製石鍋再利用製品（257, 259～278）

21個の再利用製品があるが、7種に大別できる。a：当具として利用されたと思われるもの、257。b：板状の製品、259。c：いわゆるバレン状製品、260。d：浅い皿状の容器、262, 265。e：10mm径の穿孔を持つもの271～274。f：土錐状の形状のもの、276, 277。g：抉入もしくは穿孔によっておもりとして使用することが推定される製品、261, 263, 264, 266～270, 275。

石核（279～321）

黒曜石、鉄石英の石核が多数出土しているが、鉄石英のものは火打ち石の蓋然性が高い。

P-R-S区の石器調査表 1

P-R-S区の石器調査表 2

層	層名	石材	出土区	層	地表距離	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	層	地表距離	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
層 1	表層	白岩	R.23	Ⅲ	1	11.8	4.3	2.1	194.64	57	6.8	5.8	2.2	1.5	0.4
層 2	黒色安山岩	白岩	R.23	Ⅲ	2	9.8	3.8	1.8	96.00	58	6.8	5.8	2.1	1.1	0.4
層 3	黒色安山岩	白岩	R.23	Ⅲ	3	8.4	4.0	1.8	125.00	59	6.8	5.8	2.0	1.3	0.6
層 4	黒色安山岩	白岩	R.24	N	212.95	17.4	8.0	2.0	549.00	60	6.8	5.8	2.1	1.2	0.5
層 5	黒色安山岩	白岩	R.24	N	-R.	7.3	2.4	1.1	280.00	61	6.8	5.8	1.5	0.3	0.3
層 6	黒色安山岩	白岩	R.27	Ⅲ	141.9	6.2	3.4	1.4	47.00	62	6.8	5.8	1.7	0.4	0.3
層 7	黒色安山岩	白岩	R.27	Ⅲ	651.9	12.0	5.4	3.6	356.00	63	6.8	5.8	1.7	0.5	0.2
層 8	黒色安山岩	白岩	R.20	V	630.4	3.7	3.7	3.0	398.00	64	6.8	5.8	1.5	0.3	0.4
層 9	黒色安山岩	白岩	R.20	V	-R.	6.4	3.1	1.0	285.00	65	6.8	5.8	1.7	0.3	0.4
層 10	黒色安山岩	白岩	R.22	Ⅲ	849.6	1.9	6.6	2.2	240.00	66	6.8	5.8	1.7	0.4	0.1
層 11	黒色安山岩	白岩	R.23	Ⅲ	1199.9	9.9	5.7	3.0	210.00	67	6.8	5.8	1.7	0.3	0.4
層 12	黒色安山岩	白岩	R.21	V	2060.5	1.8	6.6	4.4	444.00	68	6.8	5.8	1.7	0.4	0.1
層 13	黒色安山岩	白岩	R.19	V	665.9	10.9	7.0	1.7	159.00	69	6.8	5.8	2.1	0.5	1.3
層 14	黒色安山岩	白岩	R.19	V	167.5	9.7	6.6	2.2	277.0	70	6.8	5.8	2.1	0.5	1.6
層 15	黒色安山岩	白岩	R.25	Ⅲ	-	7.4	5.6	2.6	129.0	71	6.8	5.8	2.0	0.5	0.8
層 16	黒色安山岩	白岩	R.18	V	157.77	3.0	5.7	2.6	180.00	72	6.8	5.8	1.5	0.3	0.4
層 17	黒色安山岩	白岩	R.20	V	-R.	5.9	5.4	2.4	106.00	73	6.8	5.8	1.7	0.3	0.4
層 18	黒色安山岩	白岩	R.20	V	626.8	7.9	4.8	3.5	142.00	74	6.8	5.8	1.5	0.3	0.4
層 19	黒色安山岩	白岩	R.22	V	-R.	2.3	10.3	4.1	120.00	75	6.8	5.8	2.0	0.6	1.6
層 20	黒色安山岩	白岩	R.22	V	735.6	10.3	4.5	1.7	159.00	76	6.8	5.8	1.4	0.4	0.3
層 21	黒色安山岩	白岩	R.22	V	-R.	1.7	10.3	4.5	159.00	77	6.8	5.8	1.4	0.4	0.3
層 22	黒色安山岩	白岩	R.23	V	725.5	1.6	6.6	2.2	277.0	78	6.8	5.8	1.4	0.4	0.3
層 23	黒色安山岩	白岩	R.23	V	496.2	1.6	6.6	2.2	277.0	79	6.8	5.8	1.4	0.4	0.3
層 24	黒色安山岩	白岩	S.19	V	4226	10.0	5.1	1.1	67.00	80	6.8	5.8	1.5	0.3	0.4
層 25	黒色安山岩	白岩	S.26	V	12830	10.2	6.4	1.6	117.00	81	6.8	5.8	1.4	0.4	0.3
層 26	黒色安山岩	白岩	S.26	V	18665	9.7	4.9	1.8	94.00	82	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 27	黒色安山岩	白岩	R.27	V	18906	13.5	6.2	6.0	14.190	83	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 28	黒色安山岩	白岩	R.19	V	-	7.0	5.0	1.5	103.00	84	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 29	黒色安山岩	白岩	R.20	V	-R.	9.4	5.0	1.5	103.00	85	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 30	黒色安山岩	白岩	T.25	Ⅲ	19645	10.2	7.0	1.2	74.00	86	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 31	黒色安山岩	白岩	T.25	Ⅲ	10983	7.9	4.6	2.6	114.00	87	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 32	黒色安山岩	白岩	S.37	V	-R.	2.7	2.3	0.7	2.0	82	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 33	黒色安山岩	白岩	S.24	V	11912	1.8	6.5	0.6	2.0	83	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 34	黒色安山岩	白岩	S.26	V	11649	1.8	6.5	0.6	2.0	84	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 35	黒色安山岩	白岩	S.26	V	15766	1.4	6.6	0.3	0.5	85	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 36	黒色安山岩	白岩	T.26	V	5716	3.0	6.5	1.5	19.00	86	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 37	黒色安山岩	白岩	S.25	V	12889	3.0	6.6	0.4	1.4	87	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 38	黒色安山岩	白岩	S.26	V	4436	1.8	6.6	0.4	0.9	88	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 39	黒色安山岩	白岩	S.26	V	15884	2.0	7.3	0.3	0.8	89	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 40	黒色安山岩	白岩	S.26	V	5196	1.7	7.4	0.3	0.8	90	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 41	黒色安山岩	白岩	S.25	V	16996	1.8	7.3	0.3	0.8	91	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 42	黒色安山岩	白岩	S.23	V	20463	2.5	1.8	0.4	1.2	92	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 43	黒色安山岩	白岩	S.25	V	7269	1.8	2.0	0.4	1.0	93	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 44	黒色安山岩	白岩	R.37	V	859	1.6	1.6	0.4	0.7	94	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 45	黒色安山岩	白岩	R.37	V	6720	5.7	1.6	0.5	0.5	95	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 46	黒色安山岩	白岩	S.23	V	11640	2.0	1.9	0.4	0.5	96	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 47	黒色安山岩	白岩	T.26	V	15477	1.2	1.2	0.4	0.8	97	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 48	黒色安山岩	白岩	S.26	V	4431	2.3	1.2	0.4	0.8	98	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 49	黒色安山岩	白岩	R.22	V	9972	1.8	1.6	0.5	1.2	99	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 50	黒色安山岩	白岩	R.23	V	20445	2.4	1.5	0.5	1.1	100	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 51	黒色安山岩	白岩	R.23	V	6722	2.3	1.5	0.5	0.7	101	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 52	黒色安山岩	白岩	S.24	V	11474	1.5	1.2	0.4	0.9	111	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 53	黒色安山岩	白岩	S.22	V	9770	1.8	1.5	0.5	0.9	112	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 54	黒色安山岩	白岩	S.20	V	15961	2.0	1.8	0.6	1.4	113	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 55	黒色安山岩	白岩	S.20	V	5153	2.2	1.3	0.4	0.9	114	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4
層 56	黒色安山岩	白岩	S.27	V	17693	2.3	1.1	0.5	0.8	115	6.8	5.8	1.0	0.3	0.4

器種	名前	石片	出土区	層	高さ(cm)	幅さ(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	器種	石片	出土区	層	高さ(cm)	幅さ(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)				
116	石片	黒曜石	S-22	III	20436	3.2	2.4	0.9	5.5	175	黒曜石	S-20	II	-	8.2	7.8	5.0	536.0		
117	石片	黒曜石	S-26	III	18708	1.8	1.0	0.6	1.0	176	黒曜石	S-20	II	-	8.7	7.9	5.6	548.0		
118	石片	黒曜石	S-22	III	2812	2.7	2.2	0.5	2.1	177	黒曜石	S-20	II	-	11.7	10.4	5.5	1000.0		
119	石片	黒曜石	Q-19	V	-18.	3.2	1.7	0.7	2.8	178	黒曜石	S-20	II	-	9.4	8.3	4.4	450.0		
120	石片	黒曜石	Q-24	V	21600	2.1	2.2	0.5	2.0	179	黒曜石	S-18	III	-	9.4	7.9	3.7	317.0		
121	石片	黒曜石	S-27	III	18047	2.7	1.9	0.9	4.1	180	黒曜石	RS-20	III	-	8.8	8.3	5.0	565.0		
122	石片	黒曜石	S-26	III	10556	2.0	1.8	0.4	1.0	181	黒曜石	-	III	-	8.3	7.8	4.8	368.0		
123	石片	黒曜石	QR-19	-	-18.	3.4	2.3	0.7	3.7	182	黒曜石	S-20	N	-	8.0	8.1	4.5	402.0		
124	石片	黒曜石	-	-	3.2	2.4	0.9	1.5	183	黒曜石	S-20	N	-	9.0	6.8	4.5	421.0			
125	石片	黒曜石	S-21	V	5130	3.0	1.7	0.5	1.5	184	黒曜石	S-19	III	-	9.1	6.4	4.4	355.0		
126	石片	チードト-	T-20	V	4447	3.6	2.0	0.6	3.0	185	黒曜石	T-25	III	10876	9.4	9.7	5.5	683.0		
127	石片	黒曜石	S-24	III	12378	2.9	2.6	0.8	6.6	186	黒曜石	S-19	III	-	8.2	7.0	4.5	375.0		
128	石片	黒曜石	Q-23	V	7471	1.6	3.1	0.6	3.6	187	黒曜石	S-16	I	-	8.8	8.0	4.3	509.0		
129	石片	黒曜石	Q-24	V	1850	1.5	2.0	0.5	1.0	188	黒曜石	R-19	III	-	10.0	6.5	4.6	392.0		
130	石片	鉄石	-	-	2.9	2.2	0.6	2.9	189	黒曜石	S-19	III	-	9.6	7.9	3.5	258.0			
131	石片	黒曜石	R-57	V	824	2.2	2.7	0.8	3.7	190	黒曜石	P-19	III	-	8.3	7.9	4.3	443.0		
132	石片	黒曜石	T-25	V	13045	3.7	2.9	1.3	3.2	191	黒曜石	P-22	-	-	8.4	5.7	2.3	1590.0		
133	石片	黒曜石	R-27	V	335	3.1	1.7	0.8	3.8	192	黒曜石	S-15	II	-	7.9	6.2	3.8	300.0		
134	石片	黒曜石	R-23	V	9627	2.9	1.2	0.5	1.4	193	黒曜石	S-20	III	-	9.2	8.3	4.7	580.0		
135	石片	黒曜石	T	V	5337	2.5	2.9	1.2	1.1	194	黒曜石	M	III	-	16.0	9.2	5.5	1200.0		
136	石片	砂岩	R-18	N	-18.	1.43	1.25	0.8	1.0	195	黒曜石	QR-20	III	-	10.9	11.0	5.5	950.0		
137	石片	安山岩	R-23	V	4931	1.26	10.6	5.4	12000.0	196	黒曜石	-	-	-	13.4	11.9	6.5	1200.0		
138	石片	安山岩	S-27	V	18208	10.0	9.1	7.0	9780	197	石片	安山岩	P-24	II	4016	10.3	7.6	2.9	3010.0	
139	石片	安山岩	S-25	V	7027	13.4	8.4	5.7	9860	198	石片	安山岩	S-21	II	5580	6.8	6.2	1.9	143.0	
140	石片	安山岩	T-20	V	4126	9.4	8.6	4.0	4670	199	石片	安山岩	P-22	II	20118	6.6	7.7	2.2	144.0	
141	石片	安山岩	R-24	V	10151	8.0	7.2	4.0	4100	200	石片	安山岩	S-22	II	4248	6.4	5.2	2.1	104.0	
142	石片	安山岩	S-20	V	1523	8.6	6.6	5.4	4590	201	石片	安山岩	P-22	II	248	9.0	2.7	2.8	690.0	
143	石片	安山岩	R-22	V	5934	9.2	8.4	4.7	5460	202	石片	安山岩	S-21	II	5109	11.1	9.2	4.2	574.0	
144	石片	安山岩	S-22	V	-	9.4	7.9	4.0	4320	203	石片	安山岩	S-20	II	11673	7.4	6.0	3.5	1590.0	
145	石片	安山岩	R-27	V	17981	9.8	7.3	3.9	3430	204	石片	安山岩	S-22	II	5506	6.5	5.5	3.1	162.0	
146	石片	安山岩	S-22	V	4509	15.9	13.6	4.7	12000.0	205	石片	安山岩	P-22	II	4952	7.2	7.2	5.1	348.0	
147	石片	安山岩	R-23	V	3366	9.0	7.8	3.9	3310	206	石片	安山岩	S-23	II	30362	5.5	4.8	2.6	99.7	
148	石片	安山岩	R-22	V	7660	12.4	11.3	4.8	6660	207	石片	安山岩	R-23	II	4981	8.8	7.3	2.8	248.0	
149	石片	燧灰岩	T-20	V	4125	11.6	9.8	5.1	720	208	石片	安山岩	S-25	I	8417	6.3	5.6	3.3	164.0	
150	石片	安山岩	S	V	-	11.7	10.0	4.1	6690	209	石片	安山岩	P-22	II	7653	6.0	5.2	3.9	152.0	
151	石片	安山岩	S-23	V	5982	9.7	9.0	5.4	6750	210	石片	安山岩	R	-	-	8.6	7.4	4.2	374.0	
152	石片	安山岩	T-20	V	-	2028	8.6	8.1	4.7	4670	211	石片	安山岩	S-19	N	2735	9.0	7.5	5.7	530.0
153	石片	安山岩	R-19	V	-	9.8	8.6	4.6	4530	212	石片	安山岩	R-22	II	6970	4.8	4.5	2.9	84.3	
154	石片	安山岩	T-25	V	14351	9.4	8.7	5.1	5910	213	石片	安山岩	S-22	II	10375	4.9	3.5	2.6	64.8	
155	石片	安山岩	R-22	V	-18.	12.2	9.8	4.9	9080	214	石片	安山岩	S-22	II	7655	20.8	4.8	2.6	997.0	
156	石片	安山岩	R-37	V	-	10.4	10.2	5.6	3500	215	石片	安山岩	R-18	N	1018	10.9	5.6	5.2	482.0	
157	石片	安山岩	G-19	V	-	1275	8.4	7.0	3.5	3020	216	石片	安山岩	S-25	I	8417	7.2	6.7	3.3	239.0
158	石片	安山岩	R-18·19	V	-	13.4	10.3	4.5	7500	217	石片	安山岩	R-20	-	-	11.8	10.2	4.3	152.0	
159	石片	安山岩	S-19	V	-	11.8	9.2	5.7	8700	218	石片	安山岩	S-23	II	-	13.8	13.6	6.1	1600.0	
160	石片	安山岩	S-19	V	-	11.6	8.3	5.7	9200	219	石片	安山岩	R-20	-	-	10.1	9.7	5.2	766.0	
161	石片	安山岩	S-19	V	-	11.7	9.5	4.0	5420	220	石片	安山岩	R-22	II	-	10.8	8.1	5.4	641.0	
162	石片	安山岩	G	V	-	11.1	8.7	3.5	5500	221	石片	安山岩	-	-	-	9.7	8.4	4.2	509.0	
163	石片	安山岩	S	V	-	9.2	7.9	5.3	5320	222	石片	安山岩	R-32	I	-	8.6	8.0	3.3	312.0	
164	石片	安山岩	S-11·18	V	-	11.5	10.6	4.8	8460	223	石片	安山岩	R-20	-	-	12.3	11.6	6.9	1400.0	
165	石片	安山岩	S	V	-	13.4	9.5	3.5	5960	224	石片	安山岩	R-22	I	-	10.2	8.7	4.8	640.0	
166	石片	安山岩	T-19	V	-	10.1	9.0	6.8	8420	225	石片	安山岩	R	-	-	11.5	9.0	4.9	712.0	
167	石片	安山岩	-	-	-	8.5	7.4	5.1	4650	226	石片	安山岩	U-22	I	-	121616	6.6	6.0	2.2	131.0
168	石片	安山岩	S-47	V	-	2606	9.1	8.4	4.0	4590	227	石片	安山岩	R-23	II	21265	15.7	10.6	7.2	1800.0
169	石片	安山岩	G	V	-	10.5	7.5	5.2	6320	228	石片	安山岩	T-22	II	21065	13.5	11.8	4.5	976.0	
170	石片	安山岩	S	V	-	12.5	10.3	4.9	8460	229	石片	安山岩	-	-	-	11.8	10.6	3.3	1040.0	
171	石片	安山岩	S	V	-	8.8	8.8	5.4	6310	230	石片	安山岩	S	-	-	12.2	10.0	5.3	1040.0	
172	石片	安山岩	M	V	-	8.5	8.5	5.6	6540	231	石片	安山岩	S	-	-	15.6	16.6	4.3	1200.0	
173	石片	安山岩	S-18·19	V	-	8.4	8.0	3.9	5920	232	石片	安山岩	-	-	-	18.9	7.4	4.9	1200.0	
174	石片	安山岩	-	-	-	8.4	8.0	5.0	4770	233	石片	安山岩	-	-	-	19.9	12.8	4.8	1400.0	

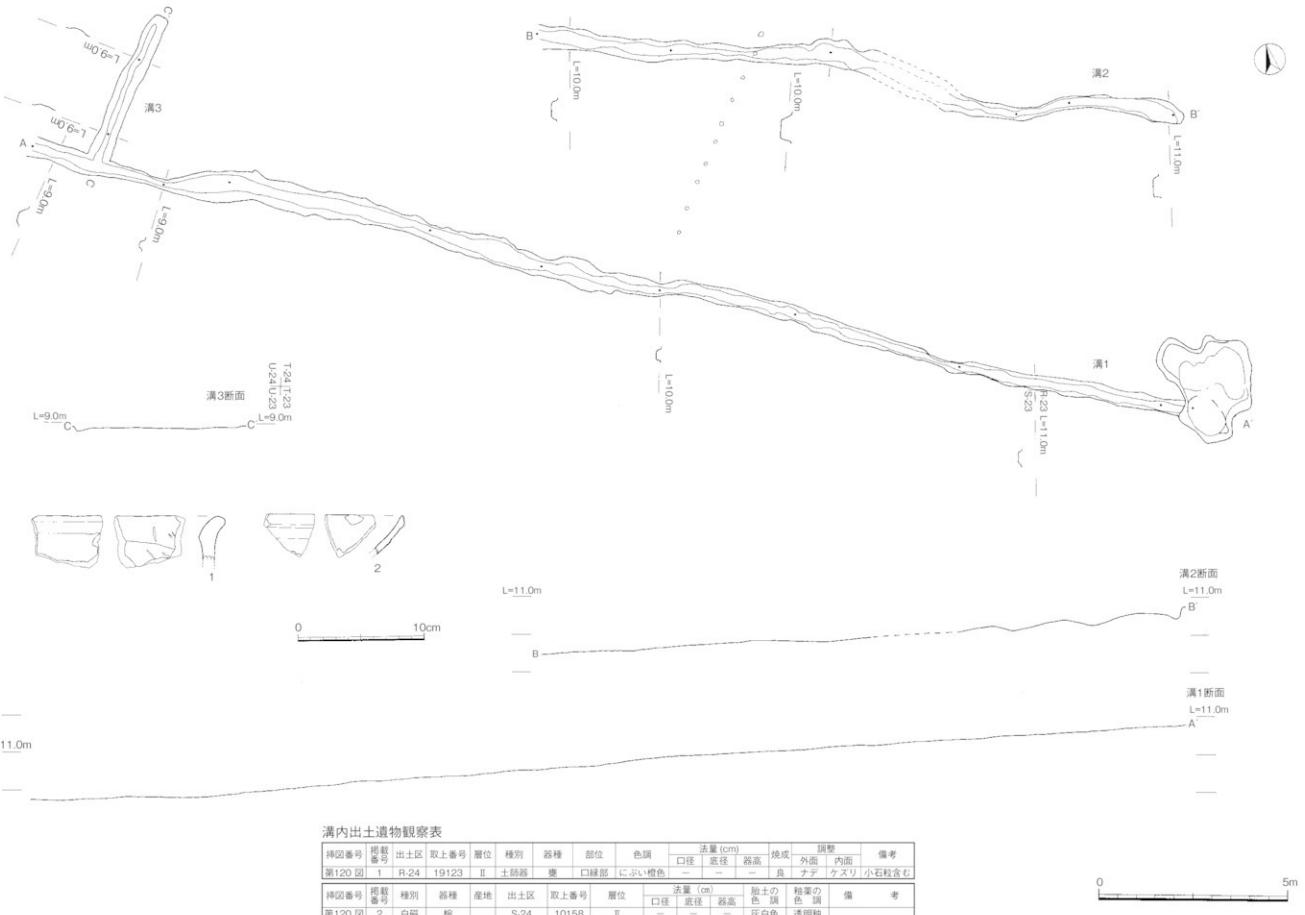
P・R・S区の石器調査表

P・R・S区の石器調査表5

地名	石器	出土地		出土地		出土地		出土地		出土地		出土地		出土地		出土地			
		緯度	経度	緯度	経度	緯度	経度	緯度	経度	緯度	経度	緯度	経度	緯度	経度	緯度	経度		
234	石器	S.23	E.3112	23.7	67	52	12000	S.23	E.16	黒色山頂	-	-	3.4	39	34	60.8			
235	石器	S.23	E.3184	14.3	4.0	604.0		S.24	E.16	黒色山頂	-	-	3.0	40	37	53.9			
165	石器	R.20	-	15.1	4.4	2.1	290.0	S.26	E.16	黒色	S.27	E.16	10.6	11.5	3.9	71.0			
237	石器	D.27	I.206	6.2	1.2	306.0		S.26	E.16	黒色	R.22	E.16	3.2	2.7	1.4	13.2			
238	石器	S.23	E.373	6.2	3.4	1.6	66.2	S.27	E.16	黒色	R.20	-	-	3.3	4.8	3.4	69.5		
239	石器	S.22	E.7743	14.3	7.7	387.0		S.26	E.16	黒色	S.21	E.16	3.4	3.6	3.2	46.5			
240	有茎石	P.22	-	13.9	9.3	5.1	932.0	S.299	E.16	黒色	-	-	2.9	3.6	2.3	24.9			
166	石器	S.27	E.18051	19.7	12.7	4.8	1405.0	S.300	E.16	黒色	S.22	E.16	2.0	3.8	2.2	21.0			
232	石器	S.26	E.180	9.4	1.9	345.0		S.301	E.16	黒色	S.29	E.16	2.3	3.2	2.2	17.9			
243	石器	R.20	-	-B	18.0	11.6	4.5	948.0	S.302	E.16	黒色	R.21	E.16	1.6	3.1	1.6	9.0		
36	石器	S.16	E.18	-B	13.2	7.3	5.3	646.0	S.303	E.16	黒色	S.	-	-B	2.6	3.1	1.5	17.2	
167	石器	T.26	E.10740	6.0	6.7	1.6	594.0	S.304	E.16	黒色	S.22	E.16	3.5	4.0	2.6	43.0			
246	石器	R.22	E.20596	5.7	3.0	1.8	242.0	S.305	E.16	黒色	T.20	N	2.4	3.0	2.8	20.1			
238	石器	P.20	E.18	5.8	1.7	1.1	200.0	S.306	E.16	黒色	S.21	E.16	3.2	3.7	1.9	26.0			
247	石器	G.6	E.74	5.25	1.1	1.1	382.0	S.307	E.16	黒色	S.22	E.16	3.4	3.7	3.4	41.6			
248	石器	G.6	E.75	Q.19	-B	4.9	7.8	S.308	E.16	黒色	T.25	N	141.0	2.4	3.2	2.6	17.5		
249	石器	G.6	E.76	T.20	2018	4.5	9.7	S.309	E.16	黒色	S.22	E.16	2.0	4.6	3.2	31.5			
250	石器	G.6	E.77	R.20	-	3.2	9.9	S.310	E.16	黒色	S.19	V	386.5	3.1	3.9	1.7	29.7		
251	石器	G.6	E.78	S.16	-B	3.3	7.3	S.311	E.16	黒色	U.25	E.16	11.1	2.0	4.1	1.9	17.6		
252	石器	G.6	E.79	S.16	-B	4.5	8.4	S.312	E.16	黒色	R.22	E.16	2.0	3.3	2.8	22.1			
168	石器	P.Q.19	E.12328	4.6	5.6	1.2	555.1	S.313	E.16	黒色	S.25	E.16	1.8	2.9	2.8	37.3			
234	石器	S.25	E.1	-	-B	3.2	5.3	S.314	E.16	黒色	O.22	E.16	2.3	2.5	2.4	18.9			
253	石器	G.6	E.80	Q.19	-B	4.0	8.1	S.315	E.16	黒色	S.25	E.16	2.6	3.0	2.6	36.2			
256	石器	G.6	E.81	Q.19	-B	24	7.70	S.316	E.16	黒色	T.25	N	141.0	2.4	3.2	2.6	17.5		
257	石器	G.6	E.82	S.27	E.18424	8.7	14.7	S.317	E.16	黒色	R.20	N	-B	3.6	3.0	1.2	8.5		
258	石器	G.6	E.83	T.25	E.13659	12.2	7.4	S.318	E.16	黒色	R.20	N	-B	1.5	3.2	1.2	8.5		
259	石器	G.6	E.84	S.27	E.446	6.5	38	S.319	E.16	黒色	S.	-	-B	6.6	9.1	6.0	359.0		
260	石器	G.6	E.85	S.27	E.3477	13.6	5.5	S.320	E.16	黒色	S.22	E.16	-	5.6	5.4	5.4	187.0		
261	石器	G.6	E.86	S.27	E.1983	10.6	3.4	S.321	E.16	黒色	R.31	E.16	935	4.4	7.2	3.6	177.0		
262	石器	G.6	E.87	S.27	E.16	-B	10.7	S.322	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
263	石器	G.6	E.88	R.22	E.16032	7.9	5.0	S.323	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
264	石器	G.6	E.89	R.22	E.1256	4.4	5.4	S.324	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
265	石器	G.6	E.90	S.19	E.17663	-	-	S.325	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
266	石器	G.6	E.91	S.23	E.1236	5.1	3.5	S.326	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
267	石器	G.6	E.92	S.26	E.14520	10.3	8.0	S.327	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
169	石器	G.6	E.93	S.19	E.18	-B	12.0	S.328	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
270	石器	G.6	E.94	R.19	E.1	-	-B	S.329	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
271	石器	G.6	E.95	R.24	E.3422	2.1	2.0	S.330	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
272	石器	G.6	E.96	R.24	E.11234	2.4	2.2	S.331	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
273	石器	G.6	E.97	S.19	E.7	4.6	1.5	S.332	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
274	石器	G.6	E.98	S.23	E.4747	5.1	3.5	S.333	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
275	石器	G.6	E.99	S.22	E.13696	2.3	3.2	S.334	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
276	石器	G.6	E.100	S.17	E.20436	2.8	2.4	S.335	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
277	石器	G.6	E.101	S.23	E.13972	3.6	3.2	S.336	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
278	石器	G.6	E.102	S.19	E.18	-B	3.2	S.337	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
279	石器	E.6	E.103	S.17	E.1311	4.9	3.4	S.338	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
280	石器	E.6	E.104	S.23	E.3542	2.4	2.2	S.339	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
281	石器	E.6	E.105	S.24	E.4747	2.4	3.3	S.340	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
282	石器	E.6	E.106	S.25	E.13696	2.3	3.2	S.341	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
283	石器	E.6	E.107	S.25	E.313	3.0	2.2	S.342	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
284	石器	E.6	E.108	S.25	E.6540	3.0	2.2	S.343	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
170	石器	E.6	E.109	S.25	E.13972	3.6	3.2	S.344	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
285	石器	E.6	E.110	S.25	E.19112	1.7	2.2	S.345	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
286	石器	E.6	E.111	S.22	E.3701	5.0	3.7	S.346	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
287	石器	E.6	E.112	S.22	E.20100	5.7	4.9	S.347	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
288	石器	E.6	E.113	S.22	E.18213	2.4	2.5	S.348	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
289	石器	E.6	E.114	S.27	-	-	-	S.349	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
290	石器	E.6	E.115	S.27	-	-	-	S.350	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		
291	石器	E.6	E.116	S.27	-	-	-	S.351	E.16	黒色	-	-	-	-	-	-	-		



第23図 P・R・S調査区III層上面コンタ図及び遺構配置図（古代～近世以前）



第120図 溝1～3及び出土遺物

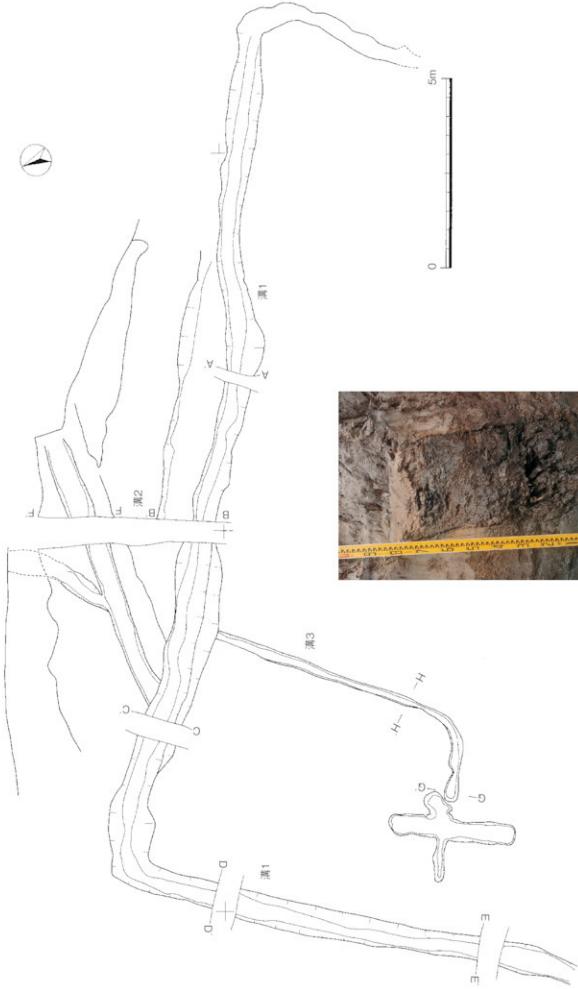


図1-2 断面図

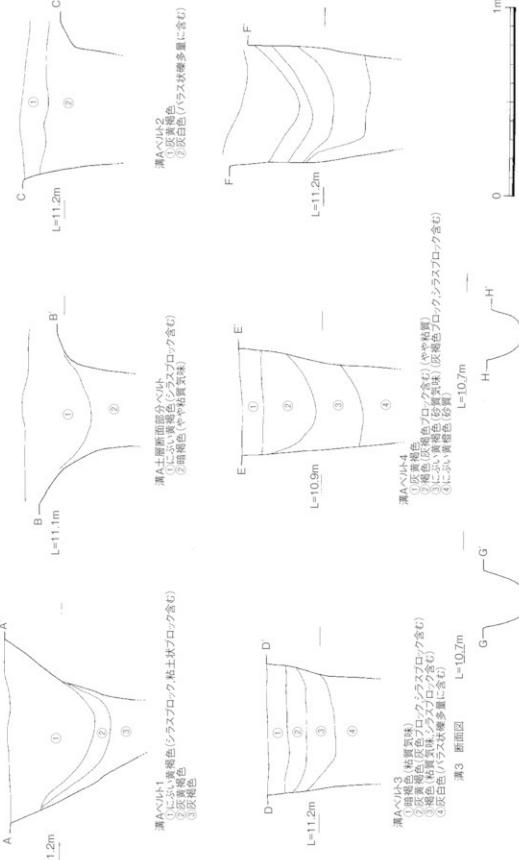
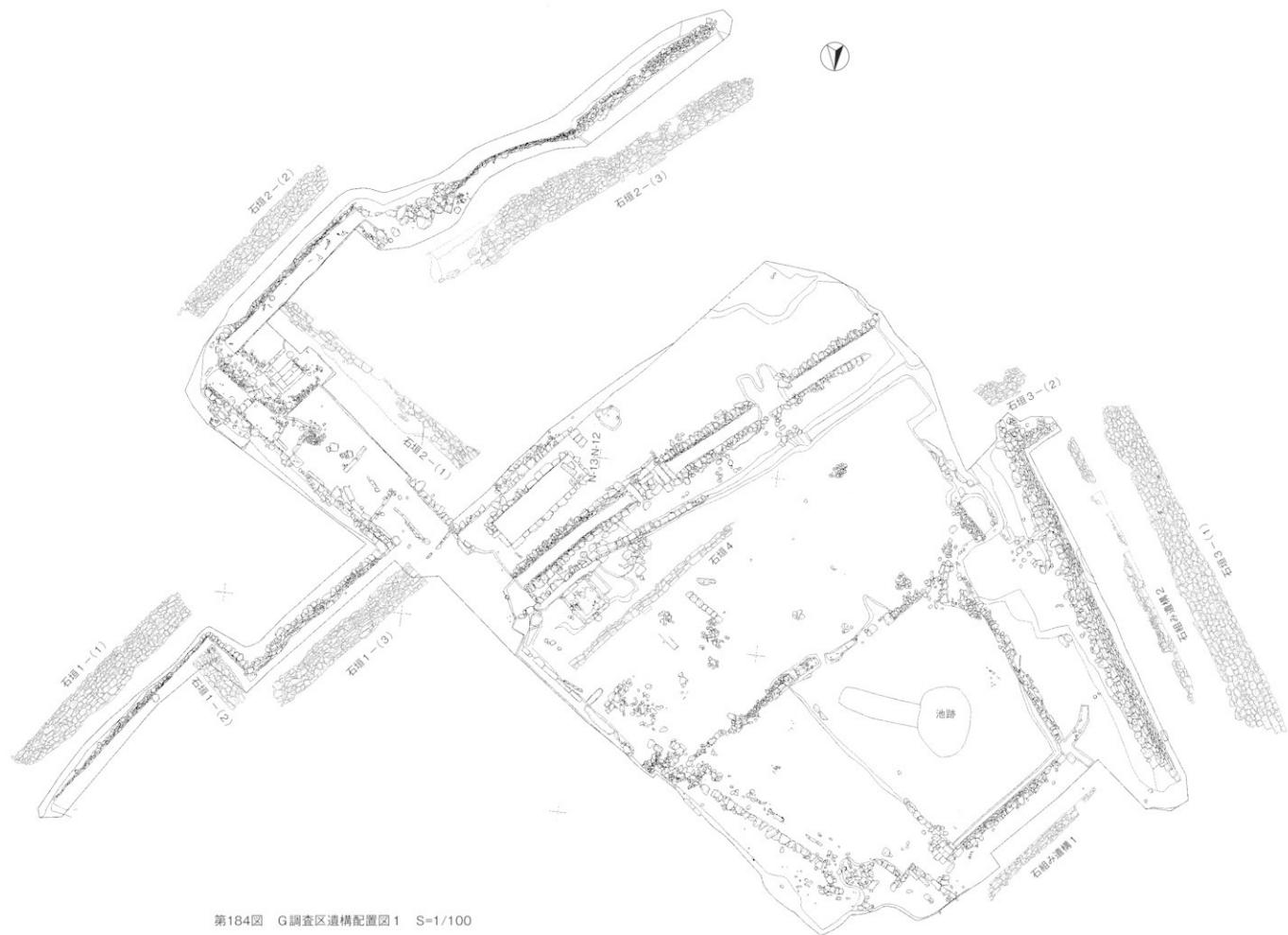


図1-3 断面図



第184図 G調査区遺構配置図 1 S=1/100



第185図 G調査区遺構配置図2

